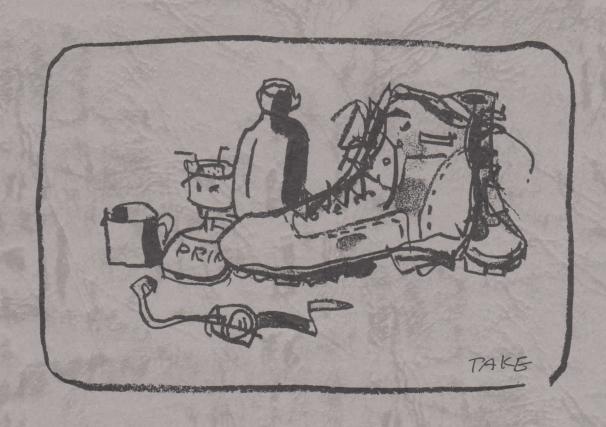


創刊号



生人なびこ

水 目 号げ順」及立主字

5 .						
	初代会長 三部七郎					
				いたこの出籍に		
				Hussian & B		
		8/8	36.70.8b	(新人運修)	伊瓦ガ	
		G	4	な	7	
		4	7 3	1187	1	6
		128		0		0
			ATINTA	el Tri		
			Anna A		万	
			山土工	Assessed to the same of the sa		
			a Res	SCHOOL SE	THAN	1
			24-0		Sept.	
				The state of the s		1
						-
			1		>->	2
			I REC			- The

「やまなみ」創刊号目次

NO.	山名	山 域	期日	執 筆 者	ページ
	6 .			初小人長 二津レ印	1
	『やまなみ』発刊にあたっ			初代会長 三浦七郎	
	「岳人あびこ」の出発にあ	たって		三浦七郎	2
	平成8年度(1996年	=)			
1	会津朝日岳(創立記念山行)	奥只見	平成8年 10/12-1	3細野省二	4
2	愛鷹山縦走	富士周辺	12/14-15	三浦七郎	5
3	蓼科山、西天狗岳	八ヶ岳	平成9年 1/2-4	細野省二	6
4	天覧山	奥武蔵	1/15	細野省二	8
5	鳴虫山	奥日光	1/26	坪井三枝子	9
6	燕岳	北アルプス	2/8-11	坪井三枝子	10
7	川苔山	奥多摩	2/22	清家三保子	11
8	石老山(公開登山)	中央線沿線	3/16	柴 勇	12
	平成9年度(1997年				
9	巻機山	上越国境	4/12-13	坪井三枝子	15
10	大楠山(新人歓迎)	三浦半島	4/20	高橋寿江	16
11	槍ヶ岳	北アルプス	4/25-28	柴 勇	18
12	三ツ峠山	富士周辺	5/4	柴田節子	20
13	黒川鶏冠山	大菩薩	5/24	長木加代子	21
14	吾妻連峰	吾妻連峰	5/17-18	柴田節子	22
15	養老渓谷(クリーンハイク)	房総	6/1	中村隆泰	25
16	伊豆ガ岳(新人研修)	奥武蔵	6/8	榊原文子、原田君子	26
17	表妙義	上州	6/15	村松峯子	27
18	大山三峰山	丹沢	6/21	日下芳十	28
19	御前山	奥多摩	6/28	大串恵子	29
20	鳥海山	東北	7/19-21	小黒和枝	32
21	白馬岳/朝日岳	北アルプス	8/7-10	斎藤清一	33
22	朝日岳/白毛門	上信越	8/30-31	日下芳十	37
23	富士山	富士山	9/13-14	大串秀雄	39
24	小草平の沢	丹沢	9/21	柴田節子	42
25	蕨 山	奥武蔵	9/23	増田喜久子	44
26	仙丈ヶ岳	南アルプス	9/26-28	村松敏彦	45
27	尾瀬集中登山(創立記念)	尾瀬	10/9-11	高橋英雄、原田君子	47
	(笠ヶ岳、至仏山、燧ヶ岳)		斎藤清一、大串秀雄	
28	長者ケ岳、天使ケ岳	富士周辺	10/19	中村隆泰	54
29	愛宕山	房総	10/19	菊地純江	56

「やまなみ」創刊号目次

30	NO.	山 名	山域	期日	執筆者	ージ
31 鍋割山 丹沢 10/25 加藤秀明 62 32 七ヶ岳、荒海山 南会津 11/1-2 柴 勇 62 33 九鬼山 中央総行線 11/8 中野弘子 94 34 桧洞丸 丹沢 11/15 高橋寿江 65 35 三頭山(忘年山行) 奥多摩 12/7 渡辺富美、大桃和子 66 清家三保子 36 笠取山、雁坂峠のリスマス) 奥秩父 12/20-21 三浦七郎 68 37 明神ガ岳、明星ガ岳 箱根 12/23 斎藤清一 70 38 本社ヶ丸 中央線沿線 平成10年 1/25 安田みづほ 72 39 権尾根 奥多摩 2/8 中村美智子 74 40 古賀志山 鹿沼 2/14 榊原文子 76 41 扇山(公開山行) 中央線沿線 3/8 三浦七郎 78 42 大岳山 奥多摩 3/15 日下芳十 80 43 筑波山 常磐 3/21 宮坂広子 82 44 滝子山 中央線沿線 3/22 清家三保子 83 45 天海岳、硫黄岳 ハヶ岳 3/28-29 大串恵子 84 平成10年度(1998年) 85 66 徳並山 鹿沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルブス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩山(リーゲー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイキッグ 房総 6/7 庄司洋子 93 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 94 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秋父 6/21 中村降秦 99 58 大菩薩峠 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜外子 100 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルブス 7/18-20 清家三保子 107 62 自 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110			丹沢	10/25-26	細野清子	
32 七ヶ岳、荒海山 南会津 11/1-2 柴 勇 62 33 九鬼山 中央線沿線 11/8 中野弘子 54 34 桧洞丸 丹沢 11/15 高橋寿江 65 35 三頭山(忘年山行) 奥多摩 12/7 渡辺冨美、大桃和子 66 36 笠取山、雁坂峠(クリスマス) 奥秩父 12/20-21 三浦七郎 68 37 明神ガ岳、明星ガ岳 箱根 12/23 斎藤清一 70 38 本社ヶ丸 中央線沿線 平成10年 1/25 安田みづほ 72 39 笹尾根 奥多摩 2/8 中村美智子 74 40 古賀志山 鹿沼 2/14 榊原文子 76 41 扇山(公開山行) 中央線沿線 3/8 三浦七郎 78 42 大岳山 奥多摩 3/15 日下芳十 80 43 筑波山 常磐 3/21 宮坂広子 82 44 滝子山 中央線沿線 3/22 清家三保子 83 45 天和岳、硫黄岳 八ヶ岳 3/28-29 大串恵子 84 平成10年度(1998年) 85 46 徳並山 南大菩薩 平成10年 4/11 宮坂広子 86 47 石裂山 鹿沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルブ 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩 山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハ(キング 房総 6/7 庄司洋子 97 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秋父 6/21 中村隆素 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜入子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆素 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルブス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110				10/25	加藤秀明	
33 九鬼山			南会津	11/1-2	柴 勇	
35 三頭山 (忘年山行) 奥多摩 12/7 渡辺宮美 大桃和子 66 清家三保子 13/8 12/20-21 三浦七郎 68 37 明神ガ岳、明星ガ岳 箱根 12/23 斎藤清一 70 38 本社ヶ丸 中央線治線 平成10年1/25 安田みづほ 72 39 笹尾根 奥多摩 2/8 中村美智子 74 40 古賀志山 度沼 2/14 梯原文子 76 14 扇山 (公開山行) 中央線治線 3/8 三浦七郎 78 78 78 78 78 78 78 7			中央線沿線	11/8	中野弘子	64
清家三保子 12/20-21 三浦七郎 68 37 明神ガ岳、明星ガ岳 箱根 12/23 斎藤清一 70 38 本社ヶ丸 中央線沿線 平成10年 1/25 安田みづほ 72 39 笹尾根 東多摩 2/8 中村美智子 74 76 41 扇山(公開山行) 中央線沿線 3/8 三浦七郎 78 76 41 扇山(公開山行) 中央線沿線 3/8 三浦七郎 78 78 78 78 78 78 78 7	34	桧洞丸	丹沢	11/15	高橋寿江	65
36 笠取山、雁坂峠(クリスマス) 奥秩父 12/20-21 三浦七郎 68 37 明神ガ岳、明星ガ岳 箱根 12/23 斎藤清一 70 38 本社ヶ丸 中央線沿線 平成10年 1/25 安田みづほ 72 39 笹尾根 奥多摩 2/8 中村美智子 74 40 古賀志山 鹿沼 2/14 榊原文子 76 41 扇山(公開山行) 中央線沿線 3/8 三浦七郎 78 42 大岳山 奥多摩 3/15 日下芳十 80 43 筑波山 常磐 3/21 宮坂広子 82 44 滝子山 中央線沿線 3/22 清家三保子 83 45 天狗岳、硫黄岳 ハヶ岳 3/28-29 大串恵子 84 平成10年度(1998年) 85 46 徳並山 南大菩薩 平成10年 4/11 宮坂広子 86 47 石裂山 座沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルブス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清浄ハイキング 房総 6/7 庄司洋子 93 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秋父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルブス 7/18-20 清家三保子 107 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀自山 7/17-20 安田みづほ 110	35	三頭山(忘年山行)	奥多摩	12/7	渡辺冨美、大桃和子	66
37 明神ガ岳、明星ガ岳 箱根 12/23 斎藤清一 70 38 本社ヶ丸 中央線沿線 平成10年1/25 安田みづほ 72 39 笹尾根 奥多摩 2/8 中村美智子 74 40 古賀志山 鹿沼 2/14 榊原文子 76 41 扇 山(公開山行) 中央線沿線 3/8 三浦七郎 78 42 大岳山 奥多摩 3/15 日下芳十 80 43 筑波山 常磐 3/21 宮坂広子 82 44 滝子山 中央線沿線 3/22 清家三保子 83 45 天狗岳、硫黄岳 八ヶ岳 3/28-29 大串恵子 84 平成10年度(1998年) 85 46 徳並山 南大菩薩 平成10年4/11 宮坂広子 86 47 石裂山 鹿沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルブス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイシグ 房総 6/7 細野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 短門者子 93 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 加野省二、安田みづほ 94 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秋父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀自山 7/17-20 安田みづほ 110					清家三保子	
38 本社ヶ丸 中央線沿線 平成10年1/25 安田みづほ 72 39 笹尾根 奥多摩 2/8 中村美智子 74 40 古賀志山 鹿沼 2/14 榊原文子 76 41 扇山(公開山行) 中央線沿線 3/8 三浦七郎 78 42 大岳山 奥多摩 3/15 日下芳十 80 43 筑波山 常磐 3/21 宮坂広子 82 44 滝子山 中央線沿線 3/22 清家三保子 83 45 天狗岳、硫黄岳 八ヶ岳 3/28-29 大串恵子 84 平成10年度(1998年) 85 46 徳並山 南大菩薩 平成10年4/11 宮坂広子 86 47 石裂山 鹿沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルブス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイシケ 房総 6/7 庶司洋子 93 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秋父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルブス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	36	笠取山、雁坂峠(クリスマス)	奥秩父	12/20-21	三浦七郎	68
39 笹尾根 奥多摩 2/8 中村美智子 74 40 古賀志山 鹿沼 2/14 榊原文子 76 41 扇山(公開山行) 中央線沿線 3/8 三浦七郎 78 42 大岳山 奥多摩 3/15 日下芳十 80 43 筑波山 常磐 3/21 宮坂広子 82 44 滝子山 中央線沿線 3/22 清家三保子 83 45 天狗岳、硫黄岳 ハヶ岳 3/28-29 大串恵子 84 平成10年度(1998年) 85 46 徳並山 鹿沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルブス 5/2-5 集 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイシク 房総 6/7 庶田君子 93 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルブス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	37	明神ガ岳、明星ガ岳	箱根	12/23	斎藤清一	70
40 古賀志山 鹿沼 2/14 榊原文子 76 41 扇山(公開山行) 中央線沿線 3/8 三浦七郎 78 42 大岳山 奥多摩 3/15 日下芳十 80 43 筑波山 常磐 3/21 宮坂広子 82 44 滝子山 中央線沿線 3/22 清家三保子 83 45 天狗岳、硫黄岳 八ヶ岳 3/28-29 大串恵子 84 平成10年度(1998年) 85 46 徳並山 南大菩薩 平成10年 4/11 宮坂広子 86 47 石裂山 鹿沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルブス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイキング 房総 6/7 畑野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルブス 7/18-20 清家三保子 107 62 自 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	38	本社ケ丸	中央線沿線	平成10年 1/25	安田みづほ	72
41 扇 山(公開山行) 中央線沿線 3/8 三浦七郎 78 42 大岳山 奥多摩 3/15 日下芳十 80 43 筑波山 常磐 3/21 宮坂広子 82 44 滝子山 中央線沿線 3/22 清家三保子 83 45 天狗岳、硫黄岳 ハヶ岳 3/28-29 大串恵子 84 平成10年度(1998年) 85 46 徳並山 南大菩薩 平成10年4/11 宮坂広子 86 47 石裂山 鹿沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルブス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩 山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイキング 房総 6/7 畑野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルブス 7/18-20 清家三保子 107 62 自 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	39	笹尾根	奥多摩	2/8	中村美智子	74
42 大岳山 奥多摩 3/15 日下芳十 80 43 筑波山 常磐 3/21 宮坂広子 82 44 滝子山 中央線沿線 3/22 清家三保子 83 45 天狗岳、硫黄岳 八ヶ岳 3/28-29 大串恵子 84 平成10年度(1998年) 85 46 徳並山 南大菩薩 平成10年 4/11 宮坂広子 86 47 石裂山 鹿沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルプス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩 山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイキング 房総 6/7 堀野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	40	古賀志山	鹿沼	2/14	榊原文子	76
43 筑波山 常磐 3/21 宮坂広子 82 44 滝子山 中央線沿線 3/22 清家三保子 83 45 天狗岳、硫黄岳 八ヶ岳 3/28-29 大串恵子 84 平成10年度(1998年) 85 46 徳並山 南大菩薩 平成10年 4/11 宮坂広子 86 47 石裂山 鹿沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルプス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩 山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイキング 房総 6/7 細野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 建田節子 98 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀自山 7/17-20 安田みづほ 110	41	扇 山(公開山行)	中央線沿線	3/8	三浦七郎	78
44 滝子山 中央線沿線 3/22 清家三保子 83 45 天狗岳、硫黄岳 八ヶ岳 3/28-29 大串恵子 84 平成10年度(1998年) 85 46 徳並山 南大菩薩 平成10年 4/11 宮坂広子 86 47 石裂山 鹿沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルプス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩 山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイキンク 房総 6/7 畑野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	42	大岳山	奥多摩	3/15	日下芳十	80
45 天狗岳、硫黄岳 八ヶ岳 3/28-29 大串恵子 84 平成10年度(1998年) 85 46 徳並山 南大菩薩 平成10年4/11 宮坂広子 86 47 石裂山 鹿沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルプス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩 山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイシケ 房総 6/7 畑野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秋父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	43	筑波山	常磐	3/21	宮坂広子	82
平成10年度(1998年) 85 46 徳並山 南大菩薩 平成10年 4/11 宮坂広子 86 47 石裂山 鹿沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルプス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイキング 房総 6/7 畑野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107	44	滝子山	中央線沿線	3/22	清家三保子	83
平成10年度(1998年) 85 46 徳並山 南大菩薩 平成10年 4/11 宮坂広子 86 47 石裂山 鹿沼 4/19 原田君子 87 48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルプス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイキング 房総 6/7 細野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 建司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	45	天狗岳、硫黄岳	八ヶ岳	3/28-29	大串恵子	84
# 1 10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	158	商品发展	-23	奥多嫩 11/22	山如雲	
## A		平成10年度(1998年	年)	0/21 278	死波山(忘年山行)	85
48 棒/折山(新人歓迎) 奥武蔵 4/26 中村八重子 88 49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルプス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩 山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイキング 房総 6/7 細野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	46	徳並山	南大菩薩	平成10年 4/11	宮坂広子	86
49 蝶ヶ岳、常念岳 北アルプス 5/2-5 柴 勇 89 50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩 山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイキング 房総 6/7 細野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 60 櫛形山 南 ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	47	石裂山	鹿沼	4/19	原田君子	87
50 武川岳 奥武蔵 5/17 小川洋子 90 51 岩山(リーダー研修) 鹿沼 5/24 高橋英雄 91 52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイキング 房総 6/7 細野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	48	棒/折山(新人歓迎)	奥武蔵	4/26	中村八重子	88
50 民/州田	49	蝶ヶ岳、常念岳	北アルプス	5/2-5	柴 勇	89
52 霧降高原 日光 5/31 大高典子 92 53 丹沢主稜縦走 丹沢 6/6-7 原田君子 93 54 七里川清掃ハイキング 房総 6/7 細野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	50	武川岳	奥武蔵	5/17	小川洋子	90
53	51	岩山(リーダー研修)	鹿沼	5/24	高橋英雄	91
54 七里川清掃ハイキング 房総 6/7 細野省二、安田みづほ 94 55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	52	霧降高原	日光	5/31	大高典子	92
55 伊豆ヶ岳(新人研修) 奥武蔵 6/7 庄司洋子 97 56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110						
56 赤城山(黒桧山) 上州 6/21 柴田節子 98 57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	53	丹沢主稜縦走				93
57 西沢渓谷 奥秩父 6/21 中村隆泰 99 58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110			丹沢	6/6-7	原田君子	
58 大菩薩峠 大菩薩 6/28 増田喜久子 100 59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	54	七里川清掃ハイキング	丹沢 房総	6/6-7 6/7	原田君子細野省二、安田みづほ	94
59 田代山、帝釈山 南会津 7/4-5 中村隆泰 102 60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	54 55	七里川清掃ハイキング 伊豆ヶ岳(新人研修)	丹沢 房総 奥武蔵	6/6-7 6/7 6/7	原田君子 細野省二、安田みづほ 庄司洋子	94 97
60 櫛形山 南ア前山 7/7 菊地純江 104 61 西、奥、前穂高岳 北アルプス 7/18-20 清家三保子 107 62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	54 55 56	七里川清掃ハイキング 伊豆ヶ岳(新人研修) 赤城山(黒桧山)	丹沢 房総 奥武蔵 上州	6/6-7 6/7 6/7 6/21	原田君子 細野省二、安田みづほ 庄司洋子 柴田節子	94 97 98
60 櫛形山南ア前山7/7菊地純江10461 西、奥、前穂高岳北アルプス7/18-20清家三保子10762 白 山加賀白山7/17-20安田みづほ110	54 55 56 57	七里川清掃ハイキング 伊豆ヶ岳(新人研修) 赤城山(黒桧山) 西沢渓谷	丹沢 房総 奥武蔵 上州 奥秩父	6/6-7 6/7 6/7 6/21 6/21	原田君子 細野省二、安田みづほ 庄司洋子 柴田節子 中村隆泰	94 97 98
61 西、奥、前穂高岳北アルプス 7/18-20清家三保子10762 白 山加賀白山 7/17-20安田みづほ110	54 55 56 57 58	七里川清掃ハイキング 伊豆ヶ岳(新人研修) 赤城山(黒桧山) 西沢渓谷 大菩薩峠	丹沢 房総 奥武蔵 上州 奥秩父 大菩薩	6/6-7 6/7 6/7 6/21 6/21 6/28	原田君子 細野省二、安田みづほ 庄司洋子 柴田節子 中村隆泰 増田喜久子	94 97 98 99
62 白 山 加賀白山 7/17-20 安田みづほ 110	54 55 56 57 58 59	七里川清掃ハイキング 伊豆ヶ岳(新人研修) 赤城山(黒桧山) 西沢渓谷 大菩薩峠 田代山、帝釈山	丹沢 房総蔵 上州 奥秩 養薩 南会津	6/6-7 6/7 6/7 6/21 6/21 6/28 7/4-5	原田君子 細野省二、安田みづほ 庄司洋子 柴田節子 中村隆泰 増田喜久子	94 97 98 99 100
	54 55 56 57 58 59 60	七里川清掃ハイキング 伊豆ヶ岳(新人研修) 赤城山(黒桧山) 西沢渓谷 大菩薩峠 田代山、帝釈山 櫛形山	丹沢 房 選 成 ル 州 央 大 落 会 津 南 ア 前 山	6/6-7 6/7 6/7 6/21 6/21 6/28 7/4-5	原田君子 細野省二、安田みづほ 庄司洋子 柴田節子 中村隆泰 増田喜久子 中村隆泰 菊地純江	94 97 98 99 100
	54 55 56 57 58 59 60 61	七里川清掃ハイキング 伊豆ヶ岳(新人研修) 赤城山(黒桧山) 西沢渓谷 大菩薩峠 田代山、帝釈山 櫛形山 西、奥、前穂高岳	丹沢 房継蔵 上州 央 大 南 京 前 山 北アルプス	6/6-7 6/7 6/7 6/21 6/21 6/28 7/4-5 7/7	原田君子 細野省二、安田みづほ 庄司洋子 柴田節子 中村隆泰 増田喜久子 中村隆泰 菊地純江 清家三保子	94 97 98 99 100 102 104

「やまなみ」創刊号目次

	黒部五郎岳	北アルプス	7/31-8/4	外崎 蓮、柴田節子	116
64		南アルプス	8/21-26	細野清子	121
65	塩見岳、蝙蝠岳	南アルプス	9/11-13	佐々木侑	125
66	甲斐駒ヶ岳 メ唯山	日光	9/19-20	村松峯子	130
68	上州武尊山	上州	9/19-20	柴 勇	132
69	仏果山、経ヶ岳	丹沢	9/20	庄司洋子	134
70	神峰山ふれあいハイク	常磐	9/27	中村八重子	135
71	太郎山	日光	10/4	高橋芳恵	136
72	八ヶ岳	八ヶ岳	10/10-11	蜂谷由美子、高橋正	137
12	(公開登山、創立記念山)		10/210-11	原田美和子、長木加代子	101
	(公)用盆田、剧立記心田	11)		安田みづほ	
70	亚博山 加入会山	谷川	10/24-25	外崎 蓮	146
73	平標山、仙ノ倉山	南東北	10/24-25 $10/31-11/1$	川下敬史、加藤秀明	149
74	一切経山、東吾妻山	奥多摩	11/1		152
75	御岳山、日の出山				153
76	北高尾山稜	奥多摩	11/3	大串秀雄	
77	今倉山、二十六夜山	道志	11/14	庄司洋子 加野(4)二	154
78	大無間山	南アルプス	11/21-23	細野省二	156
79	雲取山 (古年14年)	奥多摩	11/22-23	高橋芳恵	158
80	筑波山(忘年山行)	常磐	12/6	川下敬史	160
81	切込湖、刈込湖	日光	12/13	川下敬史	162
82	甲武信岳(クリスマス山行)	奥秩父	12/19-20	坪井三枝子	163
			85天皇 4/38	學/新山(康大猷)則	48
		岳人祭		平成9年7月	31
			TINE SEAS	平成10年7月	108
		漫画「岳人く	ل الم	いわなさんじん(服部)	17
		11		川 原高穀額	46
		11	-8~8 別手	用	111
		詩	「みつめてください」	北澤真理子	96
	王司祥子	11	「秋の遠方」	秋谷 豊	129
	[資料]	山行一覧表			166
		山行統計			170
		活動の記録			17
		月刊会報誌「	やまたん」内容		17
	編集後記				18

^{*}表紙の作者:竹原政行氏 柏市在住の水彩画家

『やまなみ』 発刊にあたって

1999年7月 岳人あびこ 初代会長 三浦 七郎

1996年10月、『 岳人あびこ 』 が小雨降る会津朝日岳のテント合宿で8人の同志が創立宣言をしてからまもなく4年目を迎えようとしています。

翌年二期生を迎えるにあたって月刊会報『やまたん』が創刊され、会の理念の浸透、毎月の会活動の活発化に大きな役割をはたしてきました。

これまで無事故で会活動が順風満帆にこれたのは会員皆様の山への情熱、そして 安全登山、豊かで質の高い山岳会を創る! 』…という心意気のおかげでした。

また自然破壊にするどく広い視野を持つ千葉県労山の仲間たちを知ったこと。山行 やハンデイを持つ人達にも目を向けること。 エッ!私達にも海外登山?!の可能性 があるの?…という企画等、 さまざまな刺激を受けました。

一地方都市の山の会に満足せず共同のこころを学んだこと…も感謝をしています。

この山行記録集『 やまなみ 』創刊号は全員の《協力》のたまものです。

さて、この記録集は山行投稿編では、山行ごとに思い出す急登、山頂、花、雨… 会員共通の山へのこだわり<u>想い</u>が綴られています。また、後半には会活動が記録 されています。

『 やまなみ 』が第2号、3号…と新しい会員に引き継がれていくこと \rightarrow それが 我が会の質の高い歴史を刻むことです。

第2次登山ブームと、健康志向も手伝って我が岳人あびこも会員数が増加しました。 登山部、ハイキング部と二部にわけた運営はまだ始まったばかりです。また、春山、 冬山、沢、岩、と技術的にも難度のあるルートに向かう層も増えそうです。

今年4月、5月、低山のなかでの登りに歓声をあげた新人たち。青葉に手をさしの べ緑に染まった山の空気に胸いっぱい吸い込むそんな層の人達に、『 やまなみ 』 は山に登る喜びや、生きいきした人生と希望をあたえることでしょう。

夢と情熱こそ一登山活動発展の礎



岳人あびこの出発にあたって

岳人あびこ 三浦七郎

岳人あびこの初年度の会長として、微力ながら努めさせて頂きますので何卒宜しく お願いいたします。岳人あびこの発展を計って行きたいと思います。

山行形態は日帰りハイキング、テント山行、沢登、岩登、雪山、オールランウドを目指して、会員の皆様に満足して頂けるように努力致します。オールランウド山行を消化して行くには、日頃の体力訓練と自然を甘く見ないことを再認識することが重要です。頼りになるのは自分の2本の足であり安易な気持ちで、軽く見れば遭難等の危険も大きくなります。本年は安全に楽しい山行のために新人、中堅、リーダクラスを対象に外部講師(岳連)及び内部会員に依る講習会を企画したいと思います。又今まで地元我孫子に密着し同じ目的仲間の親睦を計って来ましたが岳人あびこは、もっと会員を東葛近隣まで広げ、新しい仲間を求めたいと思います。

本年は発足の年度でもあり岳人あびこのこれからの在り方を、考える年にしたいと思います。山行計画、運営方法についても会員の皆様のご意見をお聞かせ下さい。

~踏み出そう 確かな一歩~





プナ林の連続する急登を気持ちよく歩く。 中の高年を過ぎると、やや小雨が霧に変わり周囲の景色もぼんやり見え出した。避難 小品までは途中倒木が道をふさぎ、又カル こも多い。避難小風に泊まった一種が失妻 によると「昨夜は5人が泊まった一種が失妻 によると「昨夜は5人が泊まった」 買いわ

岩場を過ぎるとガスっているかなたに ビークが見える。近づいたが山頂を表する

…?1 コロバ南部一丁高型地ごご

「そんな訳はない!、そんなほずはない!」 …と右手に尾根をやや下るとまだ登りがあ

3人の高度計では手前のビークの方が高か

<NO 1 > 新立配念山行 ― 新立配念山行 ― 奈津朝日番 (1624m)

- ブナの原生林と 総除な場のセア。

15 時、部分秋下館でテントを狙る。小 高い台地なので様が降っても安全な場所だ。 (家川車2台もテント脇に駐車でき、荷物 の出し人れも便利このうえなし、適度を背 の高さのススキが周りを取り間み私たちだ

これから始まるロマンとチャレンジ、

平成8年度

(1996年)

平成 8 年 10 月 ~ 平成 9 年 3 月

形見とて 何か残さん 存は花 由様とと若っ

(前日に登った会律器生活、真直の句句)

~ ブナの原生林と 峻険な峰の中で ~

15 時、赤倉沢下流でテントを張る。小 高い台地なので雨が降っても安全な場所だ。 自家用車2台もテント脇に駐車でき、荷物 の出し入れも便利このうえなし。適度な背 の高さのススキが周りを取り囲み私たちだ けの自由な楽しい村を作り出してくれる。

これから始まるロマンとチャレンジ、 そして自由闊達な「岳人あびこ」の門出をの せて初代会長三浦さんの指名により、村松 さんがマジック~んで力をこめて書く。購入 したてのダンロップ V600 テントに

平成8年10月10日創立

「 岳人あびこ 」…と

8人の目には光るものがあった。

唯一の心配は天気である。夕食の終わるころ小粒な雨が降り出した。17時のラジオでは、「新潟地方は雨のち曇りで回復、関東地方では本格的な雨、天気下り坂」…との事.中間に位置するこの貝見はどちらになるの?夜半には雨音が強くなる。朝3時小雨になる。よおーし 登るゾ!



ブナ林の連続する急登を気持ちよく歩く。 叶の高手を過ぎると、やや小雨が霧に変わり周囲の景色もぼんやり見え出した。避難 小屋までは途中倒木が道をふさぎ、ヌカル ミも多い。避難小屋に泊まった一組の夫妻 によると「昨夜は5人が泊まった。夏シュラフ だったので寒かった」とのこと。

岩場を過ぎるとガスっているかなたに ピークが見える. 近づいたが山頂を表する ものは何もない!

ここが標高で一番高いのに!?…

「そんな訳はない!、そんなはずはない!」 …と右手に尾根をやや下るとまだ登りがあった。それが会津朝日岳。

3人の高度計では手前のピークの方が高かったのに。なぜ!

山頂は霧のため標識もかろうじて見える程度。四周展望なし。セルフタイマーで写真をとる。 8人の笑顔!。豊かで質の高い「岳人あびこ」をみんなの力で発展させようとしっかりと握手。

安全で楽しく山登りをいつまでも し…た …い…ね

そしていつかは、自然にとけこんだこんな 心境になれたら~

形見とて 何か残さん 春は花 山ほととぎす 秋は もみじ葉 (前日に登った会津蒲生岳,良寛の句到)

山名	会津朝日岳	形式	テント 3張		
期日	H8年10月12-13日				
山域	奥只見	地形図	会津朝日、城郭朝日		
目的	創立記念山行	交通	マイカー 2台		
3-1	12日:会津蒲生岳	12日: 会津蒲生岳 一いわなの里 -14.40			
	13日:テント4.25-三吉ミチギ5.55-叶の高手7.08				
	熊の平避難小屋8.05-会津朝日岳8.40-山麓12時				
ルート状況	水場:三吉ミチギに豊富				
	避難小屋10人程度、	水場なし、道	明瞭		

(02)

愛鷹山縦走 (1187.5m)

三浦 七郎

荒々しい核心部の岩峰群と 越前岳での天下一の富士山眺望

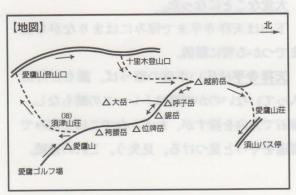
愛鷹連峰は富士と沼津市の間にある、南北に長い

独立峰的な山塊である。全山 縦走は時間もかかり核心部の 鋸岳付近の鎖場は、なかなか 手ごわいので初心者だけの山 行はひかえたい。



1日目

東海道線原駅よりタクシーに乗る。運転手の 話によれば9月の台風で倒木が多く歩きづら いので、なめて登ってはだめとの注意があっ た。愛鷹カントリークラブの奥に登山口あり、 軽い準備体操をして登山開始。登山道は途中 まで良く整備されていた。1時間30分程登っ たあたりより倒木が多くなり、道を巻いたり、 跨いだり、くぐったりの連続で非常に歩きに くかった。愛鷹明神より駿河湾が見えた。 愛鷹山頂からは樹木で視界がきかない。トンネ ル状の中を通るが、時々ザックが枯れ枝にひ っかかり歩きにくい。袴腰岳より今日の宿泊 地、須津の避難小屋へ一気に下る(700 m位) かなりの急降下と杉、檜の倒木で歩きにくい、 途中クサリ場及びロープ等の張ってある危険 な所が何カ所かあった。須津荘は30人程入 れる小屋で、炉端があり、薪も準備されてい たので、火をたき酒を飲み話がはずんだ。



2 日 目

前日入った所を、ヘッドランプを頼りに登り返すのは危険なので、このルートは中止とのリーダーの判断で2時間程かけ、神谷まで歩いた。神谷の手前よりタクシーで十里木登山口へ、準備運動後越前岳山頂をめざす。

途中電波中継塔を少し登ると展望台があり、 富士山がよく見えた。越前岳山頂は中高年の 登山者で一杯だ。我がパーティーも記念写真 を写した後、南アルプスの山座同定をしたり 十二分に堪能した。富士山の見える所は山や 平地に限らず数多くあるが、この山頂より見 る富士山は最高。快晴の空、富士山、剣ガ峰 の測候所のドームも見える。富士山の左側に は甲斐駒ヶ岳、鳳凰三山、北岳、間ノ岳、農 鳥岳、塩見岳、赤石等々南アルプスの3000 m級の山々が白く輝いている。山頂での景観 を楽しんだ後、ザックを残し呼子岳、鋸岳を ヒストンする。呼子岳へは急降下で足に注意 して下る。東側が開けてくると呼子岳、鋸岳、 位牌岳の稜線が見える。呼子岳山頂は狭く、 10人位がやっと立てる程。割石峠、つき立っ た鋸岳の岩峰群、足元から大きく切れ込んだ 谷が荒々しい。鋸岳ピークを2~3越えて口 ープ及びクサリ場より引き帰した。越前岳よ り黒岳方面に下る途中富士見台を過ぎ北白ガ レキ付近より、鋸岳の好展望台があった。墨 絵のような景色にうっとり。黒岳の分岐より 愛鷹山荘へ下る、山荘前には銀明水という水 場があったが、冬は凍るので注意。植林の中 をひたすら下ると愛鷹神社鳥居の前に出た。 振り返ると、呼子岳、越前岳が高く大きく見 ラナコ

山	名	愛鷹連峰	山行形式 小屋泊		屋泊り	
期	日	平成8年12月141	日~12)	月15日	E 1	CHER
山	域	富士周辺	也図	愛鷹	沼津	1/2500
目	的	富士と南アルプス	の展望	交通	幾関	我孫子·東京·沼津 (東海道線)
日程コ	14日	愛鷹山登山□→愛鷹	:00 / 6:17)	昼食〉→	(7:12/	7:26) (7:47 / 7:50)
コース	15日	越前岳 → 呼子岳 (9:25/9:45) (10:30/10:33 愛鷹山荘 → 須山バ	(6:50 / 7:55) → 鋸岳 (11:0:	元 → 呼 5) (1)		(7:20 / 7:30) 975
・愛鷹ゴルフ場から入る場合は沼津駅からタクシーが便利。 ・袴腰岳から展望台までは急下降で体力を要する。袴腰岳の先台から須津山荘までは逆からのルートでは迷いやすい。山荘ところでは危険個所がありローブが張られているが明るいとは滑落の危険がある。 ・須津山荘はきれいに整備されていて、しかも薪とカマドとトあり水場も近い。20人は泊まれる。 ・今までになく安全登山に対して十分な検討の末ルートを決め、初心者がいる時は、補助ローブが必要。			旁腰岳の先の展望 すい。山荘に近い が明るいとき以外 カマドとトイレか			

<3> 正月山行

蓼科山、西天狗岳

[2530m,

2645m) 細野省二

== 冬の雪山 ==

低川ほどあなどるなかれ

そんな禁断の世界を知ってしまった中高年 の四人が今年の正月山行を、北アルプス燕岳に 計画したのは2週間前。有明の無人の温泉に入 る楽しみを想像しながらゾクゾクわくわくして 2日の新宿スーパーあずさ1号に乗る。

低気圧の接近で北アの方が荒れそうとの天気 予報に車中では

『テント持参だから山域はどこでも変更できるから強みだ 3 ネー。私達!』

と言いながらも

『北アルプス燕岳は、吹かれ、ドカ雪も嫌だし、 中部か南の山にするしかないかナア〜、八ガ岳 の赤岳でも行くか!』

『嫌だアー、昨年も入山しているし……。』 となかなか行き先が決まらない。

そこで、まだ登ったことのない山を4人で言い 合ったら。すんなり蓼科山に決まった。

冬の**蓼科山**は無人の女神茶屋登山口から始まる。雪を踏む樹林が続く。途中、3人の下山者とすれ違う。かなりの急登だ。頂上まで30分の地点から大きな岩石がゴロゴロして径がはっきりしない。南面はかなりの角度で急峻といえよう。低気圧の影響で顔に当たる吹雪がいたい。烈風にわずかの氷雪をかぶった頂上はたおやかな円錐丘であった。

冬季封鎖の山頂ヒュッテ前で間食を取った

が、風の寒さで休んではいられない。体感温度 零下10度ぐらいか。ここまで3時間40分の 歩行タイム。

下山は急な斜面を東に向かう。西から吹き付ける風雪の吹き溜まりでやわらかな積雪は腰まである。走るように、すべるように今日のテント場…… 将軍平に向かう。

15時、蓼科山荘前(冬期閉鎖)でテント 適地をみつけた。風を避けるにもってこいの場 所である。

この時間帯は温度がどんどん下がる。休むまもなく雪を集め全員で踏み固める。テントを張る。 寒さは厳しく時間勝負だ。

こんなとき冬期は水分を充分補給することが最 重要である。テントの中で最初にお湯を造って くれる女性達。

テキパキさは、さすが冬山歴戦の勇士である。

夜はかなりの冷え込みだった。テントの中 の水が凍っている。零下何度?

朝、私のシュラフカバーの内側が氷でカバカバ になっているのを発見。ゴアデックスなのに!。幾 度も冬の厳冬期にもこんなことはなかった。 なぜ!。

ほかの三人に聞いたが正常に機能している ようだ。

この夜はかなりの積雪があった。

入山2日目は天祥寺平から双子池経由横岳 への楽々コースだ!雪の中をゆっくり逍遥だ。 ……と出発したが……

大変なことになった。

下山は天祥寺平まで窪みにはまりながら腰 までつかる雪に難儀。

天祥寺平は広い平面の原っぱ。誰も正月は 入っていないのか雪原はトレースの跡もなし。 磁石で方向を探すが、わずかなでこぼこ窪みで 夏道をやっと見つける。見失う。これの連続。 時間はどんどん経過する。

夕日の丘(2120m) を左にみてやっと 登山道に乗る。地形から見て横岳は進行方向の やや右にある。双子池のルートだ。20分ほど 順調に進む。

これで良い、誰しも確信した。

だが積雪は1m以上になり偵察隊を出すもますます深雪の気配濃厚との報告あり。40分ほど各方面に作業したが無駄と川名リーダーが判断。以下の提案がなされた。

「下山後、渋の湯で一泊し黒百合ヒュッテ経由 天狗岳に登る。…」

それにしても雪の冬山は低山でも、ハイキ

ングコースでも恐ろしい危険さを持っていることを今回の正月山行で教えられたことである。 私、はじめ今回のメンバーは今度の山行で 貴重な経験をした。ある意味では感謝している。

<u>渋ノ湯</u>で元気を取り戻した我々は、快適な 樹林帯をサクサクと音をたて、快調に足並みそ ろえた。

<u>西天狗</u>の登りは、前夜の吹雪もおさまり、 快晴のもと、アイゼン、の良く効く固さの雪面 を胸躍らせて登る。

この快適、この爽快さ、57回目のわたくしの正月は最高の年となった。

猛烈な吹雪の後の快晴!

の快晴!快調な坪井、清家の女性達



2日 茅野9:08-登山口10:20…山頂14 将軍平15時…テント

3日 将軍平8:20…ラッセルに難儀竜源橋に戻る14:30-tx-渋の湯6;30泊

4日 渋の湯6:10…黒百合平8:20/45

東天狗9:50/55…西天狗10:15

黒百合平11:30/12時

渋の湯13:10…バス14:55…茅野

左千夫 のうた (絶唱) 蓼科をみて

さびしさの極みに堪へて天土に 寄する命をつくづくと思う < 4 >

てんらんやま **天覧山**

フースでも恐らしい位置さを持ってい

(180 m)

細野 省二

・・岩トレーニング・・

~ 熱い汗と冷や汗と 戦いすんで日は落ちて~

飯能駅から 25 分で歩いて行ける岩場がある。丸広デパートの角を曲がり古い商店がチラホラする街道を見ながら酒屋を探す。買い物のついでに昼食のなべ物用の水も入れさせて貰った。観音寺の右手をまがれば今日のトレーニング道場は近い。一軒の新築住宅の前は畑。こんもりとした林を20mほど急登すれば、眼前には30mくらいの岩の壁。おお!

これが有名な天覧山ゲレンデである。

リーダーが真っ先にハーネスを付け準備 の遅い我々に

「ナア〜ニしてんだ、話しばかりして、 早く、しなくッちゃア〜」…

といいながらトップロープの準備にスル スルと軽快に登っていくではないか!

複数の立ち木や岩に打ち込まれたハーケンを確認しながらスリングによるカウ・ヒッチで支点をとる準備にかかっている。



リーケ は肩絡み、腰絡みでのビレイにはいった。大きな声で

私 … 『お願いしま~す』

L… 『声が小さい!

もつと大きな声で言わない

と意思が伝わらないよ。

リードする人にハッキリ判るように。これは安全のために必要なことなんだよ。』 こんなやり取りののなかでビレイヤーに対するす信頼がますます高まる。

岩登りは<u>人とひと</u>との一体感を最も感じる行為ではなかろうか! 彼も真剣!、僕も真剣!素晴らしい形で醸成させる。

この充実感。
たまらない。

この日の研修項目

- ① ザイルの結び方ボーライン (もやい結び)ボーライン・オン・ア・バイト(腰掛け結び)
- ② ザイルの持ち方と末端処理 クローブ・ヒッチ (巻き結び) … ロープを支点に結び付ける
- ③ カラビナを使って制動をかける方法
- ④ ブルージック・ノットを使って岩場 を登る方法。 etc…



鳴虫山

(1103m)

坪井 三枝子

雪の歩行訓練 雪に触れ自然を考えた

日光市内は4,5日前に降った雪が歩道 に寄せられていて今日の雪山訓練には充 分の積雪でほっとした。

晴れていた空が登山口にかかった頃か ら深いガスに包まれ、少し雪がふってき た。

男体山方面はかなり暗く本格的な雪に なるのであろう。気温はマイナス1度く らいになつている。

なぜ当時の気象状況を詳しく思い出そ うとしているのか、理由(わけ)を話そ う。一

私たちが登り始めた9時頃、すぐ近く の高山の登山口で雪崩があり一人が死亡 したとニュースを聞いたのです…。清家 さんと私はほんの10日ほど前に労山の 雪崩講習会で勉強したばかりだったので

『 30センチの積雪でそんなに急勾配 の山でないので鳴虫山は雪崩れることは ないね! 』

などと話しながら登っていました。 後で高山の雪崩のニュースをテレビで見 みましたが、登山口は穏やかな勾配で

『 エーッなぜあんな所で… 』と思っ

たものです。

どれだけ努力をしても、勉強しても、 人は自然の前には到底およばないのです から …。すこしでも危険を避けるために 勉強をしなければと、思いを新たにしま した。

そして、無事下山できたら自然に感謝 する気持ちをいつも持ちたいと思いまし た。

鳴虫山は雪に触れ、雪を考え、自然を 考えた山行になりました。

下山後、近くのやしおの湯でゆっくり とした時間を持ちました。雪山の後に入 る温泉はまた格別です。



山名	鳴虫山 (B)
期日	平成9年1月26 日(日)
山域	奥日光
目的	雪山訓練
コース and タイム	北千住 6、30-登山口 8、50-鳴虫山 11,1 下山開始 11、50- 含満淵 14,05
ルート 状況	① 鳴虫山独標まで 積雪量約 40cm

<6> 北ア 燕 岳 (2763m) 坪井 三枝子

我々の綺麗なトレースが一本! 快晴に恵まれた冬李冉挑戦の山

正月に荒天のため燕岳を振った。心残り だったのでラッセル覚悟で出かける。

宮城でタクシーを降りたときまだ暗く冬空に星がきらめいていた。車道は所々、凍っていてストックが有効であった。一ノ瀬の発電所からは踏み跡がなく輪かんをつけた。トップを200mずつ変わったが、それまで1kmを15分~20分のペースできたがここからは1km歩くのに40分以上かかるようになり疲労も激しい。休憩をたっぷりとって信濃坂の登りにのぞんだ。

12時30分中房温泉着。宮城から7時間 (正月前後なら入山者多く4時間から5時間の道のりであろう)この13kmはとて も長かった。

平成9年2月8日 晴れ テント泊

テント場は地熱で暖かく寝過ごしてしまった。幸い9日、10日も天気が良いとの 予報なので今日は合戦小屋までとする。 輪かんをつけ登り始めるが雪が深くなかな か進めない。振りかえると有明山が目線の 高さになり、大天井方面が少しずつ姿を見 せてきた。

日溜りでランチをとり、また上をめざす!。 合戦小屋は雪に埋まっていた。

2月9日 晴れ テント泊

夜明け前にテント場を出発。 合戦の頭で荘厳な日の出を見る。

信越の山々、八ケ岳、富士山、南アルプス が次々と姿をあらわす。燕山荘も見えてき た。

尾根に出ると雪が締まってきたので輪かんからアイゼンに変える。槍ヶ岳が大きくなってきた。鹿島槍方面も快晴のようだ。 五竜岳をアタックしているはずの村松さんに「トシチャーン」と呼んでみた。

山頂は9時着。がっちり握手をしてお湯で乾杯!

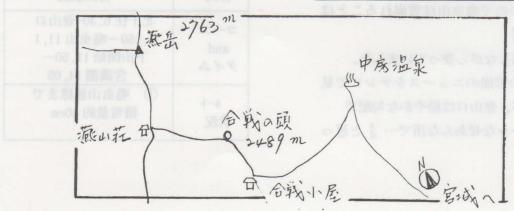
下山にかかる。我らパーテイのトレース が一本綺麗についている。各人の全力を上 げたことへの山からの<u>無言のほうび</u>なのだ。

テントを撤収して中房温泉へ。

お風呂に入って熟睡。

2月10日 晴れ 中房7時-宮城12時

形 式: 準例会 テント泊、雪山山行 参加者: 坪井、川名、ほか県労山2名



 $\langle NO. 7 \rangle$

川苔山 (1363.7m)

たがで一番大きいホールに変更した

清家三保子



ここで沢音も遠のき、急坂を登る。北斜面は道が氷っている。油を流した様な青氷である。アイゼンを付けて安心する。それも8本爪が安心な程である。標高は1363.7mと言えど、やはり間違いなく冬山である。奥多摩だからとアイゼンを持たずに来た人が、片足を借りて何とか役に立ち下った話も聞く。

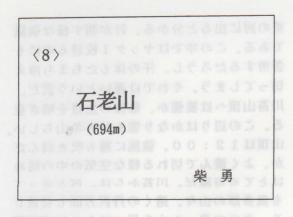
冷たい風もだんだん強く感じられる様になり、稜線も近い。村松さんより、「ここで、ヤッケ手袋等の防風、防寒の準備を」との注意。竹のかぶさる所で身に付ける。

東の肩に出ると分かる。針が刺す様な強風 である。この中ではヤッケ1枚着るのにも 苦労するだろうし、汗の体もたちまち冷え 切ってしまう。それでは遅いという訳だ。 川苔山頂へは後僅か、最後の急登を喘ぎ登 る。この辺りはかなり雪も付き冬山らしい。 山頂は12:00。強風に霧も吹き飛んだ か、よく澄んで切れる様な空気の中の眺め はとても奇麗だ。川苔からは、何と言って も奥多摩の山々。遠くの丹沢方面も見渡せ る。自分の登った山を見つけられれば又嬉 しい。それにしても何という寒さか。長居 はできない。肩の売店まで下り、小屋に入 らせてもらう。急ぎトン汁を作る。しょう がを入れると体も暖まりおいしいと聞き、 しょうがとたっぷりのネギを入れる。落し た物はしゃりしゃり氷付く寒さではあった が、満腹になり幸せ気分で下山にかかる。 風が当たらぬ陽の当たる場所の暖かな事。 この差はどうだろう。真冬と初夏である。

大根の山の神から無事鳩の巣に着き「ホッ」としたのは15:00であった。低山といえど、冬山の条件を様々揃えてくれた川苔山は、楽しく又勉強になった1日でした。



山名	川苔山	山行形式	日帰り
則日	平成9年2月22日(土)	晴れ	
山域	奥多摩	地図	1/2万5千 原市場武蔵御岳
目的	雪の奥多摩		MIN
H	我孫子 (5:34) -西国分	寺-立川-具	奥多摩-川栗橋
程	(8:35/8:40)	登山口 (9:15)百尋の滝
J	(10:20)山頂	(12:00)	/13:00)
-	大根の山の神 (14:25/	14:35))鳩の巣 (15:00)
Z			
ルート	・雪は非常に少なかった。	山頂付近は	あり) しかし、風が強く寒く、北
状	斜面、樹下等、氷が光って	おり、注意	を要し、アイゼンは8本がベスト
别	の様であった。		
	・奥多摩の山々の展望は素曜	らしかった。	
	・トン汁にしょうがを入れる	と美味であ	ot.

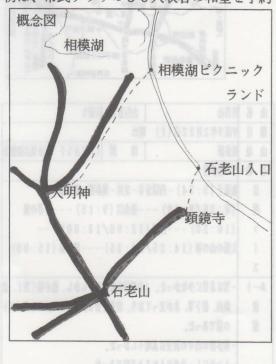


みぞれの中の 公開ハイキング

一般市民40名、会員8名、合計48名が 初めての公開ハイキングに参加した。これ程 沢山の人が参加するとは考えていなかった。

私たちは昨年の10月に新しく【岳人あび こ】を8名の会員で創り、どのようにして会 員を増やして行くか会議の議題はこれがメイ ンのテーマだった。今は無い北柏のコージッ や行きつけのソバ屋の出入り口に会員募集の ビラを貼らせて貰ったが効果は無かった。

市民広報の威力には驚いた。説明会は、最 初は、市民プラザの30人収容の和室を予約



したがで一番大きいホールに変更した。

だが当日は朝から強い雨で連絡のないキャンセルも有った。バスを予約している関係で中止にすることは難しい。小雨決行である。 三浦会長のあいさつの「山はいつも天気の時ばかりではなく、雨の日のふだんでは気づかない木々の緑の美しさ、静かな山の良さを味わって下さい。」と言う言葉に納得し、元気付けられ全員雨具を付けて2つのコースに別れて歩きだす。

相模湖ピクニックランドから大明神、石老山のコースとこれと反対の石老山入口から顕鏡寺経由石老山の2コースで、集中登山形式。丁度山頂でお昼になるのでここで合流してあった。もちった。もちった。もちった。は山頂に着くや否やすぐに甘酒作り。山頂では予期もしないみぞれ。それだけに甘酒はうまかった。晴れていれば冠雪の富士山が展望できて参加者が山の良さを実感できたのにして下山する。下山時は滑りやすい所が有って、装備が不十分の人もいて心配したが全員すったったりケガをした人もいなかったので会員はほっとした。雨のために8名のキャンセルが有ったが公開ハイキングは大成功で有った。

山名	石老山(A)山行形式 日帰り				
期日	平成9年3月	1161	3 (E	1)	A Mak 8
山域	中央線沿線 地図 上野原			7 m2	
目的	公開ハイキング 交通機関 バス			バス	
6 M	我孫子駅6:2	5/6:45	~ピク	7 = 1	クラン
コ	ド前9:00/9:	ド前9:00/9:20~大明神10:10/10:15~			
T	石老山11:25	石老山11:25/12:00~石老山登山口13			
ス	:30~相模湖位	、園14:	05/1	4:45	~
	我孫子駅18:	10			

飲迎 20人を加える仲間とも

形しと

平成9年度 (1997年)

平成9年4月~平成10年3月

-さらに豊かで活残な登山を行い、安全な登山をめるす中で

13なら人品の皆 さえて育す者 <ぐホーロス>

1. 清亮な山行

2、事故所止と安全発由

3、新人の育成と組織の強化

4. 労山行事や他の山岳団体との交流

5. コミュニケーションの強化

8. 装備の発実と活用



~さらに豊かで活発な登山を行い、安全な登山をめざす中で~

<スローガン> **皆で育てよう 皆の岳人あびこ!**

- 1. 活発な山行
- 2. 事故防止と安全登山
- 3. 新人の育成と組織の強化
- 4. 労山行事や他の山岳団体との交流
- 5. コミュニケーションの強化
- 6. 装備の充実と活用

< 9 > まきはたやま
巻 機 山
(1967m)
坪井 三枝子

ロープワープ、滑落停止 地酒、おまけに ヘールボップすい星

1日目

豪雪の山も今年は雪が少なく清水の集落より先までタクシーが入ってくれた。桜坂の駐車場には車が10台ほど、ほとんどが山スキーの人々。我々のような重装備はあまり見かけない。

左手に巻機山の家を見て井戸尾根に取り付くが、いきなりの急登。雪は堅く締まりアイゼンも輪かんも不要。30分も歩けば暑くなりシャツ一枚になる。「雪があるのに暑いとはこれイかに | とSさん。ブナの木々の間をぬって急登が続く。4合目、5合目が本当に参った。12時30分に物見平にテント設営。

キジ場は天狗岩が望める方向に。うん、これで快適なテント生活ができそう。ビールで乾杯。時間がタップリあるのでロープワーク、滑落停止、などしっかり学ぶ。

待望の夕飯はシャブシャブにし、肉は控えめに、その分、魚で補う。地酒の景虎がアット言うまになくなる。Mさんが山麓まで買いに行くというのを引き止める。キジ場から帰ってきたKさん興奮して「ヘールボップすい星がものすごく綺麗!」と、すい星なんかどうでもいいといっていたのに、全員で今世紀最大のショウに見とれた。

隣の若者達は「次の大きなすい星は2061 年のハレーすい星だな」 などと話している。 さすが東大ワンゲルの会話。あ~2061 年には生きていないな7~などと思いながら寝 てしまった。

2日目

無風快晴の中1時間30分で山頂に着いた。 越後三山、上州武尊山、谷川方面と朝日に輝いて波のようにうねっている。割引岳の雪ピがすごい。この雄大さ、ここがスキー場に開発されなくて本当に良かった。地元の人々が 巻機の自然を守ったのは正しい判断だったと 思う。

帰りに清水の民宿でフキノトウのおひたし をいただいた。

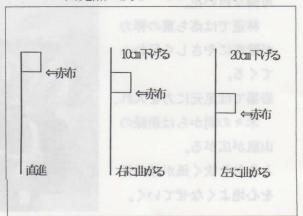
春の香りがいつまでも私の心に残った。

山行日 平成9年4月12日-13日 4名参加

冬山技術参考

○ 村松さんに雪山での赤旗の立て方を教 えていただいた。

パーテイで下図のような取り決めをすると ガスや吹雪で帰路迷っても 出発点に戻ることができる。



< 10> 新人歓迎山行 **大楠山** おおくすやま (242m)

高橋寿江

花に恵まれ 人に恵まれ

石老山の公開ハイキングに次ぐ、2度目の山行は大楠山一どんな山なのだろうか。 前回の石老山は雨のため、周りの景色を楽 しむ余裕もなく心残りでした。

しかし、雨、ミゾレの中での登山経験は、 大変貴重なものでした。いま振りかえって も、苦闘したその時がなぜか懐かしく、楽 しかった想いのみが残っております。

でも、

やっぱり晴天が……。

その願いがかない大楠 山は素晴らしい天候に恵 まれました。

民家の生垣の真っ赤な ツツジや藤の花。数日前 には満開の桜で埋め尽く されたであろう衣笠公園 小道でのスミレ、タンポ ポ、シャガ、ウラシマ草、 可憐な白い花。

林道では落ち葉の弾力 が靴底にやさしく伝わっ てくる。

岩場では足元に力を入れ、

木々の間からは新緑の山肌が広がる。

ときおり吹く風が額の汗 を心地よくなぜていく。 途中休憩も多く無理のないゆっくりした ペースで山頂に着くことができました。

展望台からの相模湾のすばらしさ、海原 を走る漁船もはっきり見える。

手際よく作るトン汁とワインで乾杯! そして、各人のゆかいな自己紹介に大笑い。 実にいい仲間が集まったものだ。

こんなすばらしい山の会にめぐりあえて 本当に良かったと思いました。 下山して秋谷海岸の砂浜で海を眺めながら のんびり自由に一時間ほど過ごす。

この出会いを大切に。新しい仲間の皆様といっしょに、山行を楽しみたいと思います。



春だから花・味な山旅





<11>

槍ヶ岳 (3180m)

柴 勇

槍ヶ岳山頂を独占

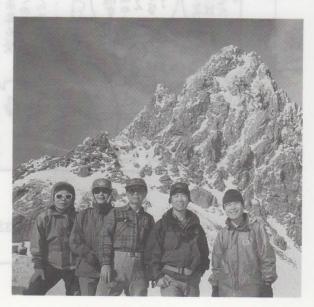
前半のゴールデンウィークは、飛び石にな るが、1日休んで4連休になる。新宿駅23 : 50発アルプス号が40分遅れて発車、間 もなく眠りに着いた所で検札のため起こされ あっと言うまに松本駅。4月26日4時30 分まだ薄暗く、寒い。タクシーは今日までは 中の湯までしか入れない。舗装された道路を 登山靴で歩くのは疲れるし、足の裏を痛めて しまった。早めにテープを手当して置けばと 後悔する。中の湯を進むと間もなく焼岳が左 手にそして前方に西穂高岳、奥穂高岳が青空 にくっきりと白く輝く。上高地の河童橋は新 しく作り替えの工事をしていた。5月下旬か らつかえると言う。ビジターセンターのとこ ろで休憩を兼ねて朝食にする。ここにあるト イレは、こういうところに有るトイレとして は極めてきれいで感心する。山のトイレに限 らずいわゆる公衆トイレは、最近は随分きれ いになってきたと思う。ただ、いつも思うの だが公共物を大切に使うと言う点ではまだま だ問題が有る。個人のもの以上に大切に使う ようにしたい。

朝食の後に直ぐ傷んだ足の裏にテープを張る。梓川の流れは雪解けでその流れも勢いも清らかさも一層強く伝わってくる。爽やかな新緑の間から時々現れる白銀に輝く穂高連峰、静けさの中に時々聞こえる野鳥のさえずり、澄んだ空気、登山者の笑顔、しかも平坦な山道、キャンプ場は広く緑の木陰を作り多くの登山者の憩いの場を提供する。

徳沢園のコーヒーは、特に美味しい、きっと水が決め手なのだ。道の両側には、ふきのとうが顔を出している。春の山菜の王様だ、あの香りは、春の香りでありどんな香水よりも上品で、幸せにしてくれる。てんぷらにしてビールのおつまみにしたら最高。

横尾を過ぎて間もなく残雪がところどころに現れる。槍見河原の少し手前に崖崩れが有り、通過に注意が必要だ。吊り橋を過ぎた当たりから勾配も加わり、睡眠不足と舗装の歩きの疲れも出てピッチも落ちて来た。槍沢ロッジについた時はほっとした。早速テントを張るために場所決めをしてスコップとピッケルで雪を平らに均し、今宵の宿作り。ほてった体と、乾いた喉にはビールが1番。翌日の槍ヶ岳に期待して早々と眠りにつく。

3時半起床、5時15分出発、テント場を 出ると赤い布のポールが100m置き位に立 てでありルートが分かりやすい。大きい岩を 過ぎたところで突然ポールが無くなりロスタ イムとなる。(帰りには、キチンと立ててあ った。)赤沢岩小屋を過ぎる当たりから雪崩 の跡が数箇所残っていてその凄まじさを感じ させる。リーダーの指示で 20m間隔位に間 を空けて、雪崩に注意を払いながら進む。そ の中に一か所ルート上を完全に覆っていた雪 崩の跡が有った。通過中にこの雪崩に会えば



どう成ったかは想像しただけでも肝を冷やす。今回の山行ほど雪崩に注意を払ったのは、 私には、初めての経験であった。

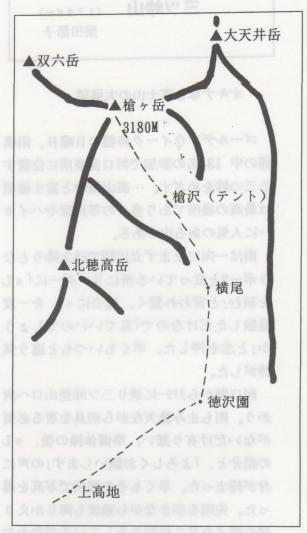
しかし、それを除けば風は無風に近く、5 月の太陽はほどよく暖かく、残雪に輝きを与え、山々の稜線と濃紺の空とのコントラストの美しさを提供してくれた。始めは傾斜もゆるやかで、足元の雪もしまっていてしかも1 番乗りなので気持ちよく登ることが出来たが、殺生ヒュッテの手前当たりから傾斜もきつくなり、雪も緩んできて、しかも風が強くなり、迎え風で体力を消耗した。

槍ヶ岳山荘に着いたのは10時30分、昼 食を取ることにした。私は、食欲がなくスポーツドリンクとお菓子を少し食べて体を休める。いよいよ槍ヶ岳の頂上目指して出掛けるときがきた。カラビナ、シュリンゲ、エイト環、ロープ、ハーネスそれぞれ用意してきたものを装備して小屋を後にする。少し歩いたところでリーダーの足がつってしまった。先程の登りのラッセルでの無理がたたった。しばらく手当をしたり休憩を取ったが駄目だった。

やむを得ずリーダーが小屋に残り我々4人だけでアタックすることにする。下山の人もいて待つ時間もあり登りに50分を要した。 頂上に着いたのは12時50分、南に連なる穂高連峰、東には大天井岳、常念岳、蝶ヶ岳、西には笠ヶ岳、双六岳がまじかに迫って展望出来た。しかも頂上は、我々4人だけで独り占め。この喜びは生涯の宝、槍ヶ岳を見るたびに思い出すだろう。皆の顔は輝いていた。山頂の風が爽やかに頬をなぜた。

【岳人あびこ】の緑い旗が頂上になびいた。 小さいこいのぼりも風に泳いだ。

下山は慎重を期したのとロープワークに慣れないため、また他の登山者とのルート上の 待機のため長時間を要し2時間30分かかった。登山初めから、小屋に着くまでリーダー の心配している姿は始終我々の目にはっきり と写った。リーダーの姿が小さく成ってもよ く分かった。お互いに長い時間だった。



遅くなったら小屋に泊まることも考えていたが、急げば明るいうちにキャンプにつけるので、少し休んで下山する。 3 時 4 5 分出発、雪は緩んでいて時々踏み抜いたりしながらも 5 時 4 4 分には到着出来た。それだけ私たちの足取りは軽かった。

その夜は楽しい宴となった。星が輝いていた。テントの明かりがほんのりと明るく私たちのと、他に一つ夢のホテルが2棟だけあった。どれだけ食べのか、何を食べたのか、何を飲んだのか、いつ寝たのか……、テントの朝は、清々しかった。

<12> // 3 // 3 // 3 // 4 // 3 // 4 // 3 // 4 // 3 // 4 // 4 // 3 // 4 /

三ツ峠山 (1786m) 柴田節子

オキナ草と富士山の大展望

与った。リーダーの姿が出さく成って

ゴールデンウイーク終盤の日曜日、雨模様の中 13 名の参加で河口湖東南に位置する三つ峠をめざす。…高山植物と富士展望は最高の場所であり多くの写真家やハイカーに人気のある山である。

雨は一向に止まず立川駅では大降りとなりボーツと立っている所にリーダーに「sLを頼む」と言われ驚く。過去にsLを一度経験しただけなので「私でいいのでしょうか」と念を押した。早くもいつもと違う気持がした。

河口湖からタクシーに乗り三ツ峠登山口へ向かう。雨も止み曇天ながら雨具を着る必要がないだけ有り難い。準備体操の後、sLの紹介と、「よろしくお願いします」の声に身が締まった。早くもその場所で写真を撮った。先頭を歩きながら幾度も降りかえり皆の様子を見て気配りをしているがなかなか伝わらず L から「もう少し、ゆっくり歩いてエー」と数回のアドバイスがある。

慣れないことは大変ダー

先頭を歩くといつもと違う風景が見える。 これはなかなか良い透かして見える若葉の 緑や足元には珍しいオキナ草、上品な色彩 の山桜、小粒ながら紫紺のすみれ、コブシ, イカリ草、相変わらずのボケの花、のんび りハイクも視線ばかりはジーとしていない。 花々と言えば、オキナ草を接写している中 年の男性は興奮気味である。絶滅間近の花, に出会え『今日はとてもラッキーだ!』と 言った。改めて見なおす。それにつけても 山道の真中に咲いている!これでは登山者 に踏みつけられてしまではないか。どうか 一日でも長く咲いてほしいと願う。

山頂へは滑りやすい急な斜面をひと登り、 登山口より1時間15分で着いた。食事時またしてもポツリと雨が…。食後足早に木 無山に向かった。電波塔が林立する山頂から富士山、南ア、八ツ岳の眺望が出来ると言うが今日はいずこの山も姿は見えない。 天気は気侭だ。カラマツ林やモミの茂みの間から次第に真ッ青な空が見え始めた。眼前に銭湯と同じ絵柄が見えると期待した。だが残念、雨雲は動かない。「もう見せてくれるよねー」、「あと少しよ」と口々に言いながら心を残した。

大月駅を後にした。そのとき真白なティア ラを乗せた霊峰が現れ車中大歓声! まずは一件落着でした。

名ばかりのsLで、いつしか花々やオシャベリに夢中になってしまい反省もあったが貴重な経験となった。



山名		三ツ峠	Ш	地図	河口湖東部
	-	A		De Ma	1/25000
期日		平成9年	5)	月4日	〈日〉
コース	立川 6:45-河口湖 8:50-				
費用	概算 6000 円(タクシー利用)				

5 A 1 7 B X M & D D 5 - 2 0 0 E M X B T I R &

黒川鶏冠山

(1、607m) 長木 加代子

しゃくなげの尾根道と 南アルプス大菩薩展望

5月24日、大菩薩山域の黒川・鶏冠山への山行は、リーダー川名さん、サブリーダー細野さんのもと7人となり、雨の確立90%多少の不安を抱えての参加だったが、黒川山の手前まで曇り空で春霞の中、新緑も鮮やかなブナ、カラ松、三つ葉ツツジの淡い紫が私達一行を迎えてくれた。

落ち葉が幾重にも積もった、柔らかく心地よい登山道を踏みしめ、山ツツジのオレンジ、白い花を付けた大カメの木に足を止めては、足元の数多くのエンレイ草の白花、薄紫の花に見入る。皆それぞれに花の話、山の話に花を咲かせ、六本木、三本木、横手峠へと登ると、黒川山の手前で急に降り出した雨。この時リーダー、サブリーダー、坪井さんのまさに素早い雨具の装着、新人4人はノロノロというか、オロオロというか、、、。この良い体験を次に生かせるでしょうか?、、、。

大岩の間を縫って、滑りやすい尾根道に緊張させられ頂上へ11時50分に到着。残念ながら期待していた南アルプスと大菩薩の展望は望めなかったが、小さな慎ましい祠が祭られた頂上に、ピンクの花をたくさんつけた3m程のシャクナゲ、とても狭い所にあちこちにけなげに咲いている小イワカガミを見つけ、驚きと喜びに浸る一時を過ごす。



丸川峠は3年前、大菩薩の下りに通った所で、懐かしい思いで足を進める。一面のツツジの群落はまだつぼみだが、満開の様を心に描き、石の多い急な下りを、リーダーの気遣いを受けながら、無事16時に千石分岐に下山する。先に下った、サブリーダーの細野さん、佐々木さんが呼んで下さったタクシーを見つけた時の新人女性3人の喜びを想像してみて下さい。そう、あの3人ですよ、、、。

塩山17時10分発の車中、佐々木さんの 心のこもった山梨のワインで乾杯、片隅に乗客 只一人だけ。佐々木さんは「両親の顔を見に ね」と上の原で下車する。優しさがしみじみと 伝わってきた。

小雨の中の山路、私にとっては花紀行。利休の「花は野にあるように生けよ」との教え、

「花をのみ、待つらん人に山里の、雪間の草の春をみせばや」と歌った心、自然を良く観察し、小さな命を大切に、ということ改めて理解できた山行となった。天王台20時30分着、岳人あびこの6人の方々、本当にありがとうございました。

山名	鶏冠山、黒川山
期間	平成10年5月24日
	大菩薩
目的	しゃくなげの尾根道と南アルプスの展望
日程コース	我孫子-高尾-塩山-柳沢峠-六本木峠 -5:33 7:26 8:45 9:23 10:20 横手峠-黒川山-鶏冠山-六本木峠- 10:50 11:30 11:50 13:10 丸川峠-千石分岐-我孫子 14:35 16:00 20:00
ルート状況	柳沢峠より原生林の中歩き易い道。六本木、横手峠は緩やかな登山道。横手峠からは少々きつく黒川山から鶏冠山は岩があり滑り易く注意。丸川峠からは傾斜の急な下り。

(14)

吾妻連峰

(2035m)

柴田節子

残雪踏みしめみちのくの山へ

7年お正月の予期せぬ鳴虫山山行で冬山の魅力を少しだけ知った。冬の山には無縁だと決めつけていたものが去って行った。もっとスケールの大きな雪山を登りたいと欲が出る。しかし、気持ちばかりが先行しても、無理な話である。今回の山行は残雪を楽しむものであり、ワカン(今まで手に取ったことも無い装備)携帯となるといささか不安であった。「わたし山行に参加の申し込みをしたのですが…」と細野清子さんに言うと「行こうよ」「行こうよ」と応えてくれ、気強く思われた



5月17日天気は曇りのち一時雨のち晴れであった。白布湯元からロープウェイやリフトを利用して、天狗岩~西吾妻山へ登るコースも有るが、我々一行は古くから利用されてきた登山道で、白布温泉から西吾妻山まで標高差1200米を登った。(因に、山群中どの山に登るにしてもその出発点は大てい温泉だそうだ。)

樹林帯の急な登りが続き、途中雷と伴に大雨に遭い、山道は俄に小川となった。「こんな事ははじめてだ」と一人言。雷が通過ぎるまで一カ所にまとまり去るのをじっと待つ。 石ころや木の根っこを踏む道をひたすら頑張って歩く。積雪の多さに豪雪地帯であることを再認識する。

総称の吾妻山は非常に広範囲で、その最高 峰は西吾妻山であり、山群唯一2000米を 越えているが、周囲の峰峰も1900米以上 の高さが有るから、どんぐりの背くらべだ。 西吾妻山は残念ながら展望は無かった。そし て奥深い森林の中でルートファインディング が始まる。少し登っては地形図を拡げ、樹林 のなお奥へ、そしてブッシュの中までも分け 入り目印を捜し、確認し合い前進をする。「 細野さ~ん」「柴さーん」「坪井さ~ん」と 大声を張り上げるばかりでした。「こっちに 赤いテープがあったよ」「確かにあるわね」 「よし行こう」と皆で一致団結!この繰り返 しである。当会で目標としている登山の理念 が牛かされている。真剣に行動している皆に 、厚い信頼と心地よさを感じた。

そんなわけで若女平~西吾妻山避難小屋~ 人形石まで多くの時間を費やした。人形石に 着いたのが15:00。大きな奇岩があり、 展望が開け、蔵王連峰が遠望できる。まだま だ歩は進む。やっと藤十郎に15:40着、 コースは藤十郎の頂から、ほんの少し外れて いるが、周辺には、ハイマツやコメツガの茂るなだらかな道で、湿原や池塘がたくさんあり天上の楽園の様だ。丁度良い場所にベンチがあり、夕日を受けながら、ほっと一息ついたものの、明月荘[弥兵衛平小屋(避難小屋)]の赤い屋根ははるか遠い。「まあだだかい?」と問えば「もう少しよ」と何度繰り返したことやら。

服部さんの一言と笑いに助けられ、それから約1時間後ようやく小屋に着きました。この小屋一帯は、高層湿原があり明星湖の大きな池塘のある弥兵衛平湿原で、ワタスゲやチングルマをはじめ高山植物の宝庫です。盛夏にはかれんな花々が短い夏を精一杯彩ることでしょう。

山名	吾妻連峰(C) 山行形式 山小屋				
期日	平成9年5月17日~18日				
山域	域 吾妻連峰 地図 福島、吾妻山				
目的	春山の残雪を楽しむ。温泉				
交通機関	夜行バス、新幹線				
1	兵松町21:20/21:50(夜行バス)~				
	や沢5:00/5:20 (タクシー)~白布				
温温	温泉6:00/6:25 (朝食) …若女平8:				
日17日 35	2…西吾妻山避難小屋11:40/12:25				
(昼食) …西吾妻山12:50…小屋13: 00/13:15…人形石15:00…藤十郎15:					
					0/15:45…弥兵衛平小屋16:55(泊)
	小屋3:30/5:10…東大巓6:16…家形山				
	1:10五色湖畔11:25/11:47(昼食)				
	一切経山12:10/12:20…浄土平13:0				
	~福島駅17:40/18:30~上野駅20:14				
	西吾妻山、明月荘の無人小屋共				
	トイレが有り、小屋としては良く				
	整備されている。				
	登備されている。 ②水場は梵天岩の少し先に豊富に有				
況	る。				

そして段々と "Cランク" の中身が見えて きました。それらは体力、知力、技術、経験 、装備、ある時は決断力らしいと。

小屋に入って早速、濡れた靴の中に新聞紙を詰め、水気を取ること。その他、濡れ物で、たちまちロープは花盛りとなりました。今夜の泊まりはわが一行7名のみ、何と恵まれたことでしょう。食事の支度と共に、愉快な会話がはずみ、お酒もツマミも盛沢山。温かい食事に今日の無事を感謝しました。

翌朝3:30起床。天気は上々で何よりです。準備万端5:10小屋を出発する。東大巓(ヒガシダイテン)を過ぎ、昭元山からの展望は、その広漠とした拡がりに、解放感と緑の森林帯、純白の残雪、広大な湿原に池塘がちらばり、澄みきった真っ青な空、自然の美しさに感謝するばかりで、この場面から立ち去ってしまうのがもったいない様でした。

2日目の今日も歩きに歩き、烏帽子山、そ



して二セ鳥帽子山能の途中だったか、雪の斜面をトラバースしなければならないとその時「ちょっと間違うとず~とそのまま行っちゃうよ」と言われたとたんに恐怖感が走り全身はコチンコチン。「こう言う所はどうやって歩けばいいの」「雪渓の表面はスプーンカットと言って大きなスプーンですくったような凹凸が有ってその凹部に足を置くようにと教わる。けれど体全体に力が入ってしまい一歩一歩神経を張り詰めながら歩く。なるほどこわさも薄れて行きました。家形山から俯瞰する五色沼は瑠璃色をしており、余りの美しさに、いっぺんに元気が出てきた。そこで休憩して全く静かな沼を眺め写真を撮ったりした

次に目指す一切経山は、モコモコとした感じの山。ここまでで来るとやっと登山者に出合う。ザレた山肌を一歩一歩登り詰めて、今

回の山行もいよいよ終盤かと思うと「ここまでよくぞ歩けたものよ、初めてのCランクに乾杯だ。」知らず知らずに涙が溢れ少々遅れた私に清家さんがついて下さり、やさしさに又涙した。なんだか皆と顔を合わせるのが照れくさい。山頂は強風なのに私のために?記念撮影でした。泣き顔の写真なて滅多にないよ。貴重な一枚でしょう。

こじんまりとした吾妻小富士を見ながら、 浄土平へと下った。そこには沢山の観光客で 溢れていた。出発前の清子さんの一言に改め て大感謝!と同時にワカンをくくりつけたざっくを背負ったまま、幾度も幾度も雪の中に 片足がズブ、ズドーン。あっと言う間に無様 な転びようであぶなっかしくも歩けた長い道 程。忘れ得ぬ山行となりました。同行の皆さんに感謝、感謝でした。



の目を楽しませてくれました。

山のグルメもありました。「誰かさん」が見つけた やぶイチゴにたっぷりと舌づつみをうって…… 本当に美味しかったコト。

コツコツと樹を叩く音は多分キツツキ、何処からと もなく聞こえてくるのは鶯かしら……。

松林の中、頭上から初めて聴く不思議な鳴き声に……???。

蝉だの蛙だのとワイワイガヤガヤ、「カジカ」では とおっしゃる方もいましたが、その正体はいまだ に謎のままになっています。

30分毎に休憩をとりながら、高度差1000メートルを一歩一歩登って行きました。

雨が本降りになってきましたので、山頂まで少し 手前の休憩小屋で、全員雨具をつけることにしま した。一層、蒸し暑くなりましたが、我慢のしどこ ろと頑張って登りました。

12時前に山頂近くの非難小屋に到着、昼食をとることにしました。立派な小屋で、雨具をはずしてゆっくりおにぎりを頬張ることができました。風通しがよく、谷から吹き上げる風は17℃の天然冷房で、汗びっしょりの背中が冷たく感じるほどでした。汗はきれいに乾いてしまいました。みなさんからいただいた、ハウスミカン、ミニトマト、お漬物がとても美味しく、お腹も大満足でした。本当に御馳走さまでした。

昼食を済ませ山頂に向かいました。残念ながら、 ガスがかかって眺望がきかず、奥多摩湖も真っ 白な霧の彼方でした。雨も小降りになる気配にな く、直ちに下山しました。足元には雨水が流れ、 大変滑りやすくなってきました。

途中、背丈ほどの草むらを手でかき分けながら進んでゆくと、また、「誰かさん」が黄色に実るイチゴを見つけました。雨に洗われたイチゴの実は甘味があって大変に美味しく、素敵な食後のデザートになりました。

1時間位下った頃、空も明るくなり、雨もあがったので、休憩しながら雨具を外すことにしました。山

の冷気が身体にあたりホッとしたのも束の間、5分も経たないうちにまた本降りになってしまい、雨具を再びつけることになりました。神様の悪戯で雨具をしまったり出したりの忙しい思いをさせられたのか、あるいは、神様が山の涼風を味あわせてくれたのか・・・。山の神様のご性格を考えると、多分、後者では・・・。こんな事を考えながら、雨のなかを黙々と歩きました。

雨で休憩をする場所もなく、途中、もう1回ほど立ったまま一息入れただけで、3時間弱を一気に下山しました。

今回は雨中の山行を体験 しましたので、次は、青空の もと、かたくりの花の咲く頃に、 もう一度登ってみたいと思って います。

かたくりの見頃は 4月中~下旬

全員が雨宿りのできるバス停に到着した途端、雨が一段と激しく降りだしましたが、そんな中をリーダーの方々に、ビールを買ってきていただき感謝感激。早速みんなで喉を潤しました。

バスの中は夢見心地、いつの間にか五日市に着きました。

電車を待つ間、駅前のおそば屋さんで、あまり腰の強くない麺(伊豆が岳下のうどんと較べての話)を食べながら(柔らか過ぎて食べ残した方もいらっしゃいました)、山のお話を沢山聞かせていただきました。

最後に、全員で、今回の山行の目的「夏山のトレーニング」について、十分にその効果があったことを確認しました。

これで、7月の富士山、鳥海山は大丈夫かな? ……私も少しだけ自信がつきました。

帰りの電車は寝台列車。7時半過ぎ、我孫子駅 に着きました。今日は本当に楽しかった。

アッという間の一日でした。次回の山行が楽しみです。

リーダーはじめみなさん、本当にありがとうございました。

< 1 5 > 県連クリーンハイク

養老渓谷

中村隆泰

せめて山に自然を

養老渓谷は自然がいっぱいですばらしい。 しかし、ちょっと足元に目を落とせば、人間しか 作れない遺物が自然を汚している。大量の不 法投棄も見られた。

人間は知恵と技術で快適な生活を作ろうと 努力しているが、度が過ぎるあまり自然の回復 力を上回る破壊を続けてきてしまったらしい。

3時間の収拾で 120kg(1 人平均 2kg)、去年より少ない由。<マナー向上?>

河原で昼食。途中で採集した竹の子・わらび・せり等を加えたとん汁がでた。竹の子が煮えるには時間が足りなかった。<自然の恵みは何でも使って、でも山では>

100 年後には地球の気温が平均 2 度上昇するとか。南極の氷が解け陸地は海に侵略され、穀倉地帯は砂漠と化し……。 つけは 我が孫の子へ。 <せめて山に自然を>





労山では毎年6月の第1日曜日、全国一斉に各県連が自県の山をきれいにします。千葉県では上記コースで一般の方も含めて参加者を募ります。 私たちはアチコチの山を歩きますが、千葉県は広くて意外と不便。高い山や有名?な山がなくて、あまり目がいかないというのも事実です。

それでも出かけてみると、思いがけない景観に出合えます。 | 年に | 度、 日頃の山への感謝をこめて、のんびり歩いてみませんか?



クリーンハイク

主催:千葉県勤労者山岳連盟

- 1. 期 日 6月1日(日) 晴、微風
- 2. 場 所 養老渓谷周辺
- 3. 参加者 約60名、岳人あびこ4名 (日下芳十、長木加代子、中村隆泰、中村美智 子)
- 4. ねらい 「山の自然を守る」 費 用 5000円-1000円(払戻)-2000円 (会補助)=2000円
- 6. コース 集合;松戸駅前 6:30/6:50 鎌ヶ谷・ 幕張本郷 - 養老渓谷駅前 9:40 (説明、紹介) /10:00…クリーンハイク…昼食 13:00・渓谷発 14:00 - 幕張本郷・鎌ヶ谷 - 松戸 18:30

・*クリーンハイクのお誘い*・



(16)

伊豆ガ岳と子の権現

(851m)

榊原文子 原田君子

三点確保…?

午前中は晴天に恵まれ、新人のほとんどが 参加し、計26名の山行であった。まだ、名前 がよくわからない。『名札でも着ければいい のにな…』と思った。

池袋から乗った電車の中で、朝食らしきものを食べ、一路、正丸駅へ…。駅前で準備運動をし、いよいよ出発。歩き始めてすぐ、ギャーというするどい悲鳴に、何事かと思っら、小さなへビが道を横断中であった。

初めての岩場。鉄のチェーンがたれ下がっており、三点確保で登るよう指導があり、でもそんなことすっかり忘れて、夢中で登ってしまい、ハテ三点確保したがしら?と考えてみたが…まあいいか、.無事登れたんだから…。

『子の権現』まではup downが多く、名前は わからないが、あじさいに似た小さな花がい たるところで我々を歓迎してくれ、楽しいハ イキングだった。

うどんとビールで、手打ちうどんのおいしい店で、全員「カンパイ」をし本日のしめくくりをした。

帰りの車内で、向かい合わせた座席をとり、 全員の名前を覚えるため、一人一人が声を出 して名前当てゲームのようなことをした。 おかげで覚えることが出来たが…。今度逢う日まで大丈夫かしら?と 疑問?? 約6時間くらい歩いたかしら。私にはちようど良いコースであった。新しい仲間との今後の山行が待ち遠しい。皆様、どうぞよろしくお願いします。 (榊原文子)

権現様やっとつきました。

ポポ、ポポという独特の鳴き声のつつ鳥(ホトトギス、カッコウの仲間)に迎えられて 入山。たちまち急な登り坂、岩場を登るのも 大変でしたが、下りも結構きつい。少しでも 気を抜くと滑りそうで緊張の連続。

子の権現までの遠かったこと。「権現様やっとつきました。」と言った感じでした。帰りの電車の中では自分の覚えた会員の名前を披露し合ってにぎやかに和やかに帰ってきました。でも他の乗客には迷惑だったかしら。少し反省もしております。(原田君子)

少し人自もしてわります。 (原田石丁)				
山名	伊豆ガ岳	(A)	山行形式	日帰り
期日	平成9年6月8日			
山域	奥武蔵 地図 正丸峠、原市			原市場
目的	新人研修	3	交通機関	電車
西曼 路	我孫子駅5:25/5:30~池袋6:20~正丸			
1	駅8:05/8:	20~大病	歲山分岐8	:45/8:50
1	~伊豆が岳クサリ場9:40 ~伊豆が岳			
ス	山頂10:10/11:55~天目指峠13:25/1			
	3:35~子の権現14:25/14:35~吾野駅			
	17:2017:31~池袋18:55~我孫子駅20			
	:00			
	①クサリ場	島は落る	占があるた	め通行禁
ルート	止の情報	退正丸	沢にあった	こので、現
状	地で安全	全を確認	忍した。ハ	ノート上に
況	落石があ	5るが_	上からの落	存るの心配
14631	は無いの	つで浮き	き石に注意	気して前進

〈17〉 图 7 机构写电阻 人名特拉克图令

表妙義

(1104m)

村松峯子

いもなり、ローブや側、椰子、

険しく・素晴らしい表妙義

奇岩・奇峰の連なる表妙義は、いつ見ても心 ひかれます。わくわくしながら中ノ岳神社の 石段を登ります。2ケ所の岩場を登り、稜線 に立った時、遭難者を探すヘリコプターの爆 音に驚かされます。

「横浜の○○さん、野田の○○さん、貴方たちを探しています」としきりに山中を呼びかけています。行く手には両側が切れ落ちた険悪な岩場が連なり、中ノ岳、東岳へと続きます。次から次へと急峻な岩場を登下降していきます。そして、浅間山、荒船山、八ケ岳と素晴らしい展望が広がってきます。

ヘリコプターが谷間の一点でしきりと旋回しているのがよく見えます。ほどなく、「そこを動かないように!」と遭難者へ指示したり、山中の捜索隊への連絡などが聞こえ、無事に発見された模様です。文字通り私たちは、高見の見物でしたが、「横浜と野田のお二人、本当によかったですね」、「よかった、よかった」と皆でホツとします。ここは、年に数回遭難事故のある、気をつけなければならない山域です。

行く手には、柏馬岳と鷹戻しの険が威圧的 にそびえており、「さて、あの峰をどうクリ アするのでしようか」と楽しみでもあります。

「すべリやすい急な長い鎖場」、「外側に張り出した放り出されそうな岩場」などは、スリ

ルに満ちていますので、岩登りの好きな人に とっては、とても楽しいコースです。

また、時々山中に豊かな緑の林も見え、緊張を和らげてくれます。「今日一番の難所」をクリアすると、ルート上の最高峰相馬岳に無事到着です。相馬岳の山頂に立ち、遥か越えてきた険しい峰々を思い返し、自然の偉大さをしみじみ感じました。

このルートは一般登山道ではないので、入山者も少なく(出会った人は2人)、静かな素晴らしい表妙義が一日堪能できました。下山後のピールの味は、険しいコースを終えた満足感で格別においしいものでした。そして、少年の日に戻ったような皆の輝いた笑顔がとても印象的でした。

しも中家的しした。					
山名	表妙義	(C)	山行形式	日帰り	
期日	平成9年6月15日				
山域	上州 地図 富岡、御代田				
目的	岩場鎖場の訓練				
交通機	交通機関 JR, タクシー				
5 7 17	上野6:04/6:13(とき401号)~高崎7:07~				
日報館	/7:13~	松井田7	7:35/7:400	(タクシー)~中ノ	
7	岳神社8:00/8:200…中ノ岳9:10/9:15				
展用方	"東岳9	:25/9:4	10…鷲戻し	ノ頭10:25/	
ス	10:35昼食1127/12:00自然步道分				
2 - 6	岐12:40/12:50…相馬岳13:57/14:05				
100	···タルワキ沢ノコル14:12···中間道14				
E 8 7	50/14:55…妙義神社15:25				
0 25 0	角点を持つ三朝山山頂、昼食を限りなが				
ル	中ノ岳	から鷲	戻しノ頭の	少し先の遭	
10 11 21	難碑の	ある当た	たりまでは	このルート	
1	のハイ	ライト	で次から次	へと急峻な	
状	鎖場、	岩場が終	続く。標識	が少なく間	
況	違った踏み跡も多いのでルートを間				
水一式	違えないように地図で良く確かめて				
日は中	行動し	たい。	1月25日刊	を広吹手組	

<NO. 18>

大山三峰山 (934.6m)

日下 芳十

"岳人あびこ"に入会して今回で3回目の登山である。東京に出てきて初めて登ったのが丹沢山塊であったので、大山三峰と聞くとなんだか気が踊り、何回も山行計画書、ガイドブックを読み返した事か。当日は、子供の様に早く目覚め空を見ると、台風一過の晴天で元気よく自宅を出た。

登山道は、初めは足馴らしに手頃な樹林の中の軽い登りで、山裾を回り込む様にジグザグを繰り返しながら、台風8号通過後で滑りやすいので、バランスをくずさないよう慎重に歩いて行く。2.3の人が"山ヒル"に足をかまれる洗礼を受けたので、出来るだけ木の葉に触れないように歩行する。

気持ちの良い尾根通しを通り、右手に丹 沢の名山たちが美しい。しばらく行くと、 鋸歯状の3つの峰を持つ三峰山が全貌を見 せる。台風後のわりには、大きな崩壊はな く歩行出来た。

北峰でひと休み、息を十分整えて出発。 ピークからほんの少し下ると今度は急降下 だ。ロープや鎖、梯子の助けをかりて下り きりほっとする間もなし。次は登り。こう した馬の背状のやせ尾根のスリルある上下 を繰り返し、最後はガレ場の急登で3等三 角点を持つ三峰山山頂。昼食を取りながら 丹沢山峰を見る。

南峰への道は、いきなりきつい下りから始まる。南峰にも気づかないうちに通り過ぎてしまう様なピークで展望もきかない。滑りやすいつづら折りの急斜面をただひたすらかけ下り、鎖場を過ぎるとすぐに沢に出た。おいしい水を飲み、顔を洗い、蛇行する沢沿いにおり下る。舗装された一本高といれたもりである。一手宿の玉澤を見て、長くて暗い山、翠楼に着く。社殿造りの玄関を入り山の汗を洗

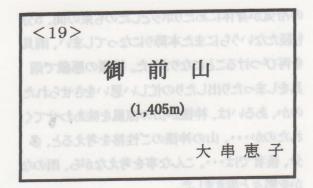
い流しビールで乾杯、疲れをいやす。

今回の山行は、夏山に向けて暑さの訓練にもなり、ロープや鎖、梯子、木橋等上級山行並のスリルを味わった山行であった。 これからもワンランク上の山行目指して精進して行きたい。



山名	大山三峰山	山行形式	日帰り
期 日	平成9年6月21日(土)	晴れ	すまりてし到るさ
山城	丹况	地図	1/2万5千 大山. 厚木
目的	丹沢の静かでチョットハード	な山歩きを楽	lt
H	我孫子 (5:30) - 日暮里	- 小田急新宿	(6:48) -本厚木
程	(7:42/7:45) バス	探ヶ省	(8:20/8:30)
7	物見峠分岐(9:40/9:	50)	北峰 (11:20)
-	三峰山(11:45/12:	25)	不動民 (13:55)
Z	光沢寺温泉 (15:00)		
ルート	・台風一遇の晴天、緑濃い空	気のおいしい	1HTLL.
#	・登山道も思ったより荒れて	いなくてホッ	としました。
H	・予告通りヒルもいました(たくさん)。	へびもいました。 みんな
	友達		
	・夏山に向けて暑さ訓練にも	なりました。	たっぷり杆を流しました。
	・下山後の漆塗り玉翠楼温泉	の露天風呂は	少々高いが、格別でした。
	(11:00~16:00 400円)	の間 1時間	11,000円、缶ビール





御前山を登って

今年はめずらしく6月の梅雨期に2回も台風がやってきました。いずれも週末の山行にぶつかりました。前週の大山三峰の時は、予報より早く過ぎ去ったため、運よく台風一過の暑い日となりましたが、今回の御前山では、予報より半日早く雨が降りだし、雨中の山行となってしまいました。

台風接近(大阪まで雨が降り出したが、関東地方の雨は夕方以降)との予報を、テレビで見ながら、雨具を再点検して、5時10分に自宅を出発しました。

5時半、我孫子駅に全員集合。途中の西国分寺駅では、1分間の乗換時間をリーダーのご指示で最短距離を走って全員無事乗換えに成功、予定どおりに奥多摩駅に到着しました。

駅前からバスに乗って堺橋で下り、リーダーから



のご指示を伺ったあと、軽い体操を済ませてから 出発となりました。その矢先、ポツリと空から一滴。 まだ雲が高いから大丈夫とのお話もありましたが、 嫌な予感を持ちながらの出発でした。(最近よく 当たるようになった天気予報では、日中は大丈 夫とのことでしたが・・・。)

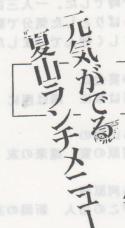
暫くの間、舗装した林道を準備運動を兼ねてゆっくりと登り始めました。湿度が高く、歩き始めると直ぐに汗でびっしょりになりました。今回の参加者は、男子3名、女子10名で、今までより少なめですが、だんだんと登山回数を重ねる毎に、会員相互の親しみも深まり会話も弾んで楽しげでした。

いよいよ山道。頭上を見回すと新緑が残っているかのように、薄日に映える木々がとても新鮮でした。一旦小さな沢に出ました。緑色の苔に覆われた岩々を洗う谷川の水音が、いかにも涼しげで、沢をわたる涼風とともに、今までの背中や顔の汗を、一気に吹き飛ばしてくれました。ヒンヤリした心地良さは、台風接近の心配をしばし忘れさせてくれるほどでした。

緑陰の清流と、段々畑のわさび沢に別れを告げ、 尾根に向かう坂道にさしかかりました。

その道筋では、山紫陽花、半夏生、えんれいそう?、山おだまき、ほたる袋などの山草が私たち

山	名	御前山	山行形:	式	日帰り
期	月日 平成9年6月28日(土)				
山	域	奥多摩	地図 奥多摩湖		
目	的	夏山に向けての	このトレーニング		
我孫子 5:33→新松戸→西国分寺→立川 7:08→奥多摩 8:36→(バス)→堺橋 8:45/8:55→ 程 登山道分岐 9:10→体験の森 10:10/10:25 →避難小屋(昼食)11:55/12:30→ 山頂 12:37/12:40→宮の谷戸 15:30/15:46 ス →(バス)→五日市 16:15/16:47→立川→ 西国分寺→新松戸→我孫子 19:40					
状	況	1 台風のため 2 下山道は雨 るところもあり 山行にはよい	水が川のの、滑りや	ようにすか	った。雨中



3331111ECC000000

SEALINE CAR TO SE

場所: 五本松公園 森のど真ん中

日時: 7月5日 参加人数: 25人 出席率75%

第一部

15時30分から17時30分 4種類の テントの設営、撤収、

ザイル、シュリンゲーの利用方法

第二部

17時30分から19時30分

第一部は新人の好奇心と学習欲で先輩も説明に追われた. 好評につき来年度計画も。

第二部もなごやかに語らい、食べ、飲んだ、親睦を深めた。

この企画は総じて80点はいただけるのではないか。20点減点は以下の反省を踏まえて [反省]

きめられた時間に終わらない。いつまでも飲んでいる。一度終了すべきであった。

酒代がおおすぎる。予算オーバー。来年は飲みたい人は飲む量を持参するように...

といったところか、

会計報告

会費 12,500 500×25 酒類 14, 187 20, 180 支出 けんちん汁 ジュース、ライス 5,993 7.680 会の予備費より支出

(清京)

<20>

鳥海山

小黒 和枝

初心者。あこがれの鳥海山へ登る

夜行バスの窓から眺めたその山は、朝日を 背にして美しい裾野を広げて私達を差し招い ているようでした。

そのお招きに誘われるように鉾立から登り はじめ、私には名も知らない高山植物に見と れながら中腹までは夢見心地でした。その後、 山は急に表情を変え、懐深く入り込む者を拒 み岩と霧で自らとお花畑を俗界から守ってい るようでした。頂上へは文字通り這い上りま したが、残念ながら霧と雲で日本海も眺める 事ができませんでした。

下りの雪渓は初めてながら大変楽しい経験 山名・・・・鳥海山 でした。(次回は上りも試してみたい) 河原宿での満月とニッコウキスゲを眺めなが らの夕食、新潟の山岳会の人達との語らい。 一日目は興奮のうちに過ぎました。

界では考えられないほど朝食をどっさりと食 べて元気良く早朝に出発しました。

まだまだ続くお花畑にみとれている暇もな いほどの急な下りがつづき膝を外すこと数回、 下りには自信があった私ですが、「下る」と いうより「落ちる」「飛び降りる」感覚でし た。途中小さな雪渓を渡ったり、ブナ林の湧 き水を味わったりしながら麓の湯の台鉱泉へ



たどり着いたのは午前十時でした。一人三百 円也のお湯に浸かりさっぱりとした気分で眺 めた鳥海山はまた、やさしく呼んでいました。

(2, 236m) 鳥海のキスゲの原の宴会は 陽は西に 月は東に

> 満月と夕陽を眺める山腹の 河原の宴 遠来の友

再会を約して別れる河原宿 あびこの岳人 新潟の友

河原宿 夜更けとともに大コーラス 外は寒いし 夜明けは遠い

登りての後のこころにくらぶれば むかしは山を知らなかりけり

1997年 8月 15日

山行形式……定例山行 期日 · · · · 1997年7月19日 ~ 7月21日 山域····東北
地図····鳥海山、大沢 目的・・・・高山植物、豊富な雪渓 交诵機関・・・・夜行バス、奥羽本線、奥羽新幹線 二日目は雪解けの小川の水で顔を洗い、下 コース・・7/19 東京駅八重州口21:20(夜行ハス) 7/20 象潟5:50/6:00(ハス)~鉾立6:44/ 7:30~賽/河原8:40~鳥の海9:30 昼) 12:15~七高山13:00~新山13: 35~伏拝岳14:25~河原宿小屋16:

> 00(泊) 7/21 河原宿小屋5:00/6:00~滝の小 屋7:05~横堂8:35~鳥海山荘9:5 5 (入裕) 11:00 (タクシー) ~酒田駅11:4 5(程) 12:53~山形駅15:13/16:2 2~上野駅19:10~我孫子駅20:00

ルート状況・・7月20日に梅雨が明け、20種類以上 の高山植物をみることができた。 頂上付近は岩場が続く,新山と七高 山の鞍部の雪渓で滑落事故あり. (通行禁止区域内で横浜のパーテイ) 小雪路、大雪路の雪渓は軽アイセンがあ ったほうが安心。

< NO. 21 > 7 January Market 18 2015

白 馬 岳

(2, 932m) 斉藤 清一

咲き乱れる高山植物

6月の定例会議で齋藤は正式に白馬山行に申し込みをしました。

8月7日の出発までの二ヶ月間は準備で大変楽しい日々でありました。3000 メーター級の山行は此の30年間登っていないので齋藤自身登れるのか身震いを感じたのは笑えぬ事実でありました。

しかし省二さんと清子さんについて登れば 「楽しく登れるさ」と頭の中ではもう気楽に 登っているつもりでおりました。

齋藤としてアピコ山岳会のメンーパーに加盟させて頂いた時、一年間は毎月二回は山行に参加しようと決意し実行をして来ましたので、計画の度に一つずつ道具を買い揃えて行きました。月に二回買い物に行くことになりましたので店員とも親しくなり、頭の中ではペテラン?気取りになってきた自分自身の変わりようにプーツと吹き出したくなる様なことがしばしてきました。忙しい時は店員の説明を聞いているのですが生半可に聞いてしまい家ではどうしても使用方法が解らず後日再度訪店して説明を受けたことがありました。

"97 年度アウトドア-用品カタログ"を購入し仕事から帰っては手垢が付くほど見続けました。そして購入した用品と見比べをして楽しんできました。

7月23日の白馬山行の打合会を行いましたが7名メンパーが正式に参加決定しました。 省二さん清子さん佐々木さん長木さん榊原さ

ん菊地さんと齋藤のメンバ-の皆さんでした。 打合会でも齋藤は聞き役であり(口数の少ない人間なので)まして聞いている内に自身も、 白馬は懐かしし古里北海道の山々を思いだしておりました。美しい山々なんだ清子さん長木さん榊原さん菊地さんが憧れる白馬はどんな山なのか? 大雪渓や豊富な高山植物の花…花。お花畑がどんなにか素晴らしいのだろうか。 8月7日迄もうすぐだ齋藤家では週間天気予報は本日現在どうだ。私の体はどうか。肉体と精神共に充実しているか「皆さんに迷惑を掛けないためには今が決断よ。」とスズメの激励?それにもメゲズ手賀沼のほとりを曙橋~手賀大橋をぐるっと一時間半かけて何度も歩き回りた。 白馬連峰の航空写真集も何度と愛読を重ね '南らんぼうさんと岩崎さんの中高年登山講座'(山小屋に泊まる)白馬山荘と白馬岳のビデオを何度見ただろうか、またマップも行動スケジュールも頭にたたき込みました。

齋藤の好きな沈香の香りをたのしみながら 省二さんがサプで先頭に立ち菊地、長木、榊原、佐々木 齋藤 清子リーダーが続くがここの地点で一本ここで一本何度と瞑想トレイニングを重ねたか。

待ちに待った山行当日がきた。8月9日当日偶然にも先週白馬岳を登頂された方と情報交換をすることができた。ルンルンサワヤカ気分で会社をあとにする事が出来ました。

帰社後あれやこれやと身支度を整えるがもう午後9:30分サックを背負い家内の見ている前でペルスメーターにソーット足を乗せる風袋込みで85kg. 「4泊5日(車中一泊)にしては余計な物を持ちすぎるのではないの?」とのチエック有り、平気平気となんのその15kg. (内心ムダモノも入っているなあ)を背負って天王台へ。我孫子で佐々木さんと省二さんに少し背負いますよと気張る省二さん遠慮気味にこれ頼むと齋藤分約2kg.程を受ける。

清子さん、省二さん、佐々木さん、榊原さん、 長木さん、菊地さん、齋藤メンバ-全員勢揃い サー出発ダゾー。

三十年振りの夜行列車心配だ座ったまま眠れるかなー?新宿午後11:50分発発車後まもなくウトウトし始める。メンバーはどうしているかなと眺め回すが全員一応は眠っているようだ?

夜行列車と云っても三十年前の夜行列車と 俺様は違うのだぞ。俺様は夜行急行

アルプス号(デラックス車両) ダゾー。綺麗な車両ダロー、快適な乗り心地ダロー、

リクライニングも出来るのだよとウトウト夢の中

隣のおじさんはズウーット鼾の音を発っし続けて 松本まで至る。隣席のおじさんを降ろして暗 闇の中信濃大町までまっしぐら。午前 5:5 分 信濃大町に列車は滑り込む。省二さんから今 朝雨模様雨具の用意の指示有り乗り換え後白 馬へ向かう車中で雨具装備完了。白馬駅午前 5:15 分白馬駅に到着だ。足音も軽く改札を 抜けるアアアアア、無惨。残念無念雨あめ雨あめ 雨…。

白馬駅周辺は洒落た町作りリ-ダ-は情報収集 に駆けめぐっている。食堂の二階から

空模様を眺めるがリーケーとサブに一任決断待ちである。どんな決定が出ようとも指示に従おうと全員の胸の中。清子さんと省二さんの苦悩の結果本日は白馬八方温泉に宿を取ることにするとの決断が下った。本日中止の電話を家内にかけるとテレビで山の天気を見るが様子がつかめないで心配していたとのこと。

白馬八方は来年のオリンピックのジヤンプ競技が 開催の予定である。(ジヤンプ台も全長 318m /-マンヒルと 385m のラージヒルをもつシャンテです)

午後 3:00 頃から雨があがる。それぞれ仮眠 後郷中を三々五々ぶらつく。かわいい店舗が あちらこちらに観光客用に配置されている。 午後 6:00 から 8:00 時まで和気合い合いに夕 餉をとる。全員昔からの仲間だったような感 じ良い仲間だ。気さくな仲間だ。愉快な仲間 だ。紳士淑女だ。高い価値観を携えている仲 間だ。 明日天気になーれ。午後 8:30 分就 寝…!

8月9日午前3:00 頃ウトウト誰だろう鼾がすごい齋藤も鼾で迷惑を掛けていなかったろうか?。まだ一時間もあるとにかく寝よう。みんな夜行で熟睡できなかったのだろう。あちこちで寝息の音も気に掛かる・・・ウトウト・・・。

全員午前 4:00 時起床が出来た。トイレに駆け込むが残念頑張度だめ。一昨日からの

軽い緊張が体を微妙に支配する。便秘だ・・大変だ。焦る。ギブアップ。本日は水分を控えようと決意。これがいけなかった。みんなに迷惑を掛けてしまいました。午前 5:00 時タクシーで猿倉に向う今朝のトイレを除けばルンルン気分だ。

約25分~30分村営猿倉荘に着く手身近に朝食を取る。旅館が用意してくれたおにぎりを類ばる。のんびり屋で愚図の齋藤おにぎりを一つ食べ終わったところメンパ-の方々二つ食べているもう終わり掛けている・・・。急がなければと止めておけば良かったのに二つ目を別に口に・・・入れ込んだ。この事も迷惑を掛ける基に成ってしまった。がぶがぶこの時水を飲んでしまった。(水分の胃の吸収量は一時間に800mmとの事)

白馬尻からネブカペイに着く大雪渓を前の佐々木さんサウサウと雪を踏みしめる。耳を澄ますと齋藤には何だ坂こんな坂踏み越え登れ周辺の高山植物見なさい足を止めサングラスをはずせネヤマキンポウゲを見て見ろキヌガサソウはどれか解るかけーと云っているように聞こえる。用意した軽アイゼンもキッチリト雪をかんでいる涼しいハミングもでそうな快適さだもう三時間四十分も登っているあと二時間で村営頂上宿舎だ頑張ろう。

一時間ほど登って小雪渓をすぎ、瓦礫を登り始めた頃から体調に異変を生じたのに気がつき始める。腹の調子がすぐれないがえもでない腹が張るキツイ。キツイ。リーダーが菊地さんを先行させて目前に見える村営頂上宿舎にテント設営の登録を指示される。スピードを少し緩めるのだなと理解する頑張れ齋藤

汗はかくわ。体温が上がるわ。息苦しくな るわ。荷物は重く感じるわ。苦しいわ。キツイ。 その時省二さんの「ここで一本」の声に救わ れる。思わず助かった・・・。持参の携帯酸 素マスクで酸素補給を計る数分後希薄な空気に 慣れる一息つけた早いもう 10 分だ。恨めし い。さああと少しだ、しかし腹がゆるむ神経 が腹の事に集中する。その瞬間瓦礫に乗せた 足が滑ったヨロッとして省二さんに支えられ た。齋藤の荷物を軽くしようと言う声が聞こ える。有り難い、疲労が来ている助かった。 ザックの重さを 13kg 程にしてくださった。菊 地さんを先行させて目前に見える村営頂上宿 舎にテント設営の登録を指示される。スピー ドを少し緩めるのだなと理解する頑張れ齋藤。 軽い・・・少しスピードを出せそうだ。長木さ んが先頭をとり齋藤が続く・・・・! お花の話してくださるが返答も出来ない程で

ある。気分を変えてハミングをしよう

と己にしった激励をかける。這うようにして約5分~10分遅れで村営頂上宿舎に到着。到着だ。佐々木さんと省二さん自販機から冷たいど・ルを飲んでいる!佐々木さん齋藤にも一口と意地汚く強請る冷たい物で腸を刺激させようとの思い一口一気に飲み込む、なんと美味しいかったか真っ直ぐ雉場に駆け込む見事大雉撃ちが完了する。復調だ復調だ!今までの苦しみはもうない。腹のがス抜きも出来た。

今泣いていたカラスがチョット笑った。・・・の 心境だった。

清子さん榊原さん佐々木さん省二さんはここでテント設営だ・・菊地さん長木さんは三人の宿白馬山荘に予約登録に先発している。2700mにある村営頂上宿舎から

2832m の高さの白馬山荘に齋藤一人あとをおう。体調が戻ったので軽い足取りだ。約 15 分の行程ですがお花を見ながら登る絶景かな絶景かな杓子岳、鑓ヶ岳、剣岳、立山、清水岳、日本海が一望だ。

思わず万歳、万歳、万歳・・・。喜びもひとしおだ。約 1500 人も宿泊可能なマンモス山小屋だ。長木さん、菊池さんと再会する明日の準備をして三人でテント設営を見に行く事にする。長木さんが自宅の菜園から刈り取ってきたネギを持って行くことにする。

榊原さんが山小屋の様子を見に下から登ってこられた。歓待だ山小屋のデラックスレストランでアイスクリームを食べる体が甘い物を要求している・・・おいしい。窓越しから見る景色は絶景です。

テントをのぞきに山を下りる。今夜の灯-1ウはかーとサラダとのこと。齋藤の顔色も良くなったとメンバーに云われる。

岳人あびこの旗をかざしてテント脇でメンバー全員の記念写真を写す。プラボウー。テント泊まりもロマンチックだな次回は体験しよう。我々三人は明日の天候を予期して白馬岳に登ることにする。さあスタートだ白馬岳で三角点にさわり記念写真を写す。チーズ・・・。

デラックスレストランでの三人の夕餉を全員一致 で味噌ラーメン、デザートはお汁粉をオーダー する。三人の体の要求なのか体力維持に水分 と塩分を。疲労回復に甘味を。偶然の一致なのか同じオーダーになってしまいました。

山の神様に感謝をこめてラーメーン。いや。 アーメーン・・・。

部屋に戻るがトラブルが発生三人の寝る場所に 50 代の親父達 5 人が狸寝入りを決め込んでいる。一悶着有り周りの人達も我らが先に場所取りしたと加勢してくれる。 負けるが勝ちと我ら引き下がる。狸たち気が重いはず。別室用意される。家内に白馬岳からの展望に沈む夕陽の絵ハガキを郵送する。

用意された別室は従業員用および避難用の予備の部屋とのこと。かび臭い。

雨風が多少吹き込んで来そうな部屋午後7:00頃はもう一杯になる。畳一畳に3人。足の踏み場もない。外は嵐だ雨と風がすごい。早く寝よう。此の夜も鼾の大合唱。テントの4人はどうしているかな・・・?心配でウトウトする。齋藤だけでなく菊地さん長木さんしているがようでした。三パーディのテントが風雨で破壊されたとのこと。それまでは色々な対策を講じて清子さん榊原さん佐々木さん省二さん達は悪戦苦闘を重ねていたそうです。我々がウトウトしていた頃村営頂上宿舎に避難すべく移動中であったとの事。虫の知らせかな?

(8月10日)午前4:15分菊地さんに揺り起こされる。朝から嵐だ高山だから厳しい。午前5:00時にテント隊が登ってくる予定だ遅い遅い。心配しながら案じていると30分後に4人が現れた。よかった。今朝の予定はアーモンド入りクッキーと冷たい抹茶を

用意(長木さんお手製)して登ってこられるテント隊をもてなそうとしていたのですが。 我が岳人あびこの面々の価値観ですね。白馬岳の山小屋のデラックスレストランでもてなしを切り替えることとした。本日のスケジールは午前中風雨が強いとのことで蓮華温泉経由で下山に決定する。

強風と雨の装備を完了白馬岳を目指すぞ。隊は省二さん菊地さん齋藤・榊原さん佐々木さん長木さん清子さんとなる。菊地さん二本のストックを使い省二さんに着いて行く齋藤も同じペース体調は完全復調だ、ザックも 12kg 程に食品と水をへらした。

二度三度清子リゲーから後方が遅れ気味になるのでペースを下げるようにとの声がかかる。瓦礫の上を風袋込みの約82kg.の齋藤が強風で体が持ち上がる。前の菊地さんそのたび毎にしゃがみ込む事がしばしば飛ばされるのではないかと心配省二さんより、三国境で強風雨の登り方と下り方の講習をうける。まだ激電して吹き付ける。この三国境が朝日岳と小連車山の分岐点だ。晴れていたら朝日岳にむりはずであった方向であるがガスで何にも見えない次回の計画としょうと心に秘める。

風雨やまず視界が悪い此のあたりは素晴ら しい展望だろうがただ菊地さんの靴

のみ見ながらあとを追う、顔を上げても何も 見えず雨が顔に吹き付ける。

メンハ - 全員黙々と小蓮華山を目指す瓦礫で埋まる頂上だ。三角点にさわる。

がイトプックには白馬岳をはじめ後立山連峰の中で珍しく宗教色のある山で山頂には地蔵菩薩が祭られ、鉄の剣が立てられているとの案内を思い山頂をうろつく小蓮華山から稜線上の緩やかな下りに入るMマツの間のザラザラとした砂地の滑りやすい坂、此のあたりが雷鳥坂だ雷鳥を見かけなかったが雨が上がり始める。



眼下に真っ赤な白馬大池の山荘の色が目に入る。山の緑と白馬大池の青、と赤い白馬大池山荘。コントラスが実に美しい。小蓮華山から約1:20分大池で一本をとる。

女性達がネイチャ-コールで山荘に向かう。佐々木さんザックが重く足も重いと省二さんに

話す。軽くしている間に沢山の人達なので我慢するという。蓮華温泉まで約2:00時間頑張ろう佐々木さんと菊地さん入れ変わる。此の3日間の寝不足とザックの重さで疲労が此の坂下りで出てきたのだろう。齋藤、佐々木さんの心境痛いほど解る。

カラマツの自生が目立ち始める・・樹木帯をじぐ ざく下る。蓮華温泉山荘が見えてきた。もう すぐだ。温泉に入ってじールを飲もう。お昼を 少し過ぎた時刻だ温泉上がりに7名全員で無 事に山行が出来たこと感謝して乾杯。乾杯。 思い出に乾杯、乾杯。 午後2:50分7人一 緒にタクシーにのる約1:30分程で南小谷に着く。 16:50分始発の

ス-パ-特急あずさ 14 号に乗る。日頃の行いが 良いのか男性席省二さん佐々木さん齋藤女性 席清子さん榊原さん長本さん菊地さん、自由 席が全員座れたことはラッキーでした。

しかし今回の山行に雨女がいたのか又は雨男 いたのかは謎でした。

皆さん次は何処の山登るの・・・・!

山名		白馬岳	11/7	## = \F	台位	店祭 2泊2日
期日		平成9年8	-	1~8月	1 ()	B = 1 = 1
山域		北アルプス:	北部	地図		白馬岳
目的]	新会員と共	に山	交通機	関	新宿~白馬
		での3日間の	の良			サントをの
		さを味わう			es a minte	
猿倉 5:23~尻小屋 6:37~村営				営宿舎 11:50		
日程	9 日	~白馬山荘:12:05				
仕コ	47.3	村営宿舎 5	:00~	白馬山港	± 5	:25/7:35~白
1	-10	馬岳 7:50~三国境分岐 8:05/8:15~小蓮				
ス	B	華岳 8:45/8:55~白馬大池 10:20/10:30~				
	164	蓮華温泉 13:25				
ルート		一品肌白色	- ()	8.6	0	\$28E
状況		特記事項なし				

で味噌ラーメン、デザートはお丼粉をオーダーする。三人の体の要求なのか体力維持に水分

容易には山頂に立てない

奥深い山に…

夏の大型山行は鳥海山に登って、今回の山が2度目の泊まりを伴う大型山行。山小屋、食事付きの鳥海山と違って、今度は初体験のテント泊まり。グレードをあげようと申し込んだが出発の3目前から不安で落ち着かず、共同装備は先輩に任せて、個人装備の点検を2度、3度と行う。

いよいよ当日を迎えた。リーダーはじめべ テランの先輩達と会う。楽しそうに山の話し をしているベテラン3人。だが、榊原さんと 私は笑顔でうれしそうな雰囲気を作るが、体 力がいるロングコースと、初めての重装備へ の不安は消えず何かぎこちなかった。

越後湯沢から無人の土樽駅を横目に見なが ら 林道終点までタクシーを利用。いよい よ待望の谷川連峰に足を踏み入れる。

道は蓬沢に沿いコマノカミ沢を渡渉しながら周囲の快適なぶな林を楽しむ。尾根道で大学のパーテイに追い越されながらも、快晴に心はずむ。蓬峠まで水場は無数にあり、水の苦労はしない。ヒュッテ前の道標をペンキで塗りなおしていていたのは、登りで追い抜かされた大学のパーテイ。こうした彼らの隠れたボランテイア活動があるからこそ私達も、安心して登山ができるのだ。私達は

「エライネー、大変だネー」

… と感謝の気持ちを言葉にした。

ヒュッテ横で30分ほど昼食をる。今夜の テン場ははるかに遠い。清水峠に向け尾根を 忠実にたどる。さびた鉄のポールが稜線沿い に一定の間隔で続いている。冬山で吹雪や荒 天にルートをはずさないためだろう。

稜線を進むと左手に特異な鋭鋒、上越のマッターホルンの異名を持つ大源太山の岩峰がすぐ目の前に現れる。この山は稜線から離れるため私達は登りたかったが、先を急ぐ。

蓬峠から清水峠までは、起伏の少ない尾根 歩きに、大源太山は絶えずその山容を変えな がら山並みにアクセントをつけてくれる。

蓬峠を振り返ると谷川岳は切り立った岩壁、 一ノ倉と谷川岳の間は恐竜の背ビレを立てた ような荒々しい様相を見せている。

清水峠までははるかに遠かった。ようやく 峠の送電監視所に着いた。水の確保のため作 業員にきくと、沢までかなり遠い、作業小屋 は今日で閉鎖し下山する。とのことが判明。 さあ大変。困った顔をしていると、小屋の水 をあげる。間髪緒入れずにたたみ込む。

「ビールはないですか」 と村松さん。売ってくれるとの返事!大感激の一瞬!山の男に 悪者はいない。そうだ!悪者はいない!

全員、合唱!! 悪者はいない!



作業小屋前にリーダーの指導で2張テント を設営。

陽は落ちる…。

遠くの山々が墨絵のように だんだん暗くなる…。 空は満天の星 今日の一日の疲れも忘れ、幻想にふける。 風が強くなってきた。

テントのなかで登りたい山。夢を語り合う! 夜のふけるのも忘れて…。

風が、一夜の雨が、猛烈にテントを揺らす 夜半、バタバタの音で目がさめる。

やはり山の天候は急変する。油断大敵である。

翌朝、小雨も上がり始めた。夜明け前に早めの出発。

眼前にジャンクションピークが立ちはだかる。登りは豪雪に磨きこまれた岩を慎重に進む。朝日岳ははるかにあるはずだ。人影もない稜線に太陽の光が差し込んで、パーテイの

顔が赤く見える。J、Pを過ぎると高山植物の宝庫。静かで至福の時を歩む。

朝日岳の山頂では沢から上がってきたヘル メットに、カアラビナ、ザイル、渓流たびの 若者の集団に先を越された。

笠が岳では伊勢崎労山の仲間がクリーンハイクで登山中。親しく紹介をしあった。

白毛門山頂は谷川岳一ノ倉の岩壁を見る絶好の場所。それだけに土合からのハイカーが多く朝日岳、笠ケ岳の静けさとは雲泥の差。 真下に見える土合に向け下山する。

急降下と長い下降のダメージは足にくる。 日頃の鍛え方がはっきり現れる。

山はなめたら!自分に、そして、パーテイに悪 影響がくる。

出発前の不安も先輩の指導と激励のおかげで今回は絶好調。少しばかりですが大型山行にも自信がついた思いです。



(23) 富士山 (3,776m) 大串秀雄

富士山頂に立つ

平成9年9月14日 午前8時40分、遂に 念願の富士山頂に立った。思えば長い歳月だった。富士山に登りたいと思いはじめたのは 何時の頃だったろうか。多分、半世紀も前の 少年時代に、日本一高い山であることを知った頃に遡るのかもしれない。後に、山歩きを楽しんでいた時期があったが、偶々富士登山の機会がないまま山歩きを中断してしまい、富士山頂に立つ夢も叶わないままだった。

50歳を過ぎ再び山歩きを始めたが、富士登頂の夢は頭の隅に残っていたものの、体力気力的に全く無理と諦めていた。知人が富士山頂をきわめたと聞いた時も、羨ましいとの思いはあったが、自分自身で登りたいとは思わなかった。単なる「夢――憧れ」にすぎなかったのである。今年5月の連休の三ツ峠山行で、富士の雄姿を目の当たりにした時にも、

frame but the state of state to be build						
山名		富士山	山行形式		山小屋	
期日 平成9年9月13日~14日				14 日		
山	城	富士山	地図	富士	山・須走	
目	的	日本一の富士	交通	中央	本線	
H	ну	山に登る	機関	富士	急行線	
日程	13 日	我孫子 5:33→高尾 7:15→大月 7:50→ 富士吉田 8:35→(タクシー)→馬返し 9:30 →五合目佐藤小屋 12:40(泊)				
コース	14	五合目佐藤小屋 3:05→山頂 8:40→ 五合目 12:15→(タクシー)→大月 13:55 →我孫子 16:45				
状	況	1 山頂付近は、 2 一部営業中の き15日で閉	つ小屋も	、佐		

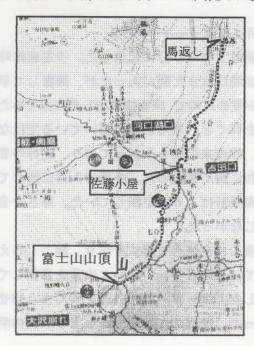
未だ「夢――憧れ」の段階だった。

俄に現実のことになったのは、6月号「やまたん」の富士山行企画を目にしてからだ。山会入会後、幾度かの山行に参加し、僅かながら自信がついてきたこともあり、長年の念願だった富士登頂に、思い切って挑戦してみようと思い立った。しかし、自分の実力を顧みずに参加を申し込んではみたが、出発の日まで、長時間行程・強風や寒さに耐えられるか等々、不安の募る毎日だった。



9月13日——。

出発の日の朝は雨模様で、九州南部には台風襲来の予報すらでており、生僧の天気だ。車窓から見える家並みや道路は雨に濡れ、富士吉田に近づいても、富士の姿は雲の彼方だった。駅前からタクシーに乗り、浅間神社の脇道を通って馬返しで下車。残念ながら雨は本降り。リーダーの指示で7名全員雨具を着用し、五合目の佐藤小屋に向かって出発した。



雨に煙る山麓の樹林帯は、風もなく静まり返っていた。広大な樹林の中を、だらだらした 単調な上り道が続く。道幅は広く歩きやすい が眺望は全くきかない。道端に時折現れる、 崩れかかった小屋や古ぼけた小社に、往時の メインストリートの面影が偲ばれた。

五合目の無人小屋の軒下で、雨を避けながら の昼食。依然として小雨が降り続き、やむ気 配は全くなかった。

昼過ぎ、全員元気に佐藤小屋へ到着。小屋に は早くも薪ストーブが入っていた。まず雨具 を干し、そして熱いお茶で喉を癒した。

一息入れたところで、雨も小やみになったので、全員で小屋の裏山に行き、キノコ採りを楽しんだ。30分位でかご一杯の収穫があったが、小屋の若主人に選別してもらったところ、大半が毒キノコらしかった。

夕食のすき焼きは最高のグルメ。一人200 グラムの牛肉、たっぷりな野菜と採りたての キノコ等、2300mの雲上レストランの料 理は、美味、風味、雨味、霧味・・・。

宿泊客は我々7名のほか数名。広々とした部 屋で、ゆっくりと寝むことができた。

9月14日——。

翌朝は1時40分に起床した。予定起床時刻の2時にはまだ間があったが、興奮して早く目が覚めたので、床を抜け出し外に出てみた。空を仰ぐと、なんと星が瞬いているではないか。昨夜来の雨も上がっており、絶好の登山日和に胸が高鳴った。小屋の入口に掛けてある寒暖計は10℃を指していた。寒さを全く感じなかった。

昨夜のすき焼きで雑炊を作り、腹ごしらえを して、3時5分、いよいよ山頂を目指して出 発した。リーダーから先頭を歩くよう仰せつ かった。漆黒の山腹を、ヘッドランプの明か りを頼りに、道を外さないように慎重に進んだ。見上げると、七合目・八合目辺りの山小屋の灯火だろうか、近そうに見えたが、実際に行き着くまでには、何回かの休息を要するほどの標高差であった。

火山特有のざらざら道を一歩一歩着実に登った。 眼下には、雲間から富士吉田などの街々の灯が小さく光っていた。

いつの間にか、辺りがうっすら明るくなりへッドランプも必要なくなってきた。

東方の雲が茜色に染まり、雲海に浮かぶ山々 が黒い影となって見えてきた。墨絵のような 幻想的光景だ。ただ残念なことに、御来光は 雲に邪魔をされて拝むことができなかった。

我々のパーティだけだった登山者も、七合目 辺りから、各小屋の宿泊者が合流し、夏ほど ではないにしろ、一時、数珠つなぎになった りすることもあった。

登り始めた頃から見えていた本八合の看板のある小屋に、漸くの思いで到着。八合目を過ぎると、なだらかだったジグザグの道も、ゴツゴツした岩状の急登に変わってきた。道端に腰を下ろし休息している人が目立ってきた。台風の影響で、山頂から吹き下ろす強風が一段と激しくなった。気温も急に下がってきたので、リーダーの指示で、防風と保温を兼ね雨具を着用することにした。



標高3500メートルを過ぎた頃からは、気 圧の関係で、心臓の動悸と軽い嘔吐感に悩ま

されはじめた。(かって、ヨーロッパアルプスに登山電車で登った際、3500mの山頂駅で同じような症状になったことがあった。) 休憩時には直ぐさま、同行メンバーからいただいたボンベで酸素を補給し、体調を整えるよう心掛けたりした。

胸突き八丁の急登は、噂どおりの厳しさだった。リーダーの先導で、全員縦列となって、ゆっくりしたペースを守りながら歩を進めた。 石垣のあるところが頂上の奥宮とわかったが、 辿り着くまでには、かなりの時間がかかって しまった。

階段を登り終えるとそこが頂上だった。8時40分、遂に日本一の山頂に立つことができた。心の中で一人快哉を叫んだ。

富士山頂から見下ろす雄大な眺望に思わず息を飲んだ。今登ってきた北斜面の先には、あまたの甲信越の山々が・・・。長年の「夢ーー憧れ」が叶った、感激の瞬間だった。

メンバー全員で握手を交わし、登頂を祝い合った。それぞれの顔々には、山頂をきわめた喜びが満ち溢れていた。晴々とした素晴らしい笑顔だった。

だが、頂上には突風が吹き荒れていた。明らかに台風の影響だ。砂塵が舞い、口の中がジャリジャリになってしまうほどだ。南側には真っ白いガスが激しく吹き上げており、何も見えなかった。

リーダーの決断で、お鉢巡りを取り止め、剣 が峰への登頂も断念することとなった。断腸 の思いではあったが、結果的には賢明かつ的 確な選択だった。食事をとるような状況にな く、記念撮影もそこそこに、直ちに下山を余 儀なくされた。

下山の道のりは長かったが、実に楽しかった。 下山しながら、他の山では絶対に味わえない 壮観を、充分に堪能できたからだ。眼下の山々 に飛び込むような感覚での山下りは、富士山 でなければ体験できないであろう。 巷間、「富士は見る山で登る山ではない」 などといわれているらしいが、思い違いも甚だしいと感じた。

八合目近くまで下りたところで、風を避けながら昼食をとった。振り返ると、胸突き八丁の急坂の上に、山頂の石垣がそそり立っていた。山頂に貴重品を置き忘れてきても、取りに返るだけの気力が萎えてしまうほどの威厳を感じた。

下りは快調。短い区間だったが須走りも体験できた。上りの時には気がつかなかったが、 富士山にもきれいな草花が咲いていることを、 女性メンバーに教えてもらった。

時折、小雨にあったりしながら、12時過ぎ、 ほぼ予定どおりに佐藤小屋へ帰着した。

小屋には予約したタクシーが待機していた。 霧に包まれた富士山に別れを告げ、スバルラ イン経由で下山。運転手に勧誘されるまま、 大月までタクシーを利用した。

我孫子への車中では、前日収穫したキノコの 煮つけを食べながら、富士登頂の感激を、再 度、全員で分かち合った。忘れることのでき ない、そして記念すべき2日間は、無事に終 わった。

登り終えた満足感は、かって経験したことが ないほど大きかった。特に2日目の9時間行 程はきつかったが、本当によく登ったもの だ。・・・自分自身を褒めてやりたい。



リーダーの川名さん、そして細野清子さんは じめメンバーの方々、おかげさまで長年の夢 が叶いました。

本当にありがとうございました。

< 2.4 >

小草平の沢

もぐさだいらのさわ

柴田 節子

初めての挑戦~ 初級沢登り

梅雨が明け、暑さが厳しくなり始めたころ、 旧い「山と渓谷」8月号表紙の沢渡渉の写真が 目にとまり、その涼しげな風景が心に残って いたとき、7月のモミソ沢山行計画が発表さ れ、さっそく楽しみに参加申し込みをしまし た。

その後、沢登りは総合力を問われる登山と聞き、本を読んでみたものの用語、読図は理解できずにいましたが、幸いなことに 8 月初旬,岩登りの特訓に参加させていただき、不安ながらも参加することとしました。

しかし、待ち遠しく思っていた猛暑の沢の 渡渉計画は、台風等天候不順が重なり延期!, やっと酷暑も終わった9月21日小草平ノ沢に 変更実施でした。

当日は快晴の予報が外れ小雨、東丹沢、大倉バス停で雨具を装備、傘をさしての出発でした。流れる汗をふきふき同行 8 名は小草平ノ沢に到着。沢を前にして「ワラジを地下足袋の下に履き、しっかり結ぶ。すべることはないから大丈夫!」 …と教わる。私は地下足袋、ワラジは初体験。

最初のトライは沢準備の場所からすぐのところにある約5メートルの滝。流れ落ちる滝を登り,前進しなければならず果たして登りきることが出来るか不安でドキドキでした。目前で登っている目黒労山の女性二人がかなり難航しているのが見える。いよいよリーダー

がザイルを肩にかけ、トップで登り出した。 アッという間に滝の上。ザイルで我らを確保 する体勢になる。

「私のホールドを良く見て。」

「はい」と答えたものの、二番手の私は同行の坪井さんに「先に登って」と言ってしまう。

坪井さんも簡単に登る。いよいよ私の初体 験だ!。気後れはしたものの、経験豊富な先 輩とザイルで結ばれていること。スベラーズ のワラジ等、強力な味方ばかりだと考えたら 「さあ、行くぞ!」と力が湧いてきた。

滝の岩場は流れで磨かれており三点確保の体勢で取っかかりを捜すが、手がかりや足場がなかなかみつからず、不規則な肘をついたり、足を忘れ手にだけ頼った不恰好な姿で登り詰めたとき、滝の下で見守る先輩達から「ヤッタ」「ヤッタ」と拍手の励まし。大変嬉しく思いました。次の沢は3段12メートルの滝。ゴルジュ内の5メートル滝は、水を浴びるシャワークライミング。

さてどうする!最初はコチコチに緊張していましたが、このあたりでは怖さも薄れ、楽しさも感じてきました。

両足をそろえたばかりに動けなくなった時、 先輩たちから声がかかる

「谷側でない足に体重をかけてごらん」、 一つ一つの技術を熱心に教えていただき、体験が身につく喜びをかんじました。昼食は、 涼感を楽しむソーメン流しの計画でしたが、 肌寒のためにゅう麺。昼食時も大分過ぎており、緊張から放たれて、急におなかがすいているのを感じました。ささやかなにゅう麺も 大ご馳走です。

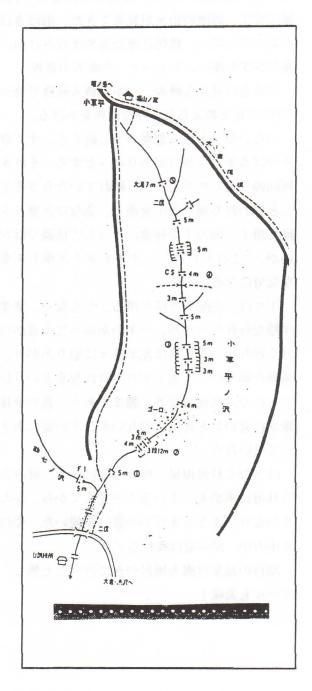
食後の登りは、尾根に出るまでに沢の水量 は少なくなり大小さまざまな石がゴロゴロ。 倒木、急登あり。涼感を満喫し沢登りの楽し さを充分に味わい、充実した一日となりまし

た。同行の皆さんに大感謝!

帰りの電車の中で、私が本当に沢登りが出来たのが夢のようで、なんだか他人事のよう におもえていました。

山はいろいろなジャンルがあり,

それぞれに奥深い世界がひろがる魅力ある 一端をのぞき見た一日でした。



アドバイス

- 写勘七ノ沢へ入り河原を行くと、沢は 左へ曲がり、勘七ノ沢にはF1・5 mがみえる。その屈曲点で右から入 る沢が小草平ノ沢である。
- ①最初の5m滝は右の凹角を登る。ホールドはしっかりしているので容易だ。
- ②3段12m流は左側を快適に越えられる。3段目は水量の多いときにはシャワーを浴びることになる。
- ③ゴルジュ内の5m滝は右隅の凹角を

シャワークライミングで突破しよう。

- ④大きなチョックストンを持つ4 m流 は左側を登って落口へトラバースす る。
- ⑤二俣を左へ入ると大滝7mである。 右側から取付く。下部は快適である が、上部は直上すると悪いので、右 個へ移り登る。
- で沢筋を忠実につめるとやがて右側に 踏跡があらわれる。この踏跡をたど ると大倉尾根の堀山ノ家直下に出る。

山名	小草平ノ沢	形式	沢登り		
期日	平成9年月2	21日	はれ		
山域	丹沢 四十八瀬	 			
目的	沢のぼり訓練、ザイル確保				
コース	大倉バス停8、40―小草ノ平沢出合 10,15-45―沢終点13,00―昼食― 13,40―14,30―45-バス停 16,00				
参加	男5名、女3名 計8名				
費用	交通費概算 4 円	0 0 0	水量	並	

< 25>

蕨 山わらびやま(1044m)増田 喜久子

雨の蕨山 また楽し

その後、山行報告などで、こともなげに雨の 山行の様子が語られているのを聞いて、ひょっ とすると恐るるにたらずかナー とは思ってい た。

蕨山にいくことになっていた9月23日は、 かなり前から、雨が予想されていた。計画書に は赤字で"雨天決行"とある。 ヤッダナーッ。

当日朝、家を出る頃は、何とか陽がさしたりしていたのに、飯能までの西武線で降り始め、絶望的空模様となってしまう。名郷までのバスの中では、みんなが雨具を着けて万全の準備を整える。バスの窓から、雨の向こうに見える、これから縦走する山々を説明してもらっていると、いつものように期待でうれしくなってくる。『こどもが雨の中でも、キャッキャッと喜んで遊ぶでしょう、それと同じ…』というリーダー

の話に誘導されて、"雨も自然"といつのまに かその気になる。

登山口の名郷はたぶん我孫子の郊外部とあまり変わらないマチバであろうに、旅をしてきた 遥かさが、のどかな山村のように思わせる。バス停近くの栗並木で大粒の栗を十数個拾って出発。(おいしい栗だった。)

蕨山はまず静かな杉林の登りで始まった。杉の葉をふくんだ山道のフワフワと優しい感触が足の下に心地良い。やがて雑木林に変わり、鞍部にでて、周囲の山々が見えてきた。雨はさほど気にならない。紺色に連なるやまなみに白い霧が谷間を覆い、ちょっとした幽玄の世界。

左後方に見える峰の一つが、新人研修で登っ た伊豆ケ岳と教えられ、みな歓声をあげる。

つらいなーと思う急登が少し続くと、すぐ息をつげる平らな歩行がありホッとする。それを何回繰り返しただろうか、晴れていたらさぞかしと思われる風景の中を進み、急なひと登りを経て頂上。雨の下で昼食。けっして快適ではないが、"これも自然" ナルホド!と傘も不要な気分になる。

下りは、心配したほど滑ることもなく、無事 平穏な行程だったが、ハネがあがって雨着がひ どく汚れた。歩く毎に泥が徐々に迫りあがり、 両脚内側はひざ上までドロドロになるという信 じられない状況になる。麓まであと一息の金毘 羅堂に着いたときは、お互いのひどい姿にあき れて笑い合う。

ほどなく村営温泉。程なくとはいえ、高みから林道に車が走っているのが見えてから、かなりかなり、まだかまだかの思いが続いた。やはり雨の中、泥の道は疲れるノダ。

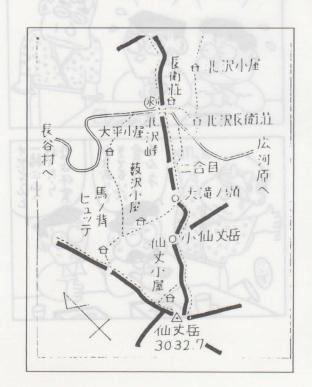
期待の温泉は露天風呂つきで言うこと無し。 ビールも美味!

<26> 仙丈ヶ岳 (3,033m) 村松 敏彦

天と地と水

早川尾根……遠い昔所属していた会が冬期 南アルプス全山縦走を行った時、下っぱの私 は早川小屋と塩見岳の近くに食料をデポすべ く、深い雪の中をボッカ(名前は支援隊とい うかっこいい名だった)した事を思い出す。 あの頃の装備は、やたら粗末でやたら重かっ た。

時は過ぎて、我がパーティー4名は紅葉の早川尾根をめざして、静岡支部長の坪井さんと甲府駅で合流して、バスで広河原へと向かった。山梨交通のバスは山岳地帯を営業範囲にしているせいか、荷物料金をとらないのがうれしい(他県のバスはだいたい徴収する)。すごく得した気分である。



空を見ると雲の動きが早く、何か荒れ模様である。北沢入口の長衛小屋(この小屋は南アルプスでは名門の小屋である)で早川小屋の様子を聞くと、早川小屋の小屋番は下山したようだと、アルバイトの青年がなまりのある言葉で話してくれた。

その話を聞いたとたん最初に心配したのは 小屋にビールがあるかどうか、である。小屋 番がいない=ビールがないという公式が成り 立つ故である。そうなったら悲劇である。

そこでまず、長衛小屋でビールを調達して 心を休める。その後、食料(1泊2食小屋付 きのつもりでいた)とふとんの事を考えたが ビールはなんとかならないが、後の事はなん とかなるだろうという事で、他の3人も不満 足気味だったが、一応うなずいて風と雨の中 を出発する。

栗沢山登山口には、仙水小屋は予約者のみという看板がぶらさがっている。「それはないだろう。山小屋本来の目的を忘れているのではないか」とぶつぶついいながら歩く。どうもこの頃、年のせいか怒りっぽくなってきた。



栗沢山の登りは急登に続く急登で、時間と 共に風はますます強くなってきた。「誰だ、 天気予報は晴れなのに、雨男と雨女は?」 話を聞くとどうも清子さんと川名さんらしい。

森林限界を越えて岩稜帯に入ると、雪まじ りの雨が強風と共に吹き付けて飛ばされそう になる。雨はすぐ氷になって岩に付いてすべ やすくなってきた。

この悪天候の中を、早川尾根を縦走するのは危険だと判断して、栗沢山直下で撤退を決意する。今夜の山小屋はお嫁さん募集中の大平小屋にする(関係ないが……)。

2日目、丹沢の沢からはるばると南アルプスまで運んできた柴田さん差入れの酒を空っぱにして祈ったせいか、今日の天気はまずまずである。昨夜、小屋の姉さん(だいぶ年とっているが)になったつもりのメンバー1人が、一生懸命小屋の手伝いをしたせいか、小屋のおばあちゃん差し入れのトマト6ケ、おしんこ若干をザックに入れて大平小屋を出発する。ルートは藪沢ルートである。

登るにつれて紅葉がますます華やかになる。 誰ともなく「こんな景色を新人の人にも見せ てあげたいね」という。皆さん本当に人思い である。

頂上付近は昨夜降った雪で真っ白である。 避難小屋は新しく建て替えられていた。 3,000mの景観を充分楽しんだ後、下山にかかる。

最後はやはりというかやっぱりというか、 広河原のバス停の広場にビニールを敷いて、 下山祝いをした後、甲府駅でも再度きっちり と下山祝いをして山行を終えた。











<27>J出于3分别分(公)基础和为表现组织

創立1周年記念山行 尾瀬集中登山

笠ヶ岳、至仏山、燧ヶ岳

錦秋の尾瀬が原に 心も染まる

10月 9日 我孫子 21:02=池袋 22:30 集合/夜行バス 23:00 出発

10月10日 晴

A: 鳩待峠 5:40…笠ヶ岳…至仏山…山の鼻小屋…下田代十字路(泊) 4名 歩行 7:40

B: 御池 6:25…燧ヶ岳…下田代十字路(泊)

8名 歩行5:40

C: 鳩待峠 6:00…至仏山…山の鼻小屋…下田代十字路(泊)

14名 歩行5:00

10月11日 曇り時々雨

下田代 7:30…東電小屋…三条ノ滝… (燧裏林道) …御池-東京駅=我孫子 23:00

宿泊 小屋泊 桧枝岐小屋(三食付き 8,500 円) 15名

15名 費用 24,000円

テント泊 6人用、4人用、3人用 各1張 11名

11名 費用 17.600円

まとめ

- 1. 成果
 - ①参加者 26 名参加率 76.5% (新入会員 19 名 参加率 86.4%)
 - ②ケガや事故がなかった。
 - ③予定通りの行動ができた。
 - ④下田代での交流会は大いに盛り上がった。
- ⑤紅葉の最盛期でしかも天気に恵まれた。
- 2. 課題
 - (1)ヒヤリハット

スリップが多く、巻き添えを食った人もいた。 滑りやすい岩場や木道での歩行技術を確か なものにしたい。 ②休憩時の対応

おやつ、水、食事、休み方の工夫。

- ③パッキングの仕方
 - ・必要なものをすぐ取り出せるようにしておく。
 - ・必要最低のものをもって行く。
 - ・隙間のない上手なパッキングの仕方。
- ④隊列の作り方
- 一定間隔を保つ。(2~3m)
- ⑤無理のないコースを選択する。 自分の体力、技術にあったコースを選ぶ。余 力のある山行を心掛ける。
- ⑥山行当日欠席者の連絡がなかった。

創立1周年記念山行 尾瀬集中登山

笠ヶ岳、至仏山 2,057m 2,228m

高橋英雄

岳人あびこ一周年記念山行に参加して

長時間かけて計画、作成し実行するまでの運営委員会の皆様には本当に御苦労様です。又、 一部の会員の協力もありがとうございます。

待ちに待った、尾瀬集中登山が車中泊一泊二日で行われました。十月九日~十日の両日、紅葉の尾瀬をめざす車中の人となった。A班C班は同じ車、B班は別の車に別れ、それぞれの思いを胸に一路鳩待ちへ。

戸倉で別のバスに乗り換え、早朝の鳩待ちに着き、薄暗い中で軽い昼食をとり、C班が出発後、A班(川名リーダー、坪井さん、佐々木さん、高橋の四人)も後に続く。木道まじりの登山道をオヤマ田代に着き、ザックを置いて笠が岳をめざす。 登山道は、思ったよりきつくぬかるみが多い。登り

口は見落としやすい。山頂で記念写真を撮り、

山名		笠ケ岳・至仏 山・尾瀬が原	山行形式			テント	
期	日	平成9年10月10日~11日			12-11		
山	域	尾瀬	地	図	roft		No.
目	的	創立1周年 記念山行	交通機関 バス			ベス	
日程	10日	我孫子→池袋 22:40/23:01→(バス)→ 鳩待峠 5:40→笠ケ岳 8:27/8:40→ 至仏山 11:35/12:00→山の鼻小屋 14: →下田代 14:15(テント泊)				0→	
コース	11	下田代 7:00→→東電小屋→ 三条の滝 10:28→(燧裏林道)→ 御池 14:00/15:20→(バス)→ 東京駅 22:00→我孫子 23:00				it it	
状況 1 笠ケ岳登山口は見落としやすい			やすい。				

視界が悪く風が強いので直ぐに下山し、一路、至 仏山を目指す。

この時期は年間で一番良いのか、至仏山に登る人が多くいた。山頂から見た山並み、尾瀬湿原は最高!!。何も言う事無し。少々の休憩をとりすぐ下山。下山道は狭く石や水が多く渋滞し、やっと湿原へ……。

山の鼻小屋を過ぎた所で一服。木道を歩き始めた所で、リーダーより「時刻が遅れているからペースをあげて」の声に、一生懸命歩きました。竜宮小屋で小休止して、キャンプ場へ向から。

キャンプ場に着いたらすでに、B班とC班が着いていました。キャンプ場は一面テントの花盛りで感動をしました。そこで、小屋組とキャンプ組とに別れ、我々は早速テント張りの場所の確保をして、テント張りにかかり、終わったところで夕食の支度(特に女性陣)……。その後、夕食、酒宴となり、楽しいひとときでした。

酒の廻りが早いのか眠くなり、皆さんより早めに テントの中へ……。グッスリ眠れたような気がする?。

朝のテント村は、霞がかかりとても印象的であった。楽しい朝食の後、記念写真を撮り、テントをたたみ一日の生活が終わった。

キャンプ場での色々な事が初めての体験であり、 今後の山行きに役に立つ様な気がする。

下山は途中三条の滝を経て御池に到着、4人で早速ビールで乾杯していると、B班C班が到着し、全員そろったところでバスに乗り一路東京へ。

御池からの下りの途中、川があり所々で紅葉が 見られた。二日間に亘り記念山行に参加し、本当 に良い思い出に

なりました。

皆さん有り難うございました。



< 27-2>

創立1周年記念山行 尾瀬集中登山

燧ヶ岳 2,356m

原 田 君 子

燧ケ岳山行

創立記念山行に燧ケ岳を選んでから当日までが 大変。皆んなに迷惑をかけないで登れるだろう か。夜行バスで眠れなくてバテたらどうしよう。 荷物はどれくらい持って行けばいいのだろう。 いろいろ考えていると山行までに一山も二山も 登った位つかれる。なんといっても「燧組はア イゼンを持って行く事」、この一言がとても重い。 とにかく一歩ふみだしたのだから進むしかない。 いろいろな思いを胸に夜行バスに乗りこんだ。 朝まだ明けきらぬうちに御池を出発。サブリー ダーの次を歩かせてもらう。前々日の雪でぬか るみ、歩きにくい。すべる、すべる。前の人の 足元ばかり見て歩いていると、若いお兄さんが 「お先に」と言って追い抜いて行く。「ア……」 お兄さんありがとうね。いっぱいの泥はねをい ただきました。

夢中で頂上をめざしていると、お天気まで気を つかってくれたのか、快晴。頂上からの眺めは すばらしく、360度全景が見わたせる。

会津駒ヶ岳、平ケ岳、南正面には金色に輝く 尾瀬が原につづき至仏山、尾瀬沼の全景。き れいとかすばらしいといった言葉では表せな い感動。頂上でゆっくりすごした時間がその まま止まればいいのに。

前日までの不安はどこへ行ったのかしら。た ぶん頂上に全部忘れてきたのでしょう。

下りの足は軽やかに?。田代十字には他のグループより一足早く着く。

やったあ…。私も燧ケ岳に登れたあ…。すばらしい景色をありがとう。

リーダーをはじめグループの皆さんありがとうございました。すてきな山行でした。



< 27-3>

創立 1 周年記念山行 尾瀬集中登山 至仏山 2,228m

斎藤清一

周年記念山行 尾瀬に参加して…

ニキビ華やかな学生時代…、恋多き青春時代 …、山の彼方の熟年時代…の尾瀬…、時代は 移れ変れども尾瀬は変らなかった。今後も変 らずにいて欲しい…、訪れた私に感動をくれ た尾瀬。

小さい秋…、小さい秋…、小さい秋…、見つ けたような気がします。

山名		至仏山・尾 瀬が原	山行形式	テント 山小屋
期	日	平成9年10月	10 日~11	日
山	域	尾瀬	地図	类
目	的	創立1周年 記念山行	交通機関	バス
日程	10	我孫子→池袋 22:30/23:20→(バス)→ 鳩待峠→至仏山→山の鼻小屋→ 下田代 (テント・山小屋泊)		
コース	11	下田代 7:00→→東電小屋→ 三条の滝 10:50/11:00→(燧裏林道)→ 御池 14:30/15:20→(バス)→		
		東京駅 22:00-	我孫子 23:00	0

<27-4>

創立1周年記念山行 尾瀬集中登山

> 燧ヶ岳 2,356m

> > 大串秀雄

黄金色 (こがねいろ) の世界

最も美しい紅葉は、赤や黄色の色様々に織られた錦模様だと思っていた。しかし、黄金色の秋にもまた、なかなかの味のある風情があった。

1周年記念山行の燧ケ岳、尾瀬が原には、黄金色の世界が広がっていた。黄金色の草木は 秋の陽射しに染まり、温かく優雅に照り輝い ていた。赤や黄色の錦模様に勝るとも劣らな い秋の色だった。秋が光っていた。



Щ	名	燧ケ岳・尾 瀬が原	山行形式	テント 山小屋	
期	日	平成9年10月	10 日~11	日	
山	域	尾瀬	地図	W 100 100	
目	的	創立1周年 記念山行	交通機関 バス		
日程	10	我孫子→池袋 22:40/23:01→(バス)→ 御池 5:15/6:25→燧ケ岳 10:30/11:00→ 下田代 14:15(テント・山小屋泊)			
コース	11日	下田代 7:00→竜宮小屋→東電小屋→ 三条の滝 10:50/11:00→(燧裏林道)→ 御池 14:30/15:20→(バス)→ 東京駅 22:00→我孫子 23:00			
状	況	 1 1日目は快 は晴れてい 2 木道が雨で 	たが、のち	小雨。	

1週間前の週間天気予報は芳しくなく心配していたが、一日毎に予報が好転し、出発前日には降水確率10%以下の小春日和予報になっていた。

リーダーの柴さん、サブリーダーの細野清子さん以下我々Bコース組は、Aコース、Cコース組とは別に、池袋から夜行バスで出発。リクライニングシート、トイレ付き夜行専用バスでなく、通常の市内観光用バスであったため、睡眠がとれず往生した。

早朝5時の御池はバスで埋まっていた。

100台以上のバスが駐車していた。乗客全員が尾瀬に入ることを考えると、登山道の混み様は如何ばかりかと案じられた。

センターの前で朝食。天気は大丈夫、全く心配ない。駐車場の広場で入念に準備体操後、いよいよ出発。山の冷気が心地よい。山道に入ると直ぐ急登が待っていた。雨でぬかった重馬場の上り坂は非常に歩きにくい。加えて登山者が多く、追い抜いたり、追い越されたりでマイペースでは歩けない。所々の紅葉が、ほど良い気分転換となった。

目の前が急に開き、最初の目標である広沢田 代に着いた。朝日に輝き、田代一面は黄金色 の世界。この田代の数十倍以上も広い、明日



の尾瀬が原の壮観に思いを馳せた。田代には、 冷たい山風が吹いていたが、風が遮られる山 道は寒くなく、むしろ日溜まりは温かく感じ られた。

次の目標の熊沢田代までは、意外に簡単だった。やはり一面の黄金色。感嘆の声をあげながら、木道を軽快な足取りで進んだ。

頂上への急登はきつく長かった。ぬかるみと 人の混雑には閉口。急坂で道がすくのを待っ ている間、不注意で足をぬかるみに取られて 転倒。足場が悪いので支えがなく起き上がる のに難儀。両手が泥だらけになり、思わず昼 食のにぎり飯が持てるかを心配した。

頂上の直下には、前々日の降雪が残っていた。 日陰の道は凍っているところもあった。何度 か雪で手の泥を落としているうちに、燧ケ岳 の頂上に達した。



盤ケ岳山頂で至仏山をバックに

天高く秋空が晴れわたっていた。尾瀬が原や 尾瀬沼が眼下に広がっていた。正面の至仏山 全景は絵はがきのようだ。至仏山コースの仲 間達も、燧ケ岳を見て感激していることだろ う。左に目を転ずると、笠ケ岳、そして八ヶ 岳を思わせる日光武尊。尾瀬沼の先には、日 光連山が逆光のなかに連なっていた。日光白 根には何時登ることができるだろうか。会津 の山々……会津駒ケ岳は直ぐ近くにあった。 頂上のお花畑の咲き乱れる6~7月が最高だ そうだ。その左奥には、遠く越後三山が……。 この山も素晴らしいそうだ。いずれも是非登 ってみたい山々だ。

いつまで見ていても見飽きない。昼食をとりながらかなりの時間を過ごしたが、強い陽射しに加え、360度の大パノラマに興奮して、冷たい山風にも寒さを感じなかった。

下田代への道は、暫くの間、眼下の尾瀬が原を楽しみながらの下山だった。途中から樹林の中に入り眺望がきかなくなったが、黄金色の樹林の中に点在する赤や緑が日に映えて、紅葉真っ盛りの秋を十分楽しませてくれた。 南斜面のため、ぬかるみがなく有り難い。気が急くためか、尾瀬が原への道のりは意外に長く感じた。

下田代には我がBコースが先陣だった。小屋 組と別れ、直ちにテントの場所を確保。物凄 いテントの数だ。色とりどりのテント村は花 が咲いたようだ。若者が多く、何となく嬉し い。中高年ばかりでは侘びしい限り。山には 若者が良く似合う。

まず、テントの張り方を教わった(7月のテント講習会をさぼったため最初は全く分からず)。何もかも初体験で、今夜のテント初泊りに心が弾む。

Aコース、Cコースの仲間達も次々と到着。 全員で、1周年記念の集会兼懇親の会合を、 テント横の空き地で開いた。ビール、酒、ワ インの空き方は急ピッチ。一気に盛り上がっ た。周囲の木々の紅葉に夕日があたり、まる で黄金色の天幕に囲まれている様だ。温かな 輝きだ。落ち葉の一枚一枚が金色に輝きなが ら風に舞っていた。形容しがたいほど豪華な 野外宴会場だった。

フランス料理風の夕食に舌鼓。満腹、満腹…。 テント内で小会合の後、シュラフの使い方の 指導を受けた (ズボンやセー ターは着たままで…と)。 テントの中は思いのほか温か い。寝心地抜群。熟睡した。



隣接テントの話し声で 目が覚めた。辺りは未 だ薄暗かったが、間も なく朝日が射しはじめ、

周囲が黄金色に輝きだした。

テントの中でモーニングティーをいただく。 なんとも贅沢。

朝食を済ませ、テントを撤収。小屋組と合流 し、尾瀬が原で全員揃っての記念撮影。朝日 に照り輝く黄金色の草原が眩しかった。

撮影後、各コース毎に三条の滝に向かうこととなった。我々 B コースは竜宮小屋、東電小屋までの尾瀬が原を散策した。足元から広がる草原や周囲の樹林は、朝日に映え黄金色ー色に染まっていた。



黄金色の尾瀬が原

黄金色に輝く木々の葉が風に揺れて、その一 瞬、白銀色(しろがねいろ)に変わりゆく様 は、いつまで見ていても感動的な光景だった。 前方には至仏山、振り返ると燧ケ岳。何処を 見ても絵はがきそのもの。壮観に圧倒される 思いだ。写真タイムをとりながら、ゆっくり と秋の尾瀬を満喫。

東電小屋で各コースの仲間と合流。

快晴だった天気が急に怪しくなってきた。雨 具を着用し、各コース相前後して、温泉小屋、 平滑の滝経由で三条の滝を目指した。それに しても人が多すぎる。百数十人の大パーティ とのすれ違いには難儀した。

途中の平滑の滝は清々しい。一枚の巨大な岩

肌を流れ落ちる静かな水音に、心が鎮まる。 一方の三条の滝は豪快そのもの。水量、水音 とも桁違いだ。向こう岸の山肌は赤や黄色に 織る錦で、秋満開の美しさに暫し見惚れた。

尾瀬の最後のハイライトに別れを告げ、いよ いよ御池への帰途についた。

燧裏林道に入ると、今までの賑わいが嘘の様に、静かな秋があった。小雨煙る静寂に心が和んだ。雨の似合う山路もあるものだ。ただ、雨に濡れた木道には大苦戦。歩行技術の未熟さを知らされた。

至仏山、燧ケ岳は、ともに霧に隠れ、再び見ることができず……残念。

御池手前の大小二つの田代では、黄金色の樹木や草原が雨に濡れて光を失い、冬支度に入っているかのようだった。しかし、この侘びしい田代には、一幅の墨絵に似た安らぎがあった。光輝く黄金色の尾瀬もあれば、感傷的な黄金色の風情もまた尾瀬の魅力。黄金色の世界を、フルコースで十分に堪能できた二日間だった。



ほぶ予定どおり、御池に到着。

帰路のバスの中は、いっときアルコールの勢いで盛り上がったものの、いつの間にか心地よい疲れで全員ウトウトウト……。連休による高速道の大渋滞も夢のまた夢。

深夜の帰宅となったが、誰の顔にも、疲労感はなく、むしろ秋を十分満喫した満足感に満ちていた。

黄金色に包まれた1周年記念山行は、参加者 全員に、素晴らしい秋のプレゼントを残して、 無事に終わった。



長者ヶ岳、天子ヶ岳 (1336m) (1330m)

中村 隧 乘



<28>

長者ヶ岳、天子ヶ岳

(1336m) (1330m)

中村隆泰

お姫様が

はるばる都から

富士山の西側にある田貫湖は昔から伝説の多い湖だそうだ。今回登る山の名前が長者ヶ岳と天子ヶ岳と何やら日く因縁のありげな名前なので、あとで地元に問い合わせたところ、やはりこの二つの山にまつわる「炭焼き長者」伝説があったので次頁に少し手を加えて紹介する。

今回の参加者は8人と、行動しやすい人数で、まとまりやすく、楽しい1日だった。我孫子から田貫湖まで、新幹線とタクシーを使って3時間、8時半に到着した。新富士宮からバス・電車を乗り継いでいたら、あと1時間は余分にかかったことだろう。しかもバス・電車より安上がりとは驚き。(柴Lの交渉は機敏)

<概要>

山名	長者ヶ岳、天子ヶ岳(A)	山行形式 日帰り			
期日	平成 9年 10月 19日	(目)			
山域	富士山周辺 地図	人穴、上井出			
目的	冠雪の富士山の眺望	交通機関 新幹線他			
歩行時	間 6時間30分	費用 10,000円			
日程 9 日 ス	我孫子5:30=東京6:20/6:35=(こだま)= 新富士7:47-(タケシー)-田貫湖8:25 田貫湖8:35…長者ヶ岳10:35/11:55…天子ヶ岳12:35/12:45…白糸の滝15:00 白糸の滝15:00-富士宮15:49=富士16:05/16:18=熱海17:00=上野19:30=我孫子20:00				

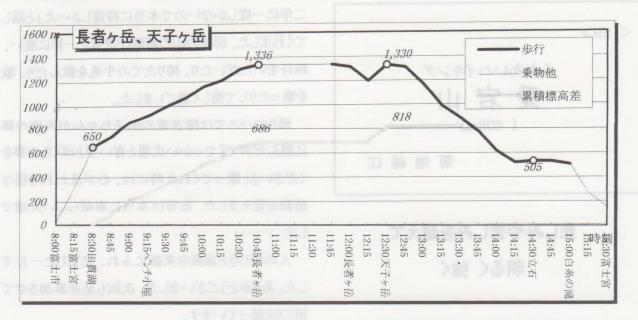
登りはじめはいきなりの急登で全員おしゃべりがなくなる。富士を背にカヤトの尾根を登る。第一のベンチからは富士山が眼前に現れる。富士は登れば登るほど高く見えるのは比較にならぬほど大きいからだろう。 冠雪は残念ながらこの温かさでとけてしまっていた。 山頂に近づくにしたがって紅葉がきれいになる。

長者ヶ岳の山頂では増田喜久子さんと中村美智子さんの誕生日を祝ってワインで乾杯(後で分ったが、柴Lも同じ月だった)。トン汁とチーズが苔むした木製のテーブルに用意され、木の葉のシャワーを浴びながら話がはずむ。あっという間の1時間20分、そして気分よく出発。

天子ヶ岳は名前の良さに反し、頂上は薮っぽく曖昧。記念写真を撮って早々に出発した。途中の踊り場までの落差は400m余、それを40分で急下降。日暮れが早いので3時までには下山という計画に対し、ぴったり3時に白糸の滝に到着、出発間際のバスにタイミングよく乗り込む。山に登った満足感もあって、天下の名瀑「白糸の滝」も眼中になく素通り。

冠雪の富士山は見られなかったが、秋晴れの空に そびえる山頂は形を変えながらいつまでも付いてくる。 富士があるだけで絵になる。日本一の富士の山は日 本人にとって心のふるさとなのだろうか。





炭焼藤次郎

むかしむかし、都のある身分の高い家に美しいお姫様がいました。お姫様はふとした風邪が元で重い病にかかりました。いろいろ手を尽くしてもさっぱり治りません。

ある日のこと、お姫様がすやすやと眠ったので、看病に疲れたお父さんお母さんも病人の枕元で寝込んでしまいました。 すると、白髪の老人が現れて、

「姫の病気はただの病ではない。富士姫という故の病じゃ。 富士山の見える所に行って、煙が一番大きく上がってい る所を見つけてたずねてみるがよい。そうすれば姫の病 気は治り、幸せになるであろう」

と厳かにいいました。三人が目を覚ますと、もうそこには老人 の姿はありません。三人とも同じ夢を見ていたのです。お姫 様はすぐその日から旅の支度を始めました。不思議にも旅の 支度を始めると、重い病のはずのお姫様がだんだん元気に なりました。

いよいよこれは神様のお告げに違いないと支度を急ぎました。お姫様はお父さん母さんに別れを告げ、いく日も旅を続けて、やっと富士の見える所までやってきました。お姫様は大きく上がっている煙を探しましたが、細々とした煙しか上がっていません。お姫様はあきらめず一生懸命に探しました。すると富士山の西の麓から盛んに煙が上がっているのが見えました。お姫様は喜んで煙の方に急ぎました。ところが途中に大きな沼があって、付近にはアシが一面に生い茂り、進むことが出来なくなってしまいました。そのうち日も暮れて、お姫様は疲れと不安で、その場へ倒れて気を失ってしまいました。

あくる朝、お姫様は目を覚まして驚きました。みすぼらしい 小屋の中に寝ていたのです。そばに男の人がいました。

「私はどうしてここにいるのですか?」

「私は炭焼きの藤次郎といいます。きのう沼のほとりの暗闇の中で苦しそうなうめき声が聞こえたので行ってみると、あなたが倒れていました。家に連れてきて看病しました。 一体あなたはどうしてこの山里においでになったのですか?」

お姫様は力のない声で今までのことを話しました。すると藤

次郎はいかにも不思議そうに、

「実は私も二日ほど前に、夢の中に白髪の老人が現れて、 『都からお姫様がおいでになるから気をつけてお世話を しなさい』といったのです。」

「それではあなたこそ神様のお告げの方、おじゃまでしょうがどうぞお側に置いてください」

藤次郎は夢のお告げがあったとはいえ、この美しいお姫様に、自分の小屋にいてもらうのはあまりにももったいないと思い、

「私は貧しい炭焼きです。こんな山奥ではお姫様は到底 暮らすことはできないでしょう」

といって、都に帰るようすすめました。しかし、お姫様の決心 は固く、手をついてたのみました。

それからというもの、藤次郎は前にもまして一生懸命に働き、沼地を広い田んぼに変え、山を開いて畑にしました。そのため、藤次郎の家はだんだん栄えて、「炭焼き長者」といわれるようになりました。

お姫様は藤次郎と長い間幸せに暮らしましたが、重い病になり床に臥してしまいました。ある日のこと、病気でやせ衰えたお姫様は自分の死が近いことを感じて、枕元に藤次郎を呼んで、

「長らくお世話になりましたが、とうてい助かる命とは思われません。私が死んだら、私とこの冠を、どうか都の天子 様から見える高い山に埋めてください」

と頼みました。それからしばらくして、お姫様は眠るように世を 去りました。藤次郎はいわれた通りお姫様と冠を山の頂上に 手厚く葬りました。それからというもの人々は、炭焼き長者の 近くの山とお姫様を葬った山のこの二つ並んだ山を「長者ヶ 岳、天子ヶ岳」というようになりましたとさ。

不思議なことに、いつの頃からか天子ヶ岳の頂上に、瓔珞 (珠玉をつないで作った髪飾り)を思わせるようなつつじの花 が咲くようになりました。人々はこのつつじを瓔珞つつじと呼 んで大事にしてきました。

(協力:富士宮市、富士山ふるさと展示室 綿井先生)

< 29>

ふれあいハイキング

愛宕山

(408m)

菊地純江

悲しみや苦しみを越えて 明るく 強く

健常者が身障者の手助けをしながら自然の中でゆったりした時間を共有し理解し合えたらと思い、私は参加しました。実際歩行の困難な人、全盲の人、脳性麻痺で話が思うように出来ない人等々、いろいろな人がいました。それぞれ心の奥に悲しみや苦しみを秘めながらも自分なりにベストを尽して明るく振舞っています。

私達には簡単な山でも彼等にとっては一歩一歩が試練です。足の悪い人は、足にロープをまきつけ、傾斜のきつい所はロープで引っ張り上げてもらったりゆるめてもらったりしながら頑張りました。車椅子の人には3~4人の介助者がロープで車椅子を引っ張ったり、車椅子ごとかつぎあげて登ったり、険しい所は車椅子を畳み、人をおぶって移動したり、される人もする人も真剣でした。もう少し男の人がいてくれたらなあーと痛感しました。

野いちごが咲き、あけびが美味しそうに実を付け、 ススキも風に吹かれキラキラ輝いていました。でも視 覚障害の人には見えません。私はこの景色を彼らの 心に写してあげたくて一生懸命説明しました。幸いわ かってくれた様で私も嬉しかった。彼等は「外でゆっく り歩く機会がないのでこういう企画がとてもありがたい。 二年に一度しかないので本当に待遠しかった」と話してくれました。房総の山の新鮮な空気を一杯に吸い、豚汁をいただいたり、搾りたての牛乳を飲んだり、歌を歌ったりして楽しく過ごしました。

帰りのバスでは障害者の淑子ちゃんが天使の様に澄んだ声で『でっかい広場と青い空とぼくらの夢をください』と歌ってくれた時には、心が洗われる様な感動を覚えました。彼等は本当に素晴らしい人達でした。・・・・・・

人の優しさと素直な笑顔にふれ、充実した一日で した。ありがとうございました。次回も是非参加させて 頂こうと思っています。



<概要>

Ш	名	愛宕山(千葉県最高峰)(A)		山行形式	日帰り		
期	日	平成 9 年10月 19	9日(日)	晴れ	3 110		
山	域	房総	地図	LAUL OF THE	Traffiel		
目	的	身障者ふれあいハー	イキング	交通機関			
参	加	約150名	UHU.	Hibate	WIL) 87		
者	13	内、労山80名、岳人	あびこ2	名(長木、菊均	也)		
		千葉県肢体障害者協議会					
主任	THE STATE OF THE S	千葉県視覚障害者の生活と権利を守る会					
土1	住	障害者の生活と権利を守る会千葉県連絡協議会					
	7.19	千葉県勤労者山岳連盟					
日		我孫子=松戸-(貸切バス)-愛宕山自衛隊ゲー					
程	1	ト…愛宕山…嶺丘畜産試験場-(バス)-松戸=					
コ	9	孫子					
	日	国内中国工作的工作。中国国际国际人民的 中国					
ス		(5.4)					

-公開登山一

< 3 0> WALEHER MARCHET #5

丹沢主脈縦走

細野 清子

笹とブナと紅葉の

前日、地図を拡げてみた。「明日はどのくらい歩くのかな?」と。なっなんと5万分の1の地図の3分の2を縦走するではないか!! 気が引き締まる。

公開登山参加希望の1名が風ひきでこられないとのこと、新宿で支援隊の加藤さんが加わり総勢14名。縦走には申し分ない人数となる。

登山口までの林道歩きが長い。ちょっとお しゃべりしているとすぐ置いていかれそうに なる。

リーダーから叱責の声。「つめて下さい。」 このあたりは紅葉はまだまだなのか緑が多い。ちょっと早いペースと気温が高いため汗 がしたたり落ちる。天気予報では今夜あたり からかなり寒くなるの予報で厚手のニッカ おまけにズボン下まで履いているのだから無 理はない。休憩時間に大急ぎで1枚脱ぐ。

リーダー「先頭細野清子さんお願いします。」私 「ドキッ」(よかった昨日地図を 見ておいて。) 鍋割山〜丹沢山までは2〜3回来ているので 自信はあるが・・・・さてさてその先どんな 山が待っていてくれるやら、楽しみである。 木立のなかを進む。さっきとうってかわった ように涼しく感じる。

最後の沢のところに水2L入りのペットボ トルがたくさん置いてある。

「山小屋のおみやげは水がなにより、今年 はとくに雨が少ないのでことのほか喜ばるで しょう。」

と、リーダー・清家さん・峰子さんが1本、 2本と自分のザックに入れている。すでに 1・5 L以上はいっているというのに。清家 さんなどは酒や水だけで7 Lになるという。 笠ガ岳や大無間の足ならしといえ彼女の強力 には脱帽である。

ここから鍋割までは急登続き。公開登山参加者の足並みがわからないので気を使う。 すぐ後の人の息使いが気になるペースが早いとすぐ離れてしまいさらに息使いが激しくなるので、ゆっくりめに登る。 それでも気温が高いため汗がしたたり落ちる。途中他のグループが休憩しょうと置いたザックがコロコロとかなり下までころがってしまうハプニングもあったりしたが、頂上に到着。

小屋の前の「氷」のハタが目にはいる。のどの渇きに耐えられず、氷に飛び付く。すきっ腹に冷たい物をいれたせいか胃がキュッといたくなる。はじめての経験でちょっと心配したがパンを口に入れるとすぐ治った・・ホッ

ただいま山にはどんな食物がいいか実験中。 今日の食事は、食パンに市販のツナマヨネーズをぬりインスタントサンドイッチのでき上がり、なかなかしっとりとして美味でよい。 お腹もいっぱいになり出発。前回来たときには鍋割りから小丸への道はひざまでうずまるほどフワフワの枯葉のなかを歩いた記憶があるが、今回はまだ落葉してない。

少し歩くと木々の間から今夜の小屋の花 立山荘が見える。手前の樹林帯のなかでキノ コ探しをする。南面を探したが見つからない。 北面を探していた柴田さん、清家さん、柴さ ん、大串さんが「あった、あった」とそれぞ れ見つけてきた。集めると手いっぱいのキノ コが集つまった。 さてこの中のどのくらい のキノコが食べられるのかな?など話してい るうちに今日の行程もおしまい。

支援隊の清家さんと加藤さんがここで降りる。乾杯のあと二人のもちあげてくれた「水」を補充させてもらう。ほんとうにありがたい。 感謝、感謝の気持ちで二人を見おくる。

小屋で受け付けをしていると「つくし野ですか」と小屋の手伝いをしているひとが聞いてきた。「エッー」(かたつくしのをしているの?) よくよく聞いてみると、我孫子の人で池田さんということがわかった。ここ丹沢にもう何年も通って手伝っているとのこと。ボラン ティアといえオーナーよりいろんなことをよく知っている。そして実に愉快な人であったまだできてまもない山荘は木の香もプンプンでしかも今夜の泊り客はわたしたち12人とおそくにはいっってきた一人だけ。とりたてのキノコや野菜のあげたてのテンプラ・キノコご飯・サラダ。さしいれの酒やワインで乾杯のあとは自己紹介、池田さんのたのしいおしゃべりにおなかをかかえて大笑い。夜景やキラキラ輝く星ぞらに感激。「あの星が北斗七星?」いつも思うのだが星座のわかる本をもってくるんだったと・・・競

そして、フカフカの布団に大の字になって 眠れてとても幸せな一晩でした。

予報より暖かい朝でした。そこにはすばら しい世界が広がっていました。

塔の岳頂上から見た雄々しい富士山。 笹とブナと紅葉のコントラスト。 丹沢らしい山並みとひっそりとした静けさ。 ふりかえりみれば塔の岳〜蛭が岳の縦走路。

同じ山に何回きても訪れる季節、自分の年 令やその時の気持ちで全く違うなあ~と感じ た。すばらしい仲間と登る山にはよりいっそ う味がある。

: 平成 9 年 10 月 25日(土)~26 日(日)

歩行時間: 1日目 5時間50分、2日目 9時間40分 (含む、休憩、昼食) 費 用: 9,300円/人

コース:1日目 我孫子 6:09=新宿 7:05/7:20=渋沢 8:40-大倉 9:10 大倉 9:20⇒二俣 10:35⇒後沢乗越11:35⇒鍋割山 13:00/13:40⇒ 二俣分岐 14:30⇒花立15:00⇒花立山荘 15:10(泊) 支援隊(二人)は山荘で別れ大倉尾根を下山。

2 日目 花立山荘 6:00⇒塔ノ岳 6:40⇒丹沢山 8:00/8:10⇒蛭ヶ岳 10:00/10:15⇒ 姫次11:40(昼食)12:40⇒焼山 14:20/14:30⇒西野々バス停 15:40⇒ 焼山登山口バス停 16:20−橋本 17:30/18:05=新宿 18:40=我孫子19:45 < 31>

鍋割山

(1273m)

加藤 秀明

今日は、久々(4月の大楠山以来)の 山行である。好天に恵まれラッキー!! それから今日は、5月の連休に買っておい た登山用の時計(カシオ製で高度、気圧、 温度等が測れるもの)を初めて実戦で使 って見れるのでちょっとウキウキである。

1日目は、大倉から二股、後沢乗越を 経て鍋割山一花立山荘へ行くコースであ る。私と清家さんは、支援隊と名が付い ているが(市民公開登山に対する支援の 名目)、所用の為日帰りコース(花立か ら大倉尾根を下山)である。――鍋割山 日帰りコースとしては一般的に紹介され ているコースである。-

さて、何せ久々の山行のため、付いてい けるかという所であったが、リュックが 軽かったためか何とか行けた。

二股までは、林道を歩く(車が1台通 れる位)ことになる。

高度は450mくらいであり、まだ高度 計付き時計にとっては十分な高さではな いのか、正確な値を示していない。

後沢乗越からは、急登が待っている。今 回の山行は、標高差1,000m超である。 途中、鍋割山荘まで運んで下さいという 水入りペットボトルが並んで置いてあっ た。10mほどやり過ごしたが思い留ま り、ボランティア精神をちょっと覗かせ つつ1本だけ運ぶことにした。2本位行 けそうかなと思ったが(それまでは大し た登りでなかった。)、登りが急になるので、雰囲気も最高である。

につれてやっぱり2本は重荷だったなと 思った。

1泊の方用にすでにペットボトル1本を持 っていたため自分の飲み水も入れて合計 約4. 5リットルを背負ったことになる。 鍋割山荘の方に「これどうぞ。」と持つ て行ったが、やっぱり「あっ そこに 置いといて。ありがとう。」だけだった。 鍋割山頂にて昼食だ。鹿のふんがたくさ ん転がっていた。山頂は、たくさんの登 山者でにぎわっていた。鍋割山荘特製の 鍋焼きうどんは、ほんとうにおいしそう だった。値段といい、具の種類といい山 頂で出てくると思われないくらいまとも だった。

頂上では、記念撮影をしたり、周りの山 々を展望した。蛭ヶ岳は見えなかった。 (昼には見えないという洒落に苦笑した。)

鍋割山荘から、小丸、大丸を経て花立 へ向かう。ゆるやかな尾根道であり、天 気も抜群だったため最高の気分を味わえ たと言える。小丸、大丸では、泊まりの 人用の"きのこ"を採る予定であったが、 乾燥していたためか収穫は期待外れであ った。辺りをくまなく捜して、やっとそ れらしい"きのこ"をほんの少々見つけ られたくらいだった。私は、少々疲れぎ みだったので、座り込んで待っていた。 頭上に塔ノ岳頂上を見ながら花立山荘 に向かう。

その頃には、もうビール、ビールで頭が いっぱいになった。(村松さんが、輪を かけて、後ろの方で"ビール、ビール" と言うからたまったもんじゃない。) 花立山荘からの眺めは絶品だ。

今日、このまま帰らずにのんびり眺めて いたいくらいだ。夕日が傾いてきていた

言葉では、言い尽くせない位すばらしい 展望だ。もちろんビールで乾杯!

下りは、急斜面だがちゃんと階段が作 られていた。階段のため少々歩きにくい が、太陽が沈んで来そうだったため、転 がるように下ってきた。

丹沢は、赤土がむき出しになっていて雨 の日や雨上がりでは滑りやすい道になる ところだが、ほとんど階段が作られてお り、逆に乾いている時には脚に負担とな りやすい。

標準時間より若干短い時間でバス停まで たどり着いた。

「コ間様かも中後で水南コ個イベモ以上や

蛀仕 今 円沢山 △塔/岳 太九 翻割山石 。花立小屋 小九 後沢乗越 二保 ●大倉

西野マ

火连山

极次

る機は黄金の山が太陽に限らされて空の書き

とのコントラストを話立たせる

行ができる。自然の

山名:鍋割山 山行形式: 小屋泊まり 山域: 丹沢

日時:平成9年10月25日(土)~26日(日)

リーダー:村松 、グレード: B

コース:1日目

我孫子6:09=新宿7:05/7:20=渋沢8:40-大倉9:10

大倉9:20→二股10:35→後沢乗越11:35→

鍋割山13:00/13:40→二股分岐14:30→花立15:00→

花立山荘15:10(泊)→大倉尾根→大倉

(支援隊のみ大倉へ下山)

2日目

花立山荘6:00→塔ノ岳6:40→丹沢山8:00/8:10→ 蛭ヶ岳10:00/10:15→姫次11:40/12:40→

焼山14:20/14:30→西野々バス停15:40→

焼山登山口バス停16:20-橋本17:30/18:05-

新宿18:40-我孫子19:45

(32)

七ヶ岳、荒海山 (1636m, 1581m)

柴 勇

静かな山は私たちを 一番最初に迎えてくれた

わたしたちの山行が自動車利用山行の第一号である。この6月に自家用自動車利用の規定が決められた。荒海山の登山口には4~5台の車が駐車してあった。最寄りの駅からのアプローチが長いので車利用に限る。

最近までは登山者も少なく静かな山であったという。誰もが交通の不便を感じないで比較的簡単に登山口に到着できることはありがたいことでもあるが、静かな山はなくなって行く。

最初の尾根に取り付くまで急登が続く。この当たりから新雪が現れた。東北の山らしくブナやミズナラが多く可成の大木が森の豊かさを物語っている。しばらくゆるやかな尾根歩きを楽しむ。わたしたちが歩いている道は新雪で白く、木々にも雪が残り、目を転ずれば、近くの山の麓では紅葉が真っ盛りで特にカラマツの黄葉が山の一面を大きく覆っている様は黄金の山が太陽に照らされて空の青さとのコントラストを際立たせる。

やがて急傾斜の登りとなる。足の力だけで 登ることはできない、両方の手の応援がなければ体が前に進まない。いつも思うのだが、 自然はうまくできでいる。急傾斜のところに はちょうど良いところに確保できる木や木の 根や笹や岩があって、これが支えになって歩 行ができる。自然のすばらしさを満喫する時 も自然の助けが必要になる。30分ほどの急 登の後に頂上にたどり着いた。既に7、8人 が展望を楽しんだり食事をしたりしていた。 わたしたちに取っては3週間前に登った燧 ヶ岳が気になり捜し出す。頂上付近だけ薄く 雪を被った燧ヶ岳が近くに澄んだ空の下には っきりと見えた。今日は1点の雲もなく遠く まで晴れ渡りしばらくの間山座同定を楽しん だ。

あした登る七ケ岳はもちろん、会津駒ヶ岳 、日光白根山、女峰山、大真名子山、小真名 子山、男体山、那須岳…。残念ながら至仏山 は他の山に隠れて見えなかった。地元ではこ の山は太郎山と呼ばれているが、これだけの 展望のいい山は、その名にふさわしい。

今日のテント場に向かう途中ナベ料理に1 花添えようとキノコを買って行く。落ち理に取上にテントを張って3時頃からナベ料理になり掛かる。今日の料理は山では普通で腐い地島、駐、牡蛎、柔らかな見理はないをからないをからいながらいと味わう。などの間の温もりがじわりとしみわたりにいる。 は関の温を吹がじわり出してくれた。時の温が素敵な空間を作り出してくれた。時もれに任せ、秋田の銘酒を味わいれる。

宴が終わって外に出ると夕闇に包まれていた。久々に満点の星を仰いだ。ふかふかの落ち葉のじゅうたんのベッドは柔らかく、寝心地が良く4時半の目覚ましに起こされるまで熟睡した。



七ケ岳は、始めは沢に沿って登って行く。 何度か徒渉して最初の分岐に出る。水が少ないので登山靴で濡れることはない。慣れた人と一緒でないと迷いやすいルートだ。沢沿いは雪も少なかったが分岐からは雪が2、30センチあった。出発したときは快晴だったが途中から雲が出て来て山頂に着いたときには全く展望はなかった。

山頂ではわたしたち3人だけで静かな山の良さをしばし楽しんだ。私たち三人の前には誰も着ていなかった。2、3日前に降った雪はそのままの状態で何の踏み後もなく静けさをプレゼントしてくれた。

お菓子や冷たいフルーツを熱いテルモスのお茶とともに頂いた。行きはよいよい帰りはこわい。下山はアイゼンをつけてストックを出して急傾斜を慎重に下った。沢の岩場は傾斜がきつく滑りやすいのでSさんは何度か転んだが、怪我はなかった。七ケ岳は七転び岳となった。

ALGES OF	
道標	- A-1/A-5
m. ann. narett.	
	• 登山口道標
1251M	7 10 10
The state of the s	
都服。太月 (20000)	
1350M地点	
1330m地点	
A PERMI	
Actions	
▲1380M	
荒海山	
1580M	
5-4-4	東峯・次郎岳
1581M	
西峯・太郎山	
PRINT VI	

山名	荒海山、	七ヶ岳 山行形式 テント
期日	平成!	9年11月2日~3日
山域	南会湾	津 地図 荒海山、糸沢、針生
目的	静かた	な山 交通 マイカー
ル	11/2	我孫子駅4:30~岩槻5:15~
1		鉱山後8:07~登山口8:40…
1		荒海山11:20/11:55…七ヶ岳
&		登山口テント場14:30
9	11/3	テント場6:30…尾根道出会
1		7:30七ヶ岳山頂8:18/8:50
1	AL HOUSE	…出会9:30…登山口10:45
43% (F	了新心中	~塩原12:00~我孫子16:00
ル	•七	ヶ岳の登り約30分位は急登
S.F.	続	左手にコンピニを見る。右手
1	• 荒海	毎山の平滑は岩肌が滑りやす
状	410	ので注意が必要。
況	s or steel	▼ ~☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



<33> 〈きさん **九鬼山** (970m) 中野弘子

秋たけなわの九鬼山から 絶景の岩山へ

JR大月から富士急行線に乗り換え3つ目の駅が禾生である。駅から富士の峯より流れる伏流水を見ながら車道歩きを15分ほど。左手にコンビニを見る。右手の山側に見落としそうな小さな案内板に導かれ愛宕神社を通り過ぎる。ここから山路らしく、ストックを出し、スギの木立のなかへ登り始める。

きつい登りだ。いくつもの曲がりを伴う急登が続く。急登が終わると富士や三ツ峠が見えてくる。すこし雲が出てきたがまあまあの見え方。ススキの穂の間より見る山々の展望は風情があり、山ブドウを皆で味わいながら休憩を5分ほど延ばしたほどです。

ここより7分ぐらいで九鬼山の三角点がある。山頂を表す真新しい山梨100名山の標識と、古い手書きの標識が並ぶ。当初の予定は田野倉方面へ下る予定であったが、「1時間ほど歩程が長くなるが、健脚なら猿橋へのコースが格段に良い」とのリーダーの提案に全員一致でコース変更を決めた。山頂直下は急降の岩場が続く。しばらく下りると平坦な尾根があらわれ昼食とした。札金峠までは木々の美しい尾根を快適に下る。下り立った峠はスギで暗く湿っぽい。地図では、ここから真北に急登が馬立山まで続く。ヤブ漕ぎを20分ほどしてかなり体力を消耗した。両手を使い我慢しながらガンバル。ほどなく右手の一段と高い山が馬立山である。

山頂からの下りにまた驚いた。岩場が2段 になり15mほどある。かなり急だ。岩場を 下りつくとなんと右手から安全な迂回路があ りました。

私は下山がまだまだです。

でも、1日の間に2度も岩の下降を経験してよかった気もします。

797mのピーク小沢の頭を巻きながら展望の御前山まで、ゆるやかな下りながらもかなりの距離でした。

御前山の巨大な岩の上から四周の山々 = 桂 川筋の展望は絶景である。午前中に越えてき た九鬼山が目の前に見えた。うれしい気持ち になる。

尾根筋からはずれた神楽山への径にも足を 延ばしました。

林の中を下り、紅葉に埋もれるとはいえないが、あちらこちらの木々が色づき、足もとは落葉をザクザク踏みしめ、<u>秋たけなわ</u>の山行でした。

そして、はじめてのSLをつとめた中村隆 さん。ルートの事前勉強をしっかりされ、ま た後続者の状況判断、気配り、見事でした。

97年11月8日(土) L細野清 天気:晴れ

参加者 1 3名。 歩行時間: net 5,2 時間

地形図: 都留、大月 (25000)

JR 猿橋駅

A 神楽山
673m
A 御前山
展望良し

馬立山
札金峠

1ンとこ
970m

九鬼山
系生駅
1 まま見平

< No. 34 > **桧 洞 丸** (1, 601 m) 高橋 寿江

鹿と出会った桧洞丸

心配していた昨夜の雨も上がり、新松田駅から紅葉の美しい山肌と所々、ミカン狩りの看板に、昔は此のあたりの山はみんなミカン畑でしたとのタウシーの運転手さんの話や、説明を聞きながら山の中を走ること一時間、西丹沢教室の登山口につく。穏やかな登りと、沢の音、黄色の落葉の中に真っ赤な目の覚める様なモミジ、靴底にカサカサと心地よい落葉を踏む足音が静かな山の中に吸い込まれ五人の仲間を包み込む。

キィ-ンという泣き声とフンに鹿にあえる期待を持ちながらコ゚ーラ沢の河原まで登る。

河原は広々とし、願い事をしたのか石が所々 積み重ねてあり、一息入れるのに良い場所だ。 これからは山頂までツッジ新道の急登が続くの で、大きく息を気合いを入れて登った。しか し小さな登り降りが少しもなく、ひたすら急 登続くため、モモが張り、足は前に出ず、体 はフラフラして苦しい連続でした。つらそう な私を見るに見かねて、川名さんが呼吸の仕

方や、ストックを用意したり、酸素を吸わせたり 又 色々とアドパイスしてくれるものの少しも 楽に感じません。こんな事でこれから先山行 が続けられるだろうかと気弱になり、情けな い思いをしながら登りました。それでもリュック を持ってもらい山頂に近づきました。

ケイパイ草の保護の木道は穏やかな登りで、晴れていれば木漏れ日が気持ちいいだろうなと思い、紅葉の尾瀬と木道を思い出しました。 途中降り出した雨も上がり見晴らしはありませんが、静かな山頂で疲れをいやし記念写真を撮る。

大小のプナや朽ちて倒れた老木の苔の緑が 清々しい、絨毯のような落葉、所々花のよう な小枝の水滴がキラキラひかり森の息づかいが聞 こえてきそうな静寂の中、五頭の鹿が姿を現 し、登りの苦労が報われました。

しかし下山もゴロ石と急坂で雨も降り出し滑ったり、足がつったりと大変な思いをしました。

沢の水の音に元気づけられ穏やかな樹林帯をあと一息という時にまたまたキィーンという泣き声で姿を現した効に見送られて下山しました。帰りのパスにも酔うしチョット自身をなくしての帰路でした。

今回は皆に本当に、本当に、本当に、本当に、本当に、 で苦労さん。。。ではなくお世話になりました。

Ш	名	桧洞丸 山行形式 日帰り				
期	日	平成9年11月15日(土)				
Ш	域	西丹沢	地図	立 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
と眺望を楽し		J R.線 小田急線 タクシー				
日程コース	我孫子駅(5:30)~日暮里(6:01)~新宿(6:40=小田急)~新松田(7:58)~タクシー西丹沢(9:00)~登山開始(9:10)~ゴーラ沢11 出会(9:45~9:55)~展望地(10:55~11:00)月~ツツジ新道分岐(12:11)~桧洞丸(12:5015~13:30)ツツジ新道分岐(13:40)~ユーシン分岐(13:50)~休憩(14:10~14:17)~ヤブ沢頭(14:50)~箒沢(16:42)~バス新松田(17:46)					
	K AL	バー 三浦、川名、斉藤、		高橋(寿)		

<NO. 35>

忘年山行

三頭山 (1527.5m)

奥多摩三頭山 忘年山行

予報では朝から雨とのこと、ところが意 に反して好天に恵まれ三班に別れての行動 開始。

三頭山都民の森から歩き初め、ゆるい登り下りが繰り返された後葉の落ちた樹林帯へ。視界に入るのは、遠く連なるスバラシイ山並み。時を忘れしばし感動に包まれてしまいました。

三頭山、山頂の避難小屋で97年度の忘年会(おでん、パーティー)が、リーダーの村松さんの音頭で始まる。

各自が持ち寄った具、殆どは店から仕入れた品だったけれど、私には初めておでんで口にする中村さんのレンコンの味、そして小黒さん自家製のツミレ、とてもおいしかった。つまみに焼いたスルメのニオイでつい飲み過ぎたビールのうまかったこと。・それに相変わらずのオシャベリ。・短かすぎたパーティーに終わりをつげ、下山へ~静かな低山を心ゆくまで満喫しながら帰路につきました。



(渡辺 冨美)

初冬の三頭山

今回奥多摩の都民の森から歩き始めました。すっかり葉の落ちた丸はだかの樹林体は視界が開け、水ナラやブナ林の整然とした姿が頼もしく見えすがすがしさがあり、 冬山登山は初めての経験でもあり、魅力的なものでした。

見晴台で下界を見下した時、雲海の中に 大、小、幾重にも連なる山、濃淡のある山 の展望はまるで水墨画の世界を眺めている 様で素晴らしい感動でした。今でもしっか り瞼に焼き付いています。 又下山した後、夕暮れの迫った蛇の湯温泉で清流の音を聞きながらの入浴は、疲れ も吹き飛んで心地良いものでした。

今回の山行は天候に恵まれ、私の体力に 合った行程で、程良い疲れと自然を充分に 満喫出来た思い出深いものとなりました。

(大桃 和子)

山 名 三頭山 山行形式 日帰り 歩行時間4時間 期 日 平成9年12月7日(日)
山 城 奥多摩 地 図 1/2万5千 奥多摩棚. 猪丸目 的 5年山行(多くの参加者を得て観睦を計る。)
日 我孫子(5:33) -武蔵五日駅(8:00/8:25) - 都民の森程 (9:25/9:45) - 一 稲口峠(10:00) - 一 三頭山東峰 (11:20/11:30) - 一 - 産業小屋(11:45/13:50) - 一 - 一 報寄山(15:00/15:20) - 一 数馬 ス (16:30/17:11) バス-武蔵五日駅(18:20)

<感想>

- ・初参加の安田さんは晴天の女神?又は私 の祈りが天に届いたか、天気予報からは 予想のできない好天に恵まれ、楽しい1 日を過ごせました。
- ・朝は雨の為、浅間嶺の予定を変更しての 三頭山も良かったのではないかと思いま す。避難小屋も広く、空いていてゆっく りできました。
- ・日下リーダーの撤退命令にムーさん「も う15分待って...。」「今日はワタ クシ、リーダーですから従って下さい。」 キリリ。カッコ良かった。
- ・私のA班は、大きなリーダーの後ろにカワユイ原田さん、サーさんと渡辺さんはクサイ、クサイ仲。大串(恵)さんと蜂谷さんの、いつも優しい笑顔は回りを楽しくし、下りの高橋(寿)サブは、軽快な足取りでリードし、細野(省)さんと清家は、フカーイ仲の思い出話と、和気アイアイでした。
- ・リーダー、サブリーダー、会計、そして 会員の皆さん、不備な点もありましたが、 気持ち良く協力して下さり、ありがとう ございました。

清家 記

さあ、山へ。にぎやかな バスの中・・・・

忘年山行「三頭山」(奥多摩) 平成9年12月7日(日)



(67)

来たときより美しく

(36)

笠取山·雁坂峠(奥秩父) (1953m) (2289.2m)

三浦 七郎

冬の奥秩父、 静けさとクリスマスを祝う

1日目

出発の一週間前位までキャンセルしようか 迷っていた。と言うのは、(家内の)母親が 3月にクモ膜下で倒れ長い入院が続き、家内 の見舞いが土日いづれかに当たり山行に参加 する事ができずに過ぎた。ブランクが約七ヶ 月間あり、一泊二日の笠取山、雁坂峠はテン ト泊まりの上ザックも55リットルと多く、長時 間の歩行に耐えられるか心配しながらの参加 だった。我孫子駅5時12分の千代田線にて出 発したが、新松戸で乗り換えた武蔵野線に事 故が発生し南浦和から新宿に戻り、特急で追 いかけ30分の遅れで塩山駅着、タクシーを利 用して約1時間10分で三の瀬中島川橋に着い た。この周辺は白樺が多くキャンプ場が近い。 登山口を10時20分に出発して30分歩いた頃に は、檜、コメズカが多いと思った。1時間35分 で黒エンジ分岐で休憩を取り、笠取山に向かっ た。途中雲取山方面からの縦走路に、ザック をダボッて、本日最後の急登を登り笠取山頂 に1時20分に着く。南アルプス、赤岳、国師ヶ 岳が望める。笠取山の由来は、かつて甲州と

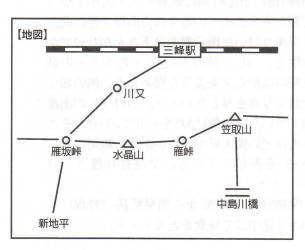
武州の見回り役人がこの地で出会うと、かぶっ ていた笠を取って挨拶をした事によるとか(遊歩百山より抜粋)。山頂より本日の宿泊地、 雁峠山荘に向かう途中に小さな分水嶺の標識 があった。この小さな峰は丁度3つの河川の 分水嶺となっている。この峰の東側に降った 雨は、関東平野の西部を潤す荒川となり、東 京湾に注ぎ込んでいる。また、西側に降った 雨は、甲府盆地を南下した後、富士山の西側 を诵り大平洋に注ぐ富士川となる。そして南 側に降った雨は、東京水道水源林で磨かれ奥 多摩に貯えられたのち、多摩川となって都民 の皆さんの生活用水として使用される。ほん の少し離れた位置に落ちたばかりに雨水の行 方は、東に西にそして南へと向かい、それぞ れの表情を持った河川として流れることにな る。特にこの地域に降った雨は、関東東京都 民の大事な水瓶となる。小屋には14時30分に 着く。心配した水は凍らず勢い良く出た、小 屋は我々だけなので、テント泊をやめて小屋 泊り、いつものように大いに盛り上がった。

2 日 目

12日6時30分管理人(小屋)の加藤さんに見送られて出発。アイゼンを付け、燕山に向かって5~6分登ると富士山が見えてきた。かなり急登だったので、一息入れる。雪で覆われた



秀麗な山容は、いつ見ても惚れ惚れする。笹 原を過ぎて、小さなアップダウンを繰り返し、 ブナや栂の混じった燕山頂に着く。燕山より 古礼山間の登山道から、塩見岳、間の岳の南 アルプスが見えた。古礼山の東側を巻いてい く道は、大汗かきの私には体を冷やしてくれ るので、気持ちよかった。一汗かいて水晶山 に着く、展望はないが山頂より少し下った道 の東側に素晴らしい展望があった。八ヶ岳、 国師岳も見えた。雁峠から雁坂峠までの尾根 は、歩いてみると変化に富んだ素晴らしい尾 根道だ。リーダーの目的はこのあたりにあっ たように感じた。雁坂峠からは100%の大展望 で大満足、富士山から南アルプスまで充分に 堪能できた。雁坂峠の名は、この辺りが雁の 群れの山越えの道であったことに由来してい るとも伝えられている。昼食を取り長い峠歩 きに備えお腹を満たした。雁坂峠に「日本三 大峠」の標識が立つ「三大峠とは後立山、針 ノ木峠、南アルプス三伏峠を合わせて言う」 雁坂峠を過ぎると、あまり高低差のない道を 20分程下った所に雁坂小坂小屋。さらに、10 分程下った所に、日本カモシカが現れて、め



ずらしそうに登山者を見ていた姿は、疲れた 体を和ませてくれた。雪もほどほどに有り、 クリスマス山行にふさわしい。この時期は登 山者も少なく奥秩父らしい静かな山旅だった。 雁坂小屋より突出峠の間に、立派なログハウ スの避難小屋があった。雁坂峠越えの道は中 山道と甲州街道の間道であり秩父側では甲州 往環、山梨側では秩父往環と呼び重要な街道 であった。十文字峠を越える信州往環との分 岐点のある秩父側の栃木には、栃木関所跡が ある。この関所の始まりは甲州武田氏が秩父 に進撃した時とか・・・この古い歴史ある峠 道を、どれほどの人が歩いたことか。長い長 い峠道が終って車道に出た。心配だった足も なんとか持ちこたえ大きな自信ができた。雁 坂峠を越えた残りの針の木峠、三伏峠もいつ

かはきっと・・・と、 思いをはせなが らの川又の バス停で下 山のビール 最高だった。

山	名	笠取山・雁坂峠 山行形			無人	小屋泊り、縦走		
期	日	平成9年12月20	平成9年12月20日~12月21日					
山	域	奥秩父	地図	柳沢峠	、雁坂岬	卡、三峰 1/25000		
目	的	雪のクリスマスをテン	トで楽しむ	交通	幾関	中央線		
日程コ	20 日							
コース	21 日	C-02 PIV 0	小屋(6:30) → 水晶山(9:04/9:15) → 雁坂峠(9:50/10:05) → 突出峠(12:55/13:07) → 川又(14:45)					
ルー		DIEL SHAT	100	98.0	B 1			
状								
況								

< No. 37 >

明神扩岳·明星扩岳

(明神が岳 1, 169m) (明星が岳 924m)

斉藤 清一

樹氷が幻想をまねく明神が岳

本日(12月23日)早朝いつもの時間に三々 五々我孫子駅に集合しましたが、11月の陽 気としては身を切るような寒さ、本日も朝か ら雨模様でした。

4人の男性のうち雨男は誰だろうと心の中で 考えていた頃松戸駅から車窓に白いものがぶ つかつて来た。誰かが雪だきっと山も今日は 雪に違いないと声を上げた。

新宿の小田急線の改札口で紅一点の小黒さんが笑顔で手を振っているのが目に入った。これで全員集合だ。「クリスマスイブ」イプの雪山山行サー。0(オウ)列車で行こう。見慣れた小田急沿線の町並みがガラット変わり始めた頃雨混じりの雪が川面に降り注いでいた。新松田駅で各自にて身だしなみをを整えてタウシーに乗り込む。

最乗寺の門前にテントが張って在る、本日は何かの行事が行われるのだろうか。雨具を各人が素早く身につけているが齋藤は雨具のズボンのチャックカがかんでズボンが閉まらない、美人の小黒さんに手伝ってもらうがス゚ポンのチャックが閉まらない。見えないからと閉まらないまま登ることにした。(反省)。。本日の無事と晴天を(?)祈り階段を下りる。地元の人々からは道了尊という名で親しまれている(開山した修験道の妙覚道了と言う人の名)。

登山道入り口に向かう途中に巨大な和合下 駄が真っ赤に色塗られあっちこっちにおかれ ている。妙覚道了は非常な力持ちだったので いつしか天狗の住む寺と考えられていた・・・。 ここで天狗が履いたと言われる下駄の前でハーイ ポウーズ。カチャッ・・・杉林の急な登りを登 り始める。

下の最乗寺から木魚に混じって読経の音が聞

こえて来た。読経の音に励まされ一気に 45 分、急登を登り切るメンバーは口には出さなかったがきつかったと思います。

目の前がパーッと開ける緩やかなかトを登り切ると『見晴らし小屋』が見えてきた。

残念ながら周りは乳白色何も見えず。心の中でそびえ立つ山々と下界を想像する。

『見晴らし小屋』でお汁粉を作ろうとの三浦 L から声がかかり日下 sL が賛成の声を発し たので小黒、中村、齋藤、スグ 賛成。 中村さ んの声が誰よりも大きかった様に感じたのは 齋藤の耳がおかしくなっていたのかな?

午前 10:10 分寒気の中でのお汁粉のかおり・・・たまらない。お汁粉が齋藤の処に届くまでのあいだなんども日下 sL に聞こえないように生ツバを飲み込む・・。

ザー温まった元気が出たぞかりの尾根つたいに 万福の腹を抱えながら歩くが目の前に急登が 迫っている。途中で一組の夫婦を追い抜 く・・・。お先に失礼全員快調。アメとムチを持 った L 三浦さんが後ろから登ってくるから前 に進まねば??? (失礼)

気温が低い、雪はシンシンと音もなく降り注ぐ純 白の真綿が山一面を覆い出し始め

梢に光る霧氷がキラキラと輝く。中村さん感動の声を上げる!年明けに軽井沢での家族スキー時はキット、スターダストも見られるよ! 1月はもっと寒いから。と声がかかる。sL 日下さん一気に飛ばす小黒さんもうれしそうにラッシュ、サワー続けと中村さんの尻を鼻先にして齋藤、続く,L 三浦さんから一本の声が掛からない、もうすぐそこだと逆にきつい励ましの!お恵み! あと一息だぞ・・・。

明神か岳に予定時刻に到着・・・雪が上がって霧が立ちこめている全員方向指示盤に向かうが凍り付いた指示盤を日下さんがストックでかき削る、sL 三浦さんに。・・たら・・の話を伺いながら又来ようと慰め合う。例の如く全員で写真を写したい・・。中村さんの出番凍てついた指示盤にカメラをのせてシウハック、そこへ先ほどの御夫婦が通りかかる。親切にも、シャッターを押してくれる。全員有り難う が*・・・・。

明神5岳 (1169M)から明星が岳 (924M) へ 向かう途中にて昼食をとる・・・。 外輪山の稜線を明星が岳に向かってたどる。 向かう方向に四角の大きな板がデェーんと立ち ふさがっている。あれは何だろうとの詮索が 始まる。特に口達者な日下さん、智者で口達 者な小黒さん、山の知識の豊富な三浦さん、 無口な中村さん口数の少ない齋藤がワイワイガヤ ガヤにぎやかに平坦な、道を歩く。1月2日 ~3日に行われる学生箱根駅伝のテレピカメラ用 の物ではないかと話ている内に、板の処を通 るとなんと電波反射板であった。ここを過ぎ るとチョット急な下り坂が待ちかまえていた。下 がりきった処で尾根道を上下を繰り返す。い つの間にか山頂の一角にたっていた。sL 三 浦さんから頂上だよと言われ三角点をなでな でしたいのですがと、探し始めたが見つから なかった。

円形の小山に御嶽大神の祠と鳥居があり昔の旅人が苦労を重ねてここにたどり着いたことを偲びメンバーそれぞれの思いで拝礼をする。サー下山の開始だ早く下山が出来るとたっぷり温泉に浸かれるぞ・・・。と sL 三浦さんからアメのむちが入る。樹林帯を下ると箱根大文字焼きの『大』の文字のある切り開きの場所にさしかかる。案内板を読んでいる間に美のの小黒さんが『大』の横棒を端から端までで表した。またの位在るかと小走りに走って来ました。まだの位在るかと小走りに走って来ました。まだるとの位在るかと小走りに走って来ました。まだる日間を発きる。(毎年8月16日の夜に行われる大文字焼きの行事は箱根の風物詩となっているとのこと)。480Mの高度差を一気に下りおりる。宮城野の集落に入ってくると温泉場の風景。もう気もそぞ

明神方岳 (169) (1 ろ、早く温まってビールを一息、しびれる喉と腹を連想してメンバ-全員の足が早足に感じる。彼処が、いや、こっちが綺麗なようだと談義が始まる。

L 三浦さんの一声、昔古い宮城野会館の温泉 に入ったことがあるがなー!

変わり身の早い四人、橋を渡ったところに新 装なった宮城野会館が在った、あったー。さ すがに早い sL の日下さんルルの気分で脱衣場 から洗い場へ、もたもたしながら二番手齋藤、 日下さんお湯に浸かっていない齋藤を手招き している。

石鹸がないとのこと洗い場にある石鹸は個人 専用の石鹸箱に入っている。

齋藤又脱衣場に戻りス゚ポンを履き小銭を探す500円玉があったしかし上半身裸

受付まで買いにゆくには・・・。中村さんは まだ服装を着たままだ、中村さんに買つても らう・・。仲良く全員で石鹸で体を洗い箱根 の温泉に浸る。7一極楽・・極楽・・女湯に浸 かっている小黒さんはどうしているかなー!

何て美味しいのかな一喉越しのピール、本日の クリスマス イプイプの山行談に花が咲く。平成 9 年の締めくくり

最高、最高。来年も頑張るぞ。。。

平成9年12月2 宿根 富士の展望 段孫子 5:30= 3:09~(タクシ	地図 交通機関 新宿 6:30/6:	鉄道 タクシー 46=新松田
富士の展望 段孫子 5:30 = 8:09~ (タクシ	交通機関 新宿 6:30/6:	タクシー 46=新松田
改孫子 5:30 = B:09~ (タクシ	新宿 6:30/6:	タクシー 46=新松田
3:09~(タクシ		10.0 15 10 10 10
0:40→明神がも →明星が岳1 5:00→温泉会包含城野16:51~ 七々木上原=我	13:50/13::55 宜15:15/16:45 箱根湯本駅 17	0→ (昼食) →宮城野橋
	→明星ガ岳 5:00→温泉会飽 宮城野 16:51~	→明星カ゚岳 13:50/13::55- 5:00→温泉会館 15:15/16:45 宮城野 16:51〜箱根湯本駅 17 そ々木上原=我孫子 20:30

<38>

ほんしゃがまる本社ケ丸

(1630m)

安田みづほ

新鮮な感動 はじめてのラッセル山行

本社ヶ丸! <u>丸</u>という名のつく山も多い。 どんな山だろうか?

山梨の山、甲斐の山 100 選にも載っていない。 知る人ぞ知る静かな山なのだろう。高尾への電車の窓から銀嶺に輝く富士の勇姿を拝む。ますます本社ヶ丸からの展望に期待が膨らむ。しかしそとは寒くなりそうだ。笹子駅からしばらく車道を歩く。電柱の上の方には笹子酒造の看板がズラーリ。「帰りの一杯が楽しみだなあー。」1時間ぐらいゆるい坂道を歩くとまわりに家もないのにポツンと郵便箱、東京電力変電所の人の郵便受けらしい。超スピードを出すJRのリニア実験用に変電所が建てられている。その従業員用なのだろう。

発電所の入り口から突然雪道になり20cmぐらいの積雪に一同びっくり! 歓声を上げる。純白の道に一本トレースがついていた。誰かが一人先に登っている。どんな人だろう。この雪に一人で登るなんて…!

リーダーから雪山の注意とラッセル交代の説明がされた。スパッツをつけ、まず私が先頭を歩くことになった。しばらくは大雪に喜びワイワイ、ガヤガヤ。しかし、だんだん雪が深くなり、ラッセルの大変さを味わうことになる。足が思うように上がらない。少ししか前に進まない。5メートル位で早く交代したいと思った。こんなんではとても頂上は踏めない。体力も続かない。トレースのついていない雪山ってほん

とに大変だわー。道がついていて当たり前と思っていたわけで、まさか雪をかき分けて行く等ということは考えもしなかったわけです。谷甲州の「白き嶺の男」の中の加藤さんの言葉を思い出す。

「俺はラッセルしか能がないからな。クライミングが下手だから……」

このへんでいいでしょうと、リーダー。せめて富士のおん姿を見るまでは登りたいと思ったけれどこのへんが限界。(リーダー達は後日、勇士たちだけで再挑戦して満足をしたのである。いつか私も本社ケ丸様の頂上へ必ず行くぞー。)

今回の雪山山行では反省することが多い。手袋がウールでなかった。サングラスを用意できなかった。計画書はよく読んで準備をおこたらないこと。

駅近くのお店の前でラーメンパーテイー。親切なお店のご主人に感謝!(笹子酒造で酒盛りのはずでは?)(しかし、こんな所でのラーメンも結構いいもんだ。)

思わぬラッセルの経験をした本社ヶ丸山行で したが貴重な体験をした1日でした。私の心に 深く刻まれた本社ヶ丸。いつか会いに行くから。

いつまでも静かな山であって欲しいと思った。

- H10年1月25日 -

〈概要〉

山名	木	姓ケ丸(A)	1_14	山行	形式	日帰り		
期日		本社ヶ丸(A) 山行形式 日帰り 平成 10 年 1月 25日 (日)						
山域	中	中央線沿線 地図 笹子、河口湖東部						
目的		富士展望、2雪なトレーニング		交通機関		電車		
歩行時	歩行時間 6 時間 (予定) 費 2 5 0 0 円							
日程コース	大〔10 :: 〔10 食(孫子 5:33 = 新 月 = 笹子駅 8: 予定〕笹山口 1 本社ケケ型山口 1 本社ケケ 笹山口 1 結果〕笹山口 1 :00**登山口 1 ラーパタイム 30 分 18:50 (*	8:40··· 0:30··· 40···笹 8:40··· 1:20** 13:50/	追分・1.30・ 子追か 指り 14:08 6=立	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	電変電所 八峠…0.40 系子 電変電所 12:10…昼 子駅 15:00		



天気は快晴、林の中は風弱く、まさに「雪の静かな山でトレーニング歩行」ができた。冬山の一端を体験できたが、特にラッセルの体験は貴重。雪を十分堪能して、12:時 10 分標高約 1100m 地点で引き返す。 細野L写す。



先頭のラッセル車は難行苦行、交代で行う。

< 39>

笹 尾 根

(丸川 1.098m)

中村美智子

雪の尾根道 ラッセルを楽しむ

我孫子の朝は雨だったが当地は好天に恵まれた。 前夜来平地で降った雨は山では雪だったらしい。 新雪を踏みしめ、雪のシャワーを浴びながら登る。 新雪でトレースは全くなく、尾根に出るまで全員順 番にラッセルを体験する。

アイゼンを付けて歩く。

反省:①アイゼンには高下駄状態にならないよう にプレートを付ける。

②紐はきっちり、しっかり締める。

槙寄山で清家リーダーご用意の、雪上おしるこパ ーティーにホッと一息つく。

20cmほどの積雪が思いの他私達の行動を 鈍らせた。尾根歩きをもっと続けたい気持ちを押さ え、予定を変更して笛吹峠より北側の笛吹へ下山。 異常の場合のルートを予め考えておくことは登 山の鉄則だが、この尾根のように下山ルートが たくさんある場合は、悩ましい決断となる。 副題の「雪と遊ぼう」を楽しみに参加。思わぬ新雪にラッセルを体験。足を踏みはずせば膝までの雪にびっくり。 穏やかな天気に恵まれ、富士山こそ頭を隠していたが、楽しい山行でした。



概要

山名		笹	尾	根		山行开	鉽	日小	帚り
期日		平瓦	太10年	年2月	3 [3日(日)			
山域		奥多摩 地図 猪丸							
目的		雪に	二慣才	いる。	冬	の寒	交通	1機	電車、バス
Halana.		さに	慣れ	る。		U.Bi. Sa	関		MODELLIA DE
我孫子5:33=新松戸=西国分寺=							}寺=高尾=上		
日 2	2	野原-郷原(9:20)						A PART OF THE PART	
程コ		郷原	頁(9:3	30)	西	原峠.	··槙寄	山(1	1:35/12:20)…
1 8	3	西原	原峠·	…笛!	欠	卡(14:1	0)…4	笛吹	バス停
E	3	(15:	40/1	6:08) –	一武蔵	五日市	与駅	17:35
		(計i	画) 信	笛吹I	峠	…土俵	岳…	日原	真峠…浅間峠…
		上川	乗-	一武旗	載	五日市	駅		

<u>長谷川カップコー</u> スを歩きませんか。

五日市を起点に、**日の出山** ~御岳山~大岳山~御前山~ 三頭山~(笹尾根)~生藤山などを周遊して再び五日市に戻る、稜線を辿るコースを「長谷川カップコース」というそうです。

みなさん、この線を繋ぎませんか。



奥多摩情話「つね泣き峠」

奥多摩湖畔の川野に杉田入道平広重という 城主が居りまして、ここの召し使いの「おつね」と、 程近い浄光院の僧「香蘭」とはいつしか相愛の 仲になりました。ところが香蘭は山を越えた西原村 の山寺「宝珠院」に移籍となり二人は別離の仲 となってしまいました。

おつねはある夜こっそり館を抜け出て恋人香蘭 のもとを訪ねようと決心しました。一人多摩川を渡 り、はし沢の谷道を登り、瀧坂付近にさしかかった 時であります。行く手にランランと両の目を輝かせ てカッと大きな口をあけた犬が道の真ん中で苦し んでいました。突然のことにおつねは進むことも退く こともできず、身の毛もよだつ恐ろしさに思わず立 ちすくんでしまいましたが、何を思ったかこわごわな がらも近寄っていきました。見れば犬の口の中にど うしたことか獲物の骨がささっていました。おつねが 「おいぬ様、私にかみつかなければとってあげまし ょうといいますとおいぬは素直に頭を下げました。 おつねは不安ながらその骨を取り除いてやりますと、 おいぬ様はうれしげに尾をふって感謝の意を表わ しました。以来、おつねの夜道の送り迎えを務めた そうです。

さて、おつねは峠を越えて久々に香蘭に会い一 夜の夢を楽しみましたが、雇われの身の悲しさ、つ きぬ名残を惜しみつつ再び闇の山道を帰るのでし た。やがて館の見える峠にさしかかるころには東の空が白んで明けの鐘が遠く山々に流れました。

よよと泣きくずれるおつね、帰れば主人に叱られるはかない運命に、道の傍に立つお地蔵様にそっと手を合わせて、切ない心にひたすら神の救いを祈るのでした。

春がすぎ夏を送り冬の峠道を通うおつねの姿は 痛ましく又あわれでありました。後世、里人はこの峠 を「つね泣き峠」と呼び、おつねの冥福を祈る碑も 立ちました。今なお「香蘭香蘭」とおつねの呼ぶ 声が聞えて来るそうであります。

上野原町、上野原町観光協会

上記の民話は今年2月8日、笹尾根山行時、 登山道にあった立札より写したもの。

民話の中身を詮索するつもりはないが、場所の確認をしてみてびっくり。確かに川野という部落と宝珠院 (郷原)というお寺が実在する。三頭山から北へ尾根 伝いに下りた途中につね泣き峠もある。この3点からおつねさんが通ったルートを想定すると、川野一つね泣き峠一三頭山一槙寄山一西原峠一郷原が考えられる。勿論三頭山や槙寄山は山頂付近をまきながら通ったとしても、コースタイムは片道約6時間。恋の語らいを含め、日暮れから夜明けまでに往復するのは至難の技。健脚自慢のリーダーさん方もおつねさんにはかなわないのではないだろうか。

おつねさんには力強いおいぬ様がついていたからできたのかもしれない。とにかく恋は思案の外である。

98/2 中村隆泰

(40)

古賀志山

(533m)

榊原文子

おしゃべりに夢中

朝いつもの始発に乗り、我孫子駅集合。 久しぶりの山行なのでうれしくておしゃべ りに夢中。東武野田線に乗り替えのため柏 で下車。そして、移動したホームにはすで に電車が待機しており、おまけきドアが開 いたり、しまったりして発車の準備をして いた。我々は当然その電車に乗るつもりで いたが、反対側に入って着たが音も無く発 車したとき、誰かが"今の電車に乗るんじ ゃないの"の声に全員絶句。

そんな始まりだったが、いつものいつも の楽しいメンバーで心が弾む。

天気は晴れ。ポカポカと暖かく2月と言うのに4月並の温度。準備体操後いよいよ登山開始。最初から結構急登で息が切れる。大きな岩がごろごろあり、岩登りの練習場なのだそうだ。

頂上近くはクサリが取り付けてあり助けられて御岳山へたどりつく。とっても見晴らしが良く小休止。でも少しかすみがかかっていた。尾根づたいに古賀志山へはとても近くに感じた。

さほど広くない頂上での昼食はリーダー 柴さんが用意して下さった肉、野菜と我々 持参の「かときっちゃん」のうどんでほう とうもどきの煮込み。本当においしかった 下りはAよりはBに近いクサリ場があり 良い体験ができた。

少しはなれた所に有る鞍掛山はまたとて もおもしろい山でほとんど垂直に近い登り をクサリにつかまり頂上に向かった。

頂上には名残雪があり我々を喜ばせてく れた。記念写真を撮り一路同じ道を下山。

クサリにつかまりスルスルとあっと言う 間におりた。

タクシーで新鹿沼駅までもどり駅前に有るソバ屋で全員、無事の下山と楽しい1日であったことを感謝し、ビールでカンパイをした。低山なのにとてもおもしろい山であった。春にはカタクリが群生すると地元の主婦が言っていた。又ぜひ登りたいと思う。

0						A STATE OF		
山名	古貧	買志山	(A)	山行	形式	日帰り		
期日	平原	平成10年2月14日						
山域	鹿浴	B	48.213	地	図	大谷		
目的	日)	日光、那須連山の展望						
交通機関 JR、東武、タクシー						E 181 3.5		
	我在	系子駅	5:25/5	:30~	台5:3	5~新鹿沼		
	8:3	4~古登	買志山)	入口9:	40…往	中岳山10:		
7	30	古賀志	5山11:	00…見	晴台	11:05/12		
414.3	:00	:00(昼食)…東陵登山口12:50…鞍掛						
ス	神神	神社(登山口) 14:00~鞍掛山14:35~						
	大社	大岩14:40…鞍掛山15:00…鞍掛神社1						
	5:2	5…森林	木公園1	5:50	新鹿	沼16:25/		
	7:3	10(ソノ	ヾタイ .	4) ~	伐孫 子	上駅19:30		
	行動	動時間	計:5	時間	1 0 分	}		
	200		ar Ja					
ル	下	りの垂	直下降	の岩	易はと	ころどこ		
140	3:	クサリ	が取り	付け	てあり	、安心し		
1	下口	山でき	る。5	月に	はカタ	クリやツ		
状	ツ:	ジがき	れいた	そう:	だ。			
況	3 9							

(76)

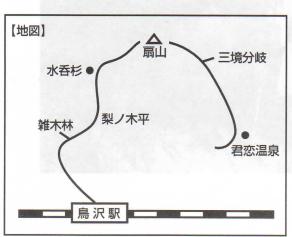




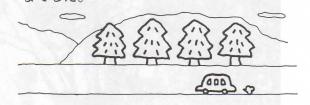
〈41〉 扇山 (1138m) _{三浦 七郎}

富士の展望と 積雪の扇山と豚汁

岳人あびこ創立2回目の公開登山、昨年は石老山で、当日は雨、山頂では雪でした。その公開登山に参加し、その後入会した2期生は今回、接待役で頑張りました。本日の扇山は2度の下見で万全を期し、計画に落ち度がなかったか点検実行しました。今回は一般参加者の接待役である2期生は電車で先行し、山頂での豚汁の準備。他の参加者はA班B班C班に分け、大型バスで我孫子5時45分発、鳥沢駅8時10分着。軽いストレッチを行い、各班ごとに出発しました。梨の木平迄は約50分程の林道を歩きましたが、大分ゆっくり歩いても一般の参加者にはきついようで、遅れ



る人もいました。梨の木平で休憩中、参加者 の方と「もう山頂ですか?」「実は、ここが 登山口です。」とのやりとりがありました。 これよりの登りは雪道なので、一般参加者に は滑り止めに荒縄を巻きました。水呑み杉か ら扇山間は、高度が上がるほど積雪量が多く なり、一般参加者の歩行に合わせなんとか扇 山山頂に着きました。2期生の拍手に迎えら れ感激し、心のこもった暖かい豚汁に舌づつ みを打ちました。好天に恵まれ、富士山の展 望と豚汁に満ち足りた心で、雪道を滑らない ようにストックをついて梨の木平へ下山し、 全員無事に鳥沢駅で待つバスに乗車しました。 故障者も出さず公開登山を終了できたことは、 岳人あびこ会員及び一般参加者の皆さんの協 力の賜物です。特に2期生は接待役ご苦労さ までした。



山名 扇山				山行	形式	日帰	ł h
期	_	平成10年3月8					
山:	域	中央線沿線	月	也図	上野	原	T. Indian
目	的	我孫子市公開	登	山	交通	幾関	バス利用
日程コース	8日	我孫子駅(5:45) → 鳥沢(8:10着) → 梨の木平(9:36 扇山(11:30/12:30) → 梨の木平・・・鳥沢駅(15:06 我孫子駅(19:00) 歩行時間 6時間20分(昼食				尺駅(15:00) →	
ルー状	- - - - - - - - - - - - - -						









< 42>

"新会員一周年記念山行"

大岳山

(1266m)

日 下 芳 十

雪の祝福を受けた修了山行

早いもので"岳人あびこ"に入会して一年が過ぎようとしている。一月の集会で「二期生だけで自主山行しては」との先輩のアドバイスにより有志6名で行先について検討したところ、12月号の山行計画のためのアンケート調査結果「日帰りの山」で奥多摩で大岳山が一番多かったのでここに決定。

リーダー 日下 サブリーダー 高橋(英)で山行計画作成、"新会員一周年記念山行"と命名し山行募集したところ、新会員16名、オブザーバーとして三浦会長、柴副会長の参加を受け、新入会員卒業山行も「有終の美」を飾ることが出来た。

当日の朝は曇りであったが良い天気になるように 祈りながら電車に乗りこむ。御岳山ケーブルを降り展 望台では高水三山、棒ノ折山などの眺望は得られず 出発。舗装された道を御獄神社へ向う。神社の随神 門をくぐり安全登山詣でをした。

この頃から大雪の歓迎を受け、風も強くなり全員「完全武装」で再出発。30分歩いたあたりから小止みになり天気もよくなった。あたりは一面墨絵を見ている様な景色に早変わり、疲れも忘れて景色にみとれた。山の北側は残雪があり所々アイスバーン状態だったのですぐアイゼンを着装した。本年は雪の登山が多かったので全員スムーズに着装、ストックを持って安全歩行。

大岳山頂上は狭い。富士は見えなかったが丹沢 山塊など眺めは美しかった。大岳山荘の先の展望台 も180度のパノラマが広がり、幾重にも連なる山なみ を見ながら食事、お汁粉パーティ。下山後御獄駅近 くでそばタイム、一周年の反省会を行った。事故もな く楽しい一日であった。

(あとがき)

今回初めてのリーダー役を仰せつかり、まず山行計画書の作成に取りかかる。ガイドブックによく目を通して、天候・体調等によりエスケープルート研究、アプローチで乗る交通機関の時刻調べ、不測の事態に対応できる余裕のある計画、装備、こうして行程の計画、日程、持ち物、メンバーの氏名と連絡先等をまとめた「山行計画書」が完成し、各メンバーに一枚づつ配付した。登山中はパーテイーへ気くばりする等、リーダーを初めてつとめて「リーダーの役目の大変さ」

がわかった一日であった。



<概要>

Щ	名	大岳山(A)		山行刑	形式	日帰り		
期	日	平成 10 年 3	月 15日(日)	日)			
Д):	山域 奥多摩 地図			奥多摩	奥多摩、武蔵御岳			
目	的	新会員一周	交通機	関	電車			
歩行	歩行時間 2時間30分							
			No.					
日	1							
程	5	我孫子5:33	= 新松戸=	一西国分	寺=	青梅線御嶽		
1 =	日	駅-滝本∽御岳山頂駅…御岳神社…大岳山荘…						
		大岳山…大岳	大岳山…大岳山荘…御岳神社…御岳山頂駅…御					
ス		嶽駅=高尾=	我孫子					







< 43>

筑 波 山

(876m)

宮坂 広子

あし、腰よ 強くなーれ

まずは、筑波山神社で参拝し、石の 鳥居をくぐってスタートです。

ケーブルカーの右側にある樹林の道を ゆるやかに登って、中の茶屋を過ぎると 急な登高が続き、一息ついたら御幸が原 に到着です。

ここは、双耳峰の鞍部で、右手(東)は 女体山、左手(西)は、男体山です。 男性達が、女性に敬意を表したいとの 事で、女体山へ...。 セキレイ石やガマ石等の奇岩が多く、 山頂の岩は、はんれい岩と云う、大変

堅い石で、積み重なっています。

三角点と祠があり、眼下には霞ヶ浦や、関東 平野が広がり、地球はやっぱり丸い、と思う くらい素晴らしい展望でした。

ここから、つつじヶ丘まで岩場を慎重に、急な 傾斜の道を下り、又女体山に向かいます。

弁慶茶屋を過ぎると伝説のある奇岩が次々と 現れ、頭上の大岩が今にも落ちそうな弁慶 七戻りもあります。

傾斜が厳しい、階段状の露岩を足がかりにして やがて女体山頂です。

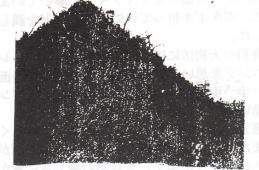
女体山から御幸が原を左へ、石の階段と 砂礫の道を登り、男体山頂上に到着です。 男体祠があり、眼下には関東平野が広がり 気持ちまでがおおらかになります。

男体山から筑波山神社まで無事に下りました。 隣の梅園で、梅を観賞しながら一休みです。 のどを潤しながら、筑波山からの絶景を思い だし、お開きとします。

男体人	\$1	丰山	屋
	御幸ヶ原		(")
駐車場	1原		シガ立
3	22号	泉	
			一土浦

山名	筑波山	山行形式	日帰り				
期日	平成10年3月21日						
山域		地 図	真壁				
目的	山頂からの眺望	交通機関	自動車				
日	我孫子駅北口一筑波	我孫子駅北口一筑波山駐車場一神社一御幸ヶ原一女体山一 大孫子駅北口一筑波山駐車場一神社一御幸ヶ原一女体山一					
程	弁慶茶屋-遊歩道-	弁慶茶屋-遊歩道-ツツジが丘-女体山-男体山-					
コ	御幸ヶ原一筑波山駐	車場-我孫	7				
ス							
ルート	ルート岩場少々						
状況							

滝子山(1590.3m) 清家 三保子



滝子山南稜を行く

中央線沿線の山、姿勢の良い立派な山で ある。山頂は富士山や、大菩薩連嶺の好展 望台になっている。今日の滝子山は上半分 はガスがかかりすっきりしていない。

今年の中央線沿線は、異常な大雪の年で あり、大鹿川沿いのコースは、ふもとから 山頂迄しっかりと雪がある。 南稜は3回目 という細野氏のアドバイスを得、天候も考 え、雪の状態も考え、南稜を登る事にする。 桜公園の先から寂忧尾根と書かれた風流な 道しるべに分け入ると、静かでふんわりと した細い急な登りが続く。体が熱くなった 所で、林道に出てしまう。衣服の調整をし、 再び山道に入ると、いきなりロープを張っ た急登で、「もう始まったか南稜よ」と、 ワクワクする気持ちを引きしめる。高度の 上がって行くのが分かる様な急登ではある が、山道らしい山道である。こんな山は好 きだなと思っていると、さらに素晴らしい プレゼントがあった。この中腹あたりは木 の上にフワッと淡雪を置き、地面は黒々と してコントラストが美しい。こんな春もあ るのだ。やがて、落ち葉の上にも雪が残っ ていて滑りやすくなってくる。靴でどけな がら歩くうち、どけた葉の下に根雪も出て くる。やがて、回りも真白になってくる。 急峻な上、岩稜帯もあり「三点確保」を常 に伝えつつ登る。1ヶ所ロープを出した方 が良いかと迷うが、メンバーは「大丈夫」 と心強い。危険な岩場もほぼ終ったと安心 したものの、雪はかなり深くなり、アイゼ ンを着ける。山頂は近いと思ってからが長 い。P3、P2と急なコブが続き喘ぐ。山 頂に着いた時には、心底「ホッ」とした。 南面であっても雪は多かった。全員良く頑 張った。八ヶ岳に迷っていた安田さんも自

信がついたのでは...。

山頂で初めて人に会う。山頂は狭くしばしまくないで賑わう。眺望はあいにくであったが、苦労の末の山頂であり、満意ったが、苦労の末の山頂であり、満意したが、大きの大きの大きの大きの大きである。道の左手上の神社は由緒をいる。道の左手上の神社は由緒をありたと言う細野氏に続き、最後の力を振りり急な階段を登って行くと「安産の神様」であった。それぞれは誰の安産を祈ったのだろうか。

この辺りの民家の人に会えば、皆親しげ に「こんにちは、今日はあいにくの天気だ ね。ここからは正面に富士山を見ながら歩 けるのに。」とか「どこの山に登った?」 だのと話しかけてくる。道端の立札に「お ふれ」として「必ず旅人には声を掛ける、 挨拶をする」と言った事柄が書いてあった。 とても楽しい藤沢の町だ。昔からの洒屋さ んでビールを買い、坂道の途中のベンチで ビールを空ける。そして知る人ぞ知る"笹 一の酒"これはおいしい。「吟醸酒」はお すすめ。そして杉の香りの樽酒。外崎さん はオットの土産に、1升ビンをザックに入 れる。滝子山に毎週の様に登ると言う人に 出会った。どうして滝子山なのですかと聞 いた私に「好きだから」と一言。何だか少 し分かる気がした。滝子山とても素晴らし い山でした。私にもいつか自分の山が見つ かるだろうか。

山名	隨子山	山行形式	日帰り
期日	平成10年3月22日(日) 曇		
山墳	最低線央中	地図	脏子. 大月
目的	春のイブキを裏じる		
H	我孫子(5:33)-新松戸-西国	分寺一大月	-催子
程	(8:30/8:45) 概公	(9:0	0/9:10)
ב	南菱登山口 (9:20) 林道	(9:45	/9:50)山頂.
	昼食(12:30/13:00)-	快平	13:40/13:50)
Z	最後の水場(14:35)-	下山(15:20)
	初幹 (16:47) - 我孫子 (17	: 40)	
ルート	・急峻の上、上部は岩場があり注意	を要する。	7
犹	・南麓は、3月末であっても今年は	雪が残り、	上部は特に多く、アイゼ
规	ンが必要であった。		

< 45>

天狗岳・硫黄岳 (2646m) (2760m)

大串恵子

銀世界の中で

八ヶ岳は私にとって本格的な冬山初山行となりました。

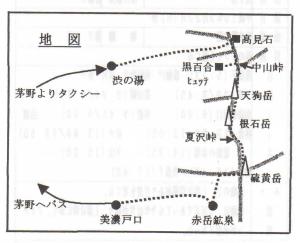
渋の湯登山口から出発。途中の高見石小屋で 昼食をとったあと、見晴台から雪山の展望を 楽しみました。黒百合ヒュッテに 2 時過ぎ に到着し、その後リーダーの指導で、すぐ前 の斜面でピッケルを使っての登り方、滑落し た場合の止め方などをとても楽しくトレーニ ングすることができました。暖かなヒュッテ の中に入って、ビール、ウィスキー、赤ワイ ンで乾杯しました。誰が言い出したのか今日 はペアルックが多いとか。その内の一組がヒ ュッテのお兄さんと私。見えない糸で結ばれ ているとか。ウフフ…オホホ…と笑い声が絶 えませんでした。

夕食後も、お酒を飲みながら…、山の歌を口ずさみながら…、山へのロマンを伺いながら…、とても楽しいひとときでした。

外に出て空を見上げると、「アッ流れ星」。八ヶ岳の美しい星空に、寒さを忘れて大満足。 病み付きになりそうなウィスキー入りのシェルパティを飲んで床に就きました。

2日目は4時起床。一枚重ね着をして外に出ると温度計はマイナス10℃、不思議と寒さを感じませんでした。

さあ、これからが本番。アイゼンが外れないようにしっかりつけて出発。ヒュッテを後に、 静かな銀世界の中に入って行きました。



尾根に出ると、初めて見るエビのシッポ (霧 氷) が、太陽の光でキラキラと輝いていまし た。ポキポキ折って口に入れ、のどを潤しま した。

最初の天狗岳には、前日のピッケルのトレーニングを思い出しながら、白一色の急斜面を一歩一歩登りました。12本爪のアイゼンが効いているのを実感しました。

恵まれた天候とはいえ、風がとても冷たく、 また時には強風が体にぶつかってきて顔が刺 されるように痛く、大自然の厳しさに驚かさ れました。

夏沢峠の無人小屋を過ぎ、硫黄岳の登りに差掛かりました。だんだんと疲れが出てきました。この厳しさは自分との戦い。挫折はできないという気持で、精一杯体力を振り絞り、やっとの思いで頂上に辿り着きました。その瞬間はホッとしたと同時に、「ヤッター!」という喜びと感動で胸がいっぱいでした。頂上で、目の前の雄大な真っ白い山々を眺めていると、本当に自分の力で登り、自分のりで見ることができているのが不思議なくらい。厳しく壮大な銀世界の中では、自分達の姿はとても小さくか弱い存在に思えました。

今回の山行は、私にとってとても厳しく辛いものでした。しかし、本格的な冬山の山頂に立つことができた今、達成した嬉しさと雪山の素晴らしさに、たいへん満足しております。 ふるさと秋田は雪国。銀世界の中になんだか温もりが感じられて、雪と戯れた子供の頃を思い浮かべながらの2日間でした。

これにめげずにもう一度トライしたいと思っています。ご指導ありがとうございました。

山名 天狗岳・硫黄岳 山行形					行形式	山小屋泊		
日申	寺	平成 10	Z成10年3月28日~29日					
山坑	或	八ヶ岳	ケ岳 地図 松原湖·蓼			八ヶ岳西部		
目白	勺	冬山体駅	交道	通機関	中央本タクシ	線・ ー・バス		
日程	28日		渋の湯 10:07→高見石 11:50/12:27→ 中山峠 13:45→黒百合ヒュッテ 14:16					
性コース	29 日	→根石	5岳 8:2 岳鉱泉 1	8/8:35		岳 7:40/7:50 : 10:15/10:20 : 濃戸口		
ルー 状態					アイゼンピッケ	ン装着。 ルを使用。		

(m 7.8 年 1)

点所数0 至十二

177世後の最下海の最大のでは、大きの最後を表して

THE WAY THE TAX BOUND RESERVED AND A STREET

平成 10 年度 (1998年)

平成10年4月~平成11年3月



< 46 >

並 山 徳

1116.7 m)

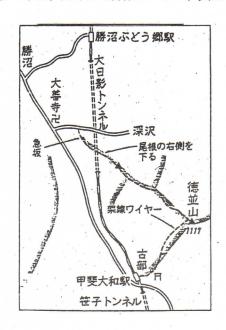
宮坂 広子

早春のやぶ山と桃源郷

中央線の甲斐大和駅で下車をして、 地図に、山の名前もルートもない登山が 始まります。

不安と期待感が、交差しております。 早速、一歩目から地図とコンパスが頼りです。 甲斐大和駅の裏手から先ずは、送電線の塔 を目指し、古部の集落に入り、畑の中を 歩いてよいのか迷いながら先へ進むと 梅林に入ります。残念ながら花はなし。 枝尾根に向つて立ち木を掴みながら、 あるかなしかの足跡も参考にしてナラ、 クヌギの急斜面を登ります。
大善寺を参拝し、喉を潤してお開きです。

林の中は、爽やかな薄紫のツツジ、黄色の



アブラチアン、黄緑のキブシと小鳥のさえずり が、心を和ませてくれます。

尾根を北上すると視界が開け、南西方向に 石和あたりと南アルプスがみえます。さらに ナラ、クヌギなどが茂る岩がちの尾根の急登と なります。大岩の左を巻いて山腹をさらに急登 すると、やつと主尾根となり、右に直上すると 徳並山の頂上です。山頂はナラ、クヌギ、モミ の木に囲まれて展望はありませんが、四等三角 点があります。

これから西下する尾根の上下は長丁場です。 岩がちの急下降が続き、大きな岩場を巻いて下 ると、今度は小さな上下が多くなります。 ピークを越えるとアカマツの疎林の中を急下降 します。右側寄りを進むと踏み跡もはっきりし 突然前方が開け、勝沼の町、その彼方は甲府盆地 さらに南アルプスの大展望です。

桃源郷の桃色が鮮やかで印象的でした。 ようやく里に降り、桜の木、花が見事な国宝

山名	徳並山	山行形式	日帰り				
期日	平成10年4月	平成10年4月11日					
山域	南大菩薩	地図	笹子 . 石和				
目的	早春のヤブ山	交通機関	電車				
日	我孫子駅 5 : 12-立川-甲斐大和 8 : 10、8:20-						
程	徳並山山頂10:15、10:50-945m通過12:00-						
コ	大善寺13:05、13:30- (タクシー)-ぶどうの丘						
ス	-勝沼ぶどう	- 勝沼ぶどう郷駅16:30、16:59-新宿					
ルート	岩場						
状況							

石裂山

(879m)

原田君子

岩場・アカヤシオツツジ

森 1ケ個行のケ刻ス想 中立

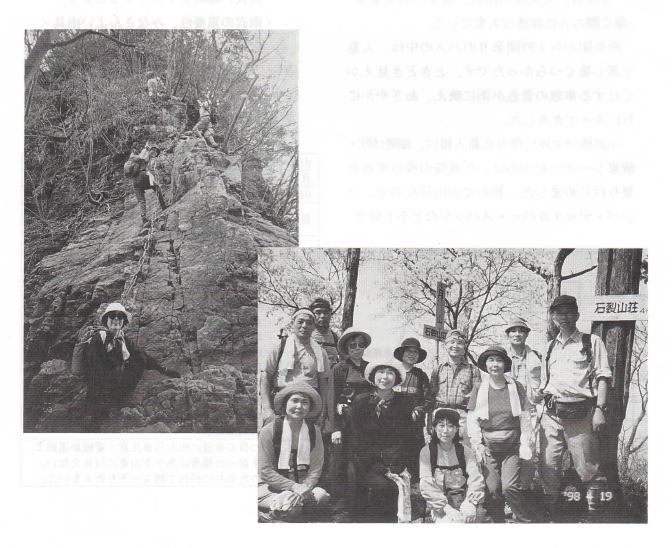
標高 879 m、岩場も初心者向きとの事で参加した。山はもう初夏の様子で至る所にやまぶきの黄色が目につく。千本桂はりっぱ、太い幹からでたわき芽がまっすぐに天を向っている。ハート型の若葉が日をうけてすけてみえるのも美しい。

奥ノ院下の岩場はクサリも太くて重いし岩場は濡れていて滑りやすい。とにかく登らなくてはと思うと腕に力がはいり、足は滑ってクサリにぶら下がってしまう。皆、真剣で声もでない。全員が登り終えて一休みをしていると他のパーティーはまき道をしてゆうゆうと登ってくる。なに?まき道があったの?

東剣ガ峰をくだる岩場はほとんど垂直に近い。下りれるかしら、すこし心配。順番待ちをしている間、他の人の下りるのを見ていて少し落ち着く。くだりきった時のホッとしたこと。きっといい顔になってたと思う。

アカヤシオツツジは満開。岩場もツツジ も満足。

「岩山も、下りてしまえば、また楽し」





"歓迎"ようこそ芽吹きの山へ

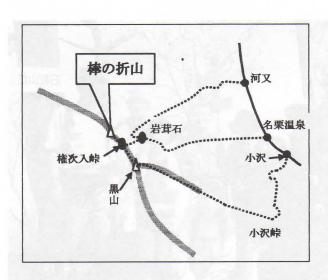
奥武蔵の山域は標高が千メートル前後までと低く、急な岩場がほとんどない初心者向けのコースが大半です。

いよいよ春本番、初めての山行、眠れぬ 夜を明かしました。窓の外は雨、決行?中 止?どっちかな…みんなの心は山にむかっ ていました。

35名、大人数の山行、電車バスを乗り継ぐ際の人数確認は大変でした。

飯能駅から1時間余りのバスの中は、人息で蒸し暑くつらかったです。ときどき見えかくれする車窓の景色が雨に映え、あざやかに目に入ってきました。

小沢橋バス停に降りた新人組は、細野(清)・ 清家リーダーを中心に、八重桜の残る車道を 登りはじめました。初めての山行なので、カ ッパ・ザックカバー・スパッツなど不十分で



す。天候が回復することだけをねがっていました。雨の中、木々の間を何時間歩いたでしょうか。視界はひとつもありません。雨にぬれた若葉があざやかに気持ちをやわらげてくれました。途中、悪天候での行動で、疲労が倍加し体調を崩してしまう人もいました。

全員無事、山頂へ。拍手で迎えられました。 頂上をきわめた達成感と充実感でいっぱいで す。

あたたかい雑煮がまっていてくれました。 先輩、有り難う。

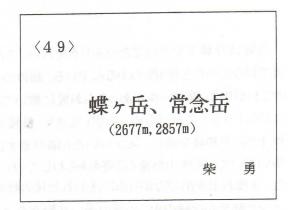
下山。雨のため予定ルートを変更し、4班 とも同じ名栗温泉経由のコースをたどりまし た。途中、故障者がで、行動をストップして しまいました。

反省

- ・睡眠不足を車内で補うのはむり。前夜、睡眠を十分とりましょう。
- ・雨衣の重要性、みなさんよい雨具・ 衣類をえらびましょう。
- 大勢での行動する難しさを教えてくれた。

雨雨雨…の新人歓迎山行でした。

山名	棒の折山	山行刑	约式	日帰	り集中登山		
月日	平成10年4月	平成10年4月26日(日)					
川域	奥多摩		地	図	原市場		
目的	新入会員との著 深める。	新入会員との親睦を			西武池袋線・バス		
B	1.2 班 西武池袋駅 6:34〜飯能駅 7:41〜(バス)〜小が 8:15〜小沢峠 9:10〜黒山 11:25〜権次入峠 12:00〜棒の折山 12:10 3.4 班 西武池袋駅 6:39〜飯能駅 7:41〜(バス)〜河ブ 8:17/8:40〜有間ダム 8:55〜白谷沢登山口 9:10〜岩茸石 10:25〜権次入峠 10:50〜 棒の折山 11:05 全員 棒の折山 1:25〜岩茸石〜一つ目の車道 2:20〜名栗温泉 2:55/4:25〜飯能駅 5:10/5:26〜 西武池袋駅						
程							
7							
ス							
状況	一つ目の車道に り下がった場所 このため左にも	近にあり	下山	者には	見えない。		



自然は気まぐれ

雪の穂高連峰の展望と春山のGW合宿が今回の山行の目的。今年は春の到来が2週間以上も早く残雪も例年より極端に少なく感じながら上高地から徳沢園のキャンプ地まで行程を進める。春の香りのフキノトウは完全に葉を開いて、既にニリンソウの群生の白い花が咲いていた。キャンプ地は赤、黄、緑や青のカラフルなテントが緑の芝生の上に張られ、芽吹き始めの小梨や、ハルニレの大木の下で思い思いに気ままな時を過ごしている。今日は早い時間に着いたので、二人だけの男の料



理を用意しながら先ずは健康と安全を祈って 乾杯。二人には広すぎるテントの中で程よい お燗のお酒。まさに春宵一刻値千金……

それでも明日が早立ちなので、7時位には 床に着く。 だが夕方からの雨と風は時間 と共に激しさを増し、ついには、寝ている顔 に強風雨のために雨漏りとなった。雨に痛め 付けられて二日目は停滞し、テントを始め昨 夜濡れたものを1日かけて干した。

1日停滞したためそれを取り戻すため 2時に起き、3時にテント場を出た。もちろんヘッドランプを点けての出発となるが、可なりの急登が続き全然ピッチが上がらず、蝶ヶ岳に着いたときには予定の時間を1時間くらいオーバーし、体調を考えると常念岳まで往復することは断念した。

蝶ヶ岳からの白銀に輝く常念岳や槍ヶ岳、 穂高連峰の展望は素晴らしく、コーヒーを沸 かし昼食を取りながらの休息はまさにゴール デンタイム。新装なった蝶ヶ岳ヒュッテは休 憩室も有り、自炊するには便利にできている

残念だったのは自然の気まぐれで稜線には 雪が殆ど無かったことと参加者が2名と少な かったことである。

山名	蝶ヶ岳、常念岳(C) 山行形式 テント
期日	平成10年5月2日~5日
山域	北アルプス 地図 上高地
目的	GW合宿、雪の穂高連峰の展望
	1日目 曇り後激しい風雨
	我孫子5:30~新宿6:30/7:00~松本9:38
	/9:50~上高地11:50/12:10…徳沢園14:
コ	00 (テント泊)
1/4	2日目 雨のち曇り
11	3日目 晴れ
1.16	徳沢園2:00/3:00…長塀山6:40/6:45…
ス	蝶ヶ岳ヒュッテ7:50/8:15…蝶槍8:40
	蝶ヶ岳8:45/8:50…ヒュッテ泊
1.00	4日目 晴れ
11111	ヒュッテ5:00/6:35…長塀山7:10…徳沢
14	園8:55…上高地11:00~我孫子21:00
1 1/10	
1109	1997 / MS (1997) 10 1 6 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
1704	1種-洗練 日本日 東京 同の日東

< 5 0 >

武川岳

(1052m)

小川洋子

幻想の向うにこわい現実が…

『前夜から降り出して午前中は大雨』の予報が少しづつずれて、当日朝5時に家を出る頃降り出した。今日の山は急坂が多いらしいから大雨ではルートの変更もあるだろうと覚悟して電車に乗る。しかし、電車を乗り継ぎ名郷でバスを降りる頃には雨は上がっていた。準備体操の後、雨に会わないことを祈りつつ、9時に歩き始める。

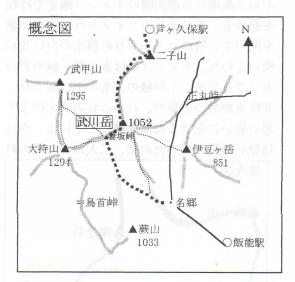
林道を歩くこと50分、妻坂峠登り口に着く。 水を含んだ杉の枯葉の絨毯を踏み締めながら小さな沢に沿って山道をゆくと、30分程で妻坂峠に。晴れていたら望めた筈の武甲山は濃い霧に包まれていて残念。しかし、深緑の中を涼風を受けながら歩くのはなんとも気持ちの良いものだ。濃霧の中の緑のトンネルは、回りが見えないだけに幻想的で、別世界に迷い込んだような思いにさせられる。

峠から30分程急な直線的な尾根を登ると**武** 川岳に着く。霧がなければここからも武甲山、伊 豆が岳が望めた筈だ。雨が降らないのを感謝しな がら、一回目の軽い昼食をとる。

所々に姿を現したサーモンピンクの山ツツジを楽しみながら、ゆるやかな尾根道を歩き**蔦岩山**へ。霧が少しづつ晴れて来た。滑りやすい足元に注意しながら急坂を登り下りし、三番目のピーク**焼山**に。ここで二度目の昼食をとる。ここから又細い尾根道を歩き二度目の長い急坂下りを経て、**雄岳・雌岳**の二子山へ。

急坂は今朝までの雨でたっぷり水を含み、こんな 筈ではなかったと思う程ぬかるんでいる。超のつく程 のこわがりは、段ボールがあったらお尻に敷いて滑り ながら下りるのにと、うらめしい思いしきり。最後の急 坂下りに全神経を使い、気がついたら陽の差す道を 歩いていて、両神山が遠くに姿をあらわしてくれてい た。木洩れ日を浴びながら雨に洗われた後の朴の大 木など鮮やかな緑の中、小滝の多い兵野沢を下り芦 ケ久保駅に到着。

太陽が一杯の山行も楽しいが、霧が深く立ち篭め 幽玄な世界を堪能するのもまた良しの山行となった。 リーダーに感謝し家路につく。



<概要>

山名	武川岳 (A)		山行	形式	F	帰り
期日	平成 10 年 5	月17	日) 雨後ち晴 正丸峠、原市場(2.7 5 千)			
山域	奥武蔵	地図				
目的		変わりゆく武甲山を眺め ながら、深緑の尾根歩き 中村隆秦			交通機関 電車ス	
リータ゛ー	中村隆泰				数	14名
歩行 時間	6 時間 50 分(含む休憩・ 昼食延べ 90 分			費用	費用 1,621 円/ (池袋起点)	
日程コース 日	程 1 蔦岩山 11:55…焼山 12 7 雌岳 14:10/14:30…芦ヶ				6 11:1 ··雄· 所要	10/11:25··· 岳 13:50··· 長時間:6時

< 5 1 > リーダー岩登り研修 いわ やま 岩 山

高橋英雄

『 歩幅は小さく 体は起し 三点確保 』 を唱えて

新鹿沼駅から歩いてしばらくすると日吉神社が見えてくる。その神社下の広場は木製のベンチが置いてある地元のゲートボール場で運良く、きょうは無人。これから始まるリーダー研修場はここに決まり。

まず、村松リーダーから各人に分厚いコピー《リーダーのために》文部省監修、が配られる。計11部をコピーしてきたリーダーの心意気にうたれる。

テキストに照らし机上講義がはじまる

- ① 山の注意事項、
- ② リーダーの役割、
- ③ 歩行、休憩の取り方、隊列の組み方
- ④ ロープワークについて
- ⑤ 山の天気、地形図の読み方
- ⑥ 緊急時の対策
- ⑦ 犯してはいけないこと。

その後は青空実技が行われた。

危険な場所の歩き方、

ロープの処理、ビレイ、末端処理 … ブーリン、8の字、フューラ結び、。

お互いに眼を輝かせてこれぞ手習い! 以上が神社下での講義と実技である。

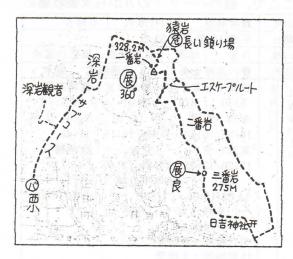
いよいよ岩山に向かう。神社の石段を登り本殿と参道を分ける車道を左手に進むと「岩山ハイキングコース入口」の道標がある。 ヤブとヒノキの林を抜けると伐採地に出る。 正面にどっしりした岩場が見えてきた。これが A 峰である。入口に案内板があり、コ ースの概要を知る。標高 328m の一番岩を 最高峰として変化に富む岩場が次々と現れ るという。

いよいよ岩場の実技が始まる…。村松リーケーが岩に取りつき手際良いロープさばきは見事で感心する。リーダーの指示により各人一人一人が三点確保の原則を頭にしっかり入れ体験する。確保されているザイルに勇気づけられ 20m の岩壁を登り降りする。『歩幅は小さく、体は起し、三点確保』を唱えながらうれしい時間を持つ。昼食後2度目に挑戦。ブルージック結びでビレイして登り降りする。このころから雲行き怪しく小雨になる。濡れた岩は危険、やむなく撤退となる。またしても村松Lのロープの撤収に見惚れる。

私にとって岩登は初めてで良い体験でした。 駅前では、本当の反省会。岩の感触が興 奮を呼び、話はいつまでも続いた。

(山行目:10年5月24日)





< 52>

霧降高原

(1, 158m)

大高 典子

花と展望と高原

霧降高原は日光の北側に位置し、展望にも 優れ、ニッコウキスゲの大群生地として知ら れており、ツツジや、紅葉も綺麗な所です。

今回の山行目的の一つ、ツツジを楽しみながらのハイキングでしたが、今年はツツジの開花が早まり、満開期には間に合いませんでした。

けれども、レンゲツツジ、シロヤシオツツ ジなど、所々残っている花々を楽しみながら 登ることがでました。

もう一つの目的は、本格シーズンに向けて のトレーニングということで、リフトは利用 しませんでした。

駐車場近くの登山口から新緑の樹林に入っていくと、まだ5月だというのに、真夏を思わせるような蝉の声に驚かされました。

高原ハウスまでは展望もないのですが、丸山へ進むと、山頂から広く澄み渡った空と、新緑に覆われた赤薙山、男体山、霧降高原一体が眺望でき感激しました。

ここで、他のパーティの方から大笹牧場の

山名	霧降高原 山行形式 日帰り
期日	平成 10 年 5 月 31 日 (日)
山域	日光 地図 日光北部 鬼怒川温泉
目的	春の高原を歩く 交通機関 電車
日程&コース	我孫子=北千住=東武日光—霧降高原 5:30 6:31 8:31 9:00/9:15 キスゲ平 ・・・ 丸山・・・八平ガ原 10:35/10:40 11:00/11:15 11:45 高原ハウス ・・・昼食 ・・・ 合柄橋・・・ 12:20/12:35 12:40/13:40 14:15 大山 ・・・ 猫の平分岐・・・ つつじが丘 14:55/15:05 15:20 16:10/16:28 ー 東武日光 = 我孫子 16:40 歩行時間:5時間 休憩時間:2時間

牛乳を戴いて(?)エネルギーを補給し、 ここから八平ガ原を経て高原ハウスまで戻り、展望の良い所で昼食にしました。

メニューは肉じゃがです。大串さんの初リ ーダーをお祝いしてシェルパティーで乾杯し、 豪華な昼食に、皆さん大満足でした。

合柄橋への道すじは、カラマツやツツジな どが茂る中を下って行きます。

紅色のすじが入ったサラサドウダンが満開でこぼれんばかりに綺麗に咲き誇っていました。

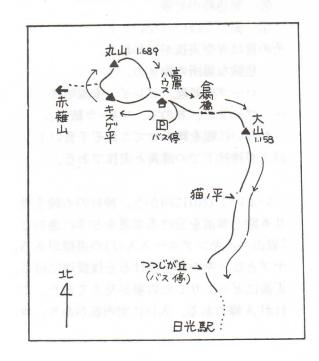
ここで大桃さんの胸に、3センチ位の小さな蝉がブローチのように止まっていて、かわいい姿に心が和みました。

まもなく牧柵に突き当たり、柵を越えると なだらかな高原にでました。

広々とした緑色の牧草地を大山へ進みます、 暑さと登りが少しきつかったのですが、大山 山頂からも日光連山の展望が広がり素晴らし かった。

大山から猫ノ平分岐へと進み、ここから霧降の滝へ行く予定でしたが、時間の関係でエスケープルートへ変更し、つつじが丘バス停へ向かいました。

人数が多く予定に変更が生じるなど、いろい ろありましたが、天候に恵まれ、ツツジと展 望と山の素晴らしさを十分満喫しました。



<53> **丹 沢 山** (1、567m) 原田 君子

花 シロヤシオをもとめて

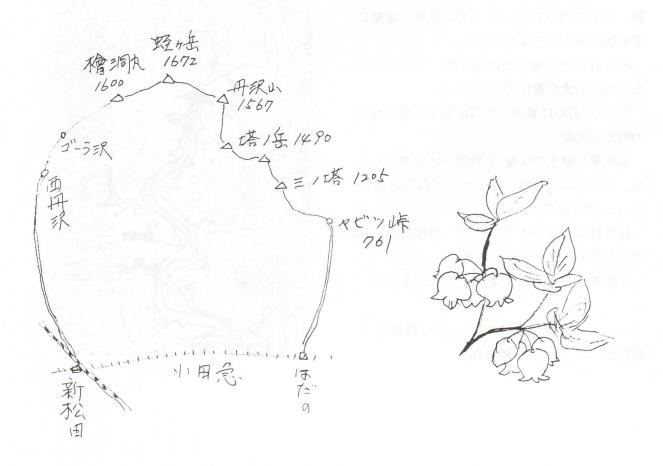
前日の天気予報は嘘つきだった。午前中には雨が上がるとのことだったのに。でも、一日中小雨と霧に包まれた見晴らしの悪い緑も、しっとりと雨に濡れてとてもきれい。霧の中に白い花がひときわ目立つ。うの花(ひめうつぎ)は、いま花ざかり。シロヤシオつつじを気にしながら二の塔、三の塔、塔の岳に向かって歩く。塔の岳近くで鹿二頭にであう。我々の歓声に驚きもせずゆっくり草をたべている。

塔の岳ではザックをおろしてゆっくりコーヒータイム。塔の岳からの展望はすばらしい? 南に相模湾、西に富士山、東には大山、北にはこれからめざす丹沢山。でも、今日は霧、霧、霧、何も見えない。雨と霧の中で素晴らしい景色を想像しながら温かいコーヒーをいただく。

ゆっくり休憩のあとは丹沢山(1567)まで約1時間、いっきに登る。塔の岳から丹沢山までのブナの林はすばらしい。霧の中に現れる見事な巨木に圧倒される。倒木にも若い芽が出ていて、自然のすごさにタダタダ感激、1時間を黙々と歩く。

2日目、鬼ケ岩ノ頭、蛭力岳、臼力岳、檜 洞丸。急な坂を登ったり降りたり、喘ぎあえ ぎついていく。

今年は花が全体に3週間も早いそうでシロヤシオはもう終わっていた。けれど、霧の中でのブナ林は幻想的で雨もまたいいかなと思う山行でした。



< 5.4 --1 > 全国いっせい 清掃登山クリーンハイク

七里川 (追原周辺)

細野省二

県の最北部、我孫子に住む私にとって常に 関心をもっている地域は関東北部の山々であ る。それに対して千葉の山やま、房総の中央 部は意識と距離にしても遠い存在でしかなか った。

7日 クリーンハイク

○集合場所(10時30分)- 英和田畑 地元物産店 A 莨和田から上流八 B 臼岩様から下流八 組制以し、マサケード分享して行動

01":集結場片(13時)…追原1079構

Om 温度を介用でした。用度は ミソオも名べ、その後.対 発して指定路がに集結

〇七里川温泉八

500m (14:30 2"3から) デ生省の大・豊温ない 入治する(交流も).

しかし自然を無意味なダム建設から、美しい自然の山川を守ろうというふわくハイキングの方たちの旺盛な活動を知り、また、<u>労山の全国一せいクリーンハイクのアピール</u>=その視野の広さと心意気にふれ、今回は気合を入れ、仲間と参加した。

THE SEE SEE SEE

七里川に沿った林道から見るときれいな川 床で、美しい自然が保たれている。だが、川 に入り清掃作業にはいると、空缶、産業廃棄 物、なかにはラジエーターまであり、運搬に 手や腕が痛くなるほどでした。

-8 ヶ月ぶりに履いた渓流足袋。うつくしい 七里川の清流を遡行するたのしさ。

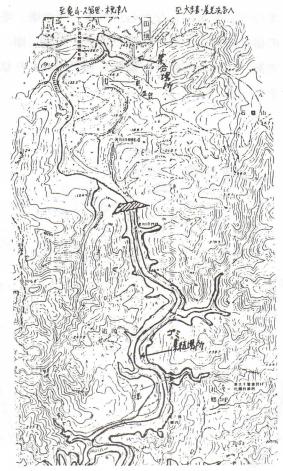
クリーンハイク追原に参加した 70 名余の労山仲間 の明るい笑顔。

電車乗り継ぎで往復 7 時間かけて参加したが、いくらかお役に立ったのだろうと思うと、、、、満足感でいつばい。

帰りはヒル2ひきも同行? お風呂で、私 のからだから丸々として発見!。

これまたヒルさま大変満足されたようで…

…… 県連会報ちば への 投稿よりあびこ 細野省二



< 54 - 2> 全国いっせい 清掃登山クリーンハイク

* 七里川 (追原周辺)

安田みずほ

川がきれいになること うれしいな

木更津駅よりJR久留里線で約1時間。 終着駅、上総亀山より地元のふわくハイキングの青年が迎えに待っておられた。その 車で目的地の七里川へ。静かで昔なつかし い風景。車が1台すれ違うのがやっとの狭 い道だがけっこう車が行き交う。

集合場所の地元物産店にはすでに、労山の仲間、50~60名の人が集まっていた。 柴さんに借りた地下足袋を履いて川へ入る 用意をする。すでに先頭のグループは動き 始めている。川水は思ったほど冷たくない。 水は澄んでいてきれいだ。木々はよく茂り、 何十種類もの温暖性の樹木がのびのびと育っている。



川底をよく見ると空缶や陶器のビンのかけら、 布やビニール等けっこうある。回収用ビニー ルの袋が破れそうになる。ずいぶん集まるも のだ。

かなり川上では廃屋の材木やトタン板、そして タイヤ、自動車のエンジン部品らしき重い金属 部品を回収する。

驚いた事に川の中で温泉が出ていた。

なぜか山ヒルがいて恐々のゴミ拾い。細野 Lはヒルに好かれたようだ。

何も考えずに参加したが、全国各地の山や川 が少しでも綺麗になったと思うと嬉しくなる。 ここまで遠いのでちょっぴり大変。 ふわくハ イキングの作ってくれた味噌汁がうれしい。



みつめてください

千葉 北澤真理子

東大演習林の深い森に守られる鳥やちいさな 東大演習林の深い森に守られる鳥やちいさな 東大演習林の深い森に守られる鳥やちいさな

けものたちのいとなみ



追原、七里川の自然を観察する みなさん

を許してしまっていいのだろうかというというできまっていいのだろうかを許してしまっていいのだろうかというれてしまった今というできまった。

わたしたちのふるさと房総の自然がもう十分

やがて人間だって住めなくなってしまうから鳥やけものの棲めないふるさとは

誠実に今を生きてふるさとの自然を守る方法を

みつめてください

三番瀬そして追原のこと



呼吸して酸素をつくる三番瀬

人が憩い魚が生まれ

いのちのゆりかごここ三番瀬を埋め立てるの

痩せて疲れた旅鳥に残された最後の中継地

今年も鳥たちはやってきた

この点のように僅かに残された三番瀬をめざ

「面積がなく位置を示すだけ」なのだという

数学で点といえば

紅葉が美しい七里川―雨が降ってもにごらない川です =千葉・北澤真理子さん撮影

(ふわくハイキングサークル)

< 5 5 >

伊豆ケ岳 (新人研修山行)

庄司 洋子

鎖場で、岩登りの基礎を

体験する (三点確保…)

少し肌寒い朝、天気は曇り、雨でなくて ほっとする。足ならしがてら東我孫子駅へ 急ぐ。

今日の山行は私たち3期生の研修が目的で、車中で早速、ロープの結び方を教えていただいた。何だかはんぶん手品を見ているようでなかなか思うようにならない。これは普段、日常でも使えそうである。

正丸駅改札をでて線路をくぐると登山道、小川沿いを山間の大蔵山集落へと入っていく。やがて馬頭観音がたつ大蔵分岐点に到着。ここから伊豆ケ岳へ直行ルートで向かう。伊豆ケ岳の手前に難所である鎖場がある。露出した山肌に下がった鎖、男坂といわれるこの鎖場で今日は岩登りの研修だ

三点確保、車中で教えていただいたロープを使って岩登りの基礎を教えていただいている途中で雨がぱらぱらと落ちてきた。 体験は中止となったが、ちょっと残念。研修中、他の団体が岩登りを始めたが落石を繰り返していた。下で受けるほうは怖いものだ。

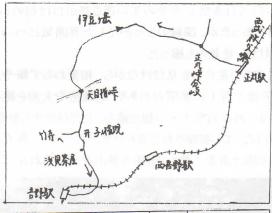
スリル満点の男坂の鎖場をあきらめて女 坂を通って伊豆ケ岳へ、標高 851メートル 晴れていたら頂上からは奥多摩や奥武蔵の 山々など 360度の眺望が広がるそうである 。これからはアップダウンの繰り返し、雨 の山も木々の緑が美しく、えも言われぬも のがある。

アップダウンを繰り返しながら天目指峠を越えて子ノ権現へ向かう。子ノ権現(天 竜寺)は足腰の神様として知られており境 内には重量2 t もの鉄の大わらじが奉納さ れているので山歩きの安全を祈願、特に登 りに弱い私はさらに願いをかける。

このころになるとお天気もいくらか回復 してきた。お天気だったらむしろ暑くって 大変だったであろう。

山道から舗装道路になるとやがて浅見茶屋。ここでどんぶり山盛り手打ちうどんを食べる。とても美味しく堪能した。お腹はいっぱい、あとは西武秩父線吾野駅にむかって、ひたすら歩く。

今回の新人研修山行は、さらに急な山道 での登り降りの歩き方も教えていただき、 たいへん実りある山行でした。



山名	伊豆ケ岳(A)	山行形式日帰り			
期日	平成10年 6月 7日 (日) 曇り時々	9々雨			
山城	奥武蔵 地 図	正丸峠・脚	京市場 1/25000		
目的	新人研修・岩登りの三点確保 ・ロープワーク	交通機関	西武		
В	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	≕正丸駅着 8:00			
程	正丸駅 … 大蔵分岐 … 伊豆	瓦ケ岳 …	古御岳 … 天目指針		
ם	… 子/権現 … 吾野駅 14:30/14:25				
	吾野駅 = 池袋 = 我孫子	R			

< 56>

くろび **黒桧山(赤城**山)

(1828m)

柴田節子

下山後の楽しみは覚満淵で

この山は火口原湖の大沼の東にそびえる赤城外輪山の一つで、この山域の最高峰である。その名を黒桧山と言うが、自分には赤城山の方がはるかに馴染み深い。梅雨の晴れ間の一日、珍しく女性ばかりの山行でした。

大沼を左に見て行くと小鳥ヶ島に架けられた朱塗りの橋が見え、赤城神社が祀られている。15分程歩くと舗装道路が二股に分かれている所に出た。登山口はその右側にある。この車道は沼田方面に向かい、ライダー達がはげしく行き交う。ササの生い茂る登山口は初めから急騰であったが、深緑のしっとりとした雰囲気につつまれて壮快、足並みも揃った。

名残りの花たちを見付けながら、相変わらず賑やかだ。道標の真上に展望台があり、地蔵岳や大沼を眺め小休止。再び岩や木々の根を踏み、ただひたすら登る。標高はなくても凝縮されて登り甲斐があった。三角点のある山頂は南北に細く、団体の登山者があふれんばか

りで、カメラに納まるのも大変な騒ぎで閉口した。その傍らでたくさんの食べ物とおしゃべりで過ごし、久々の遠足気分を味わった。

食後は駒ヶ岳に向かう。正面に地蔵岳、大沼を見ながらササ道や丸太の階段の急な下りをおり切って、平坦になった所が大ダルミで、駒ヶ岳には少しだけ登り返す。 山頂は目立たないので皆知らぬ間に通過してしまった。 ここから湖畔までは下る一方で、山道は整備され過ぎ、 鉄製の階段が次々とあり味気ない。

リーダーはサラサドウダンが目当てな様で、登りはじめから期待度大で、私も同感だった。しかし花期は過ぎていた。唯一、更紗模様のかわいい花をいっぱいに咲かせた樹をとうとう発見して、べたぼめをした次第でした。リーダーが写した貴重な一枚はこの山行を想い出すのに充分でしょう。下山後は小尾瀬と言われる覚満淵をさわやかな風に吹かれながらぐるりと一周したおまけつき山行でした。

<概要>

I I DU			V. Contraction				
山名	黒	会山 (A)		山行形式	日帰り		
期日	平	成10年6	月 21日	(日) 曇り			
山域	山域 上州 地図 目的 赤城山の最高峰に登る リーダー 外崎			赤城山(2万5千)			
目的				交通機関 JR両毛線、/			
リーダー				参加者数 6名			
歩行時	間	3時間20	分	交通費 6,680円			
日程コース	2 1 日	8.16 — (身 山 (0.50) [クシー) 登 駒ヶ岳(0 センターー	山口 9.15/9. 0.50) 下山口	両毛線前橋駅 25(1.20) 黒桧 13.35…覚満淵 駅 16.15/16.38		





前橋駅からバスなら 1500 円/人、 タクシーに6人乗って 1300 円/人。 ヒップの小さい人(?)ばかりでした

<57>

西沢渓谷 (最高地点1350m)

中村隆泰

森林のエネルギーを からだ一杯に

「雨の渓谷美を探勝」をテーマにしたが、残念ながら「さわやかな渓谷美」を堪能することになった。笛吹川の源流となるこの西沢渓谷は花崗岩の白い岩肌に清流が映え、四季折々の渓谷美を探勝できるところとして人気が高い。次々に現れる淵、釜、滝はまさにその美を競うように見事である。

進むほどに、轟々と流れる沢、見上げれば天井まで鮮やかな緑が深まり、たたずんで眺めたい衝動を押さえ、水飛沫にぬれた岩道に注意を払いながら、目だけは忙しい。

沢のフィナーレは「七ツ釜五段ノ滝」である。、滝が 釜をつくり、釜が滝をつくって流れ落ちる見事な自然の 造形美である。

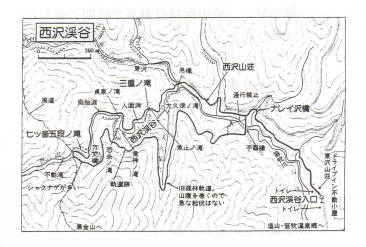
最後の急坂を登りつめたところで昼食。冷たいトコロテンが気持ちよく喉を通る。帰りは森林軌道跡の遊歩道をたどって、林の中をのんびりと下る。軌道の残骸がところところあって往時のトロッコの音が聞こえてきそうな錯覚を覚える。道端の花は単調な下りの山道に彩りを添えてくれていたが、花音痴の私には景色の一部以上の興味が湧かないのは、切角可憐に咲いている花に申し訳ないと思う。

出発点のバス停に戻り、「東沢山荘」で温泉に浸る。 簡単に腹ごしらえをしてバス停へ行けば長蛇の列。バスは超満員で、途中の温泉から乗る人たちは満員通 過で置いてけぼりだった。

梅雨の最中とは思えぬ爽やかなハイキングだったが、 お陰で深緑の中で森林浴を満喫、そしてゆったりと 温泉浴も。この充電が明日へのエネルギーに。 発句 梅雨晴れや 鳥のさえずり 滝しぶき 原田美和子 答案で 身にやわらかき 湯にひたり 高橋 証 沢しぐれ あち見こち見の 岩の道 読み人知らず

尚、この渓谷は次のような100選に選ばれていることを付記しておきます。

- ① 日本の滝100選
- ② 森林浴の森100選
- ③ 21世紀の残したい日本の自然100選



<概要>

Щ	名	西沢渓谷(グレ	٧-١:A)	日) 晴			
期	日	平成10年6	月21日(
Щt	或	奥秩父	雁坊	反峠、金	峰山		
目自	的	雨の渓谷美	を探勝	交通機関 JR, タケシー			
参加数 7名				リータ	- 原列	中村隆	
歩行	歩行 4時間20分(含む休				5320	円/人(ホリデ	
時	間	憩・昼食延べ	75分)	用	イハ゜ス、ダ	タクシー利用)	
		我孫子駅5:	25集合/千	代田	組練5:33	発=新松戸	
		=西国分寺	=高尾7:2	21/7:	26=塩	山着8:47—	
		(タクシー6250	0円/台)-	一西沢渓谷入口着9:35			
日		西沢渓谷入	口発9:45		沢山荘	生10:15…二	
程	2	股10:25…	七ツ釜五段	け滝	11:25.	·軌道跡	
7	1	11:40/12:3	5…西沢泊	溪谷入口14:05			
	日	所要時間:4	時間20分	(正	味 3時	間5分)	
ス		東沢山荘入浴(500円/人)14:10-15:00、西沢					
		渓谷入口発15:50-(バス1020円/人)-塩山					
Ç41		17:00/17:10	=立川19	:03/	19:08=	西国分寺	
4		19:25=新松	公戸=我孫	子着	f20:45		

< 58>

菩 確 大 (2057M)

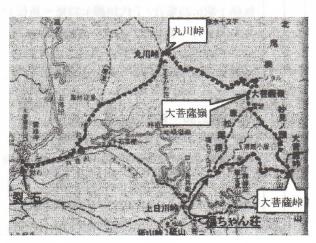
增田喜久子

パパラッチにつきまとわれて

朝が早い。成田線始発電車では間に合わな い時刻に我孫子発。大菩薩嶺山行の最初の苦 労はそれだった。ところがその先いくつかの 電車の乗り継ぎが、とんとん調子よく、しか も車内は空いていてゆったり。リーダーのご 苦心の選択でしょう。感服。

一行17名は塩山からのタクシーに分乗し て、標高1700mの福ちゃん荘まで15分 ほど。ちょっとギュー詰めで車酔い気味。霧 雨は降っているし、あーア。

ところが! 歩き始めて数十歩の谷川に大き な桃がドンブラコッコと漂っている。なんと、 タクシーからのプレゼントとのこと。歯にし みる冷たさ、甘さ。おいしい! タチマチ元気 ニナッチャッテ、小雨霧雨が降り続くなか、 雨談義など楽しみつつ大菩薩峠を目指す。峠 から稜線に出ると時々雲が切れて、富士山が チラリチラリと肩のあたりを見せていたり、



眼下には、塩山だろうか、麓の町が陽に輝い ているのが見え隠れしたりする。

頂上近くの雷岩でゆったりと昼食。久々に 二期生男性五人衆揃い踏みとか で、記念撮影などなど楽しげ。

頂上は2000mの山と は思えない大木が並んで眺 望なし。虫のせいもあって、 頂上を踏んだ感激も薄い。

やなぎラン その虫の話。----

ブヨだろうか、峠に出たあたりから頭の回り に纏わりつく虫が煩わしかったのだが、頂上 付近からその数がものすご一く増え、眼鏡の 中にも耳の中にも飛び込んでくる。うっとう しいこと、辛いこと、苦しいこと!払っても 払っても切りなく続くパパラッチの猛烈な襲 来。

この山行は2班に分かれての行動だったが、 わがB班にはS氏が久しぶりの参加。奥様の



上世世出

喪があけるまでは 謹慎している、と 宣いつつ、前を歩 くW女史と軽妙に

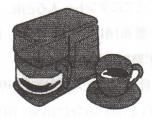


冗談のキャッチボ

ール。そこへB班隊列のしんがりを守るT氏 が加わって、漫談、漫才とにぎやかに、さな

山名	大菩薩嶺 山行形式 日帰り						
月日	平成10年6月	28日(日)					
山域	大菩薩	地図	大菩薩峠・柳沢峠				
目的	南アルプスと 富士の展望	交通機関	中央本線・タクシー				
日程コース	(タクシー)→福ちゃ 10:00/10:05→ 大菩薩嶺 11:30	ゃん荘 8:50, 雷岩(昼食))/11:35→丸 反省会)15:	塩山 8:12/8:16 /9:05→大菩薩峠 10:45/11/20→ 川峠 12:40/13:20 00/16:20 (タクシー) 冬子 20:20				
コー スの 状況	キングコー	ス。	楽しい稜線ハイ等の羽虫が煩い。				

がら動く寄席。おかげで多少は虫害を紛らわせることができたが、それにしてもイライラさせられる虫だこと! モーッ!



標高1500m の丸川峠小屋でコ ーヒーを注文して 大休止。やっと虫 も少なくなる。

インスタントコーヒーと思いきや、これが、 特注で煎ったオリジナルブレンドの豆を、手 回しミルで挽いて、湧き水でじっくりいれた 本格コーヒーだった。おいしい。このコーヒ ーと木彫で、小屋のご主人は何度かテレビに 出演しておいでとか。

スゴーイ、スバラシイと盛り上がっていると、ご主人は長いアルミの竿を持ち出して、『とっておきのモノを見せる』と小屋の脇へ。何が現れるか、ドキドキ、ワクワク、少しビクビクしながらついて行く。竿で払ったヤブ

草の陰に、ほんのりピンクの大輪の花が優雅な姿を見せた。 ヤマシャクヤクだそうな。 ――うっとり。



シャクヤク

『この峠から裂石まで4.3kmの下り、そのうち2kmは急な下り』と、かのご主人に教えられ、覚悟して出発。ひたすら下る。くだんの動く寄席はますます興に乗り、エネルギーを撒き散らしてくれる。おかげで何とか麓までたどり着いたが、私にはかなりきつかった。

裂石温泉は水風呂がメインの秘湯。さんざん虫に纏わりつかれた跡と汗を流してさっぱりする。このときは男性専用となった露天風呂も Very Good だったとか。

そして――あゝ、この世にビールがあってシアワセーッ!!! めちゃくちゃ甘くて飲み口の良いワインとおそば、それにサービスのプラムの味もなかなかのもの!



大串リーダーの気遣いに満ちたみごとな統率と、B班を牽引する中村サブリーダーの温和かつ厳格な歩程の進め方に導かれ、楽しい山行ができたことを感謝。

大菩薩峠

何といっても、中里介山の小説『大菩薩峠』の題名として有名になった山である。その書きはじめは、「大菩薩峠は江戸を西に距る三十里、甲州裏街道が甲斐の国は本山梨郡萩原村に入って、その最も高く最も嶮しきところ、 上下八里に跨る難所がそれである。・・・・」

古くから大菩薩の山は萩原山と呼ばれていたが、八幡 太郎義家の弟新羅三郎義光が奥州征伐の途路に、道案 内に頼んだ木こりが軍神の化身であったことが判り、戦勝 の吉兆と感激して『弓矢八幡大菩薩』を唱えて祈ったこと が地名の由来と言われている。

それはそれとして、現在の峠の北方に位置する妙見の 頭との鞍部に昔の峠があり、そこに妙見大菩薩が祭ってあった。それがこの山名の起因となったとみるのが正しいよう だ。

この山には昔からの伝説や史話, 民話がたくさん残されている。 地名の由来話とともにいろいろ探るのも興味深いことではなかろうか。

< 59>

田代山•帝釈山 大博多山

(帝釈山2060m)

中村隆泰

会津の山はいきいき

この山行は行く前から期待がふくらんでいた。私にとって初めてのテント泊と会津というなじみの薄い山域だからである。山歩き二年目の初心者にはテント泊の山行はまだ早いと思っていた。それなりの装備と体力が必要だからである。そのテント泊に参加を決意したのは「やまたん」の山行案内に「山麓テント泊」の文字があったからだ。昔の寝袋を引っ張り出し、分厚いマットを丸め、サブザックまでいっぱいにしての参加となった。

2台の自家用車を連ねて北へ出発(4:30)。ナビをしながら、トランシーバーを使って後続の大串車と楽しい会話。早朝の地方道路は通る車も少なく北へ北へ快調に進む。

塩原を過ぎる頃から山の緑の変化に驚く。山を隙間なく覆い光り輝いていた。大博多山登山口への途中、誤って横向沢に入り込む。一旦分岐点へ戻り、縦向沢林道を進む。普通車の大串車は腹を擦りそうなでにぼこ道を慎重に進む。

11時、林道終点から歩き始める。いきなり藪っぽい急登を40分頑張って稜線に出る。さらに1時間進み、一等三角点の大博多山山頂に着く。一等三角点に恥じない展望を楽しみながら昼食。下山後、村営温泉「赤岩荘」で赤い湯に浸る。テント場を探し

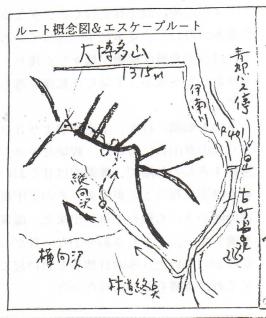
ながら進み、湯の花からそう遠くない場所に決定。 テント設営、炊事を分担して空を気にしながら楽し い夕食。後片付けもそこそこにテントへ入ると雨。テ ント内は蒸し暑く寝袋を敷布団にして横になる。打 ち付ける雨音にもめげず熟睡。

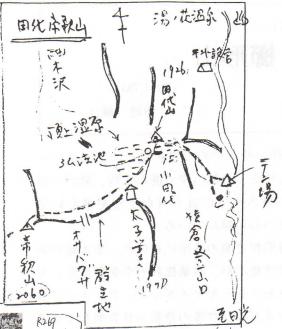
起床時間の3時半に合わせるように雨は上がり、5時に発車。田代登山口を5時50分に出発。田代山湿原には花が競い合っていた。チングルマ、ヒメシャクナゲ、タテヤマリンドウ、シラネアオイ、コバイケイソウ、ニッコウキスゲ、ツバメオモト、イワカガミ、ゴゼンタチバナ等々、たくさん見られたが、名前を聞いても3歩歩くともう忘れてしまう。

帝釈山はかっては秘峰といわれていたのに、なんと雨後のぬかるみあるも踏み跡ばっちり。 ピーク往復する人多し。頂上では雲が切れ、日 光の山々・尾瀬の山・会津駒など山座同定(意味 不明)を楽しむ。途中の登りで花に気を取られ て?、話に花を咲かせ? 列が間伸びしてリー ダーの怒りを買う。下り道はリーダーの注意通り、 「大きな間隔を空けない。各人のマイペースは許さ ない。ゴム紐のように伸び切らない」を守った。

下山後湯の花で入浴、行きと同じ道を逆に家路につく。「もしもし、一寸アイスクリームが欲しくありませんか?どうぞ」「いやあ、いま丁度同じことを考えていたところですよ。どうぞ」「じゃあ、牧場公園で休憩します。どうぞ」「了解!」。「もしもし、大串さん、おなかすきません?どうぞ」「いやあ、そろそろ来る頃だと思ってました。……」 みんなでキョロキョロ、地方道ではなかなか見つかりませんでした。

会津の山は原始的でスバラシイ。7 月というのに 山の緑が若葉のように輝いている。それだけけがれ ていないのだろう。紅葉の時期にも来てみたい。





8.30

海流村

南铜粉

思考·花

自新师

R/21.352,400

阜顶

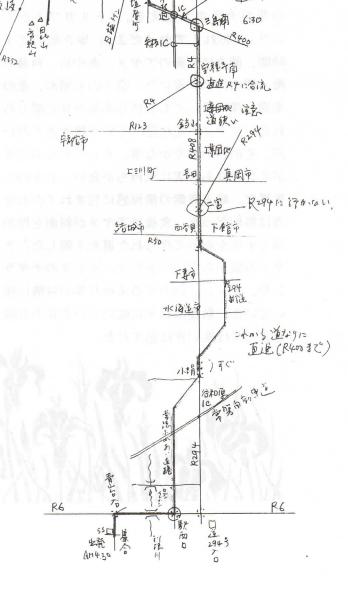
717.30

伊南村



/	HIII	ſ	rHr	-
_ /	W	ī	要	/

山名 田代山・帝釈山(B) 山行形式 テント泊							1		
期日	1	平成 10 年	7月	4 日~5	日 (日) 曇後ち	,晴、	一時雨	
山垣	龙	南会津	地 湯の岐、湯 図 会津山口、						
目白	5	湿原、帝彩等三角点の				交通機関	目	自家用2台	車
リー	ダー	細野省	_	07	11	参加者数	女	8名	
歩行間	 一	f ① 3 :: 休憩・		6:10(含	to	費用	2	4530 /人	円
日程 7	4 日	R408-1 R121-1 向沢林 稜線 1 終点 1	R4(R352 道~ 1:40 4:30	6:50-西 -R401- -縦向》 ····大博)赤岩珀	那須伊林子多山	读手-R294 野-R400- 村古町 10 道終点 11 12:40/1 泉)15:00/ 设営、炊事	-塩):0(:0(3:1 15:	原温泉 D-誤つ D/11:0 10…林 30-湯の	郷- て横 5… 道
コース	5日	5:00-数 田代酒 8:45/9 10:20/ 13:05/	读倉 !原? !20 '10: 14:0	登山口 { 7:05····································	5:50 日代1 里よし 山口 (牧均	又、朝食、ラ ・・・・小田代 山 7:20/7 ・)・・・田代」 12:00 - 湯 までアイスクリ 取手- 柴崎	湿」 :30 山 らのコ	原 6:50)····帝郑 花温泉 ム)-R4-	山



5

那

運動方特

陈石

< 60>

櫛形山

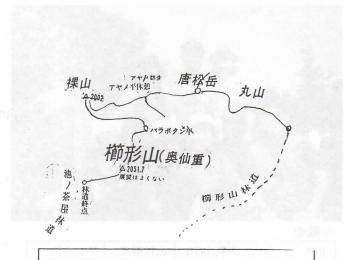
(2051.7M) 菊地 純江

東洋一のあやめの里を見たくてタクシーを走らせた。大部山深く進んだ時、鷲が一羽 気持ち良さそうに真っ青な上空を飛んいで た。私の心も弾んでいる。

1時間程で池の茶屋に着いた。歩き始めか らやや急登だが、落葉松林の中を登ると、カ ニコウモリやミヤマオダマキ、グンナイフウ ロ、マイズルソウ等の草花が目を楽しませて くれたので登る辛さは感じられなかった。櫛 形山は展望がきかない。前進し、しばらく行 くと尾根に出た。振り返ると南アルプスが望 めた。山々を渡って吹く風が心地良い。紫 の花がチラホラ見える。「トリカブトかし ら?」「あれ!アヤメだよ。」歩き始めて1 時間、前方に一面のアヤメ、あやめ、菖蒲の 海。裸山に辿り着いた。富士山も望め、花の 楽園。深呼吸しても心持ち空気が甘く感じら れる。アヤメの花は思っていた程大きくない が、その色の鮮やかな事、そして中心の花弁 がリンと立ち、実に気持ちが良い。日本画の 世界だ。緑と青紫の清涼感に包まれてのお弁 当は格別だった。食後はアヤメが斜面を埋め 尽くす中をぬって作られた道を1周した。ア ヤメの間から白いショウマ、ピンクのナギラ ンや、オレンジ色のくるまゆり等が可憐に咲 いていた。私達は口々に咲いている花の名前 を言っては笑い声に包まれた。

アヤメ平を後に原生林を行くと、ダケカンバの老木が苔むし、見事に生い茂っている。根本にはシダや植床植物が瑞々しく茂り、ヒンヤリとした空気が、上気した私達を落ち着かせてくれた。

下山も順調に行き、予定時間より30分も早く丸山登山口に着いた。親切なタクシーの運転手さんのお陰で、桃園では甘くおいしい桃を格安に買うことが出来、その上甲州の人達の暖かさにも触れる事が出来た。温泉で汗を流して…。とてもさわやかな一日だった。忘れかけていた日本の自然美を思い起こさせてくれた素晴らしい山行だった。



コース:

JR 我孫子駅 5:30 -新宿 7:00 -甲府 8:26 -池の茶屋登山口 10:05 / 10:30 ~ 櫛形山口 11:10 / 11:15 ~ バラ・ボタン平 11:30 ~ 裸山 12:00 / 12:40 ~アヤメ平 13:00 ~ 唐松岳 13:10 ~櫛形山林道終点 15:00 ~ 甲府 17:24 ~上野 20:24



岳人祭

雨上がり、盛り上がる

7月11日(土) 午後4時より(集会の後)

<プログラム>

第1部 山でけがをしたら(骨折・捻挫・頭のケガなど)

第2部 テント講習あれこれ(設営、撤収)

第3部 納涼親睦会 (バーベキュー)

湖北台近隣センター

湖北中央公園

湖北中央公園

救急法 三角巾を使って

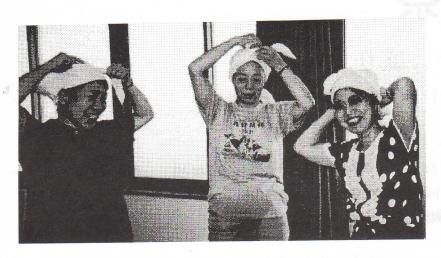
県連の救急法講習会を受講した4人が早速みんなとやってみました。簡単なようでなかな か難しい。いざというときに発揮できるよう、日頃の練習を続けましょう。



そうそう それ 引張ってみて

うまく出来ま した。





これ 私流 どうですか どこか違うなあ~



< NO. 61 >

西穂高~奥穂高 (2908.6m) (3190m)





ジャンダルム 衛兵の帽子"

このコースは、北アルプスの中で、もっとも厳しい縦走路という。逆層の岩稜が連続したやせ尾根は高度感もすごく、浮石、そして私の恐れている落石も多いという。起伏も激しく、10時間はかかるであろう縦走路を体力、気力、注意力が持続するであろうか。

-西穂山荘の悪夢-

7月18日(土)天気 晴。新宿発6:30。今日は西穂山荘迄である。上高地迄の渋滞具合から思うと、登山者はそれ程多くはない。若い外人さんには3回程も会い、「ハワユー」等と挨拶を交わし、気分時は不動力を接換を変われる。この時間を表に到着、16:30。この時は屋生活が始まる予はも思ったのに、からは大が少なかったのに、がまだされからからとはあったのに、まだを迎れており、まだもでで、まだを選出道は人が少なかったのに、まだもでで、またものであり、こことを選んで来るのだ。やめてくたまた。かくして1枚の布団に4人と決ま

-とうとうその日は来た-

7月19日(日)天気 晴。

明るみ始めた4:30山荘を出発する。 独標には5:48。それにしても、この独 標という名には魅かれる。孤高の人、単独 行の人、人けのない小さな山小屋の主人、 と言った切ないイメージがする。この独標 の先はピラミッドピークが尖っている。西 穂高には7:00に着く。ここ迄はウォー ミングアップの気持ちであったが、なんの なんの十分の登り下りであるが、道がしっ かりしているのは嬉しい。松本深志高校生 の落雷による遭難碑もある。正にこの龍の 様に細かくうねっている岩稜の尾根道で、 雷様に出会ったら逃げる術はないであろう。 このコースを7月末に計画したのは、落雷 が少ないと言う事もある。しかも梅雨の開 けか合間でなくてはならない。リーダーの ご苦労も大変のことと思う。今日はその狙 いもピタリである。西穂高の山頂からは焼 岳、乗鞍岳、そして、そして西には私の恋 する笠が岳が奇麗に見えている。「今度行 くからねー。」とは言ったものの上の空で、 気持ちはハンサムで危険なフランスの衛兵 「ジャンダルム」に飛んでいた。

急に人気の無くなった岩稜を気持ちを引きしめ歩きはじめる。ルンゼの長い鎖場を下り、トラバースで顔も引き締まる。これの時間と話迄に、狭い稜線で大小7つもがある。私達の前に、学生のワンゲル7~8人が大きな荷持で歩いている。でである。人が2人程いて、落石が何と見える人が2人程いて、落石が何と見える人が2人程いて、落石が何とり、外を着け、学生が休憩中先に出て、少り距離を空けホッとする。ジャンにも人が多

く来る様になったと思えたのは、この学生 達の為の少々の渋滞だった様だ。リーダー の「やさしく、やさしく、石を落とすな」 との声。忍者の4人は音も無く、しかし、 しっかりと踏み締め、確かめ、岩と語らい 進む。この集中、この緊張感、一体感。喜 びがこみ上げ、「山が好きです、穂高の偉 大な山に今登らせてもらっています」と素 直な素直な気持ちになってくる。天狗の尾 根も緊張の連続であり小休止の時は、寝ら れなかったせいか、こめかみが痛い。「ま だまだダヨ」と言い聞かせ進む。天狗の頭 から天狗のコルにかけては、鎖の連続。崖 下を意識して、両手でしっかり鎖を握った ら、ブレてしまった。「鎖はあくまでも補 助、自分の手足でしっかり」と峯子さんの アドバイス。オーバーハング気味の所では リーダーが「ちら」と振り返る。「落ちる なヨ」と無言で気使って下さる。...たぶ ん。私は安心して落ち着いて歩ける。



天狗のコルからは登りが続く。畳岩とはなる程と思う。逆層の大小の畳で岩が出来ている。そしてペカっと剥がれる嫌なヤツ。コブ屋根の頭あたりで休み、逸る気持ちを落ち着けながら、眼前のジャンを見上げる。登ってしまったら惜しい気もするが、衛兵に挨拶をして奥穂に行かせてもらわねば。

ジャンダルムも落石に注意しての登り下 りである。それに奥穂へ続く道と、ジャン の山頂への道と、今来たコブ尾根からの道 とが悪路の中見分けづらい。全く経験者と 一緒でないと難しいであろう。8月15日、 奥穂高ジャンダルム付近で踏跡が入り乱れ る岩稜で滑落、という事故報告が「やまた ん20号」に載せられていた。ジャンダル ム手前の岩稜をトラバースする所で、2番 目を歩いていた事故者によれば、足を置い た所が動いたことで、よろける様に岩に手 をかけたところ、両手の岩とも動いてしま い、さらにバランスを崩して滑落したと言 う。全くその通りの岩の連続で11:55 山頂でバンザイした時は、顔が引きつって いたかも知れない。衛兵への挨拶も終り、 ロバの耳の難場。オーバーハング気味の岩 を鎖の助けを借りて下る。しかし足を置い た所は切れ落ち、ヒヤッとする。そして続 く難場の「馬の背」というよりあのガツガ ツしたゴジラの背の様な岩場が続く。この 頃には幸か不幸かガスが湧き出て足下を隠 してくれる。この岩は比較的しっかりして いる様なので勢いをつけて「ぐいっ」と登 ると、なんと向う側に抜け落ちそうになり、 「オーッと」と岩にしがみ着く。ナイフエ ッジの背であった。こうして奥穂にやっと たどり着いたのが13:25。北岳(31 92. 4) より高くしようと積み上げた祠 にお参りをする。ジャンでは360.の素 晴らしい眺めであったが、ここではガスの 中である。最後の鎖と鉄製の梯子を下り切 ると穂高岳山荘であった。14:25。

難場はもちろん危なく、ホッとする時が 危ないよ、終りが近づくと危ないよ、と自 分に言い聞かせての山行。やっとホッとす る時が来た。好天の中で目を見開き、岩を 見続け、目が痛くてたまらない。部屋で暫 く目をつむり、満足感に浸ったのであった。 メンバーそれぞれ満足感で一杯の面持ちで あり、崩れて来る天候もさして気にしない で、本日は2人に1枚の布団の混み具合で就寝。

- 今回の山行は終った-

こうして上高地に着いたのは13:35。 人、人、人。さらに渋滞で松本に出る迄に 3時間かかるという。そこで日程に余裕が あれば、おススメは30分程で平湯に出て、 温泉に入る。

中でも駅から5分程の「平湯の森」温泉は、7つの露天岩風呂があり、入浴料は500円である。



ジャンダルムを背にして

そして平日ならば、飛騨高山発新宿行の高速バスにてスイスイ新宿に戻るのがベストと思われる。平湯~新宿は片道5,700円で4時間35分程である。私達はベストのコースを取り山行を終えたのでした。



ジャンダルム山頂にて

川名	四穗高~奥穗高 由行形式 由小屋泊(2泊3目)
<u> </u>	平成10年7月18日(上)~7月20日(月)
	北フルブス - 東 図 1/2万5千 上高地、観音
II M	北アルブスの中で最もハードな縦走路に挑む
	11111
	新宿(6:30/7:16) 松本(10:19/10:30) 上高期
	(13:00/13:35於食) 中尾根(14:55/15:03)
	四艘山莊(16:31/19:00剂)
	21111 + 1 - + 3 - 1 4 - + 3 + 1 4 -
11	四艘山荘(3:30/4:30) 独標(5:48) ピラミッドピーク
PE	(6:13/6:22) 西魏高岳(7:01/7:15) 天狗岳
J	(9:25/9:32) 3035mのコル (10:48/11:05세
T	食) ジャンダルム (11:55/12:05) 奥穂音岳
ス	(13:25/13:45) 魏高岳山荘(14:25/20:00泊)
	31111
	腰高岳山荘(5:00/7:05) 淘況ヒュッテ8:20/8:40)
	横尾山荘(11:03/11:13) 徳沢園
	(12:00/12:13昼食) 明神館(12:55) 上高地
	(13:35)
-	・個人装備: ヘルメット、カラビナ、シュリンゲ、ハーネス
ルート	・蟻 想:4年前の5月残雪期に独標までは来たが、その時の実力では
II.	ここまでが限界で、西穂高岳を後にして下山した。今度の訓
H	両は去年の夏に立てられた。西魏高岳まででも岩登りの技術
	が必要であり、さらにその先は高度な岩礁りの技術、ガレ場
	步行技術、長時間行動体力、平衡感覚、等 (柴 記)

<62> Ш $(2702 \cdot 2m)$ 安田みづほ

日本3名山と高山植物 ハクサンと名の付くお花に逢いたくて!

深田久弥の白山は余りにも有名で私には遠! 2日目19日は絶好の登山日和。 い憧れの山でしたがチャンスは以外に早く訪! 重い荷物はないしお花畑のエコ―ラインコ れた。三頭山以来の佐々木さんと金沢で合流。一スをルンルン気分で行く。どこか違う白 。(無事金沢に来れて良かった。池袋でのバー山と言う山。スケールの大きさか、深田久 ス乗り場に注意!)季節運行バスで約2時間:弥の故郷の山だからか、新鮮な驚きに包ま で別当出合い。トイレ、身支度を整えて記念しれた山。アオモリトドマツ、ハイマツ沿い 撮影をしていざ、出発。しかし、30分もすしの急坂を行くとそこは広々とした室堂平で ると重い荷物のせいか心臓がバクン、バクン一多くの人で賑わっていた。白山比ゆ神社で 辛どいよ―。人気の山だけに人が多く下山し! お参りをして紫の色鮮やかなイワギキョウ て来る人の頑張ってね、の挨拶に答えられなしの咲く道をどんどん登って行くと下に赤い い私。休みたい、休みたいと思って歩いた山:屋根の室堂がビデオで見た景色が目に写っ 。別当覗きに来ると随分と登ってきたと思うしてきた。白山に来たんだと感激が新たに湧 甚の助小屋でゆっくりと休憩したあと立ち上しく。霞がかったあれがきっと日本海。 がるのが辛かった。しかしここからひと登り:岩や白砂まじりの道を40分程登ると奥宮 で南竜分岐でたくさんのお花畑の出現に先程:があり白山最高峰の御前峰だ。見渡せば地 の苦しさをすっかり忘れてしまった。見上げ:平線が、雲海に頭を出している御嶽、乗鞍 れば正面に別山が美しい山容を見せている。二、そして槍・穂高・立山連峰の山やま。 左側は室堂への緑の斜面だ。南竜山荘でテン:「来て良かった!」と誰もが思う瞬間だ。 トの受付をして川を渡ると南竜ガ馬場の幕営: 三浦会長の満足の顔は忘れられない。 地。うす紫のハクサンフウロが私たちを歓迎:記念撮影をして剣ケ峰、大汝峰を横に見て してくれた。初めてのテントもあっという間:7つの池を巡りながらの室堂への散策コー に出来てしまって、夕食のコンビーフ入り野!スは楽しい。休憩した所にクロユリの花が 菜カレーは少し甘くて50点の出来だったが11輪だけ咲いていた。今年は夏の花が早く カボチャの苦手な佐々木さんも頑張って食べ:コバイケイソウ、ハクサンコザクラ、ハク てくれた。

:サンイチゲなど見られなかった。

室堂周辺はゆっくりと歩きたい所だ。

記念切手、絵はがき、バッチ、バンダナを買 ってハイマツ帯の中をトンビ岩コ一スを下る。 トンビ岩から赤、黄のテント場が見下ろせた。 正面の別山がこっちへ来いよ一と呼んでいる。 ここまで来たのだからと省二Lは一人別山へ 向かったが、途中霧がかってきた為断念した。 (次の機会に別山~経ケ岳ル―トで計画して 下さい。お花がたくさんだそうです。) 霧雨の中、それぞれの思いを語る5人の若人 達。二度と来れない山だと感無量の三浦会長。 いい山だ来て良かったと省二L。白山への思い が強く下見までしていた佐々木さん。来たい山 だったしたくさんの花に逢えて幸せと柴田さん。 チャンスは逃がすなと私。ゆっくりと語り合え たこのテント山行は私の山への興味を大きく広 げる事になるだろうか?この夜はけっこう雨が 降りました。

3日目20日最終日。ガスかかった夜明け。 晴れていれば文字通り最高の展望が得られる展望コースだが朝露に濡れたニッコウキスゲ、ハクサンフウロ、イブキノトラノオ、クガイソウ等に見送られテント場を後にする。霧に煙るハイマツ帯の幻想的な光景も忘れられない。室堂分岐で石川県にさようなら。石川、福井、岐阜の3県にまたがる白山。岐阜側の大倉尾根の斜面に「わすれないでよ」とお花の大饗宴にしばし足を止め素晴らしかった山行を胸にとどめた。









もうマツムシソウ、アザミなど秋の花が咲いている。大倉避難小屋で南竜山荘で作ってくれた朝のお弁当が美味しかった。小雨の中どんどん下りるリーダーを追いながらこれはテガタチドリグンナイフウロ、これはイワオウギ、ホタルブクロ、ナデシコだよね、南竜山荘でもらった白山のお花図鑑を見ながら、いつしか雨は上がり雲が流れ墨絵の世界にこれ又見惚れる。そしてブナ林の中へキラリと光る物が、大白川ダムの湖だ。

て素晴らしかった山行を祝福。村営200円の温泉で疲れをとり温泉玉子とビールで乾杯! (佐々木さんは温泉玉子をむくのが得意。) 季節運行名鉄バスの五箇山号で名古屋へ。 佐々木さんと名古屋駅でさよならして新幹線にて

帰途に着く。

(ようこそ、白川郷へ) 三浦会長や皆と握手をし

Ш	名	白 山 加加 利力
期	H	H10-7-17夜行~20日
山泊	亍形式	テント2泊4日
Ш	域	加賀白山
地	図	昭文社 白山
目	的	日本3名山と高山植物
日程	18日	17日夜行バス池袋10:30- 金沢6:45季節運行バスー 別当出合9:45/10:00出発 - 甚の助小屋10:30-南竜 ガ馬場テント場着14:30
· コ ー ス	19日	テント場5:10- エコ―ラ イン- 室堂6:25/45-御前 峰7:30/40-室堂8:40/9時 - トンビ岩9:25- テント 場10:30
開業:	20日	テント場5:00- 大倉尾根 分岐6:45- 避難小屋7:55 - 大白川ダム10:05-平瀬 バス停11:45/13:23 名鉄 バス- 名古屋18:15-新幹 線東京駅20:58 着



< 6 3 >

苗場山

(2145m)

加藤 秀明

今日は、久々(4月の棒の折山以来)の山行である。好天に恵まれラッキー! 私にとって苗場山は2度目である。平成2年(8年前)の7月のことである。その時は、1日目に小松原湿原手前の避難小屋までだったが、今回は、山頂で泊まりだ。ゆっくりと湿原特有の花が見られ、余裕の行程であった。

第1日目は、越後湯沢駅からタクシーで和田小屋まで入った。登山者でいっぱいだ。立て看板には、頂上小屋は、予約でいっぱいです とあった。予約していなかったら泊まれないところだ。

和田小屋付近にも花がたくさん咲いて おり、特にヤナギランが目に飛び込んで くる。和田小屋で水を入れ換えて、準備 体操をして、さあ!出発だ。(家で入れ てきた水と、屋外にある水飲み場の水: タクシーの運転手がおいしいよと言って いた:と交換した。本当においしい。) スキーリフトに沿って登って行く。好天 ではあったが、登り初めて間もなく雲が 出てきたが今日のメンバーの気持ちが通 じたのか、パーっと雲が切れて再び青空 が広がった。下の芝までは見通しのきか ない針葉樹林の中を少しずつ高度を上げ る。登り始めて下の芝までは調子が出ず に長く感じた。やっと下の芝かと思いヒ - コラしていたが比較的平坦で広々して おりホッとさせてくれる。ワタスゲもは えていた。さすがに苗場山と名が付くだけに田と苗が植わっている様な湿地帯の景観を見せてくれる。再び登りの後、樹林帯を抜けると中の芝、そして上の芝へと続く。小松原への分岐からゆるやかに登り神楽が峰に到着した。

一気に下りはじめる手前辺りで昼食をとる。目の前には、台形の形をした苗場山本峰が一望でき最後の急登を登る人が見える。先は遠いなーーーーっ。

雷清水で水の補給をする。頂上小屋での水は飲めないため、ここで水筒をいっぱいにしていく。しかし、水の出は細く行列が出来た。

一方、中の芝あたりから老人がゆっく りと付いて来たが、我々のパーティーは 花に夢中でなかなか進まない。"亀さん 歩行"の老人と結局、雷清水でいっしょ になってしまった。この老人は、8時間 かけて関西の宝塚から家族と車で来たの だが、なんと93歳とのこと。(な、な んと私の2倍以上生きているのである。) なんとも脱帽である。93歳で、わざわ ざ苗場山に登りに来るなんて、まだまだ 自分たちの登山人生は続けられる可能性 はあるのだなと思うが、(戦争を生き抜 いてきた)昔の人は足腰の鍛錬が違うの で、同じように過ごせるかどうか分から ない。以前、北岳に行った時も、70歳 近い人に会ったが、今までで最高齢だ。 さて、雷清水からは急降下だ。雲尾根を 過ぎるといよいよ苗場山最後の急登だ。 逆に下ってくる人からは、口をそろえて "これから大変だよ"と言われ、ビビッ ていたが、それまで、花を見ながら楽し くゆっくりと登っていたため体力の消耗 が殆どなかったのと、山頂の広大な湿原 を早く見たいというあせりの様なものと

が重なったのか、頑張りも40~50分 程で山頂に着いてしまった。

山の頂上だというのに、とにかく広い湿原だ。池塘が無数に散在している。ワタスゲ、キスゲ、コバイケソウ、モウセンゴケなど湿原特有の植物がたくさん咲いていた。展望もすばらしい。

私は、7時位で寝てしまったが、他の人 は百名山のビデオを鑑賞したらしい。

山小屋は水洗トイレで、建ったばかりなのできれいだった。水はチョロチョロしか出ない。雷清水で水筒を満杯にする必要がある。夜は、暑くて暑くて、朝かなと思って10時頃に起きてしまった。人一人が100Wの電球ほどの熱を出ける人当たり1枚の毛布を3分の1にして折りたたんだスペースだったので少々きゅうくつだった。

2日目の朝は 濃霧で、それでも時折 日が射し込んで来るところもあったが日

さあ、赤湯温泉までもう少しだ。少々 のアップダウンの後、清津川にかかる橋 を渡り、川に沿って行けばすぐに赤湯温 泉に着く。露天風呂は、男性用の玉子湯は赤子湯は 泉の名のごとく湯が赤く、湯あかで温泉 泉の名のごとくりが赤く、やっぱり温泉だ けあって疲れをいやしてくれる。赤湯に けあっな、まだ登りが続く。湯上がいく ビールを飲み過ぎないようにしないく ない。

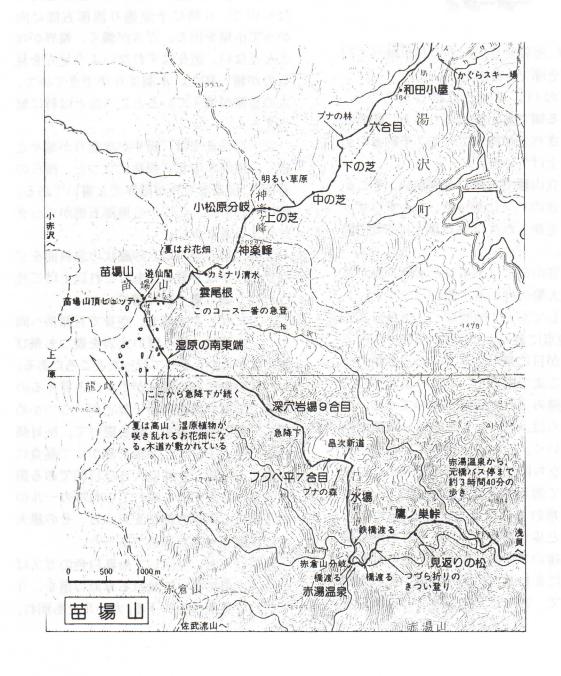
帰りは、湯沢駅前のそば屋で、へぎそば(越後そば)を食べた。

今回の山行は、とても天気に恵まれて、 温泉にも入れてそばも食べ、最高だった。

欲を言えば、帰りの天気が今一つだったが、フクベ平のブナ林は露の中で際立ってくれた。

下りのコースは展望が殆どないのでこれ で良いのかもしれない。

以上



<64>

黒部五郎岳

(2,839.6 \$ 1)

外崎 蓮

10.7.31~8.1

単むらの花々に切けられ。 一歩一歩と

この夜、池袋発富山行きの長距離バス23 時5分は全部で5台出た。

2 台目のバスで少しは眠ったろうか、ボーとする頭で富山駅に下りると、駅前には折立行きバスが待っていて、予約者の名前を呼び上げていた。

私達は立山線で有峰口へ向かい、そこから折立行きのバスに乗った。1人ずつザックの重さを測られ、12キロ以上は450円別に支払う。

折立の登山口にはトイレと水飲み場があり、既に大勢の登山者で賑わっていた。ここを出発してから2時間後、三角点のある1,871 紅地点に着くと、眼前が開けて左前方の薬師岳が目に飛び込んでくる。感動の一瞬だ。ここまで来ると、いよいよ北アルプスに足を踏み入れた実感が沸いてくる。

ここからは、広々とした明るい草原の中を登っていく。三々五々登っていく登山者の姿が、立ちはだかった草原の向こうに豆粒になって消えるまで見渡せる。

私達も草むらの小さな花々に助けられ、 一歩一歩と歩を進めて、長い登りも漸く終わり、午後の2時頃、太郎平小屋に到着する。入口にまわると、庭先のベンチも土間も賑やかで、さすが北アルプスの玄関口だ ということが頷ける。

5時からの夕食が済むと2階に上がり、6 人一部屋に固まって早々に床についた。夜 半、激しい雨の音で目を覚ます。ただ事で はない降り方だ。風もある。

10.8.2

乳白色のベールに 包まれた駅部カール

早めに起床し、朝食をして様子を見たが、雨は止む気配がない。これ以上は待てないので、6時に予定通り黒部五郎に向かって小屋を出る。ガスが濃く、視界がほとんどない。道をはずれないよう足元を見るのが精一杯だ。水溜まりができていて、人の足跡が消えているところなどは特に緊張する。

北ノ俣岳までは、緩やかな登りが延々と 続く。風雨の中北ノ俣岳に立つと、傍らの 看板に、戻るなら今が限界だと書いてある。 晴れていれば、ここから黒部五郎がくっき り見える筈なのに。

黒部の肩の登りは、砂礫状の急斜面をジ グザグにかなり登る。もうこれ以上はご免 だという頃、漸く肩に着く。

ここにザックを置き、空身で五郎岳へ向かう。山頂は、黒っぽい大岩を幾つも飛び 越えながら少し登って行ったところにある。

ガスの中に石の標柱がポツンと見えるの みで、山頂や周囲の様子など何一つつかめ ずに、肩に引き返す。風を避けて、反対側 の崖の下へ下りて、お湯を沸かして昼食に する。この後、今回の大きな目的である黒 部のカールを下る。晴れていればカールの お花畑から黒部五郎岳を見上げ、その雄大 さに圧倒させられる筈であった。

見上げても、見回しても乳白色のガスばかり。小川になって流れる草原の道を、うなだれて黒部小舎へ下る。カールとも別れ、

笹薮の細い道をかなり歩いて心細くなった 頃、発電機の音がしてきて、小舎が近いこ とを知る。

木道を渡っていくと、目の前に突然小舎が現れてびっくりする。薄暗い小さな入口で宿泊手続きを済ませて、濡れたものを所定場所に片づけると、畳敷きの居間に入った。

濡れた靴下をストーブで乾かしながら、他のパーティーと雑談した。そんな中で神奈川から来た女性のパーティーが、昨日、黒部のカールを歩いて大感激したと話していた。今日は腑抜けになってこの小舎に停滞しているようだった。私達はせめてもの記念にと、6人で、黒部五郎岳のネーム入りのTシャツを買って着た。夕食が済むと早めに床についた。それまでおさまっていた雨は再び強くなり、小舎の屋根に間断なく降り注いだ。

雨の音は衰えを見せなかった。明日のことを考えながら、じいっと雨音を聞いていた。

前と風の北アルプスを行く

天候の回復の見込みがあれば、予備日を使って、再度黒部五郎を登り返そうと思っていた。ところが小舎の主人が昨日の夕食時に、明日の天気については聞かないで欲しいと言い渡したほどで、結局回復の見込みがないため、ここを立つことに決定。

お弁当をザックにしまい込み、生乾きの 雨具と靴を履いて、外に出る。雨は小止み になったが、依然としてガスはとれず、小 舎の周囲がどうなっているかさえ分からな い。小舎の裏手からいきなり樹林の中の急 登が始まる。大きな石がゴロゴロと立ちは だかり、その間隙を雨水が小川になって流 れ落ちていく。やっとの思いで稜線に出る と、今度は横殴りの風雨が体を揺すり、よ ろけながら進む。晴れていれば、どんな風 景が広がっているのだろう。

ハイマツ帯の稜線の道は池のようだ。三 俣山荘へのT字路を右手に行き、ひとがん ばりで三俣蓮華岳へ到着する。前回は三俣 山荘から登ってきた。腰を下ろした標柱脇 の石もあのままでそこにあった。けれど今 回は、そんな感慨に耽る余裕などありはせず、横殴りの雨風を避けて、早々に双六岳 へ向かう。まいてお花畑の中を双六小屋に下りることもできたが、双六岳の大きなら地が忘れられず、いつか又歩いてみたいと思っていた。そしてその願いが今日、こんな形でやって来ようとは。台地から谷に吹き飛ばされないよう固まって通過するだけとなってしまった。

台地の端に来ると、ガレ場の急な下りが 待っていて、特に慎重に下りる。中間まで 下りた頃、重い緞帳が少し上がって、その 下に、周りの草原がハッキリと見えたとき、 皆は晴れろ!晴れろ!と叫んだ。それも束 の間、緞帳はすぐに下りた。ハイマツの急 斜面を転がるように下って、双六小屋にた どり着くと10時をまわっていた。

ここで昼食にしようと中に入り、靴を脱ぐと、この後鏡平まで下るのが億劫になって、受付から山荘へ電話を入れてもらった。 そうと決まると、皆はいそいそと濡れたものなど乾燥室に運んだりして、旅支度をすっかり解いてしまった。

サブリーダーの助言で平湯の森バス予約 センターに電話を入れ、明日の新宿行きの バスを予約した。安房トンネルが開通して、 この3月から運転が開始されたのだとか。 明朝早めに小屋を立てば、十分間に合うと 計算し、後は双六小屋の主人が出版した山 の写真集をゆっくり眺めて過ごす。

今日ここに宿泊した理由のもう一つには、 一縷の望みを託して、ぎりぎりのところま でアルプスに接していたいからだった。 夕方になって指定された部屋に移動する。 急に窓が明るくなったので、あわてて身を 乗り出すと、右手前方の雲の切れ間から、 表銀座方面の稜線が見えたのだ。騒ぐ声を 聞きつけ、あちこちから人が出てきて、小 屋の前は人だかりとなり、雲が切れる度に 歓声が上がった。そしていつの間にか夜の 帳がおり、すべてが闇の中に消えた。

新穂高方面からの玄関口となるこの双六 小屋には、電話やテレビがあり、喫茶コーナーもあって山小屋のイメージが薄い。部 屋の中には親切にも、消灯後も小さな電灯 がともり、朝までほとんど眠れなかった。

10.8.4

山々よ、叉、動れるその日まで

今日はいよいよ山を下りる日だ。行程が 長いため3時半に起床し、小屋で朝食後、5 時には出発する。小屋の裏手にまわるとテント場があり、その先に小さな双六池がぼんやりと見える。思えば乳白色の空間を 黙々と歩き通して、今日は北アルプスとも お別れだ。そんな感傷を断つように雨は又 容赦なく落ちてきて、弓折岳の手前付近で 慌てて雨具を着込む。

笠ヶ岳・鏡平分岐で、10日以上も山に入っていて今下山中だという学生たちを追い越した。彼らは自分の背丈程もあるザックを背負い、真っ黒に日に焼けていた。おばさんたちがお菓子を差し出すと、かわいい笑みを浮かべて礼を言ってくれた。羨ましい年頃だ。

鏡平山荘への狭い道を下る途中、雨の中をこれから登っていく沢山の登山者に行き会った。トイレを借りるため鏡平山荘に立ち寄ると、登山者が出払い小屋の中はガランとしていた。

山荘の裏手には鏡平ノ池があり、蒼い水 面に逆さ槍と穂高が写った風景は、絵はが きになるほど有名。しかしこの日の池は、 薄鉛色の水面に池の縁の針葉樹が何本か写っているだけの淋しい風景だ。心配した 秩父沢は思ったほどの増水もなく、無事に渡って、ワサビ平の小屋に10時に着く。双 六小屋を出てから5時間経っていた。

車道沿いにあるこの小屋は、山小屋のイメージはなく、民宿といったところ。ダンゴを買ってほおばり、雨の中を又歩き出す。途中、砂防工事の現場を往復するダンプカーとミキサー車を避けながら、一部回り道を強いられたりして、ほとんど駆け足状態で林道を下り、11時頃、新穂高の温泉街にたどり着く。

バス停付近のみやげ物店の軒下で、濡れたものを脱いで全部しまい込み、11時半のバスで平湯の森へ。大きなバスセンターだ。昨日予約していたため、すぐ切符を買うことができた。一安心すると、ここから4~5分の平湯温泉へ行く。温泉は貸切状態で、露天風呂を6~7つ渡り歩いて楽しむ。

さっぱりしたところで食堂へ移動し、長 旅の無事を祝って乾杯する。最悪の天候の 中、最後まで明るく付き合って下さった皆 様には、大変申し訳なく、そして心よりお 礼を申し上げます。





第3日~4日 柴田節子

前線がどっかりと居すわっているのだから、今朝も又雨音で目 覚める。雨の日の山行も馴れたとは言え、やっぱり晴れて欲しいが、無情の雨は降り続く。 けれど山男山女たちはきっちりと雨具に身を 包み、ヘッドランプよろしく未明の暗やみに 次々と消えて行った。

小屋の裏から樹林帯をぬけると黒部五郎岳が 大きく望めるらしい。

昨日は雨の為に停滞し一日を過ごしたという 二婦人がいた。一昨日は晴天で五郎のカール の圧感をあおぎ見て、興奮気味に話を聞かせ てくれた。

我が一行も、この東面のカールを望みたかったはずだが、残念ながら叶わなかった。

黒部乗越からの登りはじめはちょっときついが、樹林帯を出ると斜面はゆるくなった。三 俣蓮華岳山頂はこの縦走で踏む頂きのなかで、 最も展望のすぐれた山頂のようだ。槍・穂高 の眺めをはじめ四囲に壮観が得られるらしいが、厚い雲の向うにかくされた峰々を想像するしかなかった。

顔に打ちつける雨は痛く、とても寒い。小休 止の時、いそいで手袋を出す。

誰からともなく靴の中がぬれて来たと告げている。雨具もこうなると形なしだ。今日は鏡 平山荘を目指す予定だが、変更して双六小屋 で昼食となるが、リーダーの判断で、ここで 一泊することにし、全員も賛成した。小屋は 新築されており、乾そう室も完備しており、 ずぶ濡れの用品等で部屋は埋めつくされた。 暖かい大部屋・食べ物は、冷えた身体にはあ りがたく、長い時間も他の登山者との交流や おしゃべりで楽しく過ごせた。

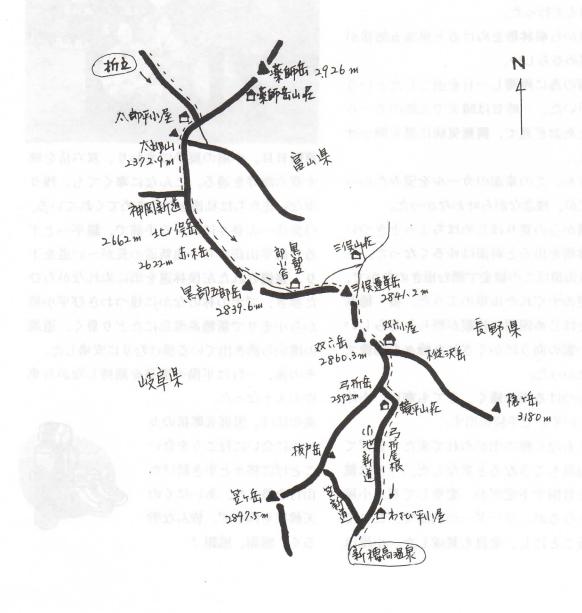


第四日目。小屋の裏手にまわり、双六岳を映す双六池畔を通る。こんなに寒くても、残り少ない花たちは私達をなぐさめてくれている。弓折岳への登りにかゝる手前で、鏡平へと下る。鏡平山荘から小池新道の長が~い道を下り、整備された左俣林道を雨にぬれながらひた歩き、ブナの林のなかに建つわさび平小屋から小走りで新穂高温泉にたどり着く。道端の溝から沸き出ている湯けむりに安堵した。その後、一行は平湯の温泉を期待しながら車中の人となった。

来年には、黒部五郎岳のカールに会いに行こうを合いことばに黙々と歩き続けた山行を終えた。あいにくの 天候にも拘らず、皆んな明るく、感謝、感謝!



Щ	名	黒部五郞岳	山行形式 有人山小屋			
期	日	平成 10 年 7 月 31 日~8 月 4 日				
山山		北アルプス 費 用 約5万円				
地	図	薬師岳・三俣蓮華岳・笠ヶ岳(2万5千	図)			
目	的	黒部五郎岳のカールに遊ぶ				
	通機関	バスと電車				
	7/31	我孫子 21:22―池袋 23:05 発 (バス)				
日日		富山駅 5:50 / 6:27 (富山電鉄) ―有峰口駅 7:16 / 7:30 (バス) ~折立 9:				
790.00	8/1	9:40~1,871				
程		太郎平小屋(起床4:00 朝食5:00)6:00~太郎山6:15~神岡新道分岐7:40~北				
	8/2	ノ俣岳7:50/8:00~赤木岳8:23~黒部肩11:00~黒部五郎岳山頂11:15/11:				
	产身体	20~黒部肩 11:30 / 12:10 (昼食) ~黒部五郎小舎 14:00 (8 時間)				
2-M3	8/3	黒部五郎小舎(起床 4:00 朝食 5:00) 5:50~三俣山荘分岐 7:15~三俣蓮華岳 7:				
_		50~双六岳9:10~双六小屋着10:00 (4時間10分)				
1		双六小屋(起床3:30 朝食4:30)5:00~				
ス	8/4	7:00~わさび平小屋10:00/10:10~新穂高温泉11:00/11:30(バス)~平				
	森12:00/14:55 (バス) ~新宿 (6					



< 65 >

塩見岳·蝙蝠岳

細野 清子

4日間だけの登山日和~ラッキーだね

今年は例年になく雨が多い。東北地方はとうとう梅雨明け宣言なし。8月はとくに雨が多く、黒部五郎も雨が落ちるほどのひどい雨の中の山行であったとか。お盆の剣岳も雷警報と雨で中止。このぶんだと塩見岳も雨にたたられ、もしかしたら中止かも・・・また見送りかな?

山を本格的にはじめて2年日の秋、白根三山縦走に参加した。北岳のバットレス・雪渓や山荘からみた降るようなみごとな星空、頂上から見た朝日とともにいまだに強烈に印象にのこっているのが、農鳥岳から見た塩見岳である。それは三角頭できれいに裾野の広がった、端麗な山でした。

「あの山は?」 「塩見岳だよ」

(よ~しいかきっと至って見る)とその時思った。

その後計画があったが父の病気と重なり断念した。

そして今回、どうしても参加したいと体調も整えそのための訓練もした。 しかし、訓練のためにと1週間前の土曜日、吾国山に登った。その日の真夜中、天井がグルグルまわり激しい吐き 気とで病院に運びこまれた。

もうすってんで人院のところ、幸い 「水分不足でしょう」の診断。ホット したものの、頭のなかは〜塩見・塩見 〜と思いは募るばかり。

思いきってリーダーに

「テントは白信ないけど山小屋なら」 と、相談した。

リーダーも

「夫婦ならともかく清家さんと二人で テントというわけにいかないし、小 屋にしましょう。」

と、快諾してくれた。

(しかし、清家さんは私が人院さわぎの時点で「もしかしたら帰るかも」と 実家のお母さんに電話したところ、帰ってくるものと期待されたため 帰航行きは降りてしまった。)

かくして21日朝、清家さん・省二 さん・わたしの3人は飯田行きのバス の中。

清家さんは親孝行。わたしたち夫婦 は念願かない塩見行きとなった。

三伏峠小屋への両側の道は、ミソガ ワソウがどこまでも咲いていて、わた したちを歓迎してくれた。

小屋は今年の5月に新築したばかりでとてもきれいであった。(120名)本日の泊りは60名。一人一枚の布団

で、ゆったり眠ることができた。気温 13度で毛布2枚では寒かった。

翌朝4時30分に食事ができた。 塩見に登る前に、小河内岳・烏帽子岳を ピストンする。トウヤクリンドウ・コゴ ミグサがたくさん咲いていた。

小河内岳から荒川三山や赤石岳が大き く見え、2年前の南アルプス縦走の楽し い思い出が、よみがえってくるようだ。

みるも無残な小河内の避難小屋は、現 在立て替え中で完成間近。(9月)

東海フォレストはすごい会社だなあと 改めて感じる。儲け度外視でこんなすば らしい小屋を立て替えるのだから。

思ったより時間がかからずピストンできた。

荷物を詰め替えていると、20人程の 団体が塩見に向かったと、情報がはいる。 今夜は小屋は混むと予想されるが、晴れ れば蝙蝠岳に行きたい私たちは塩見にど うしても、泊らざるをえない。

いまが盛りのトリカブトが急な登りの 苦しみを和らげてくれる。

昼前に小屋に到着。ビールを飲んだり、 行き交うひとを見たり会話を聞いたり、 のんびり過ごす。

団体が到着すると急に騒がしくなる。 多勢で登った時は、わたしたちも同じな んだろうなあ~、気をつけねばと反省も させられた。

連泊の人のキャンセルのおかげで一畳を2人で(酸)泊まることができた。 塩見岳は昨年より幕営禁止。 泊り客に 1 L の水がもらえる。しかしこの水は 160 M下水場よりボッカされた貴重 なもので、その水も豊富にでているの ではなく、櫓か水のためチョロチョロ しかでてないらしい。

きれいな水を確保するため小屋主さ んの努力はたいへんなもので、泊り客 の一人一人に

トイレには紙は捨てないで 沢筋には排尿・排便はしないで と、注意していた。

夕飯は4時30分。器は陶器で、この高い山中でこんなにおいしいものにありつけるなんて、感激であった。

22日は強行軍。

塩見岳登頂後、コウモリ岳をピストン して熊の平におりるのだから、10時 以上の歩きになる。

念願の塩見岳への道は岩場であった。下りは危険かなあ~と思われる所も数箇所あった。慎重に登り頂に立つことができた。360度展望がきき、富士山がポッカリ雲のなかに浮いていた。次に登るコウモリ岳が羽を広げて悪沢岳に飛んでいくように鎮座していた。そのコウモリ岳に呼ばれるように感じ塩見岳をあとにする。

コウモリ岳は半分くらいはスタスタと歩きやすい下り道。それを過ぎるとハイマツがはりだしあまり歩かれていないこともあり、木が登山道をふさいでいてとても歩きにくく、ハイマツにおしかえされてしまう。二重山稜があったり、頂上は360度の展望がきき

姿、形だけでなくなかなか、いい山であ る。下山時、わたしたちと同年輩の夫婦 が大きな荷物をしょって登ってきた。

「枝が張り出して登りにくかったでしょう。」

「二軒小屋までいくので仕方ないんです」 「縦走ですね。 頑張ってください。」

南はやはり力量のある人が好んでくるだけあってすごいなあ~と感心してしまった。しばらく下ると、塩見小屋で仲よくなった単独行の女性がつらそうに登ってきた。「ガンバロウ」と声をかけすれ違う。途中、教えてもらったクロマメの木の実を食べ食べ北俣岳まで戻る。

荷物をつめかえ熊の平へと向かう。水が心細いので雪投げ沢に水をいれに降りた省二さん「水音は聞こえるが・・」と手ぶらでもどってきた。すこしずつ飲んでつなぐことにする。

「山岳標高ベスト100」で97番目に位置する、北荒川岳(2698M)は平凡ななんでも無いような山に思えたがこれが南アルプスのすごいところであろう、北荒川岳にでるまでの途中今回一番のお花畑がみられた。トリカブト・シシウドの群落の所々に真っ赤に熟れたナナカマドの実が色を添え見事に広がっていた。よ〜く見るとハクサンフウロウの葉が所狭しと身をよせあっていて、最盛期はさぞかし見事であろう思われた。広大なお花畑をみて歩けるように道がきってあり、疲れを忘れさせてくれた。

北荒川岳のピークを過ぎると樹林帯に 入る。長い樹林帯を抜けると今夜の小屋 熊ノ平小屋があった。 この小屋はアメリカ人の奥さんが毎朝 手作りのパンを焼いてくれると聞いて いたので期待していたが、姿が見えず 食事もいまいちお粗末であった。

しかし、ここの風景は最高でした。 小屋の前にはひろいテラスがあり、眼 前に西農鳥岳がせまり、夕日を待ち受 けているカメラマンもいた。山を見な がらビールをのみ、山談義に花が咲い ていた。

夜も比較的ゆったりとやすめ、ベッドに横たわると、星がみえた。今夜も 溢れるほど星が瞬いていた。

24日いよいよ両股に下りる日である。

小屋をでるとすぐ登り。それも岩場で、いっぺんに目が醒める。登りきると三峰岳(みぶだけ)。標高2、999Mで身長1メートル以上の人は3、000Mの高さで四方の山々を眺めているということになる。

中央アルプス・富士山・白根三山・ 塩見岳・甲斐駒ガ岳そしてすぐ姿を隠 してしまったが槍と穂高も見ることが できた。すぐ真下の分岐で、昨日しり あった3人の女性グループが両股か北 岳かどちらに行くか迷っているのが見 える。

「ゴメンね~」

といいながら北岳にむかっていく。 真っ青な空と北岳の稜線にひかれて、 「両股におりる」の昨夜の決心が揺ら

いでしまったらしい。

「バスで会いましょう」と大きく返事をかえすと手をふっていた。

わたしたちはその分岐から仙塩尾根を両 俣に下るのです。この道を下る人は非常 に少なく、くだったのは二組。登ってき たのは3グループ4人でみんな大きな荷 物をしょっていた。 ここのよさは歩い た人にしかわからないかも知れない。

両俣小屋は沢添いにひっそりと建つていた。

この小屋からのぼる北岳への沢コース は屈指で魅力的だそうだ。女性の小屋主 が守っている貴重な小屋。いつまでも存 続してほしいと願ってやまない。

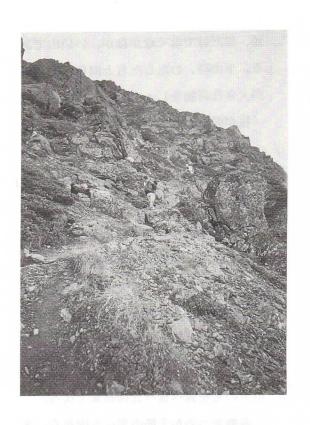
この日は若い女性が小屋番をしていた。 かたわらにギター・キーボードがおいて あり音楽を楽しんでいるようでした。時 間がここだけ止まっている。そんな空間 がありました。

小屋からバス停までの道程はきつい歩 きだった。途中沢が何本もあり飲んだり、 顔を洗ったり、頭からかぶってみたり。

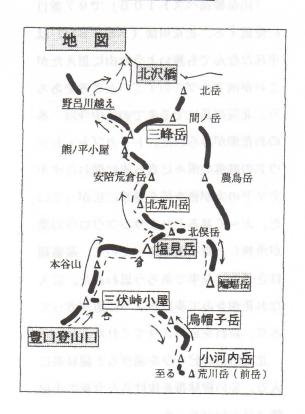
早足で歩いたのでバス到着までたっぷ りの時間があり、着替えを済ませること ができました。

今回の山行は私の体調のこともあり、 塩見岳にのぼれれば「よしとしよう」と 思っていただけに200パーセント満足 の山でした。

それもこれも4日間だけの登山日和のお かげだね。



塩見岳山頂付近の最後の登り 花は ムカゴユキノシタ



< 6 6 > 「 私の甲斐駒ヶ岳 」

佐々木 侑

思い出の地に 心高ぶる

山梨県の甲府は、私の少年時代の中学・高校 を、父の仕事の関係で過ごした思い出多き地方 である。甲府盆地は周囲を山々で囲まれた地域 であり、快晴の日には富士山・奥秩父連峰・八 ヶ岳、そして南アルプスが、手にとるように見 渡せるところである。そのような地方で悪ガキ として、何の悩みも持たず遊び回り、時折、周 囲の山々を望んでは、自然と口ずさんだ歌があ る。甲府北中学校の校歌の歌い出しである。「白 峰連山、駒ケ岳……」との歌詞。その当時は全 部歌えたのであろうが、今となっては、その冒 頭の歌詞しかはっきりと覚えてはいない。それ でも、その冒頭部分とメロディだけは、山梨に 帰ったときには自然と歌として出てくる。作詞 家、作曲家が誰であるかはわからないが、たぶ ん山好きの人であろう。一番から三番まで、見 渡せられる山々の名前が歌い出しで、山のよう な大きな人間となるために勉学に励めよ!との 内容の校歌であったと思い出す。

その甲斐駒ヶ岳にようやく登れる日がやって 来た。その日を待ち望んでいたと申したら大げ さであろうか。「やまたん7月号」に甲斐駒山 行計画を見つけたとき、「ついにチャンスが来 たぞ。岳人あびこの会員でよかった。どうして も参加し、人生最高の日にしよう。」と思った のは当然である。

山行計画書には、平成10年9月11日(金)~13日(日)とあったが、私の場合、日程の確保という大きな問題がある。まず、9月11日に休暇が取れるか。下山後の14日(月)も休暇が取れるか。大阪単身勤務のハンディが相当厳しくのしかかる。また、営業職である為、接待ゴルフなどが土曜・日曜に計画されないか。無粋な連中が企てる施策を先んじて排除しなければならない。

強硬手段として、月間日程表「9月」の中にある11日~14日までの行間をすべて真っ黒に塗りつぶし、記入の余地をなくすことで、第一

関門を突破することにした。

私の山行は同行する仲間・先輩・リーダーが どのような人であっても、ただ同行させてもら うというのはなるべくしたくないと思っている し、自主的に自分なりの計画を事前に十分に練 って、山行に望みたいと思っている。

ただし、今回の甲斐駒山行は、クラシックルートも<u>黒戸尾根</u>からの登山とのこと。エリアマップなど開いて見ても、相当に険しいルートであることしか分からない。事前調査がどこまで出来て、自分なりに満足のできる山行になるかどうかという問題もあった。

そのような折、夏期休暇に合わせ、年老いた 両親を旅行に連れていこうとの実兄からの誘い があり、兄は本来、長野方面を予定していたよ うであったが、南アルプスの麓にある温泉に変 更させ、私の山行準備との一石二鳥をねらった。 両親・兄弟との旅行の後、帰路、車を韮崎に向 け、妻とともに山行予定での第一宿泊地である 横手村・駒ケ岳神社と竹宇の駒ヶ岳神社双方に 参拝し、竹宇のキャンプ地を確認、尾白川渓谷 を妻と散策、美しい渓谷で弁当を食べ、「この 登山道入口から9月には駒ケ岳を征服するのだ。 たぶんあの山の向こうが駒ケ岳だ。」などと地 図を広げて語り合った。妻は血圧が高く、ハー ドな山登りは無理であるが、山のムードは若い 頃から大好きな人であるので、車で行ける所ま では、好んで同行してくれる。その日も、帰路 をさらに夜叉神峠の登山道まで車の足をのばし た。妻は峠の茶屋で、山の涼風を吸いつつ、「し ゃじん」という紫色の可憐な花を見ながら、う まそうにアイスクリームを頬張っていた。その 8月14日午後には、快晴ではなかったが、峠 からは、時折、南アルプスの山々が雲の合間か ら見渡すことが出来たので、妻も満足であった ろうと思っている。

来月の登山に向けての準備にはもう一つ、足腰の鍛練もある。8月23日夏、炎天下、六甲山を東六甲ルートで宝塚から、18km、8時間、15kgリュックを背負い縦走。8月30日、六甲山、西六甲ルートを菊水山より、15km、6時間、同じく15kgを背負い縦走。この時、背負ったリュックでバランスを崩し、左足首を痛めた。下山時も特に負担に感じる程ではなかったので、大した事なしと自然治癒を待ったのだが、後日問題となってしまった。

いよいよ、山行当日を迎えた。参加者は6名、久しぶりに再会した元気な顔と顔。大阪勤務の私には、本当に久しぶりのなつかしい仲間

である。

新宿21時発「あずさ」を甲府で乗り換え、 日野春からタクシー。第一泊は竹宇駒ケ岳神社 前キャンプ地。私は持参の1名用ツェルトにも ぐりこみ熟睡。翌12日朝、「七丈小屋に水な し」との情報が入る。山小屋での食料を調達す べく里へ戻り買い出しをする。

8 時、竹字神社出発!晴天に恵まれる!心は落ち着きホッとする。気力はみなぎり、湿ったッエル、食料も特に重いとは思えない。心配していた左足首も登山歩行には全く問題ない。全てが快調である。

リーダー以下全員が2,300mの高低差を、 ゆっくりと一歩一歩快調に登る。途中、地図上 の粥餅石の水場ルートをはずしたが、笹の平ま で順調。1、600m付近の八丁登りの地で、 歩き始めて2時間30分ほどで、1名が若干バ テ気味となる。休息を十分とり、はげましなが ら刃渡りへとたどり着く。周囲の風景が目の前 に圧迫感を与える。快晴の中、遠方の山々がす ばらしい稜線をくっきりと表わしているが、足 元にはその名の通り、刃物のような岩場である。 下を見ると吸い込まれそうな岩場の上を、バラ ンスを崩さないように緊張して登る。刀利天狗 のやせ尾根をさらに緊張して通るが、木々の間 から、全員がたぶんあれが駒ケ岳だと信じたそ そり立った山を垣間見つつ、黙々と登りつめた。 2, 100kmの高度計表示と地図を見比べる と、本日の宿泊地、七丈小屋も近いはずである。 そのあたりから、肩と背にリュックの重みが食 い込み、歯を食いしばりながら、ただただ登る。 若干遅く重くなった我が歩みと全身の疲労と闘 いながらも、景色のすばらしさに我をとりかえ し前進した。

そんなこんなの中で、五合目小屋にたどりついたのが、2時過ぎであった。あと1時間頑張って本日の予定の七丈小屋へと思っていたが、リーダーの適格な判断で、無理な行動中止との命令が出た。五合目小屋泊りとの決定に内心ほっとする。あのまま前進を決行していたら、1時間の予定が2時間以上、たぶんかかってしまっただろうし、七丈到着も4時を過ぎて、私も含めてパーティの疲労は相当増していたものと想像する。

五合小屋での夕食会は最高に楽しく、山の早

い夕闇は、あっという間に真っ暗闇となり、私は早々と眠りについた。疲労した体には睡眠が最大の癒しである。ただし、近くで寝ている人は、私のイビキに大いに悩まされたものと思う。

深夜の12時、目が覚め、以前から思っていた 山の星空を見たくなり、外に出たところ、満天 が星だらけで、まさに星が手に取れる状態とは このことかと、山の良さに感銘した。

翌13日

4時起床、足が重く感じる。ストレッチを充分にし、筋肉を伸ばし、左足首もよくもみほどくが異常はない。今日も頑張るぞとの意気込みを強く持ち、食事後、まだほの暗い5時に出発。

前日、目の前の屛風石は、人間がどうやって 登れるのだろうかと思っていたが、長い木製の ハシゴや鉄のクサリの連続で、手の掛けどころ、 足の踏ん張りどころに注意しつつ、慎重に一歩 一歩登りつめる。ところどころにある石碑の仏 像に心中で無事を祈り、登りつめたところが、 七丈小屋であった。私が慎重に登りすぎたため か、予定時間よりかなりオーバー時間となって しまっていた。八合目をすぎ、石の大鳥居をく ぐるとついに駒ケ岳が目の前に出た。私には「出 た」と思えた。目の前に雪をかぶったような巨 大なかたまりが出現したのだ。もう夢中である。 前進前進あるのみだ。周囲は何も見えない。ま さに少年にもどってしまっていた。心の中で、 口には出さないが、あの「白峰連山、駒ケ岳… …」と歌っている。実際は、八合目から頂上ま で1時間以上は歩いていたはずであるが、今、 思い出しても、頂上までの間、何も覚えてはい ない。ただ、少年にもどって登っていただけで ある。小休息もしただろうし、水も飲んだだろ うが、山頂を眺めながら、ただ、ただ登ってい たのだ。

山頂は、快晴にも恵まれ、すばらしい場所であった。日本の全部の山々が、見渡せられるほどに感じられた。「すばらしい」の一言につきるものであった。頂上でさらに感激したのは、摩利支天の雄姿である。その豪快な迫力は何と表現したらいいのだろうか。何故だかこの甲斐駒にたどり着いた人との共感にしたいだけで、それ以外の人には、教えてやりたくない宝物のような姿をした山であった。

甲斐駒は、すべてに感激であったが、下山途中で、残念なことに以前痛めた左足首をはずみでひねってしまった。下山時は、リーダーや他の仲間に多大に迷惑をかけてしまい、誠に申し訳なく、未熟さを深く反省している。今後もより一層、山に対しての心構え、技術、体力を極めて精進したいと思うとともに、岳人あびこの皆様と末永く、お付き合いをお願いしたいと存じている所存である。

<66>-2

黒戸尾根 甲斐駒ケ岳 (2, 965m) 細野省二

甲斐駒への想い

1998年9月11日、いま、ようやくにして黒戸尾根山麓、駒ケ岳神社にいる。前夜の山麓幕営を経て、出発を前に同行の仲間に登る山の注意事項を確認する。 この山の歴史の重みと、里人の山に対する想いを感じながら…。

そして私の駒ケ岳への30年の長い想いも くわえて…。

甲斐駒詣では白洲町からはじまる。黒戸尾 根は表参道と称し信仰登山の歴史は長く、神 社には無数の石仏が置かれ今でも登山道や山 中には800以上の「願い石」が見られる。 最盛期には30人の強力(40kの荷物を担 ぐ) が竹宇、横手に待機していたという。北 沢峠が開通してからは、標高差2200mほ とんど登りずくめの黒戸尾根ルートは富士山 に次ぐ高度差があり、上え行くほど傾斜は増 す、梯子や鉄の鎖や針金が次々とあらわれる。 きついアルバイトを嫌う登山者は黒戸を敬遠 し今は静かな山になった。廃業した強力古老 も「 駒 」に登った自分の姿を思い出して いるのだろう。私達は静かな山を願う気持ち と、さびれ行くルートに山麓の人々の想いを 加え口数も普段よりすくない。尾白川のつり 橋を渡る。尾白川の渓谷美を横目に見ながら よく踏まれたジグザグの山径を登り始めた。 私にとって30年ぶりの願いが叶えられるス タートだ。じんわりと胸が…。

『やっと来れたよ!』自分に言い聞かせる。 昭和37年ごろ、若者の人気No1は登山 であった。ビートルズが来日したのはもっと 後の時代。! 最初の勤務地は名古屋。同じ係りの先輩女性に無理やり誘われ、初の賞与は山靴、キスリング、ヤッケに変わった。良い山、時期に山に入り、幸か不幸かその後は山の持つ魅力に病みつきになった。コークスの煙を吐く中央西線の夜行列車で宝剣、空木、木曽駒、越百、等、中央アルプス通いがいつのまにか定番になっていた。大糸線信濃四ッ谷(現在の白馬駅)方面まで、止まるところ知らず。そして私の駒との出会いは八ヶ岳に登ってから…。→甲斐駒、夏でも~白きピラミダルな姿~に一目ぼれ。以来「駒」のいろいろ文献を読む。



秋谷 豊さんの詩

ハートにジーンときます 吉原祥子さんの**遡行記録** 「黄蓮谷右俣」 オウレン

尾白川の大きな谷~

「秋の遠方」

…この響きに快い言葉の持つ魅力が固まっています。ますます想いは広がります。中央線で穴山、日野春の駅から見る駒の姿。 遥か眼下にある登山口。谷底から裾野を伸ばす黒戸尾根…思想(想い)の登山はすでに過ぎた。

今日、念願かない30年来の恋人のもとへ第 一歩が始まる。

五合目小屋を 50 年守ってきた古屋さんに会

える。たくさんの人を見守った主に一目会い たい!。むかしの話を聞きたい!と期待した …が老齢のため山小屋は無人になってい た。いかにも南アの小屋らしく五合目小屋は 質素な必要最小限のねぐらであった。古屋さ んの人柄を反映し、長い道のりを登ってきた 登山者に開放されていた。

その夜の月は南アの黒い森を背に悠久の 高さを感じさせるすばらしいものであった。 見上げる黒戸山を浮かばせて輝いている。

『 深い山の中、静かでイイね…この月! すごい!いつまでも見ていたいなア…』 我らは冷え込む寒さのなか 20 分ほど見とれ て、いつのまにか多感な青春時代の顔になっ ていた。

『さあ小屋へ入ろう!』 明日はもう一段きつい岩や梯子や鎖の登り が待っている。



小屋 14.40 泊 3日目: 5,00…御来迎場 8,05… 駒山頂 9,18/40…北沢峠 14,40 3日とも晴 12日:5時間

1日目:日野春23,11-ツエルト0時 2日目: 竹字神社 8,00…笹の平 10,55… 刃渡り 13,55…五合目

天候 歩行時間 ネット 13日:7時間 費用 概算 15,000 円 メモ 水場:5合目小屋に良質。 黒戸尾根急登、脚がつりや すいのでゆっくり、五合目 小屋泊が適当か。早立ち要

コース

やすらぎのとき(五合小屋にて)



秋の遠方

詩人 秋谷 豊

遠くの町からぼくはやって来たのだ 原生林の落ち葉のさかりのなかへ 一夏よく知っている七丈小屋の方へ

さむい小駅の仮睡の中から ゆっくりとぼくは目をさまして キスリングザックを肩に 濃い霧のなかへ出かけていった 陽が一日を閉じるように 一つのひるのなかでぼくは静かに 登攀を夢みるのだ

その午前屏風岩のあたりで 見しらぬ一人の友と出遭う 彼は昨日仙丈岳をこえてきたと言う ——山の色はいちめん燃えているようです

それにしても彼のどっしりと重い微笑は なんという高山草に似ているのだろう

ああ十月の甲斐駒

霧に捲かれ

黒い岩の窪みからぼくは岩頭を狙うのだが かっての夏の日 空をひき裂く電光が映し出した ぼくの記憶の襞には 白く崩れ落ちていく山頂があり 褐色の雷鳥の冷たいねむりがある

遠くの町からぼくはやって来たのだ やがて新雪のおとずれる山稜へ ハイマツとハイマツが重なり会っている 暗い方へ

(博品社判より)

<67>
にょ ほう さん
女 峰 山 (2,463m)

村松 峯子

静かな山

女峰山、赤薙山

※ まだまだ元気!

何度か訪れた好きな山のひとつの女峰山。 『又、来ましたよ!』…と登山口に立ちま す。トップを細野さんにお願いして,女性 3人が続きます。

一日目は唐沢小屋までの標高差約1,6 00mの登りです。

登るにつれ、杉小立、白樺林、ツツジの 原と変化があります。時折り、信仰登山の 面影がしのばれる石碑も見られます。

出会う人もいない静かな山道、まだ、この頃の山は会話もはずみます。 やがて、水場も過ぎ、見事なカラマツ林の中のタンタンとした登り、明るい笹原の急な登りと、女峰への長い登りが続きます。

高度はぐんぐん上っています。フウフウ いいながら、ふと見上げると大岩と白樺の 見覚えがある場所です。

「何だっけ、ここの場所?」
…そうです、思い出しました。ツツジの頃、
どこかのパーテイがギブアップしてここか
ら下山していきました。

「 細野さ~ん、休憩にしましょう! 」 ここまではまだまだ元気です。

※ おいしいコーヒー

雲竜渓谷がのぞまれる観瀑台からは、本 格的な登りとなります。急な登りになると 細野さんピッチが上がるようで、あとに続 くか弱い女性は大変です。

「どうしてこんな山に来たの!!」 …と思った安田さん。

「二度とこの山には登らない!」と思ったりするのもこの辺です。 うっそうとした 森の中を黙々と歩きます。 やがて、明るい見晴らしのよい岩場に着き、コーヒータイムです。

点在する白樺、みどりの笹原、アクセントの岩。まるで庭師の手になった日本庭園をみるようです。貸切の静かな大自然、気持ちのよい風。

「やっぱりきて良かった。!」と安田さんの疲れを忘れるようなひととき時です。それにしても、「コーヒーおいしかった」。



※ 唐沢小屋はもうすぐ

唐沢小屋近くの、急斜面の大崩れの危険 個所はやはり大雨で、崩落が、ますます進 んでいます。嫌なトラバースが待っていま すが、あと、ひと頑張りで唐沢小屋です。

トップが進みはじめて、ほどなく「ガラガラ」と大音響。「いったい何事?」斜面が崩れていきます。原因は自然にか、人為的

にか分かりません。歩むにつれ足もとの崩れもひどくなってきます。一刻も早く渡り切らなければ、思っていたところ、ラストの私は土砂の流れに巻きこまれそうになりました。

…膝まで埋まりましたが前を行く清家さん の助けを借り安全な岩場に上がることが出 来ました。緊張の数分でした。

先を急ぐトップはこのアクシデントに気が つかなかった様です。

パーテイなのですから、1人先に行かず、 危険個所では全員の安全を確認してから、 前に進むべきではないでしょうか!!。

※ 唐沢小屋の夜

今夜の泊まりは、混みすぎもせず、寂し くもない、ちょうど良い10名です。

日光市内から登ってきたのは、我々 4 名だけです。

細野さんが2度も急坂を降りて、沢から 汲み上げた女峰のおいしい水で

ウイスキーの水割り、おいしい夕食、それに加えて、開け放たれた小屋の入口から見える… 暮れなずむ富士の姿!

最高の夜です。

※ 女峰山から赤薙山へ

20日 AM: 6"35 女峰山の山頂に立ちました。すっかり晴れて、360 度の大展望です。

山頂も我々だけでのんびりと眺望を楽しむことが出来ました。

赤薙山までは、ハイマツ、シャクナゲ等の岩稜、いくつものピークを越す,大展望の縦走路です。赤薙山からハイカーの多い,明るいキスゲ平に降り立ちます。

好天に恵まれ,静かな山の良さを充分に

味わうことができました。楽しい山旅もこ こで終了です。

> よく登った。 よく歩いた足と、 よき仲間に感謝!



概要

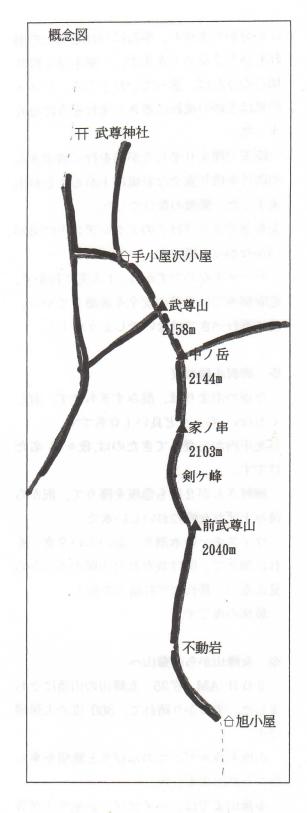
to all by U	* 大力士(地) (2) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	
山名	女峰山 C	
形式	無人小屋泊	
山域	日光	
期日	1998年9月19、20日	
目的	日光表連山の静かなルートを歩く	
交通	(往路バス) 日光駅―表参道、	
	(復路パス) 霧降高原一日光駅	
	(往路)北千住 6:31 発乗車	
Nie or J	19日(土)	
コース	西参道…白糸の滝 9:25 稚児の墓	
914	11;00…水場 11:50/12:00 箱石金剛 15:30…唐沢小屋 16"10	
hooks	20日〈日〉	
W-1-16-	小屋 4:45/6:00…女峰山、35/7:15	
	…赤薙山 10:08/15…リフト場	
	10:15…バス停 11:50	
費用	約 7000 円/人	
天気	2日間とも晴	

(68) 上州武尊山 (2158m) 柴 勇

静かな山小屋 静かな夜

旭小屋までの登山道は無くなっている。小 屋の先の武尊牧場まで立派に舗装された2車 線の道路が続いている。タクシーを沼田駅前 で拾って乗ったのはいいがどこで降りるべき か迷っているうちに仙ノ橋まできてしまった。 ここで下車して歩きだす。清流が右手に現れ 緑の木々が道の両面を覆う。舗装されていな い山道であったらと悔やまれる。少し歩いた ところで木陰を見つけ昼食にする。再び歩き だして間もなく左手の渓流を前にしてログハ ウス造りの旭小屋が現れた。大きなブナの木 が昼間でも太陽の光を遮って薄暗く、静かな 山の雰囲気を作り出す。小屋は、雪が降って も埋もれないように床が高く、2部屋に仕切 られいて中には釜戸が造られていた。1部屋 に10人位は泊まれそうだ。早速近くの渓流 まで水汲みに出掛ける。その間長木さんは部 屋をきれいに掃除していた。

釜戸に火を起こすことにする。新聞紙を細く短冊状に裂き、近くで拾ってきた枯木の小枝をそのうえに置き、さらにその上に太い薪を下から空気が通るように積み上げる。暗い部屋に明かりが灯る。しばらくぼんやりとたき火を囲み静かな時を過ごす。今日は二人の五十?回目の誕生日なのでブランデーで乾杯。



ブランデーの香が、うまさが口の中一杯に拡 がる。すき焼きの匂いが部屋一杯にみちる。 こんなにのんびりと、何の気兼ねも無く気ま まに時を過ごせるなんて……。外に出るとい つの間にか夜のとばりが下りていた。 7時には皆寝袋に収まった。

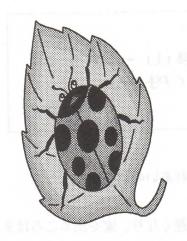
3時に起きると外は満点の星。残念ながら 木々に覆われて全体が見渡せない。朝食を取 らずにヘッドランプを点けて歩きだす。不動 岩の山頂で朝日を仰ぎながら朝食を取りたい と言うことで速めに小屋を後にした。 5時頃 になると空が明るみ始め、赤みを帯びた一筋 の雲が今日の晴天を約束している。

不動岩に着いたときには太陽は山の上に顔を出していた。早速朝食の準備を始める。フカヒレのスープの雑煮で腹一杯にして全員やる気満々。不動岩からの展望は素晴らしく360度、これから登る武尊山、そして日光白根山、赤城山、谷川連峰、富士山までが澄んだ空の下にくっきりと見えた。不動岩からの下りは長く急傾斜の鎖場が2カ所有る。15mの鎖場は可なり急傾斜だ。続いてカニの横ばい。その次が背摺り岩。岩を下って行くと滑り易くその上背中のリュックが岩に当たり難所で有る。女性にはきつすぎるのでリュックだけをロープで降ろし空身で下りた。

前武尊山に着いたときには真夏並の暑さと 岩場での体力消耗でのどはカラカラ。水を飲 んでも飲んでも喉の渇きが収まらない。しば らく休憩した後剣ヶ峰に向かう。前武尊山の 北斜面はナナカマドや楓の紅葉が始まってい た。登りには鎖が有るが下りは無い。きりた った岩陵で山頂は狭く、緊張する。ここから の展望は素晴らしく、至仏山や笠ヶ岳が目前 に迫る。

中ノ岳の水場はこの暑さのせいで大勢の人 が順番待ち。最近雨が多かったので先ず先ず の水量で冷たかった。ここで昼食にして体温 のほてりを冷まし、後半に備える。

武尊山の山頂に立った時はよくぞここまで 頑張ったという満足感で一杯。しばし展望を 楽しんだ後下山することにした。急下降が続



きガレ場も多く岩場も多く疲れた体には厳しかった。手小屋沢までのなんと長かったこと道を間違えたのではないかと思うほど。最後の力を振り絞って林道に着いたときには夕闇に包まれていた。

10 6 4 10 6 4 1/00					
山名	上州武尊山(B+) 山行形式 小屋				
期日	平成10年9月19日、20日				
山域	上州 地図 追貝、藤原				
目的	紅葉、展望の良い縦走、岩場、温泉			縦走、岩場、温泉	
交通機関 JR沼田下車バス又はタクシ			バス又はタクシー		
-77-1	245	9:55	2 - 4 2	LIT WARRY BY	
日	1 9	日			
程		我孫子	6:15/6:	23~うえの7:00/7:	
0 1	16~沼田10:04/10:30~仙ノ橋11:0				
コ	5…昼食11:40/11:56…旭小屋12:				
1	15/19:00				
ス	20日				
	旭小屋3:00/3:30…賽の河原5:00				
	…不動岩(朝食)7:00/8:05⋯				
	前武尊山10:25/10:40…家ノ串11				
	:55…水場(昼食)12:25/12:55…				
	武尊山13:32/13:50…手小屋沢小				
	屋16:00/16:15…林道分岐17:15				
	…武尊神社19:10~水上駅19:40/				
18. A	20:30(新幹線) ~我孫子22:30				

< 6.9 >

仏果山・経ケ岳 (丹沢)

庄司 洋子

関東ふれあいの道を歩く

日の出が遅くなり、家を出るころはまだ 薄暗く何かあやしげな雲行き、雨が降らな い事を祈り、いつものように東我孫子から 電車に乗る。本厚木(小田急線)に着くこ ろは青空。綿菓子をちぎったような雲がき れいだが、秋分がちかいのに真夏のような 暑さであった。

本厚木駅前から半原行きバスに乗って半原で降り半原神社で山行の安全を祈り、神社から宮沢川に沿っている「関東ふれあいの道」入る。地元では(ホタルの里)として保護育成しているそうである。

林道に入りしばらくすると登山口(上に青い橋が架かっているところ)階段を登って行く。樹林の中の道となり、しだいに傾斜がきつくなり、途中鹿よけの棚をくぐる。やや下り急登を登り切ったところが、仏果山の頂上。登りによわい私は、リーダーにザックを持っていただき、やっとのおもいで、あせびしょりで登った。感謝

ここで昼食をとる。

山頂(747メートル)は樹林に覆われているが、鉄骨13メートルの展望台があり、登るとそこから大山、丹沢山、焼山等天気が良いのではっきり見わたせた。

ここから経ケ岳への道。灌木まじりのヤセ尾根で小さい登り下りを繰り返して行くと半原越にでる。この峠は立派な舗装林道でびっくり、この林道を横切って階段を登って行く。樹林のなかをゆくと土止めの急登で、とてもきつい。またまた、ザックを

背負っていただき、からみで登る。いった ん平坦な道になるが、見晴台のような所を 過ぎると又、急登。クサリがついている急 坂を登り切ると大きな岩があった。経石と いって、昔、弘法大師が経文を納めた等い くつかの説があるそうである。

ここから経ケ岳山頂は近い。二等三角点が置かれた山頂からは、樹林が生い茂り、 あまり展望がよくない。経ケ岳(633メトール)頂上で時計草に似たつるせいの「 つるにんじん」を教えて頂いた。

いよいよ下山。道標にしたっがて半僧坊 へ向かって進む。鹿棚をくぐり、土止めの ジグザクの下りなってやがて林道にでる。 林道を横切り沢沿いに下ると車道に。ほぼ 予定の時間どおりで、バスで本厚木に向か う。本厚木で美味しいビールで喉をうるお し、帰途に向かう。



山名	仏果山・経ケ岳 (A)	山行形式	日帰り
期 日	平成10年 9月20日 (日) 晴れ	Sala	ero il vo
山域	丹沢 地図	丹沢山塊	1/50000
目的	関東ふれあいの道を歩く 交通機		小田急
日程	我孫子 -新宿 = 本厚木駅 5:33 6:45 7:36 神奈川中央バス、半原行 = 数 8:00	終糸組合前 8:40	F車 〇川 日 年
2	半僧坊バス停 = 本厚木		13:30/13:40
z	15:15/15:36 16:10 本厚木 - 新宿 - 我孫子职和 17:50 19:40	ŧ	

< 7.0 >第一回合同ふれあいハイク 神峰山 中村八重子

行き先が変わっても 交流が喜び

はじめてのボランテイア山行

大好きな山登りの趣味が地域のみなさん との交流につながることを知って、大変嬉 しい思いで当日を迎えました。

この日は朝から小雨が降り神峰山に登る かどうか不明のまま出発しました。

私は柏発のグループ(他に松戸発グルー プとバスは2台で出発) に配属され、柏市 の聴覚障害者のみなさんとバスが一緒でし た。集合時間の行き違いがあったのでしょ うかメンバーがそろわずヤキモキ……。

複数の団体がいっしょに行動する難しさを 知りました。

自己紹介の後、バスの中は手話教室に早 変わり、交流を深めるためとても良いアイ デアでした。

おはようございます こんばんは こんにちは、

ありがとうございます………

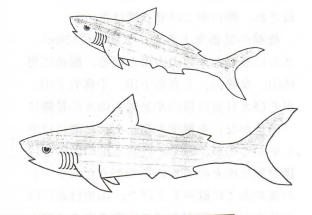
表現豊かに指文字を交えわかりやすく教え ていただきました。手話に大変興味を覚え ました。わたしも努力してマスターしたい な~!。

残念なことに雨で多くの参加をいただい ての神峰山へのハイキングは中止になって しまいました。企画、準備に数団体が何回 も会合を開き準備したときいております。 でも、雨も当然予想して、別のシナリオが 用意されていました。ゲスト、サポーター のみなさんと一緒に大洗水族館見学。海浜 公園でのおいしい豚汁(岳人あびこが担 当)で昼食。帰りに魚市場での新鮮な魚介 類の買い物…。これらも親睦と友好のふれ あい、ご一緒できたこと、ハンデイをもつ 人から学ぶこと。充分な成果はあつたと嬉 しく思っています。

企画、準備をすすめてくださいましたみな さんありがとうございました。

又、地域の交流山行がありましたら参加 したいと思います。





静かな山を歩くはずが

 $\Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow$

海の水族館見物となった。

ハンデイを持つ子供や親の喜ぶ姿に、わたくしたちの心も温かに…。

<71> 太郎山

2367 m

高橋芳恵

すばらしい展望の峰にたち 秋の山行を満喫

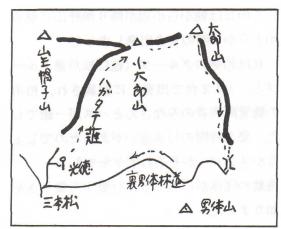
太郎山は溶岩円頂丘の独立した山である。

私たちは、光徳牧場よりハガタテコース をとり矢島市朗氏の句碑のたつ登山口より 上り始めた。アプローチで日光駅よりワゴ ンタクシーを利用したことで予定時間より 10分前に出発する事ができ精神的に余裕 ができた。唐松林を登っていくと水のかれ た沢にでた。涸沢を上るにつれ傾斜は急に なり、折からの台風の後のガレ場はかなり 道が荒れており、天候が悪い場合は避ける 方がよいコースと思われた。歩いた後、大 小の石が動き「らく」を連発した。「らく」 を発するタイミングを教えていただく。初 心者にとってはすべてが新しい発見や体験 で身が引き締まった。急登の長いガレ場に 顎を出しながら後方を振り向くと、中禅寺 湖が美しい姿を表わし一度に苦しさから解 放され、勢いをつけ登り続けた。

稜線の尾根を上ると小太郎山(2328m)、 さらに登ると太郎山山頂となる。眼前に男体山、女峰山、大真名子山、子真名子山、 がそびえ日光白根山や足尾の山々の景観に「絶景かな」を幾度も発した。紅葉には少し早かったが、賑やかに彩る前の山の姿は 趣があり所々の木々の色やどうだんツツジの葉の赤さに歓声を上げた。山頂付近には お花畑があり石だらけの山容の中のオアシスとなり、7、8月頃はどんなに楽しいかと想像し再来を誓った。 下りは又急降下となり、滑りやすいので神経を集中させた。男体山の息子であるだけに山の作りがほぼ同じことを確認しながら一気に降りると砂防工事用の林道出て、さらに裏男体の林道を歩くこと1時間30分で三本松バス停に到着した。

林道は長くだらだら道だがストレッチを かねハイペースでウオーキングしたので全 体のコースタイムを30分短縮する結果と なり計画時心配されていた時間的な問題は なかった。

10月の日曜日であったが登山者は少な く、心おきなく山の醍醐味を味わうことが できたすばらしい山行であった。



概要

1000			
山名	大郎」	山 (たろ	うやま)
山域	日光 地形図 男体山		
日時	10年10月4日		
目的	日光連山の展望		
歩行時間	6時間30分 (休憩含む)		
費用	約 5000 円 東武電車、 ワゴン t X, バス		
コース	我孫子駅 5:30-北千住 6:30 -東武日光 8:24/30 - 登山口 9:30-小太郎山 12:05- 太郎山 12:30/13:00-林道 14:35-裏男体林道 15:00- 三本松駐車場 16:00-日光駅 18:55 - 我孫子 21:30		

<72>

公開登山、創立記念山行

八ヶ岳

(硫黄岳、赤岳、縦走)

公開登山、記念山行計画

今年の公開登山及び記念山行はアルペンムード が楽しめ、紅葉にむせぶ**八ヶ岳**です。

コースは3ルート、何れもすばらしい特徴のある コースです。さあ…、秋の絶好のシーズン、心ゆく まで楽しみましょう。

1 行 先:八ヶ岳 (A 硫黄岳、 B 赤岳・阿弥陀岳、 C 縦走コース)

2 日 時:平成10年10月10日(土)~11日(日)

3 集合出発: 我孫子発 午前5時30分(成田よりの上野行) 前部 5~6両目(成田線の人はそのまま乗車)

4 ルート:

1日目 歩行時間 3時間

新宿発 7.00 (あずさ1号) →茅野着9.08 →美濃戸口10.30 美濃戸山荘11.30 →北沢経由→赤岳鉱泉14.00 (泊)

2日目 Aコース 硫黄岳

グレードA 歩行時間 4 時間 2 0 分 リーダー 村松(敏) 赤岳鉱泉→赤岩の頭→硫黄岳→赤岳鉱泉→行者小屋

Bコース 赤岳・阿弥陀岳

グレードB 歩行時間 5 時間 3 0 分 リーダー 細野(省) 赤岳鉱泉→行者小屋→地蔵尾根→赤岳→中岳→阿弥陀岳 →行者小屋

Cコース 縦走コース

グレードC 歩行時間6時間20分 リーダー 柴 赤岳鉱泉→硫黄岳→横岳→三叉峠→赤岳→行者小屋

5 宿泊方法:山小屋泊 — 赤岳鉱泉(1泊2食)

テント泊 一 赤岳鉱泉テント場 (14名迄) いずれか選んで申込み時に決めて下さい。

6 費 用:山小屋泊 — 20,000円

テント泊 ― 12,000円

(但し、新宿迄の費用は各自負担)

9月の集会時に、参加者はテント山小屋泊共、 予約金10,000円を持参して下さい。

7 帰 路:南沢コース(全員)

行者小屋13.30→美濃戸山荘15.30→美濃戸口16.30→茅野発17.57

→新宿20.17→我孫子21.30

8 担当委員:日下 榊原 原田(君)



(村松敏)

< 7 2 > - 1 1 T LUE 5E

"公開登山、記念山行"

八ヶ岳

(Aコース 硫黄岳 2,742m)

蜂谷 由美子

憧れの八ヶ岳へ

八ヶ岳は複数の峰からなっている。

「憧れの八ヶ岳に登る」と言うと「どの山?」と聞かれて「……」と答えに詰まっていたのですが、今回の記念山行で八ヶ岳を知る良い機会に恵まれ、その素晴らしさに感動しました。

第1日 会員38名、公開登山参加者10名の総勢 48名で役員の方に用意していただいた切符で、山 行とは別の行動班に分れ、新宿から「特急あずさ」で 茅野に行く。そこから貸し切りバスに乗る。

お天気にも恵まれひんやりとした秋風の中,美濃戸口へ向かう。直行便なので約30分で到着。

ここで村松リーダーの挨拶、各班長及び、公開登山 者の紹介があり、次に山行の班に分かれる。

Aコースは班長の高橋(英)さん、他に原田さん、 増田さん、高橋(正)さん、庄司さん、公開登山参加 者の高橋(裕)さんの計7名で、AM10:30に出発。 ゆるやかな林道の中、車に追い抜かれながらも高橋 (正)さんの発案で俳句(川柳?)を考えながら歩く。

今回のトップは後ろを振り返りつつ、速度調整をしながら歩く原田さん。(以前より余裕のある歩き方になっているのに感心しながらも、とても歩き易い。) 前を向いて歩きながら聞いていると、高橋(正)さんの声がまるで作家の「立松和平」そっくり!! その「立松和平」さんに応答するとても元気な高橋 (裕)さん(この方は林真理子に似ています。)から ポンポン飛び出す俳句(川柳)を楽しく聞きながら 1時間ほどで、美濃戸山荘に着く。途中で別行動に なってしまった公開参加の方、を探しに行った村松 リーダーのことを心配しつつ、山荘で出してくれた 「お茶」と「お漬物」で昼食を取る。

ここで 30分休憩し、北沢コースで赤岳鉱泉に向う。 午前中に続き二大作家の楽しい応答を聞きながら、 清く澄んだ川の流れに寄り添うように歩く。

深呼吸をすると、日頃のストレスなど忘れてとても気持ちが落ち着く。今日の高橋(英)班長はこの一年の間にいろいろな山を経験され、随分力を付けたようで、なんとなく静かに若輩者を見守る「高倉健」のようだ。 北沢沿いに沢を4、5回渡り横岳を仰ぎながら、赤岳鉱泉に着く。赤岳鉱泉ではにカラフルなテントが張られ、すでに全員が揃っている。

「あれが赤岳」「こっちが硫黄岳」と見上げる山はどれ も険しい・・。 5月に肩を痛めてからの初めての山 行なので、少々不安になる。

第2日 ほとんど眠れないまま朝を迎える。

コースにより出発時間が異なり、Cコースの縦走される方達はヘッドランプを付け真っ暗な中を出て行く。 星がきれいだろうな~、と思いながら外に出る余裕もなく、バタバタと出発準備をする。山小屋の食事は思いのほか、夜のカレーも朝食もおいしかった。

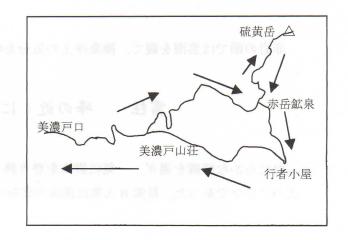
定刻どおり我々の Aコース も AM6時に出発。 今日から中野さんも硫黄岳コースに加わり Aコース は8名となる。昨日と同じく冗談を言い合いながら歩く。 沢を渡ってジグザグに登りながら、向かいの赤岳を見ると一直線に空に向かっているような登山道が見える。岩場と聞いている。 「すごいね~あそこを登って行くのかしら」と、独り言。 予定より早く白砂の尾根に出た。頂上を見ると黒い 岩礫の山、「あと少し、あと少し」と思いながら登って いくと、硫黄岳から横岳、赤岳に続く従走路が見える。 朝早く出発した従走コースの人達が見えるかもしれ ないと七人の人影を探す。向かいの赤岳にも人影は …見えない。

頂上の展望は素晴らしく、遠く中央・北アルプス、 北八ヶ岳の山々、奥秩父、赤岳、横岳、阿弥陀岳な どを見る事ができる。この眺望に、増田さんや中野さ んも大喜び。庄司さんも今回の登山で自信がついた ようで満足そうな微笑。雲ひとつない空を仰ぎ、赤岳 や阿弥陀岳にいる「岳人あびこ」の会員たちの無事 を思いながら下山する。赤岳鉱泉で荷物を詰めこみ 直し、行者小屋に向う。昨日、村松リーダーが挨拶の 中で「行者小屋まで、平坦な道を45分」と言われた のに、歩き始めるとすぐに登り・・「おかしいな、硫黄 岳より傾斜がきつい」と思いながら歩く。そのうち皆も、 特に高橋(正)さんの声が聞こえなくなって来た。… 行者小屋に着いた時には皆「 ほっ 」とし、そして どっと疲れが出て来たようだ。昼食後、南沢をくだり、 美濃戸山荘経由で2時半には美濃戸口へ着く。高橋 (英)班長の挨拶のあと、それぞれにビール、牛乳な どで慰労会を行った。

初めての八ヶ岳、奥深い山の中の霊峰を仰ぎつつ、事故もなく登山できたのは、この「岳人 あびこ」に入会出来た事と、そして素晴らしい仲間に恵まれた事を再認識した山行でした。

<概要>

		山小屋		
山名	硫黄岳(A コース)	山行形式 テント		
期日	平成 10 年 10 月 10日(土) 11 日(日)			
山域	山域 八ヶ岳 地図 八ヶ岳西部			
目的	公開登山、記念山行	交通機関 電車、バス		
歩行時	1 日目 3 時間 00 g 2 日目 8 時間 30 g	費用		
2月目8時間30分 777 12000円 12000円				



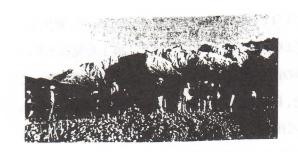


<72>八ヶ岳 A班 (硫黄岳) 硫黄岳にて

<72>-2

八ケ岳 (硫黄岳 A コース 2742m

高橋 正



俳句で詠んだ八ヶ岳

久しぶりの大きな山の懐に一夜を得る。昨夜来の興奮のためかいくぶんか早く目覚めた。 山小屋の同室の人に気使って、そおっと廊下に出てみると、行き交う人のヘッドランプの 灯が、飛びかっている人魂のように見え、一種、異様な光景に思えた。

外へ出て、昨夜見た、天の川が気にかかり、青空を見上げると、空は白々と明け行く様であった。澄み渡る冷気の中を登り始めると…

さきをゆく 肩にやさしい 荻の花

とんぼ舞い 高山植物 花を割る

赤岩の頭では雲海を観て、極楽浄土の気分を味わい興奮冷めやらぬまま頂上に向かった

霜柱 峰の近くに 現れて

なだらかな稜線を過ぎ、一気に岩山を登り終えると、頂上に立った。そこは360度の 大パノラマであった。最強8人衆は満面の笑み…!

群青の 空にひびいて 大歓声

帰路の途中

木にかけて 気にかけずして 忘れもの

最後の登りも足並みそろえて元気元気 ダッタ ダッタ ··· ···! 全員無事八ケ岳縦走ご帰還なる < 72>

(南)八ヶ岳

赤岳(2, 899**m**) 原田 美和子

岩場と鎖場 初めての本格登山

八ヶ岳は言わずと知れた人気の山である。穏やかな山並みの北八ヶ岳と違い、 豪快な岩稜の南八ヶ岳、その中の最高峰 である赤岳は、岩場と鎖場のある厳しい 山である。

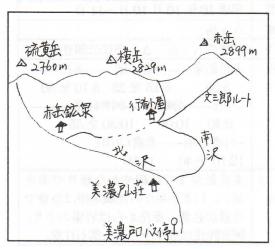
1日目

美濃戸口から 1 時間 10 分程で美濃戸山 荘に到着。ここで昼食。お茶のサービス が有り、有料トイレは清潔で気持ち良い。 14.00 時には赤岳鉱泉に到着。行程は翌 日の赤岳登頂に備えて、ちょうど良いト レーニングという感じである。

快浴(?)、快食、快眠(?)で翌日の本 番に備える。

2 日目

真冬を思わせる凍てつくような冷水で洗面し、早い朝食を摂る。



6時に小屋前に集合。行者小屋に荷物を 置いて、いよいよ赤岳を目指して出発。 厳しい岩場と鎖場の有る高山に初めて挑 むのだと、少々興奮気味で登り始める。 急登を喘ぎながら一歩一歩ゆっくりと進 む。難関の岩場では緊張感とスリルと苦 痛を同時に味わう。

頂上に着くやそれらが一転して歓喜と解放感と安堵感となって胸いっぱいに広がる。「やった!」「登った!」「2899mだ!」澄んだ青空、360度の素晴らしい眺望。とっても幸せな気分。ちょっと残念なのは人が多すぎること。

「急登に紅葉も見えず一歩二歩」「秋晴れや峰は歓喜の人の波」

下山途中、展望荘方面からこちらに登ってきたCコースグループの人たちと出会う。硫黄岳と横岳に登頂して更に赤岳に挑む先輩諸氏に深い畏敬の念を覚える。行者小屋で昼食。美味しい清水も飲んで元気も回復。仲間と写真も撮る。朝、置いていった荷物を、リュックに詰め、再び下山。時々来し方を振り返り、赤岳の頂上を仰ぎ見るゆとりも有り。

「秋晴れや登りし峰の空高し」 清々しさと満足感を残してくれた記念山 行でした。

村松さん、清家さん、先輩のみなさん、 ありがとうございました。

ر ب	めりがとうことであった。							
山	名	赤岳 山行形式 山小屋						
期日		平成10年10月10日~10月11日						
山域		八ヶ岳	地図	八ヶ岳				
目的		創立記念山行	交通機関	電車とバス				
	10	美濃戸口(10:20)一美濃	戸山荘(11:3	30)…北沢				
日和	日	経由…赤岳鉱泉(14:00泊)						
程コ		赤岳鉱泉(6:00)…文三	郎経由…赤岳	岳(8:30/9:15)				
ī	11	…天望荘(9:45)…地蔵	尾根…行者/	屋(10:55/				
ス	日	11:40)…南沢経由…美濃戸山荘(13:45/14:15)-						
		美濃戸口(5:15)						
ル	ート	①赤岳鉱泉で水の補給ができる						
	犬	②ルートは明確						
Ž	兄	文三郎ルートは急登	だが鎖場で	階段が多く、				
		特に危険というほど	ではない					

< 72 > -4

八ヶ岳記念山行 赤岳―阿弥陀岳

長木 加代子

360度の眺望に感激 充実の山に

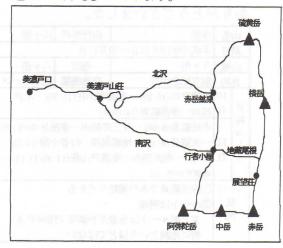
体育の日に合わせて、今年は記念山行と公 開登山が同時に行われ、計画に携わった方々の 御苦労に思いをはせる時、感謝の気持ちで一杯 です。

赤岳、中岳、阿弥陀岳コース 13名

1日目 赤岳鉱泉までは、期待していた紅葉には未だ早く、それでも素晴らしい天候に恵まれた中、そこはかとなく漂う秋の気配と心地よい沢の音は、少々の気掛かりも消し去る程でした。

爽やかで穏やかで心を開く山行は何より大切。年を重ねても暖かい励ましは、思わぬ力が 沸いてくるものです。

赤岳鉱泉は気持ち良く、設備も食事も小屋の主人の人となりが思いやられ、外のテラスでは仲間達とゆっくり寛ぎ、よもやま話に花を咲かせているらしいがループ有り、お酒を楽しむがループ有り、読書に勤しむ人有りで時はゆったりと流れる。山では贅沢なお風呂で汗を流し、満天の星に目を凝らし、それぞれに至福の時間を過ごせた方も多いでしょう。



2日目午前5時35分。夜明け前に小屋を出る。冷たい力水を飲んで、私の気持ちは「いざ出陣」。

行者小屋でザックを軽くし、赤岳を目指す。無事にこの小屋に辿り着ける様、心で念じ地蔵尾根へ。厳しい登りでも皆元気(私は少々きつかった)、タイムも上々。分岐に出ると、展望荘「眺めは尽きやせぬ、眺めは尽きぬ」鳥海山の歌の一節です。大好きな富士山が、稜線と雲海の上にポッ別浮かんでいる様な感覚、幸せで無我の境地で見入った事が思い出されます。話は逸れますが、無我と言えば、大観の無我を毎日眺めています。(これが何とも好きなんです)でも、しっかり写真は写していますので、そうでもなかったのでしょうか?

赤岳、中岳、阿弥陀岳の頂上は三様でしたが、 特に阿弥陀岳は、リーゲーが非常に躊躇された事 等がありまして、登りも下りも真剣そのもの。 360度の眺望は何とも素晴らしい!

…眼下に諏訪湖、 少し大きめの富士山、 迫力満点の赤岳。

分岐で思わず涙を流した方もいらしゃいま した。この充実感は喩え様もなく、特に大桃さ んのガンバリには敬服しました。下りは順調。 南沢の原生林の中を抜け美濃戸口へ。原生林の 中で少し森林浴を楽しめたら...。

こうして八ヶ岳登山は終わりを告げ、又一つ 思い出深い川行が増えました。皆様ありがとう ございました。

山名	赤岳、中岳、阿弥陀岳
期間	平成10年10月10日~11日
山域	八ヶ岳
目的	紅葉の八ヶ岳 Δ 市民公開登山
日程	赤岳鉱泉行者小屋赤岳
コース	5:35 6:15 発:25 8:10 発:30
	中岳分岐阿弥陀岳
	9:40 10:05 10:30 発:55
	行者小屋美濃戸山荘
	12:10 発:40 14:20
ルート	赤岳鉱泉までは緩やかな登りで歩き
状況	易い。行者小屋から地蔵尾根は急登で
	注意が必要。赤岳からは岩場の下り。
	阿弥陀岳は登り下りとも落石注意。

< 72 > -5

公開登山、創立記念山行

八ヶ岳

(硫黄岳-横岳-赤岳縦走)

C班 安田みづほ

硫黄岳~横岳~赤岳 縦走と大展望

岳人あびこの創立記念山行、そして秋の公開登山の舞台は八ヶ岳。1年前、丹沢の公開登山に参加して「岳人あびこ」の一員となった私の1周年記念山行でもある。お陰でレベルの高いCコースを選ぶことができた。

2日目の10月11日、夜明け前の赤岳鉱泉を5時出発。林の中をジグザグに登って行く。気温2度。登りの途中で日の出を迎える。木々の間から眼下に一面の雲海。駒ヶ岳や仙丈ヶ岳が雲の上に見える。こんな急斜面を下るのかとびっくりした今年3月の硫黄岳を思い出した。山頂かと思った平坦なところは、赤岩の頭の真下で硫黄岳はすぐそこだ。6時50分着。

雲一つない青空に、横岳、赤岳、阿弥陀岳が目の前に迫る。下から見たとき岩かと思ったものは道しるべとなるケルンだった。ケルンに導かれて稜線を行くと硫黄岳山荘に着く。このあたりは高山植物の宝庫とか、その時期に再度来たいものである。護り

神のような大同心を右に見るころ、尾根はやせた岩 道になり鎖場やハシゴが所々に出てくる。ゆっくり気 をつけて行けば心配ない。しかし、晴れているから 言えること、悪天候や風が強ければやはり危険なと ころだ。下からも上からも待つ人がいっぱいだった が、思ったほど時間を取ることもなく、スリルを味わい ながら快適に横岳を通過することができた。お地蔵 様が祀られている地蔵尾根分岐を過ぎると程なく赤 岳展望在。最後の登りの前の小休止。

赤岳への途中で下りてくる村松LたちのB'グループ(本年入会者、公開登山参加者中心)とエールの交換。滑りやすい急坂を越えると赤岳頂上小屋。 少し奥に祀と三角点がある。10時着。

たくさんの人でごったがえす中で記念撮影、ゆっくり八ヶ岳最高峰からのすばらしい大パノラマを堪能する。あまりにも恵まれた晴天に感謝! 雲一つない秀麗富士の姿に感激。あの辺が1年前に行った丹沢山塊。あの時の参加者はたったの3名。縁があって今、岳人あびこの会員となり、こんなすばらしい山にこれたことを感謝するばかりである。

ゆっくり休憩した後、中岳、阿弥陀岳を左に見ながら文三郎道の急坂を気をつけながらもどんどん下る。雪の時はアイゼンが階段の網に食い込んじゃって歩きにくいんだよと清子SLが話してくれた。行者小屋でBグループと再会。行者小屋の水は冷たくて旨い。赤岳と横岳をバックに写真を撮ってもらう。

Bグループと別れて赤岳鉱泉へ荷物を取りに行 く。30分位で着いた。手際よくテントを撤収する。 帰りの荷物は以外に重くてガックリ。

今回、私はテントを希望した。食料担当だったが買い出しやら下ごしらえやら先輩に助けられて何とか役目を果たせたかな?と思う。温かい気持ちで見守ってくれた皆さんありがとうございました。

晴れてるのにテントの中でわいわい、がやがやが又楽しい。『まったけ』ってほんと旨いね。満点の星空は人の小ささを教えてくれる。美濃戸山荘への帰り道黄色の葉っぱがこくなった様な気がした。

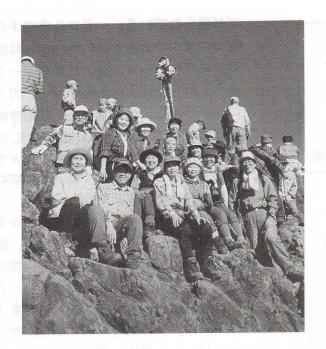
14:00美濃戸山荘着。おそばを食べて 乾杯!ここのお茶が又美味しいのです。 ここからの美濃戸口までのだらだら歩きが 私はとても苦手なのです。又しても最後の 到着でした。公開参加者と共に記念撮影。 これだけの人数の山行の計画、実行に骨を おられた各リーダー達に御苦労様でした。 そしてCグループの柴し、細野(清) SL お疲れ様でした。やさしさの中に厳しさを チラッと見せる柴し、厳しさの中に厳しさを チラッと見せる柴し、厳しさの中に気配り をいつも忘れない細野(清) SL、カメラ 担当でありいつも謙虚な中村さん、若くて 新風を期待させる川下さん、気さくで明る い柴田さん、華やかでいつも楽しい小黒さ ん、つまんないけど真面目?な安田のC班

の面々でした。来年2月の冬の八ヶ岳は、

相当厳しいと思うがチャレンジしたいと思



0.35	州 AB 省	MEC U	HI VI	AN BURGIO
山名	八ヶ	岳	期日	H10-10/10~11
山行	形式	テ	ント	1泊2日
山域	八ヶ	岳南	部	
地図	昭文	社	八ヶ日	岳•蓼科
目的	創立	記念	山行	• 公開登山
		لو □10	さ1号 :00-	:30- 新宿7:00あ 号- 茅野駅9:20- 美濃戸山荘11:30- テント泊)
ス	赤岳10 行者小	」6: 25- ;00/ 屋11	48/7: 赤岳原 40- 3 :30-5	禄5:00硫黄岳山頂 00-横岳8:10三叉 展望小屋9:20-/30 文三郎分岐11:00- 赤岳鉱泉12:05/33 00-美濃戸口14:5



<72>八ヶ岳 B班(赤岳-阿弥陀岳) 赤岳にて

<72>八ヶ岳 B'班 (赤岳)





<72>八ヶ岳 C班(硫黄岳-横岳-赤岳) 赤岳にて

< 73>

平標山 (1,983.7 粒) 仙ノ倉山 (2,026.2 粒)

外崎 蓮

降って晴れて 吹いて降った上越の旅

10.10.24 (土)

平標山・仙ノ倉山は上越国境にあり、東方には万太郎山・オジカ沢の頭、谷川岳のそうそうたる峰々がほぼ一列に並び、谷川連峰の中心部分をなしている。谷川連峰というと一ノ倉沢の岩場と沢山の遭難者を思い浮かべてしまうが、それとは対照的に平標山から仙ノ倉山にかけては、スケールの大きな平原が伸びやかに広がっている。

越後湯沢から元橋まではタクシーをとばす。前回は三国峠から登ったが、今回は松 手山経由だ。松手山までは一気に600 気登る。樹林を抜けガレ場に出ると、西方に独特の形をした苗場山が見えてくる。天候は変わりやすく、急に冷え込み、道端にうずくまってふるえながらの昼食。病み上がりの重い足を何とか運びあげて松手山に着くと、冷たい雨が降りだした。風もある。私達は雨具を着込むと、平標山の稜線に向けて登っていく。

草原状の尾根を登りつめ、稜線に出ると、 風は更に強くなり、足が掬われそうになる。 ここからは東に向かって緩やかな登りで、 平標山に着く。前回は、山頂から北へ矢場 の頭を経て土標へ下った。長丁場で足場の 悪い道だった。

私達はこのままザックを背負って仙ノ倉山へ。登山道がかなり荒れ、両脇にはロー

プが張られている。一旦コルまで下り、平標山の家への近道を右に見ながら草原を緩やかに登っていく。幾つめかのピークに出ると、前方に広大な山容がボーとガスの中に浮かび出た。仙ノ倉山だ。谷川連峰では2,000粒を超える唯一の山である。しかし難なく山頂へ到着。ガスが周りの山々や谷底をめまぐるしく駆けめぐる。その切れ間から谷川岳方面が見えた。

雨上がりの寒々とした晩秋の山々を後にし、引き返していると、間もなく、閉鎖される山小屋への近道を大勢の登山客が下っていくのが見えた。今だからそおっと打ち明けるけれど、実は私もこの近道を下りたかったが、自然保護に燃える我がクラブの面々は、立て看板に書かれてあることを忠実に守り、また、平標山の山頂に登り返した。

良いことをしたご褒美だろうか、山頂に着くと急に晴れ出し青空が広がった。晴れ出すと辺りは一変し、自分達は今、秋色のど真ん中にいることに気づかされた。眼下には、くすんだ赤と緑の屋根の山小屋が、これも秋色の中に美しく収まっている。真新しい板の階段が小屋まで延びていて、パタン、パタンとリズミカルに下ればわけなく着いてしまうが、このまま小屋の中に入るにはあまりにももったいない。階段中程のベンチに腰を下ろし、甘酒と景色を堪能する。

山小屋は4年前と何ら変わっていない。 ここから見上げる平標山は、草紅葉と熊笹 に覆われ、何とも優しげな表情をしている。

肌寒くなって暗い小屋の中に入る。今月 一杯でこの小屋は閉まり、来年の春まで避 難小屋になるという。とすれば今夜の夕食 は小屋の残り物?あるいはここぞとばかり ご馳走が出るかもと騒いでいたらカレー。

やっぱりと思いつつ食べてびっくり。まずご飯が旨い。大鍋で炊いてあるのにとてもよく炊いてある。カレー、これもまたこ

くがあって旨い。空腹のせいだけではないのだ。全部の人たちが自分で立っていってお代わりした。ちなみに前回の記録を見るとやはりカレー。味は忘れたが、この小屋は夜はカレーに決めているのかもしれない。腕も上がるわけだ。

夕食後食事した部屋のストーブにあたり ながら、小屋主さんと歓談する。久しぶり にまともな話ができたと言ってくれた。こ の山域は、気象が非常に変わりやすいのに、 甘く見て軽装で来る人が多いと嘆く。

10.10.25 (日)

天候はまた一変し、雨空に逆戻りしている。板一枚隔てた隣の部屋のパーティーは、ご来光を見るため昨夜のうちにお弁当を作ってもらい、今朝は早くから、ガサガサ、ビニール袋の音をさせていたので騒々しくて起き出してしまう。ところで今朝はご飯もさることながら味噌汁が旨い。小屋主がとった茸汁だが、山小屋でこんなに旨い味噌汁を飲んだ覚えがない。

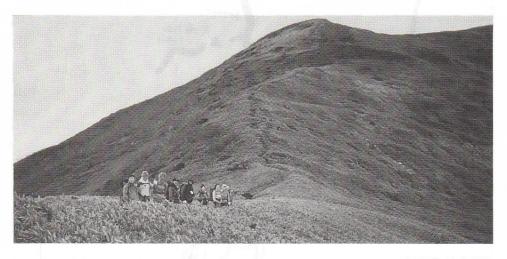
今日は南へ南へと歩き、三国峠へ下る。 小屋を出る時、とうとう雨が降りだした。 途中風も出てきて昨日と同じような状況に なった。時折パッと日が射すこともあって、 右手の苗場スキー場に縦に一本鮮やかな虹 がかかった。大源太山は登山道左手の斜面 を登る。わずかな登りで山頂に着くと、林 の中にポツンと三角点が立っている。この 後三国山までは、大小の登降を繰り返し、 最後の登りを登りつめてついに三国山の山 頂に立つ。

南面が開けているが、あいにくの雨空、沸き上がるガスを掻き分けるようにして三国峠へ下る。この峠までの登山道も砂礫化が進み、板の階段の工事が進められていた。三国峠からは左に折れ、林の中を20分程下って三国トンネルの脇に出る。

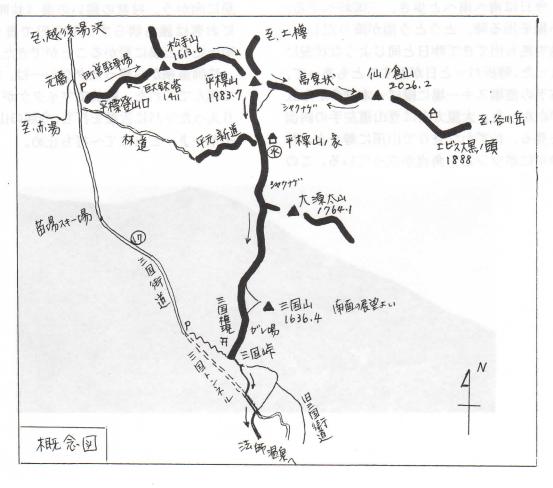
2日分の汗を流そうと、かの有名な法師 温泉に向かう。国道を少し歩き、右手ガー ドレールを越えて鉄塔下から樹林の中に潜 る。かなり下を流れる沢に沿って道は緩や かに下って行く。何度か沢を渡り返し、小 さな公園を抜けて、待望の法師温泉に到着。

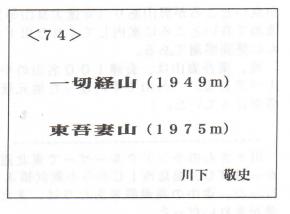
建物の横を通る時、曇りガラス戸越しに ランプの光が見えた。今は亡き2人の名優 の入浴シーンが目に浮かぶ。それが災いを なしたのか、玄関に廻ると人であふれ、今 や秘湯温泉の看板は片隅に追いやられてい た。当然のように登山者は後回しにされ、 挙げ句の果ては体よく断られて、猿ヶ京温 泉に向かう。村営の憩いの湯(共同風呂) にお客は誰も居らず、300円で身も心も ゆったりと湯に浸かることができた。

法師温泉から乗ったタクシーは、水上まで運んでくれた。駅前でマイタケがごっそり入ったソバに舌鼓を打ち、今回の山行も、イヤー♪~これにて~打ち止め。



	- A 111	=== (=== /.l.)	倉山・三国山 山行形式 山小屋泊まり					
Ш	名		AH —HH HH					
日	時	平成10年10	月24日(土)~10月25日(日)					
Ш	域	谷 川	地 図 谷川・苗場・武尊山(5万分の1)					
目	的	谷川連峰最高	峰の山、360度の展望、草紅葉					
交通	機関	上越新幹線と						
日	24	我孫子5:30	―上野6:02/6:17 (あさひ401) ―越後湯沢7:38 (タクシー)					
	73	~登山口8:	10/8:15~巨大鉄塔9:25~松手山10:05/10:15~平標山					
程	0日3	11:45 / 11:	50~仙ノ倉山12:38/12:55~平標山13:40/13:45~ベンチ					
			50~平標山の家 15:10 (泊まり) 6時間					
コ	25	平標山の家 6	: 42~太源太山7:35/7:50~三国山9:00/9:10~三国峠					
-15	13	9:40/9:45	5~国道10:10~法師温泉11:25~猿ヶ京温泉12:00/12:40					
ス	H	~水上13:1	5 着 4 時間 30 分					
ル	①元	喬の駐車場には	トイレあり					
Ы	②松=	手山直下のガレ	場は、思った程は滑らなかった					
1	③仙.	ノ倉方面に面し	た平標山の登山道の荒廃が激しく、両脇にはロープが張られてあっ					
. 1	た。	特にコルから	、平標山の家への近道が荒れ、来年早々から通行禁止になる。					
小	④平林	票山の家の営業	は10月まで。水道あり、感じのいい小屋。					
屋	⑤三	三国山から峠までの荒廃も激しく、ほとんど板の階段になりそう。						
0	⑥法的	师ノ沢を越えて	法師温泉へ行く場合、増水時は注意。					
状	ridd							
況	t Hall							





晩秋の静かな東北の山

我孫子駅を4:30に出発し、登山口である不 動沢橋に8:50に到着、高速道路は早い、車は 便利の一言。 途中の高湯温泉から不動沢 の間の紅葉はすごくきれいだった、あと数日 で道路を冬季閉鎖してしまうのが早すぎるの でないかと思えるほどに。 磐梯吾妻スカ イライン今期最後の土曜日、暑くもなく、寒 くもなく絶好の登山日和りについペースを上 賽の河原よりは、吾妻スキ げてしまう。 ー場からの道と合流し冬のメインルートとな る。 追分、大根森を経て、吾妻の瞳と言 われる五色沼の北岸で昼食をとる。 この 場所も冬には、家形山の南斜面をトラバース する途中となる、座っている横には、年末年 始の入山者の為の竹竿と赤旗が束ね立ててあ った。 例年であれば、雪があってもおかし くないのに、どこにも雪がない、あるのは予 定時間に対する余裕だった、そこで昼食後、



デポし家形山にピストンする、山頂からの眺 めよりも、西に遙かに続く縦走路と、歩き出 している若者二人組がうらめしい。 沼を半周しての一切経山山頂は、今日も風が 強い、東は晴天、西は県境尾根や中吾妻山等 展望はよいのだが、黒い雲の流れが早い、太 平洋と日本海の分水嶺らしい初冬の雰囲気が 出ている、記念撮影をして早々と酸ケ平に下 酸ケ平小屋は、工事中でまだ中には 入れなかったが、とてもきれいな避難小屋だ った。 95年の鉄山、97年の谷地平に続き 避難小屋の建て替えが進む、本当に福島県に は、感謝!感謝! この後、吾妻小舎にて谷 地平避難小屋を担当した福島県庁の女性に偶 然会った、本当に心からのお礼を言わせても らった。 吾妻小舎は最後の土日を楽しむ 人達で混雑していたが、私達は小屋番遠藤氏 の好意により別室に通してもらい一人一枚の 布団で寝ることができた、またも感謝!

翌日は、姥ヶ原から東吾妻山に登る、頂上は霧に包まれ、早々に下山する、東北の山らしく1975mでも頂上付近はハイマツだが、やがて樹林帯の中の田圃の連続になる。 景場平にて休憩をとり鳥子平、兎平と順調に下山路を歩く。 鬼平からは車で野地温泉へ、大浴場で体を洗い、露天風呂でくつろぎ、源泉の檜風呂で暖まる、そして昼寝込みで800円。 今回のルートは、冬にスキーで登り高山を経て土湯温泉へ下るのがお勧めです。

山名	一切経山・東吾妻山(B)
山域	吾妻連峰東部 (福島)
形式	小屋泊まり(1泊2日・車利用)
期日	平成10年10月31日~11月 1日
部 版	我孫子 4:30=不動沢橋 9:00… 家形山11:50…一切経山12:45…
コース	吾妻小舎13:45/翌7:30…東吾妻 山 9:05…鳥子平11:20…兎平= 野地温泉(入浴)= 我孫子18:10

^{<7}勃経山 (1949m) 東吾妻山 (1975m)

加藤 秀明

今回は、新人の川下さんの常連である吾妻小舎に泊まり、晩秋 (本来ならば雪が降っている季節)の静かな山行である。

この山行のハイライトを以下にまとめた。

- ・高湯温泉付近では、紅葉がまだ残っていてすばらしかった。 (不動沢橋付近から上は枯れていた)。
- ・登り始めは、晩秋の山行らしく静かで、 暑くなく、寒くなく、よいお天気でよかった。
- ・青い色の五色沼はすばらしい眺めである。 場所によって(見える角度によって)色 が変わって見える。
- ・一切経山は強風が吹き荒れるところだが、 五色沼や展望がすばらしい。
- ・酸ケ平付近の山は、はげ坊主で(草木も はえない)寂れた景観である。
- ・吾妻小舎は、道路沿いにあるが、昔なが らの山小屋風で、よかった。

朝夕の食事がおいしかった。メニューは ホテルなみ(はちょっと言い過ぎか)。 川下さんの顔で、別室で酒盛りでいい気 分!

普段は、11月中旬で小舎を閉めるそうだが、今年は不動沢橋の架け替えで11月3日で閉めるとのこと。

2日目

- ・東吾妻山の下りは、雨振り後だったのか、 道がグチャグチャで大変だった。
- ・東吾妻山は風が強くて晩秋のせいか寒く て、早々に下ってきた。
- ・野地温泉にはいくつも温泉があり(まず 汗を流す。次に源泉に近い熱い湯、最後 に露天でゆったり。)久々にいい温泉だ な~~という所だった。
- ・帰りは、磐越道と常磐道で渋滞もほとん どなくすいすい~~~。

以上のように福島には山も温泉もなかな

か良いところが沢山あり(安達太良山等)、 改めて良いところに案内してくれた川下さ んに感謝感謝である。

尚、東吾妻山は、会津100名山の中の 1つである。(と山ですれ違った地元登山 者が言っていた。)

川下さんのランドクルーザーで東北道をかっ飛ばし、福島西ICから不動沢橋まで行った。途中の高湯温泉あたりは、まだ紅葉がきれいだった。

途中雨が心配されたが(福島西ICあたりは降っていた)、不動沢橋では快晴だ。 日頃行いの良い参加者(村松L、柴SL、 小黒さん、川下さんと私の5人)のためで

あろうか。緩やかな登りをのどかな雰囲気で進んでいく。出会う人もほとんどいない。

家形山南麓で昼食を取った。強い風を避けての休憩だ。雲がみるみる変わっていく。 一切経山や酸ヶ平方面の山が見える。 家形山山頂まで空身で往復した。約30分

家形山山頂まで空身で往復した。約30分で往復し、一切経山に向かう。

一切経山は特に風が強いところだ。

早々に一切経山頂を退散し、酸ヶ平を経て 吾妻小舎に向かう。酸ヶ平付近からは、ダ ケカンバの林が見える。一見白樺林のよう だ。

吾妻小舎手前の桶沼周辺には、シャクナゲがたくさんあり、花のつぼみを付け、春を待っていた。

吾妻小舎は、一般道路からちょっと5分程奥に入ったところにある山小屋の風情が残るところである。小屋の主人の遠藤さんが迎えてくれた。当然さっそくビールで乾杯である。

車を回収するためのバスは17時ちょっと 前頃なので、それまでは酒はお預けだ。

17時半頃の夕食後、持参のウイスキー等で酒盛りをした。

夕食は、日頃の家庭料理より豪華メニューで(ちょっと言い過ぎか)、吾妻小舎に来 て大満足。

翌朝はゆっくり出発のため、余裕の山行で ある。

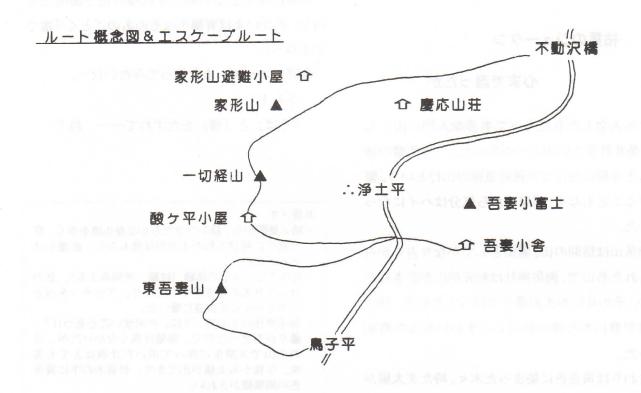
2日目は、東吾妻山を越えて、鳥子平を経て兎平駐車場に帰ってくるごく簡単なコースである。2日目の天気は曇りであり、かつ東吾妻山頂は強風だったため早々に下

山した。

下りは、雨振り後だったのか、道がグチャ グチャで大変だった。

野地温泉では、ビールで乾杯の後、いくつかの温泉に入り大満足だった。(まず汗を

流す。次に源泉に近い熱い湯、最後に露天 でゆったり。)



山名:一切経山、東吾妻山 山行形式:小屋泊まり(吾妻小舎)

山域:南東北

日時:平成10年10月31日(土)~11月1日(日)

リーダー: 村松 カメラ : 柴 D. P : 川下

会計 : 小黒 (概算 1万5千円)

グレード:A

コース:1日目

我孫子 $4:30 \rightarrow \text{不動沢}$ $9:00 \rightarrow 追分$ $10:15 \rightarrow$ 家形山 $11:50 \rightarrow -$ 切経山 $12:45 \rightarrow$ 浄土平 $13:35 \rightarrow$

吾妻小舎13:45

2日目

吾妻小舎 7:30→姥ヶ原 8:20→東吾妻山9:05→

鳥子平 11:20→我孫子18:10

< 75>

御岳山・日の出山

9 2 9 m

902m

飯合しげ子

枯葉のジュータン

心まで温ったか

今年入会した私にとって奥多摩入門の山として、是非行きたい山の一つだった。一年先輩の皆さんと2班に分けての親睦重視の山行という。緊張することもなく、出発前から気分はハイになっていた。

御岳山は信仰の山、霊山としてかなり古くから知られた名山で、御岳神社は紀元前に創設されたとか。そのせいか人が多くてびっくりした。神社は講中登山の石碑が林立しにぎわいもまた格別だった。

まわりは黄金色に染まった木々、時たま太陽が さす古参道、なんともいえない懐かしささえ感じ る気分のいい道だった。枯葉のジュータンの上を 心ゆくまで歩いた。

今回の山行はリーダーはじめとして、先輩方が いろいろ工夫されていた。…

①交代でトップとラストを体験すること

②昼食時、あたたかい甘酒を用意すること だった。

神社に参った後茶店を過ぎたところで鳩ノ巣から登ってきたB班と出会い思わず歓声!B班のメンバーから

「冬桜のかわいい花を見たよ!」 と聞かされた。「エッ!どこで」 前半は曇りがちの天気で展望も今一つだった が、午後から太陽が出てきて気分もさらに明るく なる。日の出山の展望は良くなかったが、甘酒が 疲れを癒してくれた。

「おいしかったです!」 どこからか流れてくるハーモニカの音に、歌も加 わり始め、「いい感じ!」。

早春になるとこのあたりは梅の花で満開だという。そういえば青梅市はその名のごとく「梅ですよね~」。

今回のコース、また行ってみたいなー。

うん!

「そば」と「梅」をたずねて……ね!

B班メモ

- ・鳩ノ巣駅から、静かでなだらかな登山道を歩く。真 っ直ぐに伸びる杉の木の中は風もなく、紅葉もほ とんどない。
- ・交代でL、sLの体験(往路、復路各1名)。息の 合った9名の足音が1つになり、タッタッタっと リズミカルに古参道に響いた。
- ・御岳神社の手前で「冬桜」の可愛い花を見つけた。
- ・曇りがちだったので、展望は良くなかったが、日の出山で3期生に作って頂いた甘酒はとても美味。午後から太陽が出てきて、杉並木の中に黄金色の縞模様がきれい。
- ・帰路、行先表示板に託されたA班からのメッセージ(そばタイムご案内)に感激!! 皆、大満足の山行でした。 (蜂谷)

<概要>

山	名	御	岳山・日の)出山(A)	山行	形式	日帰り
期	日	平	成10年1	1月1日	(日)	曇り	のち晴
Щ	域	奥	多摩	地図	武蔵御	岳	
目	的	古	参道と奥多	多摩展望	交通機	関	電車
参	加者	数	A班9名 名、計1	-	リーダー	中木	寸 (隆)
歩	行時	間	6時間±	5分	費用	2,14	40 円 + α
		A	班:我孫子	- 5:33=新	松戸=西	国分	分寺=立川=
日		古	里駅 8:07	…大塚山	…御岳	Щ…	日の出山
程	1	12	:15/13:20	…梅郷 1	5:30 そ	ばタイ	ム…日向和
コ	日	田	駅 17:14…	·我孫子	19:30		
9	g d	В	班:我孫子	一鳩/巣駅	₹8:11…	·大棹	ы́к⋯御岳
ス		Ш	…日の出	山 12:35/	13:25	·梅组	『A班合流

< 76>

北 高 尾 山 稜 (堂所山 731M 陣馬山 855M)

大串秀雄

トレーニング山行

「山笑う」は春、「山満る」は夏、「山紫う」 は秋、「山眠る」は冬の、それぞれの季語だそ うだ。

今年の山装う季節は、天候が不順のためか、 全国的に紅葉の彩りに欠けるようである。

北高尾の紅葉も例外でなく、時期的に早かったことも重なって、全くの期待はずれ。しかし、小春日和の温かな陽射しに恵まれ、穏やかな山の装いを満喫でき、奥多摩の山々に包まれた心温まる一日となった。

八王子城跡大手口から金子丸を経て本丸まで の急登を一気に上りきった。霊気が感じられ るほど静寂な武士どもが夢の跡には、樹木に 囲まれて小社が鎮座していた。

本丸跡を最初のピークとして、縦走路のピークを数えることとした。

計画書では31のピークを踏むこととなって

いたが、小さめのピークを入れると実に70 近くにおよび、アップダウンの多い決して楽 な縦走路ではなかった。

チェーンソーやモーターバイクらしき音が聞こえてくるほどの低山ながら、行き交う岳人はほんの数組。静かで落ち着いた山路だった。 尾根筋に出ると秋風がありがたかった。すっかり秋の装いとなった木立の間からは、奥多摩の山々が一望できた。

堂所山々頂で昼食。1時間近くゆっくりと休憩。 われ先と競って食べた温かな薩摩汁、なかでもサツマイモの味は忘れられない。

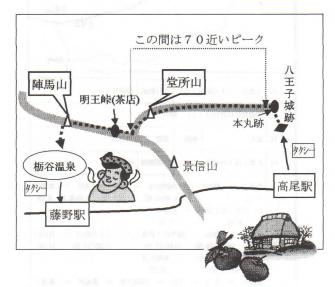
桜の名所(らしい)の明王小屋から陣馬山頂までは、一転してスポーツシューズのハイカー達で賑わっていた。

陣馬山頂の茶店では、氷いちごで喉を潤しながら、奥多摩の装いを心行くまで味わった。 雲取山は山陰と雲に邪魔されていたが、正面には御岳、大岳の雄姿が…。茶店の主人からは、中秋の名月にあわせて月見登山は如何かとの熱心なお勧め。それもまた一興か?。

山頂からは温泉を目指して一気に下山。 いつもながら、温泉で一汗ながすのは最高の 気分だ。

今回は山の装いを楽しみながら、格好のトレ ーニングもでき、素晴らしい山行だった。

……ヨーシ 冬山もがんばるゾ!!



山名	北高尾山稜	山行形式	日帰り
日時	平成 10 年 11 月	3 日	KOUTH PT
山域	奥多摩	地図	八王子・与瀬
目的	北高尾縦走	交通機関	中央本線・ タクシー
日程コース	高尾駅 7:21/7:3 7:50/8:05→天气 →狐塚峠 9:55- →大嵐山 11:04 明王峠 13:20→ 栃谷温泉 15:05	F閣跡 8:45→ →杉の丸 10:2 →堂所山 12: 陣馬山 13:58	開城峠 9:50 25→黒トッケ 10:35 :05/13:00→ 5/14:20→
ルートの状況	 登山道は危険 題なし。 適度にアップ グには最適。 		

今倉山· 二十六夜山

<77>

庄司 洋子

落ち葉ふみしめて

夜明け前の暗い道を、足元に気をつけな がら駅へ急ぐ。日の出はまだ一時間半以上 あと。

武蔵野線の車窓からみた朝もやの景色は 幻想的であった。やがて朝日が登りはじめ た。今日はいい天気だ。

中央線大月から慌ただしく富士急行に乗 換え都留市で下車、都留中央バスに乗り、 道坂峠で降り、御正体山を背に今倉山への 登りに入る。

この山はほとんどジグザグを切ることなくクマザサの生い茂る小尾根を直登するので、けっこう辛い。登りにつれて富士山がニョキニョキと姿をあらわしてくる。その姿に元気づけられて、ひたすら登る。やがてカラマツの黄葉がみられ、ブナやミズナラの天然林に入ると頂上はすぐだった。

登りばかりであったので、心配であった が登りきれてほっとする。

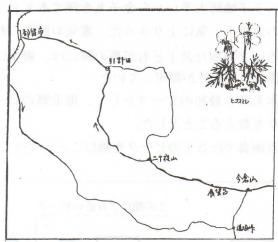
(今倉山の標高1470メートル)

ここから二十六夜山(1297メートル)へ向かう。登り下りを繰り返してどちらの方向も素晴らしい展望台で昼食。ちょっと狭いがここで素晴らしい富士と紅葉をみながらのんびり昼寝をしたい気分。33年ぶりの11月18日の獅子座流星群の流れ星をみたらすばらしいかな。

お腹も一杯。元気を取り戻し落ち葉を踏みしめて気持のよい尾根歩きを楽しむ。二十六夜山への最後の登りはそれほどきつくなく着いた。

山頂から左手に富士山、右手に町並み、ぐるっとほぼ 360度見渡せた。ひざしが温かく風が心地よい。展望を楽しんでから、3 等三角点の標石から20メートルほどの尾根上にある高さ 1メートル強の二十六夜の碑へ、これに触れると子宝に恵まれるそうな… この碑のある平坦地で二十六夜の月待ち (江戸時代、陰暦正月、7 月26日の夜、月のでるのを待って拝むこと)をする習慣があり、二十六夜山と呼ばれる様になったそうである。

引野田への下山は、落ち葉をふみしめて行く。この道はあまり登山者が通らないのか、足が沈み込むほど落ち葉が深い。赤テープ等の目印を見落とさずに、周囲の木々につかまって一気に下るところがある。ゴルフ場がありやがて車道にでた。引野田のバス停に発車1分前に着いた。なんとラッキーなこと。このバスは休日には2本のみの運行。これに乗り無事、帰路につく。



ılı	43	今倉山・二十六夜山(A) 山行形式	日帰り
助	El	平成10年11月14日 (土)) Min	L. J. Landerson
ılı	域	道志 地	※ 常留	1/25000
Ħ	的	紅葉と富士の展望	交通機関	中央線
El			6:45/6:55	= 髙尾 = 大月 - 都留市 7:20/7:26 8:15/8:17 8:28
FF		8:50	9:25) … 二十六夜山 … 登山口
2		9:37 10:45/10:55 … 引野田 (バス停) 15:08/15:09	= 都留市着	13:00/13:15 14:50
ス				引分寺 = 新松戸 -



<75>御岳山・日の出山 神社前にて(A班)

<77>今倉山・二十六夜山





< 7.8 >

大無間山 だいむけんさん (2329m)

細野省二

~これぞ深南部!~ のこぎり尾根の急登と 陶酔を誘う長い下山…

*1日目

冷たい風がゴウゴウと音をたて唸っている。 11月下旬いつもより雪は遅い。

仁田岳、茶臼岳、聖岳、南アルプス南部の雄峰 が昨夜の冷え込みで今冬2度目の真っ白の帽子 をかぶっている。田代集落の諏訪神社横より登 る。2時間ほどの急登を経て南部の静かで厳し い山並みが視界に入る。さっそく休息をかねて 山座同定をする。

数年前から毎年『行こうよ』

といいながら深南部の長大なアプローチと、入 ったらなかなか出られない深い山、そしてメン バーの都合が一致しなかった。3人ともいつま でも延ばせばテント山行の体力は衰えるばかり ……それが最大の理由で今回の山行の決意をし た。

10年一緒に山を歩いている仲間だけに何の不 安もなく深南部念願のコースを歩く

13時30分、7時間の悪戦苦闘、P1ピーク にやっと着いた。気温マイナス10度。寒さと 疲れた体を休ませるため小無間山(P1)で急い でテントの設営にかかる。積雪は3cm ほどの 薄雪。

『今日の登りはきつかったね。』…と三人。 厳しかった今日一日の道のりをテントの中で振 りかえる。……今朝がたからの『鋸歯』と地形 図でのいくつかの peak を急直登、急下降の繰 り返し。登山道とはいえかなりの緊張を強いる。 手と足を使う岩登りが連続した。3人のザック

平均荷重は21キロほど(水3、5㎏、テント 等)。三人とも足がつる寸前まで疲労が蓄積。そ のため小休憩を連続させた。コース時間は予想より 多くかかつたが、わがパーテイが一番乗り。適地に テントをはる。その後3組のパーティが幕営。強風 と小雪に変わったが樹林帯のためテントの揺れ は少なく静かな夜を過ごした。

*2日目

大無間山までは深南部のプロムナード。 木もれ日が南アルプス特有のコケの上の雪と緑 をキラキラさせ静かな快適な登り。付近のガレ 場ではカモシカも見る。大無間山は平らな山頂。 旧小屋跡あり。水場5分とあるも、見当たらず。 さらに先の三隅池も涸れている。

深南部らしく熊の爪により皮をそがれた真新 しいい爪跡を見つけた。リーダーは急いで鈴をつ ける。

熊跡に動揺した我らは大根沢山方面の尾根に間 違って入ったが途中できがつき修正。コースの 大半はヤブと倒木でふさがり乗り越したり、下 を潜ぐったりした。これでもかという4時間の 長い下りを樺沢のコルまでにスタミナを使いき る。やや暗くなってくる頃、安全登山のため15 時コルで幕営。全山を埋め尽くした原生林には 神秘的な静寂が充満しておりその夜も鹿や、動 物の近寄る気配を感じながら今日7時間の行動 に疲れきったが、まだ山中深い中にいる充実感 に浸りながら、いつの間にか眠りについていた。



樹皮に無数の熊爪の跡、

*3月目

『オッ!晴れている!』

テントの中からの朝一番に起きた仲間の決 まった第一声は天気に関する言葉だ! 風の音も遠退き、いつしか雪も上がった。 あわただしい雲の動きは青い空を呼ぶ前触れだ。 テント撤収前は周りの風景がせまって自然の真 っ只中にいることを実感する。

コルの分岐は急峻を極め、取りつくしまもない。 等高線は密集し直下の下りの注意をうながす。

> 山が迫る、あかね色に染まって 木々は風に唄う その歌は足許から 遠く森林をざわつかせて のぞき込むような奥行きの深さよ

6時大樽沢側に急下降開始。径は雪で落ち葉と交互に混ざりアイゼンも着けにくい。 1800m ぐらいの地点からわさび田を目印にコンパスで 慎重に方向、沢筋を離れないよう三人でルート を確認しながら大樽沢に出た。

朽ちた木橋、沢は対岸まで丸太一本の渡渉を強いるなど、最後まで気が抜けない。時たま見る動物の白骨。踏み跡も不明瞭で、唯一はげかかった赤テープが人の歩いた事をしめしている。

比較的歩かれている径なのに何かわびしく暗 い印象を終始持っていた。なぜ、なぜ、歴史あ る下山道がこんなさびしいのか!?

唯一の慰めは前面に赤く輝く屛風のようなピークの揃い踏み。

――合地山、不動岳、黒法師、の山々か!― やっと、朽ちた丸太の梯子を降りると大樽沢 橋登山口、寸又林道に出た。

ここには驚くべき標識がある。光岳登山口まで22km…と、そしてわれらは、反対方面、 寸又林道を歩くこと15km長い林道歩きは山 並をながめ南アルプスの広大さを有無言わせず 味わう事となった。

日 時:平成10年11月21日(土)~23日(月) 前夜発2泊3日

目 的:南ア深南部の自然を満喫する

山行形式:テント 費 用:総計25,000円

歩行時間:1日目6:50, 晴れ風強し。2日目8:00, 晴れ後雪。

3日目6:30, 晴れ(いづれも休憩, 昼食含む)

参加者: L清家, 柴, 細野 3名

コ - ス:20日(金), 東京(22:07こだま)-静岡(23:29松坂屋にへば りつき仮眠)

21日(土), 静岡(4:00タクシー)-田代(6:00/6:40)-登

山口(6:50)---小無間小屋(10:17/10:24)---昼食1860地点

(10:50/11:15) --- 小無間山(13:30)

22日(日), テント場(5:10/7:10)---大無間山(9:30/9:50)

---前無間山(10:05)---大無間山(10:25)---昼食(10:56/11:20)

---三方窪(13:50)---大垂沢への分岐(14:55)---テント場(15:10)

23日(月), テント場(4:50/6:20)---大垂沢への分岐(6:55)

---大垂沢橋 (8:55) ---展望台 (ヘリポート) 登山道 (9:35/9:50)

---千頭ダム (10:25) ---寸又峡 (12:40温泉入浴) バス (15:20)

一千頭(16:15) 一金谷(17:30) 一静岡(18:18) 一我孫子(20:50)

< 79 >

雲 取 山(2017m)

高橋芳江

東京都の最高峰で見た

富士の秀麗さに感動

1日目 奥多摩駅はバスを待つ人で込み合っていたが臨時のバスがあり、ゆっくりと車窓の秋を楽しんだ。鴨沢でビールを調達。男性陣が背負って出発。快適な登山道で尾根をまき気味に穏やかに登ってやがて堂所と呼ばれる尾根に出た。昼食をとり「マムシ岩」、七ツ石山を巻いてブナ坂に至った。このあたりより雪が振りだし、11月の初雪に少しびっくり。奥多摩小屋に到着後雲取山頂を目指した。雪なお激しくなり黙々と歩き続ける。

登りきったところが避難小屋(宿泊客で満員)、すぐ北側が雲取山山頂に至った。

視界はまったくきかず、山頂を踏み引き返した。奥多摩小屋では各人が担ぎ上げたそれぞれの食料をだし夕食準備。水場が歩いて5分ほど下がったところにあり、高橋英さんに大奮闘していただいた。

思ったより、泊り客が少なかったが、他の団体がいろり端を占領しており、寒さに震えなが食事の準備をした。外崎さん、大串さんが豚汁の用意をして下さり冷えた体にそのおいしいこと!。

雑炊も最高!だった。

一滴の汁も捨てない無駄のなさに日頃の消費生活を反省、大いに勉強になった。

雪はさらに強く降り続きリーダーの悩みは翌日のコースへ。

山小屋の夜はかなりの冷え込みで、衣類 をすべて着込んで冷たい布団に入ったが、 思いのほか、全員熟睡した。

2 日目 4 時半起床。心配していた雪はやみ、一安心、一面の銀世界!朝食用意、出発準備を済ませ6時 15 分出発。

新雪の中に浮き出るような素晴らしい富士の姿を見ることができるとは…。みんなで「富士の山」を合唱。ブナ坂を下る途中、東の空が明るくなり始めご来光となった。

茜色に染まりゆくさまをながめながら、 朝日に感動するのは何年振りかと考えた。

七ッ石山、鷹巣山、六ッ石山と続く石尾根の快適な下り道、雪が溶け出すにつれ靴に泥が団子状になったりして大笑い。

六ッ石山では山頂を往復し、越し方を降りかえる。ゆっくりと昼食をとり、ひたすら下って羽黒山神社から奥多摩駅に至った。

思いがけず初雪を体験し、東京都の奥の 深さに驚いた山行だった。避難小屋の設備 良さも東京都の底力を感じた。

山 名: 雲取山 (奥多摩)

期日 : H10年11月22~23日

地形図: 雲取山、両神山

目 的:東京都の最高峰、小屋泊

費用概算 : 7、000円

参加者: L,外崎、 s L 高橋英、大串 大串恵、菊池、原田君、斎藤、

榊原、安田、高橋芳 10名

歩行 T: 22/6:15、23/8時間

コース: **22**/奥多摩 8:33 - 鴨沢 -9:13/30-七ッ石分岐-雲取山頂 3:00/15 -

> 奥多摩小屋 15:45 泊 23/奥多摩小屋 6:15-

鷹巣山9: 15-奥多摩駅





<80> **類 波 山** (876m)

川下 敬史

"裏"から"表"へ 忘年山行

平成10年の忘年山行は筑波山、関東の名山 とか色々な形容はあるが、世界中で一番わが 家から良く見える、利根川の堤防の上に堂々 とそびえ立つあの山である。 登山口の駅 に降りて初めて姿を表す山に感動したり、ニ セピークにがっかりしたり、そういうことの ない出発から登頂まで雄姿を現し続けている 唯一の山だ。 我孫子駅北口より貸切バス に乗り筑紫湖へ、ここが登山口?と言う感じ の場所だが、バスの進入はここまでらしい、 あまり先までいっても、登るところが無くな ってしまうし…、とりあえずトイレだ! お 世辞にもきれいとは言えないトイレに20人が 並ぶ、この時忘れ物に気づいた先輩達が、大 胆にもバスでビールを買いに行ったのだ。

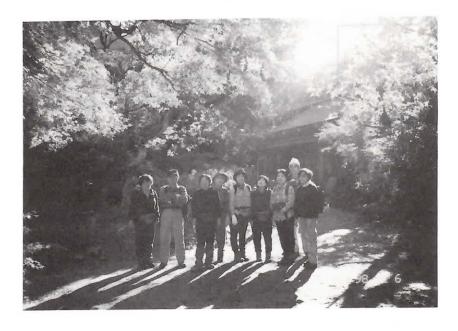
このビールが一人一本ずつの配給となり出発する、途中の薬王院の境内には見事なまでの時季外れの紅葉がのこっていた。 この境内で撮影をするアマチュアカメラマンが多いのも頷ける、親切に説明してくれるカメラマンが自慢の一枚を見せると、くれるの?と



一言、お姉さま強し。 薬王院を出発すると後は静かな山道である、どこの山でもそうだが、メインルートは混雑しているのに、他のルートは人に会わない、嬉しい反面、登山者として考えさせられる事柄だ。 東屋の手前の展望台から下界がよく見える、関東平野から一つ飛び出た筑波山から他の山々を見渡すことはできなかったが、霞ヶ浦、牛久沼、双眼鏡を持ってこなかったことが悔やまれる。

休憩所では、おでんの調理が始まっている、 よこで焚き火をし、忘年山行の本当の目的に ビール、ワイン、ウィスキー、 突入する。 日本酒、おしるこ、と一つのカップでいろい ろと飲んだ(飲まされた?) その為、途中から よく覚えていません。 男体山の直下を横 切り御幸ヶ原に下りたとき、観光客と百名山 登山者で溢れていた、静かなコースから登っ てきた我々には、この賑わいに"筑波山は観 光地だ"と突きつけられたような残念な気分 しかし、土産物屋の店先に昨日 降った雪が小さな山になって残っている、北 面には残雪もある、ここも立派な山だ、登っ てきた甲斐があった、女体山の頂上を踏むぞ という気が起きる。 登山時3班で行動し ていたが、下山時は4班になっていた、どう も良い気分になってしまった人達がいたよう だ、弁慶茶屋、筑波山神社となんとか無事に 下る、温泉入浴しバス中の二次会へと続く。

	English and the second
山名	筑 波 山 (A)
山 域	筑 波 山 (茨 城)
形 式	日帰り(忘年山行)
期日	平成10年12月 4日
コース	我孫子 7:15=筑紫湖 8:45…薬 王院 9:15…休憩所11:05/12:30 …女体山14:30… 筑波山神社… 筑波温泉(入浴) 15:10/16:20= 我孫子(順次解散)

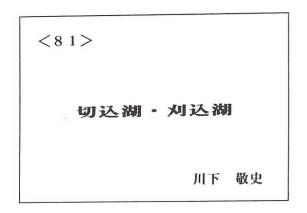


<80> 筑波山 薬王院にて

<81>切込湖・刈込湖 刈込湖にて

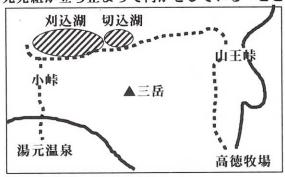






雪山入門の奥日光 高徳〜切込·刈込湖〜湯元

東北自動車道を貸切バスが走る、左手遠く に見える山々が白い、山に近づくだけでもわ くわくするのに、雪が載っていると嬉しくて 今回は会員以外に3名の参加 仕方ない。 者がいる、ハイキングとはいえやはり雪山は 夏山のように簡単には人を受け入れない、単 独より複数で、しっかりしたリーダーの元で 指導を受けるのが一番だと思う、"会"のあり がたみをしみじみ感じる。 心地よい朝の 寒さの中、みんなで準備体操をし、雲一つな い快晴の山へ出発する、高徳牧場登山口には 5 c m程度の積雪があった、この先どの位の 積雪があるか楽しみだ。 山王峠までは歩 き易い雪道が続いた、雪がなかったら予定変 更して登るはずの山王帽子岳がきれいに見え る、葉が落ちきった初冬のさわやかさに浸っ ているうちに山王峠に着く、林道はすでにア イスバーンと化している、前方ではなにやら 先発組が立ち止まって何かをしている「ここ



でアイゼンを付けま~す」との伝令。 アイゼン装着し、北面の急な坂を下る、雪と 氷の下には階段が有るのか無いのかもわから 涸沼の西側で日差しを浴びたのも ない。 つかの間、また三岳の陰に入ってしまう、こ の先昼食予定地までは北斜面らしく歩き易い 雪だった、積雪量は徐々に増え、谷間でしか も針葉樹林の中は見晴らしどころか昼間なの 切込湖を過ぎ刈込湖の東南岸に に暗い。 出たとき、凍る湖面の向こうに対岸の日差し に輝く新雪が見える、早くあの日向で休憩し たいと思う頃、先発組が昼食基地の建設をし ている、後発組が到着する頃には暖かいうど んが待っている…と、よからぬ期待をしてい ると、コッヘル3組は後発組が持っているで はないか、これはいかんとスピードを上げる。

昼食は、醤油味、味噌味、アスカ鍋(牛乳味?)の3通りのうどんを味わうことができた、いずれ劣らぬ美味しさだ、食担の皆さんに感謝し、体の冷えぬうちに出発だ。 刈込湖から小峠へ高度を稼ぐ、夏場はよく整備されたハイキングコースなのであろうが、凍り付いた階段ほど登りづらいものはない、山行目的が雪山入門(アイゼンの使い方)なので、充分達成できたのではないかと思えるぐらいアイゼンを活用している、なんと言ってもて小峠を過ぎ、アイゼンを外してから滑る人も多かったようだし、少なくともアイゼンの有難味を充分味わうことができた山行でした。

山名	切込湖·刈込湖 (A)
山域	奥 日 光 (栃 木)
形 式	日帰り(雪山入門)
期日	平成10年12月13日
	我孫子 7:00=高徳牧場 9:00…
	山王峠…涸沼…切込湖…刈込湖
コース	12:00/13:20…小峠…湯元温泉=
	やしおの湯 (入浴)15:30/17:00
	=我孫子20:00(順次解散)

ー年ぶりの再会 ! クリスマスは雪山で

私が雪山に行くようになったのは、平成 4年のクリスマス山行がきっかけだった。 日帰りで奥多摩の山を目いっぱい歩いた。 その時、私だけピッケルを持っていてリー ダーに笑われ「本当にピッケルを使うよ うな山に行こうな!」と言われたのを覚 えている。

あれから5年、ピカピカのピッケルは、 ピックをヤスリで砥いでもらうほど使い、 あちこちのキズはいろんな山の思い出が刻 まれている。

みんなと八王子で無事合流できた時は、 一年の空白が消えていた。

新地平から雁坂嶺まで1日目の登りを快 調に終え雁坂嶺頂上北面の樹林帯にテント を3張設営。

6人幕に 11 人が入って恒例のプレゼント交換(こんな時に 4人幕と 6人幕をジョイトできるテントがあったらいいのにネ) …という話になった。

(そして需要がすくないから会社は赤字になるだけ。 開発は簡単ダヨ。でも営業

みんなどんなプレゼントが当たるか子供の ようにはしゃいでいる。私に当ったのはナ

は大変…etc と話が進んだ…が)

なんと「まつげカール」。よし、早起きし 決めてみようと思っていたのに残念… ウッカリ……寝坊をしてしまった。! まつげの上に雪が積もるかどうかは?

~ 「来年の楽しみに取っておこう!」。

20日の朝、強い冬型の気圧配置で北東の風に雪が舞って気温は一10度と低くかった。甲武信岳までの稜線上には30センチ位の積雪がありアップダウンを繰り返し5時間で山頂に着いた。山頂は風もなく穏やかで10分ほど展望を楽しむことが出来た。このわずかな憩いは、いま、思えば冬将軍からのプレゼントだったような気がする。

戸渡り尾根の分岐に戻ったころは1時近くで、下山の時間にやや不安なためピッチを早めた。2日目の行動時間は9時間と少し長かったが歩き通せたことで大満足の面々……。

塩山に向かうタクシーの窓から夕焼け空に南アルプスのシルエットが美しく浮かぶのを幸せな気分で眺めた。リーダーはじめメンバーのみなさん、お世話になりました。来年のクリスマス山行には どんなプレゼントを用意しようかな…

山名	雁坂嶺、	甲武信岳	、縦走					
期日	10年12月19日—20日							
山域	奥秩父	奥秩父 地形図 雁坂峠						
目的	クリスマス雪山	クリスマス雪山行						
交通	JR 塩山~	JR 塩山~タクシー新地平						
コース	雁坂峠1		沢10:30- 運坂嶺13:15					

平成 11年1月以降は次号へ

資 料

山行一覧表 山行統計 活動の記録 月刊会報誌「やまたん」内容

<u>山 行 一 覧 表</u> その 1

								参 加 者	人
No.	山 名	標高	山域	期	日(G	リータ゛ー	名前の下線はリーダー又はサブリーダーを示す。	数
	平成8	年度(1996年度)					
1	会津朝日岳 (創立山行)	1624m	奥只見	平成8年 10/12- テント		В	細野省	三浦、村松敏、川名、柴、清家、細野 清、坪井	8
2	愛鷹山連峰	1504m	富士周辺	12/14 5無人小		C	柴	三浦、細野省、坪井	4
3	蓼科山、西天 狗岳	2646m	八ヶ岳	平成9年 2-4テン		С	川名	細野省、清家、坪井	4
4	天覧山		奥武蔵	1/15		В	村松	川名、三浦、柴、清家、坪井、細野省、 細野清	8
5	鳴虫山	1104m	奥日光	1/26		A	三浦	柴、清家、坪井、他2名	6
6	燕岳		北アルフ°ス	2/8-1 テント			川名	坪井、他2名	4
7	川苔山	1364m	奥多摩	2/22	P		清家	村松、柴、坪井、他1名	5
8	石老山 (公開登山)	604m	中央線沿線	3/16	1	Ą	柴、細野 清	清家、坪井、三浦、村松敏、川名、細野省、 一般40名	48
計	8回								87
	平成9	年度(1997年度)						
9	巻機山	1967m	上越国境	4/12- テント	-13)+	坪井	村松敏、柴、川名	4
10	大楠山 (新人歓迎)	241m	三浦半島	4/20	1	A	細野清	旧会員:三浦、川名、柴、清家、坪井、細野省、村松敏、村松峯、加藤、新会員:大串恵、大串秀、大桃、小黒、菊地、日下、斎藤、榊原、佐々木、高橋寿、高橋英、長木、中村隆、中村美、蜂谷、服部計:	10 16
11	槍ヶ岳	3180m	北アルフ°ス	4/25- テント	-28	D	村松敏	柴、細野省、清家、坪井	5
12	三ツ峠山	1758m	富士周辺	5/4	-1	Ą	村松敏	柴田、村松峯、大串秀、大串恵、中 野、小黒、高橋英、渡辺、大桃、佐々 木、斎藤、原田	13
13	黒川鶏冠山	1716m	大菩薩	5/24		+	川名	細野省、坪井、菊地、佐々木、長木、	7
14	吾妻連峰	2035m	吾妻連峰	5/17- 山小屋	-18	C	柴	細野省、清家、細野清、坪井、柴田、 服部	7
15	養老渓谷 (クリーンハイク)		房総	6/1		Ą	県連	日下、長木、中村隆、中村美、その他 約60人	4
16	伊豆ガ岳 (新人研修)	851m	奥武蔵	6/8		A	柴、細野 清	細野省、柴田、宮坂、 (新人)大串恵、大串秀、大桃、小川、 小黒、菊地、日下、斎藤、榊原、佐々 木、高橋寿、高橋英、長木、中野、中 村隆、中村美、蜂谷、服部、原田、増	5+ 21 = 26
17	表妙義縦走	1104m	上州	6/15	(С	柴	村松敏、清家、細野省、村松峯	5
	大山三峰山	935m		6/21			清家	高橋英、川名、柴、細野清、柴田、大 串恵、大串秀、大桃、菊地、日下、斎 藤、榊原、原田、増田	15
19	御前山	1405m	奥多摩	6/28		A	村松敏	大 <u>串秀</u> 、川名、坪井、宮坂、大串恵、 大桃、高橋寿、中野、原田	10
20	鳥海山	2236m	東北	7/19- 山小屋	-21	В	柴	清家、川名、柴田、宮坂、小黒、日下、佐々木、長木	9
21	白馬岳/朝日 岳	2932m	北アルフ°ス	8/7-1	小屋	В	細野清	(テント) <u>細野省</u> 、榊原、佐々木、 (小屋)菊地、斎藤、長木	7
22	朝日岳/白毛門	1945m	上越、谷川連峰	8/30- テント	-31	С	細野省	細野清、村松敏、日下、榊原	5

<u>山 行 一 覧 表</u> その 2

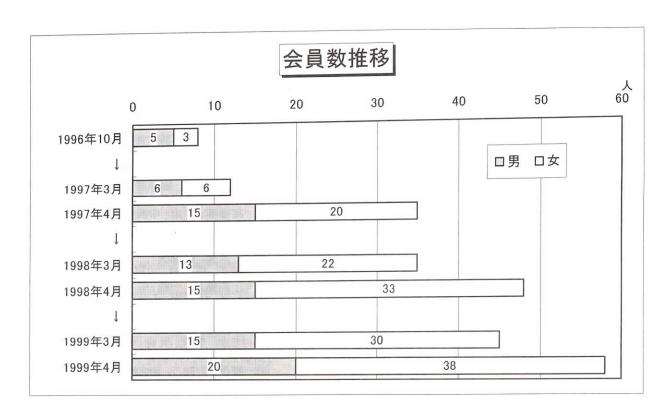
No.	山 名	標高	山 域	期日	G	リータ゛ー	参加者 名前の下線はリーダー又はサブリーダーを示す。	人数
23	富士山	3776m	富士山	9/13-14 山小屋	В	川名	細野清、大串恵、大串秀、斎藤、榊原、長木	7
	小草平の沢		丹沢	9/21	В	村松敏	三浦、川名、柴、清家、坪井、細野省、	8
	蕨山	1044m	奥武蔵	9/23	А	細野清	##	15
26	仙丈ヶ岳	3033m	南アルフ゜ス	9/27-28 山小屋	В	村松敏	川名、坪井、細野清	4
27	尾瀬集中登山 (創立記念山 行) A:笠ヶ岳-至 仏山 B:燧ヶ岳 C:至仏山	2058 m 2228 m 2356	尾瀬	10/9-11 テント&山小 屋	В	CL柴	(Aコース)川名、高橋英、坪井、佐々木 (Bコース)(柴)、細野清、村松峯、大串 恵、大串秀、榊原、長木、原田 (Cコース)村松敏、日下、細野省、大桃、 小黒、菊地、斎藤、高橋寿、中野、中 村隆、中村美、蜂谷、増田、渡辺 計	4 8 14 26
	長者ケ岳、天 使ケ岳	1336m	富士周辺	10/19	А		<u>日下</u> 、小黒、斎藤、榊原、中村隆、中村美、増田	8
29	愛宕山	408m	房総	10/19	Α	県連	菊地、長木	2
30	丹沢主脈縦走(公開登山)	1673m		10/25-2 6 山小屋	В	村松敏	細野省、細野清、柴、柴田、村松峯、 大串恵、大串秀、中村隆、一般3名	9+3 =12
	鍋割山(支援 七ヶ岳、荒海	1272m	<u> </u>	$\frac{10/25}{11/1-2}$	В	村松敏	加藤、清家 柴、柴田	3
34	Щ	103011	用云伴	テント	Ь	们在联	中村隆、細野省、大串恵、大串秀、大	J
33	九鬼山	970m	中央線沿線	11/8	Α	細野清	桃、小黒、菊地、日下、榊原、中野、蜂谷、渡辺	13
34	桧洞丸		丹沢	11/15	A+	三浦	川名、大串恵、斎藤、高橋寿	5
35	三頭山 (忘年山行)	1531m	奥多摩	12/7	A	CL清家	A中村隆、B日下、C高橋英、三浦、 柴、細野清、細野省、村松敏、村松 峯、大串恵、大串秀、大桃、小黒、斎 藤、榊原、佐々木、高橋寿、中野、中 村美、蜂谷、原田、増田、渡辺、安田	25
36	呼(クリムマム田	1953m	奥秩父	12/20-2 1テント	В	村松敏	柴、三浦、清家、細野清、細野省、村 松峯、大串恵、大串秀、他1名	10
	明神ガ岳、明 星ガ岳	1169m	箱根	12/23	Α	三浦	旦下、小黒、斎藤、中村隆	5
38	本社ヶ丸	1630m	中央線沿線	平成10年 1/25	A+	細野省	大 <u>串秀</u> 、細野清、村松敏、大串恵、日 下、中村隆、原田、安田	9
39	笹尾根	1188m	奥多摩	2/8	Α	清家	三浦、細野省、大串恵、大串秀、小黒、日下、斎藤、長木、中村隆、中村	12
40	古賀志山	533m	鹿沼	2/14	A+	柴	大 <u>串秀</u> 、三浦、大串恵、小黒、日下、 斎藤、榊原、中野、中村隆、中村美、	12
	扇 山 (公開登山)	1138m	中央線沿線	3/8	А	CL三浦	A川名、柴、宮坂、中村隆、外崎、一般 B村松、細野清、一般 C細野省、清家、村松峯、菊地、一般 D且下、大串秀、大串恵、小川、斎藤、 榊原、高橋英、長木、中野、中村美、 蜂谷、原田、渡辺、安田	14
	大岳山						計 高橋英、三浦、柴、大串恵、大串秀、	62
42	(2期生卒業山行)	1267m	奥多摩	3/15	Α	日下	大桃、小黒、菊地、斎藤、長木、中野、中村隆、原田、増田、渡辺、安田、外	18
	筑波山	876m	常磐	3/21	Α	川名	宮坂、細野清、細野省、大串恵	5
	Mindred 15 of	1590m	中央線沿線	3/22	В	清家	細野省、柴田、日下、榊原、長木、安田、外崎	8
47	天狗岳、硫黄 岳	2742m	八ヶ岳	3/28-29 山小屋	С	村松敏	<u>柴</u> 、三浦、清家、細野清、細野省、村 松峯、大串恵、大串秀、安田、外崎	11
計	37回							427

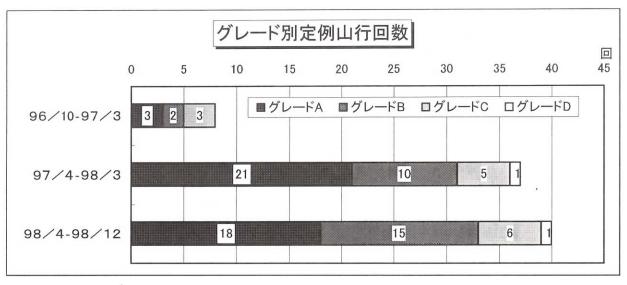
<u>山行一覧表</u> その3

No.	山 名	標高	山 域	期日	G	リータ・ー	参加者 名前の下線はリーダー又はサプリーダーを示す。	人数
	平成	10年月	度(1998年)					
46	徳並山	1117m	南大菩薩	平成10年 4/11	В	村松敏	<u>外崎</u> 、清家、細野清、細野省、柴田、 宮坂、大串秀、	8
47	石裂山	879m	鹿沼	4/19	A+	柴	日下、三浦、大串恵、小黒、高橋英、 中村隆、中村美、原田君、飯村、原田	11
48	棒の折山 (新人歓迎)	969m	奥武蔵	4/26	A	CL外崎、 村松敏	①細野清、三浦、大高、佐藤、庄司、高橋芳、萩野、飯合 ②清家、(村松敏)、柴田、飯村、品田、高橋正、中村八、松村、吉岡 ③中村隆、柴、加藤、大串恵、大桃、榊原、高橋英、原田君、増田 ④且下、大串秀、小川、小黒、長木、中野、中村美、(外崎) 計	9 9 8 34
49	蝶ヶ岳、常念 岳	2857m	北アルプス	5/2-5 テント	С	村松敏	柴	2
50	武川岳	1052m	奥武蔵	5/17	A+	中村隆	長木、清家、柴田、大串秀、小川、小 黒、高橋寿、中野、蜂谷、原田君、安 田、大高、高橋芳	14
51	岩 山 (リーダー研修)		鹿沼	5/24	В	村松敏	柴、清家、細野省、柴田、大串恵、大 串秀、日下、高橋英、中村隆、外崎	11
52	霧降高原		日光	5/31	A	大串秀	高橋英、三浦、柴、細野清、大串恵、 大桃、日下、榊原、高橋寿、中野、中村美、渡辺、安田、大高、品田、庄司、 原田美、松村、飯合、吉岡	21
53	丹沢主稜縦走	1673m	丹沢	6/6-7 山小屋	В	柴	<u>日下</u> 、柴田、大串恵、大串秀、小黒、 榊原、長木、中村隆、原田君	10
54	七里川清掃ハイキング		房総	6/7	A	県連	細野省、安田	2
99	伊豆ヶ岳 (新人研修)	851m	奥武蔵	6/7	A	外崎	村松敏、三浦、清家、細野清、中村 美、大高、佐藤、品田、庄司、高橋芳、 中村八、松村、吉岡	14
56	赤城山(黒桧山)	1828m	上州	6/21	A	外崎	清家、柴田、大串恵、小黒、榊原	6
57	西沢渓谷		奥秩父	6/21	A	中村隆	中野、中村美、安田、庄司、高橋正、原田美	7
58	大菩薩峠	2057m	大菩薩	6/28	А	大串秀	中村隆、三浦、大串恵、大桃、小川、 小黒、日下、斎藤、高橋英、中野、中村美、増田、渡辺、安田、中村八、飯	17
59	田代山、帝釈山	2060m	南会津	7/4-5 テント	В	細野省	細野清、柴田、大串恵、大串秀、榊 原、中村隆、外崎	8
60	櫛形山	2052m	南アルフ。ス前山	- 2	A	清家	<u>日下</u> 、菊地、榊原、長木、飯村、品田、 飯合	8
61	西、奥、前穂 高岳	3190m	北アルプス	7/18-20 山小屋	D	村松敏	柴、清家、村松峯	4
62	白 山	2702m	加賀白山	7/17-20 テント	B+	細野省	佐々木(企画)、三浦、柴田、安田	5
63	苗場山	2145m	上越	7/19-20 山小屋	В	外崎	<u>細野清、</u> 加藤、大串恵、大串秀、小 黒、菊地、斎藤、榊原、高橋英、長木、 中野、中村隆、中村美	14
	黒部五郎岳		北アルフ°ス	7/31-8 /4 山小	В+	外崎	<u>柴</u> 、清家、柴田、大串恵、大串秀	6
	塩見岳、蝙蝠 岳	3047m	南アルプス	8/21-26 山小屋	B+	細野省	細野清	2
66	甲斐駒ヶ岳	2967m	南アルフ°ス	9/11-13 テント&無人小	С	細野省	大 <u>串秀</u> 、細野清、大串恵、斎藤、佐々 木	6
67	女峰山	2483m	日光	9/19-20 無人小屋	C	村松峯	<u>細野省</u> 、清家、安田	4

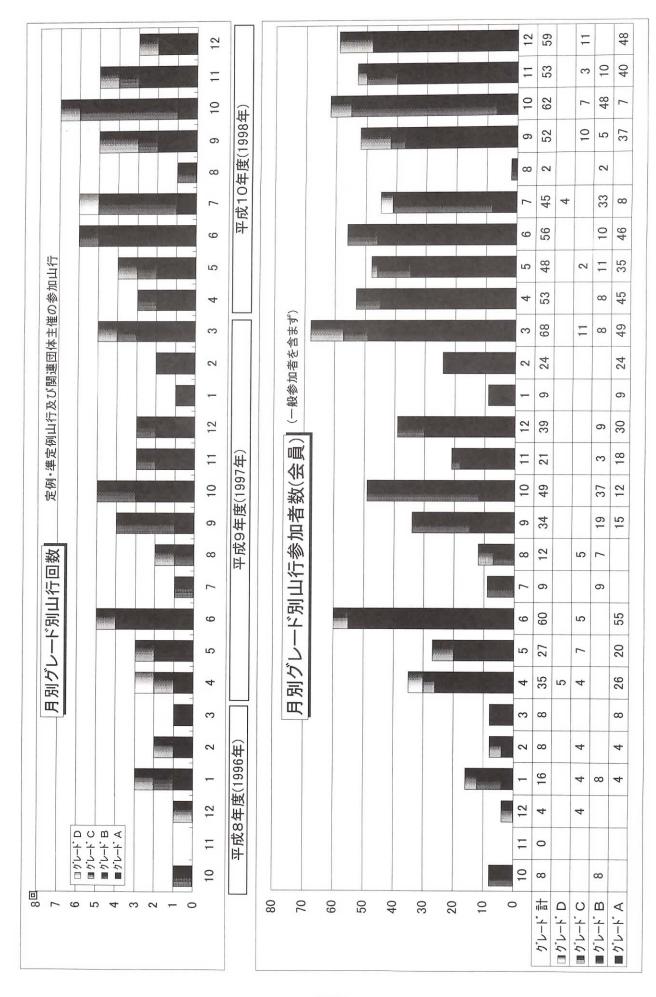
<u>山行一覧表</u> その4

No.	. 山 名	標高	山域	期	日	G	リータ・ー	参加者 名前の下線はリーダー又はサブリーダーを示す。	人数
68	上州武尊山	2158m	上州	9/19-	20	B+	柴	斎藤、小黒、長木、川下	5
69	仏果山、経ヶ 岳	747m	丹沢	9/20		А	高橋英	且下、大串恵、大桃、高橋寿、中村 隆、中村美、原田君、渡辺、大高、佐藤、品田、庄司、高橋正、萩野、松村、	15
70	神峰山ふれあ いハイク(雨の 為、水族館他)	(598m)	常磐	9/27		Α	東葛	三浦、柴、清家、細野清、細野省、村 松敏、柴田、大串秀、菊地、日下、榊 原、高橋英、長木、中村隆、蜂谷、原 田君、渡辺、安田、庄司、中村八、松	22
71	太郎山	2368m	日光	10/4		В	三浦	斎藤、村松敏、柴田、日下、榊原、高 橋英、大高、高橋芳	9
		2742m				Α		A高 <u>橋英、原田君</u> 、中野、蜂谷、増田、 庄司、高橋正、一般1名	8
	八ケ苗	2899m		10/10-	-1	В		B <u>細野省、村松峯</u> 、大桃、小川、菊地、 日下、斎藤、榊原、高橋寿、長木、中村美、渡辺、一般1名	13
72	(公開登山) (創立記念山 行)	2899m	八ヶ岳	1テント& 小屋	·山	В	CL柴	B' <u>村松敏、清家</u> 、大高、佐藤、品田、 高橋芳、中村八、萩野、原田美、松 村、飯合、吉岡、一般8名	20
		2899m				С		C <u>柴、細野清</u> 、柴田、小黒、中村隆、安田、外崎	7
73	平標山、仙ノ	2026m	谷川	10/24-	-2	В	細野清	計 清家、細野省、大串秀、斎藤、高橋	48 10
74	月山 一切経山 亩		吾妻連峰	5山小屋 10/31- 1/1 山			村松敏	英、中村隆、安田、外崎、高橋芳 柴、加藤、小黒、川下(企画)	5
	御屋山 日の	929m	奥多摩	11/1	<u>//</u> ,	A	CL中村隆	A(中村隆)、大串秀、原田君、増田、渡 辺、庄司、高橋芳、中村八、飯合 B <u>斎藤、高橋寿</u> 、大串恵、大桃、日下、 榊原、高橋英、中野、蜂谷	18
76	北高尾山稜		奥多摩	11/3		A++	細野清	安田、細野省、大串恵、大串秀、日 下、斎藤、榊原、外崎	9
77	今倉山、二十 六夜山		道志	11/14		Α	村松敏	清家、宮坂、大串恵、大串秀、小黒、 榊原、高橋寿、増田、品田、庄司、高 橋芳、松村	13
78	大無間山		南アルプス	11/21- 3テント	-2	С	清家	柴、細野省	3
79	雲取山	2017m	奥多摩	11/22- 3素泊り小			細野清、 外崎	高橋英、大串恵、大串秀、菊地、斎藤、榊原、原田君、安田、高橋芳	10
								A <u>日下</u> 、三浦、村松峯、大串恵、斎藤、 高橋寿、渡辺、外崎、高橋正、飯合	10
80	筑波山 (忘年山行)	876m	常磐	12/6		Α	CL日下	B <u>大串秀</u> 、柴、小川、榊原、長木、原田 君、品田、高橋芳、川下	9
								C <u>高橋英</u> 、細野清、村松敏、大桃、小 黒、中野、中村隆、安田、庄司、中村	10
	切込湖、刈込 湖		日光	12/13		A	柴	計 旦下、清家、柴田、小川、小黒、斎藤、 榊原、高橋寿、高橋英、中野、中村 隆、原田君、安田、外崎、佐藤、高橋 芳、中村八、川下、他3名	29
82	甲武信岳 (クリスマス山行)	2475m	奥秩父	12/19- 0テント	-2	С	村松敏	发、平利八、川下、他3名 柴、清家、坪井、細野清、細野省、村 松峯。大串恵、大串秀、斎藤、外崎	11
計	37回							The state of the s	443
合計	82回								957









活動の記録

年	月	В	行	事	場	所	備	考
1996年	10	12-13	創立山行		会津朝	月日岳		
1996年	12	19	定例運営委員会	兼定例集会				

年	月	定例集会	定例運営委員会	場所
1997年	1	7日、21日		市民プラザ
	2	12, 25	25日	市民プラザ
	3	11,25		市民プラザ
	4	6	1,22	市民プラザ
	5	7	27	市民プラザ
	6	14	24	市民プラザ
	7	5	22	市民プラザ
	8	9	26	市民プラザ
	9	6	19	市民プラザ
	10	4	21	寿市民センター、市民プラザ
	11	8	28	市民プラザ
	12	13	16	市民プラザ

1997年	1	11-12	雪崩講習会	谷川岳	県連(川名、清家参加)
	1	15	新年山行	天覧山	
	2	15	公開市民登山発表		我孫子広報掲載
	3	2	公開ハイキング及び会員募集説明会	市民プラザ	
	3	16	公開ハイキング	石老山	
	3	26	新入会員決定通知		
	4	6	第2回総会、定例集会	市民プラザ	
	4	20	新入会員歓迎山行	大楠山	•
	6	1	千葉県清掃ハイキング	養老渓谷	県連
	6	14	新人研修会	市民プラザ	マナー
	6	21-22	救助隊救出訓練	船橋	県連
	6	28-29	登山交流集会	船橋	県連
	7	5	新人研修会	市民プラザ	歩き方
	7	5	納涼祭	五本松公園	テント講習
	9	6	臨時運営委員会	市民会館	長期展望
	10	1	秋の公開登山市民広報掲載		
	10	4	新人研修会	市民プラザ	地図の見方、折り方
	10	10-11	1周年記念山行	尾瀬	
	10	18	公開登山説明会		
	10	25-26	公開登山	丹沢	丹沢主脈縦走
	11	4	雪崩机上講習会		県連
	12	7	忘年山行		
	12	20-21	クリスマス山行	笠取山	

活動の記録

					LH	=E	/告		- 1
1			1 T		場	P/I	7/用	~	
1 年	1 11 1	₩ 1	1.1	7	7//4	/21			

年	月	定例集会	定例運営委員会	
1998年	1	10日	20日	市民プラザ
	2	11	17	市民プラザ
	3	14	17	市民プラザ
	4	5	21	市民プラザ
	5	9	26	市民会館、市民プラザ
	6	13	23	市民会館、市民プラザ
	7	11	21	湖北台近隣センター、市民プラザ
	8	8	19	市民プラザ
	9	5	18	市民会館、市民プラザ
	10	3	20	湖北近隣センター、市民プラザ
	11	7	24	湖北近隣センター、久寺家
	12	12	22	市民会館、市民プラザ

1998年	1	10	臨時運営委員会	市民プラザ	長期展望他
	1	18	新年山行	鐘撞堂山	
	2	1	公開登山市民広報掲載		
	2	10	臨時運営委員会	市民プラザ	
	2	18	拡大運営委員会	市民プラザ	
	2	22	公開登山説明会	市民プラザ	
	3	8	公開登山	扇山	
	4	5	第3回総会	市民会館	
	4	5	新人研修	市民会館	ガイダンス、日帰り装備
	4	26	新人歓迎山行	棒ノ折山	
	5	2-5	ゴールデンウイーク合宿	蝶ヶ岳、常念	岳
	5	24	リーダー研修	岩山(鹿沼)	
	6	7	新人研修	伊豆ヶ岳	ロープ・ワーク、三点確保
	6	9	救急法机上講習会	県連	
	7	11	岳人祭	湖北台中央公	園公
	7	11	新人研修	湖北台	救急法、テント
	8	8	臨時運営委員会	市民プラザ	ハイキング部、ランキング制
	9	5	新人研修	市民会館	地図の読み方
	9	23	公開登山説明会	市民プラザ	
	9	27	ふれあいハイキング	神峰山	東葛地区
	10	10-11	公開登山、創立記念山行	八ヶ岳	
•	11	8	機関紙発行者交流集会	柏	
	12	6	忘年山行	裏筑波山	
	12	19-20	クリスマス山行	甲武信岳	

岳人あびこ 会報誌「やまたん」内容

第12号	3月	表紙:今月のドドーン 細野省	県連理事会報告		山行報告: 佐尼相 七領主	世尾做、口真心山、本社ケ丸、公開舎山、新人山	行企画	<u>山行計画</u> :筑波山、滝子山	自然に優しい登	山とは?		登山時報:体力	レーニング効果		グレード別参加状	民	安全に楽しく山歩	きをするために	現代養生訓 山歩き	労山遭対基金て なあに?	HOT CORNER 村松峯	HOT CORNER 宮坂	新人研修を振り 返って、山行計画
第11号		表紙:今月のドドーン 柴田	県連理事会報告	個人山行報告: 南京寺 五年 東		_	さあ、雪山(ハケ 岳)に登ろう	ビデオ放映予告、山行 計画:天狗岳・磁賞岳	市民公開登山扇 山、新入会員紹介	お知らせ:運対基金、 新人自主山行ほか	登山時報:山岳	自然破壊の元凶		の本 この1曲	登山時報:裝備	のペーシックミニマム	現代養生訓 山歩き	県連理事会報告	HOT CORNER 高橋英	HOT CORNER 安田	山行計画、編集後 記	عد	
第10号	98/1月		今月の特集: 人と 自然にやさしく	山行報告	三頭山、笠取山・雁坂峠、明神ガ	岳·明星方岳	お知らせ:公開登 山 扇山	山行計画:金峰山·瑞牆山、本	社7丸、笹尾根縦 走、古賀志山	山行計画のため のアンケー・結果	特集1:ふれあい	\ \ \ \			特集2:くらしと自 然保護			県連理事会報告	HOT CORNER 大串秀	HOT CORNER 特原	投稿募集、行事予定、山行計画	山行·行事参加状 況(グラフ)	個人別山行参加 実績(グラフ)
第9号	12月		CONTENTS, 新 入会員紹介	市民公開登山報	告:丹沢主脈縦走	1.公報在.並治	山・七ヶ岳、九鬼山・松温や	244	<u>山行計画</u> :笠取 山·雁坂峠、明神	ガ岳・明星ガ岳、 鐘撞堂山	登山時報:紀行			の日のブナに…	登山時報:天気	県連理事会報告	県連: 房総ログハイキングのお知らせ	HOT CORNER 長木	HOT CORNER 高橋寿	HOT CORNER 佐々木	山行計画、行事 予定		
第8号	11月	表紙:今月のド ドーン 川名	CONTENTS, 県連理事会報告	山行報告:藤山	個人山行報告:雨飾山	二行部件	仙文ケ岳、記念登山尾瀬集	中登山 A:笠が 岳•至仏山、B:	燧ケ岳、C:至仏山、 長者	カロ・大ナケロ、 製石山(ふれあい	M+29)	山行計画:浅間嶺 (忘年山行)	中間報告:運営委員会	登山時報:天気	中間報告・グラフー 行いる	数、個人別参加回数(個人別参加回数)無令・企業	参加状況	HOT CORNER 中村陸	HOT CORNER 中野	現代養生訓 山歩き	山行計画、行事 予定ほか		
第7号	10月	表紙:今月のド ドーン 細野清	4コママンガ、CO NTENTS	山行報告:	朝日岳・白毛門、富士山、小草平ノ	爪、 創立記念山行 [屋涵集中帝山]	A:笠が岳·至仏山、B:嫁ヶ岳、	C:至仏山	個人山行計画:雨飾山、登山時報:天気	山行計画:戸隠山・ 高奏山・乙奏山、九	鬼山、桧河丸、小間 無山大間無山	県連理事会報告	新人研修:地図の	見方		HOT CORNER 樹岩	HOT CORNER 中村美	HOT CORNER 斎藤	新入会員アンケート	料	山行計画、行事 予定、お知らせ		
第6号	9月	表紙:今月のド ドーン 村松敏	CONTENTS, 3 コママンガ	山行報告:白馬岳		トランズ、平川・根、創立記の日本(阿強) 時か	ガ岳・天子ヶ岳	公開登山	以 出路		新人研修(地図)、 県連理事会報告	HOT CORNER 原田	HOT CORNER 蜂谷	HOT CORNER 小川	HOT CORNER 小黑	現代養生訓 山 歩き	山行計画、お知ら せ						
第5号	8月	表紙:今月のド ドーン 細野清	4コママンガ、CO NTENTS	山行報告:御前	口、鳴海口	<u>園人山行報告</u> :穂高 岳、火打ち山・妙高山	岳人祭とテント講 習報告	4-6月の山行を	振り返って	岳人あびこの構 成	ぬ	一斉清掃登山	山行計画:富士	山、平ヶ岳、蕨山	創立記念山行計 西·尼藩集中教	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	県連理事会報 告、静岡便り	HOT CORNER 大串惠	HOT CORNER 大禁	現代養生訓 山歩き	山行計画、行事 予定		
第4号	7月	表紙:今月のド ドーン 坪井	4コママンガ、CO NTENTS		山行報告:	変を決合ツーンパイク、伊豆ケ岳(新人) 一一一一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一	大田川桑田		<u>山行計画</u> : 笹子雁ヶ腹摺山、	島海山、モミソ 沢、谷川岳、槍ケ	岳·穂高岳、 藤·白毛門	テント講習と納京 祭案内	現代養生訓 山歩き	どうちがうの?「やまた ん」と「やまなみ」	個人山行は事前 に計画書を	HOT CORNER 渡辺	HOT CORNER 增用	夏山の季節	行事予定、山行 計画				
第3号	6月	表紙:今月のド ドーン 柴	4コママンガ、CO NTENTS	山行報告:	ボア値ケ石、ニン峰山、黒川錦河田田神道総		現代養生訓 山歩き	現代養生訓 山歩き	登山時報	新人研修:山のマナー	新人研修:山の歩き 方	登山時報	山行計画:富士山、御前山	夏山計画:鳥海山、 槍ヶ岳·穂高岳	創立記念山行実 行委員会発足	装備係よりお願 い	お知らせ:新人研修、 山行申込方法、ほか	行事予定表	山行計画、編集 後記				
第2号	5月	表紙:今月のドドーン 大楠山大集合	4コママンガ		新入 <u>飲</u> 迎入備 山、巻機口	山行計画: 黒川鷄冠山、白	砂山、伊豆ケ岳 (新人研修)、表		全国一斉清福登	山アピール	山行計画:大山三峰山、女峰山	現代養生訓 山歩き	チョモランマ支援		山行計画、新人装 備購入ッア-								
創刊号	97/4月	表紙:今月のドドーン 三浦			山行報告:会津朝日岳、愛	属口淺市、参本 山・天治岳、天覧 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日 -	日、熊田、河口口、横田、湖田、大田の河山、横田、湖田、湖田の八田の山田の田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田			山行計画:	巻機山、新人歓迎大権山、北アは、「「一」	mi		平成8年度山行 記録		力山町珍報口	平成8年度行事	<u> </u>	歓迎20人を越え る仲間たち				
	ゾーン	-	2	8	4	2	9	7	∞	6	10	=	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22

岳人あびこ 会報誌「やまたん」内容

	in i	2月 山のルネサンス2 対称: 1 H U O L A サンス2 対称: 1 H U M 人配口	県連報	画 二代計画	八ヶ岳(赤岳)、鍋 笹子雁ガ腹摺山·割山、高水三山 大鹿山、茶日岳·	朝日岳、岩殿山、天城山縦走	山、高山、大山行報告	1-4	100円	機関誌交流集会 レジメ やまなみ進物		登山時報:天気 登山時報:天気		山のトイレー登山時報	業件はこれ	¥		5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5. 5	- C - M - K -	■対禁 会 が 知 い 中	HOT CORNER	取合山行計画、行事予	連、編集後記		
はのの形		第年の挨拶 山のル	N4キング部か登山都を 新年山行瓊建堂山一 県連報告	県連報告 山行計画			は、ハイエの機構を行う。	ハキングワール・山行希山行希		裹筑波山、日光刈 機関認 込湖・切込湖、雁坂 味・甲武信岳	+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	5年の四への投 登山時負	第10回全国登山		事故報牛一覧			事故防止	田の純瀬・井杭鶉	山小屋物語 電対基	可服				
中10年	108	表紙:今月のドドーン 恒井	会則を守り規律ある行動を		房総ロングハイキング 室内(恒油)	ルイトル (金種) (単位) (単位) (単位) (単位) (単位) (単位) (単位) (単位	、主は、人口権関 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	山行報告平極による	一切経山·東吾麥二十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	は、北岡尾山松、 御居山・田の出 山、今倉山・二十	六夜山、小無間山・大無間山・大無間山、雲	取出 連羅科 無相当者分醫		やまなみ進捗状	.)r	事故報告—覧		_	型山時報:大乳	山小屋物語	HOT CORNER	-面、行事			
第19年	7	表紙: 今月のドドーン 外縁	. 山 照	N 12 To 1 To 1	山行報告	仏果山·経ガ岳、 女峰山、上州武	- 早日、年曜日(ふれた) たれめいハイク)	※ 参加者のアンケート 結単	_		(B,C)		公開登山に参加	,	中間報告会長		中間報告:会報部	中間報告:装備部	中間報告:会計	± 0.11 - 11 0 1≢	からたーンバン		登山時報:天気	山小屋物語	HOT CORNER
第20号	10月	表紙:今月のドドーン 中村隆	会報「やまたん」 創刊20号の決意	県連理事会報告	記念山行「八ヶ岳」について	1	山、北高尾山稜、	山、大無間山、転取山、野町山	山行報告:	· 国元古· 藩盟古、 白 峰三山、甲斐 野 が 岳、	中間報告:山行記録	中間報告:新人研	中間報告:総務部	なぜパキングリーターの養成が求められている	Ę.	登山時報:天気		登山時報:事故	報告	山小屋物語	HOT CORNER 直極等	山行計画、行事名の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の	アた、氷岸		
第18号	9月	表紙:今月のドドーン 高橋		が存むられるい		一世の一世日記	上半期総括依頼	トレーニングアンケート 回収状況	ハキンが部にしいた、帯、一番を「も回」	新人研修 コンパスの使い方	山行報告 黒部 五郎岳	運営委員会内容、 労山カレンダー	登山時報:這福啓	E		登山時報:天気		選呼が・戦呼の二	The state of the s	山小屋物語	HOT CORNER 兩極正	山行計画、行事 名字 圓油	7.5.16		
第17号	8月	表紙:今月のド ドーン 斎藤		<u>山行計画</u> :甲斐駒 ガ岳、上州武尊	山、女峰山、仏果 山・経ガ岳	山行別参加者数 (グラフ)		山 <u>行報告</u> 大菩薩峠、	日子参加、香尼二、梅阿阳、田、梅阿田、田、梅阿田、田	田沙田沙田	11 11 11	日人於治米	登山時報:安全 登山	登山時報:事故 報告		割れ帯・降出川県			帝山時報:夏山	基礎講座	HOT CORNER 佐藤	計画、行事県連	11		
第16号	7月	表紙:今月のドドーン 日下	無事故で夏山を楽しむ ために(リーダー部)	落雷(リーダー部)	· 山行計画:塩見岳·蝠蝠岳、日光白根山	山行報告:	霧降高原、丹沢主稜線走、伊豆	ガ岳(新人研修)	全国一斉清福登山		登山時報事故報		登山時報:山のト	7	県教急講習会				宗教沙羅迦依(三角一)			HOT CORNER 品田	トレーニング	運営委員会内容、「山 と渓谷」に会員募集	岳人祭案内
第15号	6A	-	事故防止と安全対 策 理事長石川昌	県連理事会報告	山行報告:棒/折山(新人歓迎)	新人歓迎山行の 感想	山行報告:蝶ガ 岳·常念岳、笠が	岳。新人歓迎山 行を振り返って	個人山行報告·高蒙山·黑姬山、白砂山	山 <u>行報告</u> :武川 兵 岩川(川-4'-	車のでは、	県連ハキング交流集 合、救急講習会	<u>山行計画</u> :黑桧山、西沢渓谷、田	代山·帝釈山、梅 形山	夏山山行計画	白山、穂高岳、苗	場山、黒部五郎、 剱岳·立山		HOI CORNER 飯村	HOT CORNER 大商	お知らせ、行事・集会、 夏山山行申込み		N	全国連盟総会	
第14号	5月	表紙:今月のドドーン 村松峯	バキング部員新規 募集、遭対基金		天狗母·硫黄岳、 德並山、石裂山		山行計画:武川 岳、矢平山·高梅	山、霧降高原、伊豆ガ岳、丹沢主	校様元、宗理ツー ンパク	お知らせ:アルバム委員、 総務部、リーケー部	登山時報:日常	生活で鍛える	登山時報:登山		県労山ふわくハイキ ングザーグル	文集「やまなみ」		1 .	新人団修フロク ラム	装備係よりお願 い	新人教育コンパ スの使い方	山行計画、行事 予定、創刊号		行事記事	労山、県連
第13号	98/4月	表紙:雪の扇山	第3回総会案内	入会の仲間へ				全国連盟総会		ļ , ,		行鹅牛.	扇山①、大岳山、筑波山、滝子山		県連理事会報告	二分今回 海井	日11月回: 63号日、 七थ日、 布以日、 中थ日、 棒/	加田(那个歌迎)	<u>出11 靴石</u> : 駒山 ②	グレード別参加状 況(グラフ)	山行用鉄道時刻 表	山行計画、編集 後記	人物紹介	山行計画	山行報告
	,	-	2	ო	4	2	9	7	∞	6	01	Ξ	12	13	14	7.	2 9	16	17	18	19	20	21	22	23

編集後記

編集の苦労はまず原稿集めから。催促には、かなりの悪者扱いになる大変な役割である。 何回も手掛けるたびに、<u>くじけそうになる。</u>ずいぶん歩の悪い仕事!だ。

しかし編集には「ひそかな愉しみ」が二つある。

①校正や編集の作業中、登った山の筆者と編集者は時として光景が一致する。 想いが伝わってくる。 文章中「ウンウン」と思わずうなずくことたびたび!

②雨のなかの山行は「ようやる ョ !」と思う。ひそかに僕の山は晴が多いと内心ニヤリ。

- 若いときは馬力と猛烈の二文字だけで登った。どんなルートも怖さなんて全然、感じなかった。『至福の刻(とき)』という言葉すら知らなかった。
- 我が会の旺盛な山行が毎年入会の新人をきたえる。同じ山を何回登っても山登りに新鮮な感動。この自然のすばらしさを後輩に伝えて欲しい。

編集に携わり、会の原点…会津朝日岳の再訪を ! あらためて想う。(細野省二)

やまなみ 創刊号

平成 11 年 7 月 21 日発行

発行者 柴 勇

編集者 細野省二

発行所 千葉県勤労者山岳連盟加盟

岳人あびこ

千葉県我孫子市我孫子 760-41

柴 勇方 〒270-1166

印刷所 佛常陸紙工印刷社

